

大学案内 _ SUAC 2023

公立 | 静岡文化芸術大学

文化政策学部・デザイン学部

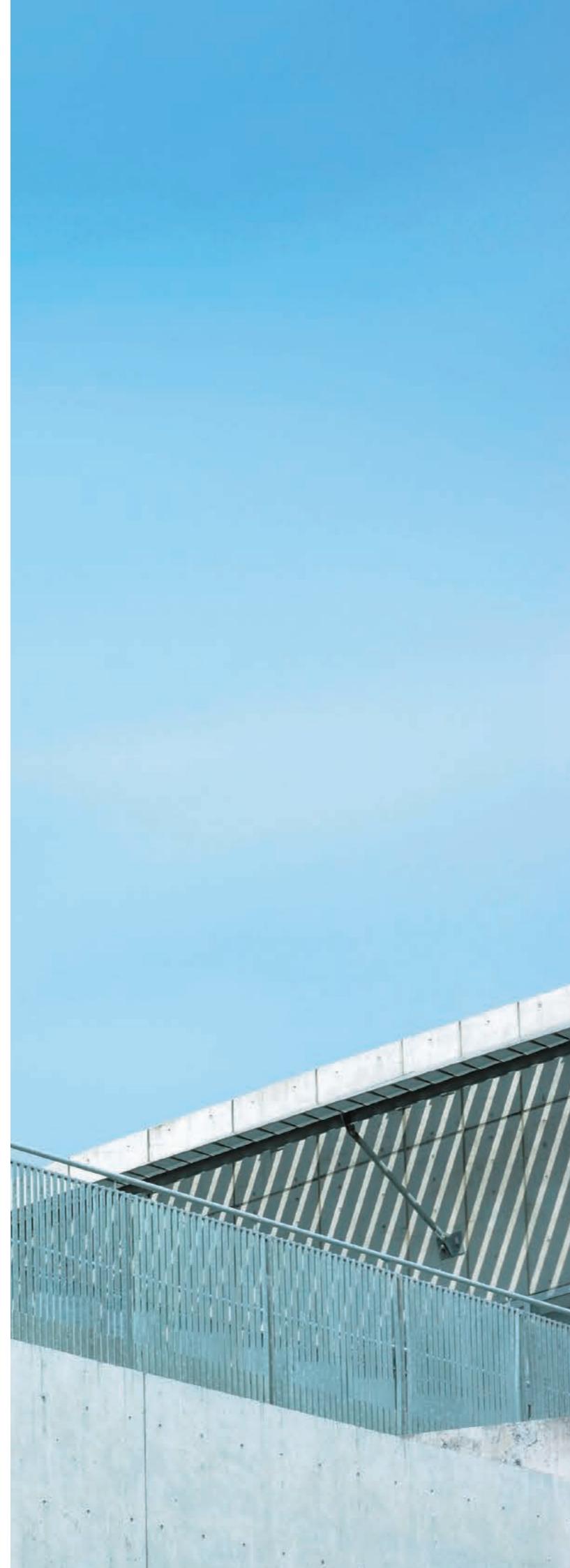
大学院／文化政策研究科・デザイン研究科

当たり前だと思っていたことが、
突然、変わってしまう。
そんな経験をした、これからの中は
新しい考え方や、しなやかな捉え方が
大切になっていくのだろう。

何をしたいのか。
どこに進みたいのか。
自分の「道」が、まだ見えていなくても
いろんな価値観や考え方、
いろんな個性に出会える、この場所で
自分をみつける。越えていく

知と実践の力





私たち[公立]静岡文化芸術大学は、
こんな大学です。

大学名から「文化と芸術」に特化した「芸大」をイメージされたとしたら、実際は違います。いわゆる音楽家や画家を育てる大学ではありません。文化や芸術の学びを活かして、社会やビジネス領域での課題解決のための企画ができ、それを実現できる人を育てる大学です。この考えのもと、芸術と文化を社会に活かすマネジメントに比重を置くのが「文化政策学部」、デザインに比重を置くのが「デザイン学部」です。

静岡文化芸術大学が教育を進める上で、重きを置いているのが「知と実践の力」です。課題と向き合い、問い合わせ立てる「知」の力と、リアルな現場の中で課題解決していく「実践」の力。これらを学びの両輪とし、自らを鍛えた多くの卒業生がここから巣立ち、国内外に活躍の場を広げています。

文化とデザインの力こそ

これからは、文化とデザインの時代です。

20世紀には、科学や技術がさまざまな分野で発達し、それぞれに大きな力を人類にもたらしました。

しかし全体として、人間社会を美しく輝かせたでしょうか。遠近の環境にも、次世代の人たちにも

ツケをまわすことのない、日々感動にみちた社会—— じつは、そのような理想に近づくのは、

これから先のことなのです。

この大きな課題は、地域でも、地球規模でも、さまざまなかたちで噴出しています。

それらに前向きにとり組める人とは、文化の力、デザインの力への豊かな感性を持ち、

それらの力を有効に働かせる知性と技能を、現場で発揮できる人です。

このような人をこそ育てたいと、22年前、今世紀の幕開け直前に

開学したのが静岡文化芸術大学です。

しだいに国際的にも知られ、国内外から才能ある人たちがつどい、学んでいます——

そう、数々の創造者を生み出した浜松の歴史と風土に思いをめぐらせつつ。

皆さん、まずはこの一冊をご覧ください。

静岡文化芸術大学 学長

横山 俊夫



私たちはこのような大学を目指します

実務型の人材を養成する大学

豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、
国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成する。

社会に貢献する大学

地域、国際、世代が教育研究の場で幅広く融合する
「開かれた大学」として地域社会や国際社会の発展に貢献する。

001 知と実践の力
003 学長メッセージ

005 卷頭特集「知と実践の力」

019 全学部共通科目
021 アドミッションポリシー
022 学部・学科の構成
023 **文化政策学部**
025 国際文化学科
031 文化政策学科
037 芸術文化学科
043 文明観光学コース
045 文化政策学部教員紹介
047 **デザイン学部**
049 デザイン学科
063 工房・特殊機器
067 デザイン学部教員紹介
069 もっと! SUAC 16の質問
071 文化・芸術研究センター
072 **大学院**
073 文化政策研究科
075 デザイン研究科
077 キャリアサポート
082 國際交流
085 多文化・多言語教育研究センター
086 キャンパスライフ in SUAC
095 学費・学生支援制度
096 **カリキュラム一覧**
130 入試情報
131 オープンキャンパス、資料請求
132 Webへのご案内、アクセス

知と実践の力 1 学びのキーワード

多文化共生  SUAC

p005 隣人を知ることから多文化共生をはじめてみよう

地域貢献  SUAC

p007 公共事業を、住民の意思を反映したモノに。
実践の現場で力を磨く

2 学部の協働  SUAC

p009 スマホ時代の新しい新聞を創造する。
コンセプトは概念を「ひっくり返せ」

知と実践の力 2 学びの現場

アートマネジメントの可能性  SUAC

p011 特別誌面講義【文化政策学部編】／高島知佐子 教授
「好き」を超えてアートに関わり、支え、伝える人になる

3 DCGの挑戦  SUAC

p013 特別誌面講義【デザイン学部編】／Jérôme BOULBÈS 教授
未来を動かせ モーションキャプチャーの可能性

知と実践の力 3 学びのその先へ

卒業生の活躍  SUAC

p015 卒業生からのメッセージ

多文化共生

SUAC

隣人を知ることから
多文化共生をはじめてみよう

— 学生団体「SIB」～Students with International Backgrounds



SUACの特色

“日本一ブラジル人の多い
まち・浜松”で
多文化共生を学ぶ

浜松市には約2万5千人の外国人市民が居住。特にブラジル人は9千人を超え、全国の都市で最多です。日本で3番目にブラジル総領事館が設置されました。地域社会での言語の違いによる意思疎通や雇用、教育体制など様々な問題に対して、浜松市では支援拠点の整備や多文化共生施策を行っています。

学生団体「SIB」

SUACに在籍する定住外国人学生たちのグループ。定住外国人学生とは、留学生ではなく、日本の高等学校等を卒業して大学に入学してきた学生のことです。学生はブラジル、コロンビア、フィリピン、朝鮮等にルーツを持ち、座談会などを開催しながら、当事者としての視点を踏まえた多文化共生について、日本人学生たちと一緒に考えています。こうした定住外国人学生たちの存在は、静岡文化芸術大学の特色のひとつです。

外国人の中にも いろんな生い立ちの人がいる

学生団体「SIB」の代表を務めるアンヘラさん（国際文化学科3年）は、コロンビアで生まれ、6歳の時に日本に移住し、幼稚園から高校まで日本の学校に通った定住外国人学生です。子どもの頃から「外国にルーツのある子ども」として社会に見られると感じていましたが、大学生になって私服で過ごすようになると、技能実習生や留学生と間違われることが増え、徐々に自分が“外の人”である意識が芽生えたそうです。「ステレオタイプの先入観や思い込みをなくし、日本で暮らす外国人の中にもいろんな境遇、いろんな生い立ちの人がいることを知ってほしいです」。

「外国にルーツがある」 自分たちの経験を活かす活動を

外国にルーツのあるSUAC生が、当事者としての視点を踏まえながら多文化共生について考

える様々な活動をしている「SIB」。映画『HAFU ハーフ』の上映会では、日本で暮らすハーフの生き方をテーマにしたドキュメンタリーを鑑賞後、メンバー自らのエスニックな背景を紹介しながら参加者と意見を交換し、外国にルーツを持つことで大変だったこと、良かったことなどを語り合いました。SIBは、SUACの多文化・多言語教育研究センターとの共同主催により、外部からゲストを迎えて座談会を継続して開催し、自分たちのような子どもや若者たちの進路や夢のサポートにつながる活動を目指しています。

「多文化共生」って何だろう？ 考えることを、世界とつながる力に

「多文化共生」という言葉を見聞きする機会はあっても、その考え方方が社会に浸透しているのかといえば、理解していない人が多い印象を持つというアンヘラさん。「多文化共生」というビッグワードに身構えずに、隣の外

人と話してみる、友達になることから始めてほしい。社会は“人と人とのつながり”ですから、見えない壁をなくすことが入口なのではと思います」。外国籍の人が多く暮らす浜松は、多文化共生を学ぶ有意義な場所です。異なる文化や考え方を知り、多様性を認め合う世の中を目指す環境の中で、未来の社会と共に生きる力を身につけていきます。



口ハス アンヘラ

文化政策学部 国際文化学科3年 静岡県立吉原高校出身



外国にルーツのあるSUAC生による座談会が開催され、2008年に本学で開催された「ブラジル人大学生とブラジル人高校生との座談会」の動画を視聴。当時と現在を比較しながら、様々な意見が交わされました。



映画『HAFU ハーフ』上映後、本学の教員・学生ら約20名が映画の感想を述べ合い、フロアの参加者と意見交換。学校で大変だったこと、ハーフやミックスルーツで良かったことなどを語り合いました。



Pick Up | 地域で実践する多文化共生

SUAC生は浜松市の地域特性を踏まえ、様々な多文化共生の活動を実践しています。外国籍児童の不登校や不就学を解消するための就学前支援をはじめ、地域イベントの手伝いや企業と連携したものづくりのイベント開催などを通して、定住外国人の子どもたちが様々な経験ができるよう取り組んでいます。このような活動が評価され、2021年にはSUACの関連クラブ・団体が「第3回はまつ多文化共生活動表彰」を受賞しました。

地域貢献

~~SUAC~~

防潮堤をどう活用するか 未来の地域づくりを考える

袋井市から依頼を受け、取り組んでいる「袋井幸浦の丘プロジェクト」は、浅羽海岸防潮堤と周辺地域の利活用の検討を進める事業です。大学院デザイン研究科の寒竹教授・亀井教授の指導のもと、大学院生が中心となり地元主体で検討していくためのワークショップを数年度にわたり開催しました。地域の自治会をはじめ地元の人々で、どんな海岸・地域にしたいのか意見交換し、防潮堤に親しむイベントも実施。未来の地域づくりを住民と共に

に進めています。「直接、地域や住民の方と関わり、生の声を聞く機会がとても勉強になる」と語るのはプロジェクトメンバーの一人である佐野さん（デザイン研究科1年）。学生という立場で、現場に携わることができる貴重な体験になっています。

産学官連携による実践の場 大学院生と学部生も連携

大学3年次からプロジェクトに参加した佐野さんは、大学院生と共に課題に取り組む環境の中で、多くの刺激を受けながら活動を継続。

次第に市民主体のまちづくり、環境と共生したまちづくりに魅力を感じ、より深い研究をするために大学院に進学しました。現在は、施設に関する計画案の作成や、市役所や建設会社との打合せなど、新たなフェーズの業務に担当として関わっています。いわゆる箱モノを“作って終わり”ではなく、住民の声を反映させた“使い続けたくなる”施設づくりを心がけているという佐野さん。「海が心のよりどころとなっている地域で、防潮堤で遮断された空間をどうつなぐか。人の生活をつなぎ、地域愛を育む場所にしたい。人の心を動かす

公共事業を、住民の 意思を反映したモノに。 実践の現場で力を磨く

— 受託事業／袋井幸浦の丘プロジェクト

防潮堤整備事業と防潮堤や周辺地域の利活用検討事業でのデザイン提案



きっかけづくりができればと考えています」。

地域に求められる大学 未来に貢献する力を

大学院修了後は、地方都市におけるまちづくりの仕事をしたいという佐野さん。そのために、さらに多くの経験を積み、技術的にも人間的にも成長できるよう、プロジェクトや研究に打ち込んでいます。「社会に貢献する大学」を掲げるSUACは、行政機関や企業、市民団体との距離が近いことが特徴です。大都市にある大学に比べ、受託事業や共同研究の依頼が

多く、学生たち自らが社会にどう貢献できるのかを学び取る貴重な機会になっています。幅広い分野の学びや研究を、社会に活かし、未来に貢献できる力を育みます。

浅羽海岸 5,350メートルにレベル2の津波被害（高さ10メートルの津波）を防ぐ防潮堤を整備中。写真提供／袋井市



佐野那々子

デザイン研究科1年 静岡文化芸術大学出身

袋井市との産学官連携による本プロジェクトは、2014年度から2023年度までおおむね10年間の計画で進行中。SUACの学生や大学院生が中心になってワクショップ運営を行いました。



幸浦の丘秋祭りとして「ラグビー・スリレー」イベントを展開。参加者の方に、身体を動かして楽しみながら防潮堤に親しんでいただきました。

SUACの特色

産学官連携を通じて、 社会に役立つ人材を育む

「社会に貢献する大学」を基本理念の一つに掲げるSUACには、教員の専門知識や学生の若い感性を求め、企業や行政などから共同研究・受託研究、受託事業という形で依頼を数多くいただきます。教員の指導のもと、学生たちはプロジェクトに取り組むことで視野や興味関心が広がり、さらに深い学びへと発展します。

Pick Up | 地域のためにある大学として

静岡県西部の遠州地域に位置するSUACの特徴は、企業や行政機関、一般団体との距離が近いこと。公立大学として「地域のためにある大学」であるため、静岡県内の産学官連携を中心に、建築系の案件からグラフィックデザイン、アプリ開発、行政基礎調査や社会調査など、多種多様な研究・事業に参画しています。「文化政策」と「デザイン」の2つの専門領域を持つSUACの利点を活かして、これからも大学と地域の共創関係を育んでいきます。



エシカル消費を理解するための小学生向けの教材を作成（浜松いわた信用金庫）



三ヶ日みかんをPRするLINEスタンプをデザイン（三ヶ日町農業協同組合）



スマホ時代の新しい
新聞を創造する。
コンセプトは
概念を「ひっくり返せ」



— 次世代発想型新聞制作プロジェクト

実際に掲載される紙面について、メンバーたちは何度も議論を重ね、新聞社の方々へのプレゼンテーションを行います。プロの目線からの意見をいただくことで、さらなるブラッシュアップを目指します。

中日新聞社・静岡新聞社の協力を得て、中日新聞都田工場を訪問調査。新聞製造工程の最前線を見学し、紙面構成に関する取材も行いました。



ず、“自分たちならどんな新聞を読みたいか”をコンセプトにアイデアを出し合っています。

チームのみんなでアイデア出し 発想や視点の違いが刺激に

「デザイン学科の立場で紙面づくりの力になれば」と参加した小島さん（デザイン学科3年）は、意見交換の場で、雑誌のページなど実例を挙げながら、若い人に好まれるフォントやレイアウト、SNSで人気の写真サイズなどを紹介。西家さんは、情報社会学的な視点から「どうしたら伝わるか」「人の関心を得られるか」など、読みたくなる新聞のアイデアを提案しました。学科や学年を超えて、それぞれの専門知識や技術を持った学生が交流するこのプロジェクトで

は、「こんな考え方ができるのか！」と、様々な意見や視点の違いを感じながら、一つのものを作り上げていく絶好の機会になっています。

学部や学科を超えた交流の場 提案と実現のプロセスを学ぶ

紙面アイデアの提案に向け、参加メンバーが中日新聞都田工場を訪れ、新聞制作の現場をリサーチ。制作していく上で必要となる具体的な情報を取材しました。メンバー全員でプレゼンテーションに向けてアイデアのブラッシュアップを続けています。自分たちが考えた紙面が実際に新聞に掲載される日を目指して、責任を持ってやり遂げる貴重な体験になっています。SUACの2学部協働は、学部や学科の枠にとど

まらない「交流」による学びと実践、そして気づきと成長の場でもあります。学生一人ひとりの可能性を広げ、新しい自分をみつけられるプログラムです。



小島風香

デザイン学科3年
名古屋大学教育学部附属高校出身

西家由真

国際文化学科2年
静岡県立吉原高校出身

SUACの特色

文化政策×デザイン

SUACは学部・学科・学年を超えて社会とつながる。

SUAC生たちは、学部や学科、学年の枠を超えて、様々な企画やプロジェクトに取り組んでいます。実践演習のような授業としてのプログラムはもちろん、学生たちが自主的に活動するユニットが多いのもSUACの特長です。様々なコラボレーションを通して、自分とは違う感性に触れ、今まで知らなかつた考え方出会う創造的な学びが待っています。

Pick Up

全学科目「地域連携演習」

学生全員が履修する全学科目「地域連携演習」は、地域の企業・団体と連携した様々なプログラムに取り組みます。実践的な活動を通して地域の特性や課題について理解し、社会と関わりながら学ぶ、SUACの特徴的なカリキュラムです。学生は教員が用意するプログラムから興味関心に応じて一つを選択し、学部・学科の垣根なく参加することで、それぞれの専門分野を超えた交流を深めます。



高校・大学・民間企業が連携した地元観光プロモーション



天竜木材を扱う林業の現場を取材し魅力を発信

アートマネジメントの可能性

~~SUAC~~



「好き」を超えてアートに 関わり、支え、伝える人になる

【科目/アートマネジメント概論】

国内の芸術文化の立ち位置

「アートマネジメント」と聞くと、ちょっと新しい感じで、ワクワクするという方がいるかもしれません。1990年代にアメリカやイギリスから日本に輸入され広がった言葉で、日本語では表現が難しく、人によって理解が異なる

こともあります、カタカナで表記されます。

日本では、幼少期の習い事や中学校、高等学校の部活で音楽や美術、演劇、ダンス等に親しむ人はたくさんいます。しかし、残念ながらチケットを買ってプロの作品を楽しもうという人は決して多くはありません。日本には音楽や美術などの芸術系大学の数も多い

ですが、芸術活動で生計を立てていくことは難しいと言われています。若い時に、何らかの形で芸術に関わる人は多いのに、芸術を仕事にすることが難しいのはなぜでしょう。この30年ほどの出来事を振り返ると、震災などの危機に直面すると芸術活動は自粛が求められがちです。そして、しばらくすると

高島知佐子 教授 アートマネジメント

専門は経営学・アートマネジメント。文楽や能楽、邦楽、地域の民俗芸能など、伝統芸能の上演組織を中心に、芸術団体の長期的な経営について研究。2015年から静岡県内の病院におけるホスピタルアート活動に従事している。2022年より現職。

学外の会場をお借りした映画の上映会。異文化理解と地域交流の場づくりとして実験的に開催しました。

イベント開催前のスタッフミーティングは、直前確認の大切な場。
しっかりと情報共有を行います。

地域でアートマネジャーとして活動する方々から、現場の声を聞くことも。学外に出ることで様々なつながりが生まれます。



特別誌面講義【文化政策学部編】

芸術は私たちが生きるために必要なものだから自粛すべきではないという意見、辛い立場にいる人にこそ芸術を届けるべきだといった声が飛び交い、芸術活動を支援する動きが出てきます。1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災、2020年からの新型コロナウイルス感染症…同じことが起こっていると思います。なぜ、最初は自粛を求められてしまうのでしょうか。

アートマネジメントは、芸術を取り巻く社会に目を向け、「芸術と社会を結びつけること」と定義されます。これを考えなければならぬほど、日本の社会では芸術の価値や意義が理解されてなく、社会と結びついていない、という悲観的な見方もできます。一方、日本には伝統文化から現代的なものまで多種多様な文化や芸術があります。例えば、本学のある静岡県の「SPAC- 静岡県舞台芸術センター」のように現代演劇として国際的に高い評価を得ているものや、能楽や文楽、歌舞伎のように何百年も続く伝統芸能、京都の祇園祭、青森のねぶた祭といった国内外から観光客や参加者が集まる伝統行事。また、日本全国には約1,000の美術館、約1,850の劇場・ホールがあり、2,000年代以降はアートセンターと呼ばれる新しいタイプの文化施設も登場しています。さらに、瀬戸内国際芸術祭（瀬戸内海の島で開催される現代芸術の祭典）に代表されるように、数年に一度、特定の地域や場所で、芸術振興と地域

振興の両方を目的に行われるイベントも増えています。劇団四季や宝塚歌劇団などは商業的に成功し人気を博しています。

芸術文化の意義を考え、支えるために

決して恵まれているとは言えない環境の中で、芸術家や文化施設、実演団体（例えばオーケストラや劇団）など芸術の現場の人々は、どのように活動を続け、対価を得て、芸術と社会を結びつけているのでしょうか。アニメやゲームなどのエンターテインメントは、ビジネスとして多くの利益を生むことができますが、簡単に安く複製することができない芸術活動を続けていくことは難しいのが現実です。芸術作品を作り、人々に届けることは、車やパソコンといった機械で作ることのできるモノの生産や販売とは大きく異なります。芸術作品を機械で大量生産することはできませんし、スーパーや量販店に並べて売ることもできません。例えば、舞台で上演されるような作品を、オリジナルで一から作るにはどれくらいの時間がかかるのでしょうか。俳優や演奏者、歌手といった舞台に立つ人たち以外に、どのような仕事の人が何人関わり、作品づくりに携わる人々はどのように育成されているのでしょうか

か。制作過程はもちろん、芸術家の想い、作品そのものを深く知らなければ、芸術作品を作り続ける方法やそのための環境を考えることはできません。また、居住地や年齢、職業、

生活スタイルなど、自分とは異なる立場の人々についても知らなければ、多くの人に芸術作品を届けることはできません。

アートマネジメントは学問であり、実践であると言われます。場所や施設が違えば、地域の歴史や文化、

扱う作品、関わる人々も異なります。つまり、上に記した幾つかのギモンには、唯一無二の正解があるわけではないということです。芸術や社会に関わる知識を持ち、実際に芸術の現場で多くの作品に出会い、時に自分自身が実践に関わることで、自分なりの答えを探し、理解を深めていくしかありません。経験することで芸術の現場の大変さ、やりがい、楽しさ、人々の反応などを知り、何かを実感することで得られる発見がたくさんあります。

「好き」という思いを超えて、商業的なものから、そうでないものまで、多種多様な芸術が社会に存在することの意義を考え、それを支えていくための方法や環境づくりについて考えていきましょう。

【アートマネジメント概論】の講義を受けて

芸術をどう支えていくか。
新しいアプローチ方法を探りたい

アートマネジメントと聞くと単発の催し物を企画・運営する印象が強いですが、「芸術と社会を結びつけること」という定義からは、芸術が社会にどんな価値を提供できるのかに重点を置いていると感じました。芸術を支えるためには、現場の人々や団体が活動を続けていけるよう、長期的な視点で考えることが重要だと考えます。今後も大学の講義や芸術の現場を通じて、さらなる知識や経験を得て、芸術の支え方を考える基盤にしていきたいと思います。

北原佳歩 芸術文化学科2年 新潟県立新潟高校出身

“

芸術の現場での多くの出会いや経験から新たな可能性が見えてくる



”

が違えば、地域の歴史や文化、

扱う作品、関わる人々も異なります。つまり、上に記した幾つかのギモンには、唯一無二の正解があるわけではないということです。芸術や社会に関わる知識を持ち、実際に芸術の現場で多くの作品に出会い、時に自分自身が実践に関わることで、自分なりの答えを探し、理解を深めていくしかありません。経験することで芸術の現場の大変さ、やりがい、楽しさ、人々の反応などを知り、何かを実感することで得られる発見がたくさんあります。

「好き」という思いを超えて、商業的なものから、そうでないものまで、多種多様な芸術が社会に存在することの意義を考え、それを支えていくための方法や環境づくりについて考えていきましょう。



3DCGの挑戦

~~SUAC~~

未来を動かせ モーションキャプチャー の可能性

ダンサーとのコラボのように
冒險であり、楽しみであり、
刺激的な学びを楽しみましょう



Jérôme BOULBÈS 教授 3DCG デザイン／メディアアート／アートアニメーション

フランス出身。3DCG デザイナー、映像作家として、3DCG の技術や表現の研究・実験を行うほか、並行してアートプロジェクトを展開中。現在は、ゲームエンジンによるハイクオリティな映像制作の可能性を追求している。2021 年より現職。

ダンサーに着けた十数カ所のキャプチャーから複雑な関節の動き（空間と時間）のデータを収集。
収集したデータをフレームとして、3DCG ソフトウェアに読み込んで展開させます。

Blender でモデリングした背景と組み合わせ、3DCG ライトで照らし、アーティスティックな表現へと昇華していきます。



SUAC_010



特別誌面講義【デザイン学部編】

ダンスとアニメの共通点「動き」をモーキャプで捉える

3DCG制作には様々な技法がありますが、私が今興味を持っている技術のひとつがモーションキャプチャー（モーキャプ）です。映画やゲームでよく使われる手法で、俳優の動きをデジタル化し、そのデジタルキャラクターをアニメーション化することができるのですが、一般的なカメラとは異なり、モーキャプは身体のフォルムや顔の特徴ではなく、動きのみを記録するレコーディングシステムなのです。現在進行中のプロジェクトは、フランス人のSF作家であり詩人でもあるルヴァン氏とのコラボレーションによる3D短編作品制作です。作品の土台となっている“詩”は、伝えることよりも、感じさせることが重要であり、書かれていることと同じくらい、書かれていないことに神髄があるようにも思えるアートです。イメージとして過度に見えすぎたり、文章として成り立ちすぎたり、輪郭がクッキリと現れすぎると、神秘性のようなものが失われてしまうように思えます。詩を映像化する場合、この神秘性を維持することを重要視しなければなりません。通常、映画では、照明、カメラワーク、編集などにより「言葉として成り立たない何か」が表現されます。しかし、最も重要なツールは、登場人物の動きです。ため息やためらいのような微妙な動きだけでも、思いがけずシーン

が一変します。陶芸の素材に粘土があるように、アニメーションの素材は「動き」だと言えるでしょう。また、ダンスとアニメーションの共通点である「動き」をモーキャプで捉えることは、このプロジェクトの要となっています。本質的で、つかみどころのない部分を、コンテンポラリーダンサー（本学大学院文化政策研究科1年森陽菜さん）が的確に表現してくれました。ダンサーとの共作の経験を振り返ると、その都度、私には冒険でしたし、楽しみでもあります。毎回様々な刺激をもらい、糧となっています。

最先端の技術を学び、使いこなす ゲームのようにトライしてみよう

数年前まで、モーションキャプチャーシステムは、スタジオと専門技術者を必要とする、たいへん高額な予算が必要とされる技術でしたので、小さなスタジオや独立したデザイナーにはとても手の届くものではありませんでした。しかしここ数年、比較的安価なソリューションが登場してきています。このシステムが今の世の中にどのように浸透していくか? その可能性と課題を研究していくことも私の仕事です。例えば、今回使用したシステムは磁気式ですが、

建物に存在する耐震金属の影響により、振動が発生し、スムーズに制作が進行できないのが現状です…。3DCGは、常時進化し続ける最先端技術であるため、予期せぬ技術的な問

題が絶えず発生し、新しい解決策や新しいツールが日々、次々と必要とされます。大きなスタジオなどでは、テクニカルディレクターとアートディレクターが常時共同で仕事を進められるため、問題解決のスピードも速いでしょうが、独立したデザイナーや小さなスタジオには、大きな障害でした。

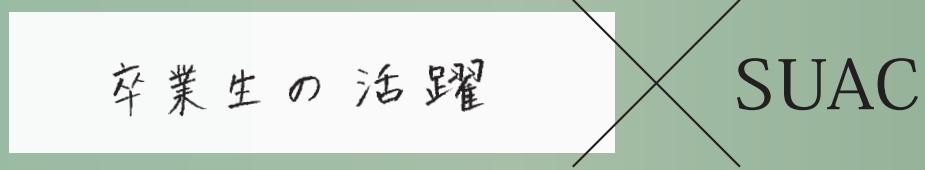
しかしここ数年、最先端技術の利用をコストダウンするための新しいツールも次々と登場しています。例えば、商業的な制約を受けずにボランティアによって開発された無料のオープンソースソフトウェアであるBlenderの利用などが急速に増えていますし、映像制作でも使用されているツールに無料でアクセスできるゲーム制作ソフトウェア(Unity、Unreal Engine)なども例外ではありません。最先端の技術を学び、使いこなすには、それなりの忍耐が必要であることは否めませんが、私はゲームのように考えています。新しい問題への対処、新しいプロジェクトの構築などは、すべてパズルを解くようなものだと感じているからです。

“動かす”スキルを多角的に学び 自分らしい表現を見つけたい

作業モニターに映るダンサーと同じ動きをするCGの人形を見ると、動きがデータ化されていく様を実感し、心が躍るようでした。自分でデザインしたキャラクターに命を吹き込むことができるこの技術で、私はどんな挑戦をしてみようか?と、CG制作ソフトを触りながら日々模索しています。3DCGの世界は敷居が高く思われがちですが、ほんの少しの工夫で面白い作りができる世界だと感じているので、もっと挑戦する人が増えることを願っています。

中山珠里 デザイン学科3年 静岡県立沼津西高校出身





MESSAGES FROM GRADUATES

愛知県教育委員会
中学校教諭
文化政策学部 国際文化学科卒業
岡田真由子 さん

01



公益財団法人静岡県文化財団
アーツカウンシル課
文化政策学部 芸術文化学科卒業
立石沙織 さん

03



井関農機株式会社
デザイン部
デザイン学部 生産造形学科卒業
鈴木悠太 さん

05



静岡県
危機管理部危機政策課 調整班
文化政策学部 文化政策学科卒業
小林大輝 さん

02



コクヨ株式会社
スペースソリューション事業部
デザイン学部 建築・環境領域卒業
山本裕貴 さん

04



tnyu 合同会社
共同設立者、ディレクター／デジタルアーティスト
デザイン学部 メディア造形学科卒業
曾根光揮 さん

06



それぞれの思いを胸に、自分の道を進んでいる卒業生たち。

どのような学びを重ねてきたのか、そして今、どんな力を発揮しているのか。

先輩たちの「過去」と「今」を知ることが、あなたの「未来」につながっていく…。

自分が成長していくチャンスを見つける、道しるべにしてください。

01



ゼミ活動

SUAC

「社会への影響力が大きい仕事がしたい」という思いで、地元である静岡県の職員になりました。現在は危機管理を担う部署で、防災・減災に向けた取組の推進や、新型コロナウイルス感染症の県対策本部事務局を担当しています。具体的には、県の防災・減災に関する取組の根幹となる計画書等の作成をはじめ、地域住民向けの防災系ワークショップの開催や、県民に向けたコロナ対策の企画・立案を行っています。法律や行政文書は、時に読み解くことに時間がかかり、実際に運用するためには図や文章で概要を説明する必要がありますが、それはゼミで論文を読み解いていた輪読の作業そのもの。経営学の学びを深めつつ、学生プレゼン全国大会の出場や海外研修旅行など、多くの経験を積んだゼミ活動。そこで鍛えた力は様々な場面で役立っています。高齢化社会や人口流出の課題など、今後ますます行政サービスの需要が高まっていく中で、目の前の課題に対して、県は何ができるか。物事を俯瞰する力を養い、県民全体の利益のバランスを捉えられるよう精進します。

小林大輝さん 文化政策学部 文化政策学科 2019年度卒業
静岡県 危機管理部危機政策課 調整班



距離の近く

SUAC

現在の中学校に赴任して1年目。1、2年生の国語指導を担当しています。授業のほかに、副担任として学級サポートや生徒会、部活動の指導など業務の内容は多岐にわたりますが、学生時代の学びや経験がすべて活かされています。ゼミでの専攻は日本文学ですが、国際文化学科の中で幅広い分野を学んだからこそ、世界の視点も取り入れながら、日本語の特色や面白さを授業を通して伝えられると感じています。学生時代に「出張お芝居! ぶちまり」の活動で地元の中学生と近い距離で関わられた経験も、思春期の生徒を理解する上で活かされています。直近の目標は、小学校の教員免許を取得すること。働きながら通信大学で学んでいく予定です。世界のことを知りたいと SUAC へ進学し、精一杯やりたいことに挑戦し、学ぶことが楽しいと思えた4年間。それは、学生と教員との距離が近く、一緒に考えサポートしてくださったからこそだと思います。私も生徒たちと共に学び、笑い、成長し続ける、そんな大人でありたいです。

岡田真由子さん 文化政策学部 国際文化学科 2018年度卒業
愛知県教育委員会 [中学校教諭]

目標は全体のバランスを整える人。
公務員としての誇りとやりがい



02

学級会

つながり

SUAC

大学卒業後、横浜市にあるアートNPOの職員として、アートによるまちづくりに7年ほど携わり、“アートが地域にできることは何か”を問い合わせてきました。少し立場を変えて、制度を考えたり、支援する側で挑戦したいと思うようになり、地元静岡へ。今はアーツカウンシルしづおかでプログラム・コーディネーターとして働いています。役割は多岐にわたりますが、アートを活かした様々な活動を支援し、地域を元気にするのが私たちの仕事。例えば、限界集落にアーティストが関わることで、社会的な課題解決のきっかけを生むように、アートを専門的な分野から広げて、社会の他の分野と結びつけることで、誰もが身近にアートを感じられる機会をつくっていきたいと思います。学生時代にSUAC展に参画した経験は、学生の横のつながり、先生や社会との縦や斜めのつながりを感じる機会となり、その後の私の軸となりました。これから先、日本各地で創造的な活動を支えるマネジメント人材が求められる時代になるはずです。SUACで学び、地域社会で活躍できる人になってください。

立石沙織さん 文化政策学部 芸術文化学科 2007年度卒業
公益財団法人静岡県文化財団 アーツカウンシル課
(アーツカウンシルしづおか プログラム・コーディネーター)

アートと社会をつなぐ
分野を超えた連携を目指す



自由度の高さ

SUAC

オフィス家具メーカーの設計部隊に所属し、オフィスに合わせた家具、内装のコーディネートが主な仕事です。コンセプトから空間設計までをトータルで考えて作り上げるので、お客様へのヒアリングや調査の方法、コンセプト立案の発想力、空間機能に基づいた作図など、仕事における様々な段階で在学中の学びが活かせています。学生時代を振り返ると、仲間と開催した自主企画展が楽しかった思い出です。私は会場の空間づくりを担当し、多くの経験を積むことができました。社会人になって感じているSUACの良さは、領域や分野を超えたコミュニケーションや作品作りができる事。やりたいことを自由度高くやらせてもらえた環境と設備に感謝しています。コロナ禍により「出勤」という概念が覆された今、オフィスのあり方の最先端を目指すのが私たちの使命です。今後は、自分のオリジナリティを持つため、空間設計とはまったく別軸の知識や経験を増やし、唯一無二のオフィス空間が提案できるよう力を磨いていきたいです。

山本裕貴さん デザイン学部 建築・環境領域 2018年度卒業
コクヨ株式会社 スペースソリューション事業部



幼い頃、農機に触れたワクワク感が原体験。
プロの仕事を支える道具をデザインする面白さ

気づき  SUAC

井関農機株式会社で製品デザインを担当しています。農業機械製品の外装、内装、UIデザインなどをチームでトータル的に手がけています。最近は農機のスマート化に伴い、UIの業務が増え、車載モニターの画面やタブレット用アプリのデザインも制作しています。学生時代、JDP（自助具デザインプロジェクト）に所属し、障害を持つ人の台所作業をサポートする道具をデザインしたのですが、残念ながら使い物になりました。この経験から、道具に求められる完成度や、使い手の声を聞くことの重要さを痛感。今の仕事に活かされています。在学中、家電や自動車メーカーなど異なる業種のインターンにも参加しましたが、「プロが仕事で使う道具」をデザインしたいという思いから、今の道を選びました。農機のIoT化やロボット化が進み、まったく新しい操作や機能が増えていますが、初めて使う場合でも仕事と融和して直感的に使えるようにデザインを工夫しています。心がけているのは「骨太で息の長いデザイン」。長く使っても愛着を持てるデザインを生み出したいです。

鈴木悠太さん デザイン学部 生産造形学科 2013年度卒業
井関農機株式会社 デザイン部



CG制作を学ぶために進学したSUACで、メディア・アートやインタラクティブアートのジャンルと出会い、プログラミングと映像技術を総合して一つの作品を作る分野を知ったことが、現在の仕事をするきっかけになりました。卒業後、東京藝術大学大学院に進み、同じゼミの先輩と会社を設立。映像制作をはじめ、美術館や博物館で展示するインタラクティブコンテンツの制作、システムエンジニアリング等を手がけています。何かを作る時には実現するための技術も必要ですが、なぜそれを作るのか、社会にどう影響するのかといった理念=フィロソフィーを考えることも重要。SUACでは、手を動かすための技術を学びながら、作品に説得力を与えるフィロソフィーもしっかり学べました。さらに、それをサポートしてくださる先生方の存在と、学部や領域を超えて交流できる自由な環境が大きな魅力だと思います。新しいものを作り出す力は様々な分野で必要です。ものづくりをいろいろな視点から学べる絶好の場で、自分の中の「作りたい」を思う存分發揮してください。

曾根光揮さん デザイン学部 メディア造形学科 2012年度卒業
tnyu合同会社 共同設立者、ディレクター／デジタルアーティスト



なぜ作るのか。
社会にどう影響するのか。
技術だけでなく
フィロソフィーも学ぶ大切さ

… 全学部共通科目 「教養と感性」「知識と能力」を身につける

文化の力、デザインの力で社会貢献し、実務型の人材を養成することを目指しています。

すべての学生が学部・学科の枠を超えて、幅広い教養と独創的な感性を育む

カリキュラムを学びの基礎としています。

人間的素養・基礎力の養成

専門領域へのアプローチ

専門能力の確立

全学科目

- 導入教育
- 実践演習
- 教養
- 総合
- 必修外国語
- スポーツ活動

文化政策学部

- 学部科目
- 学科基礎

- 専門科目

卒業研究

デザイン学部

- 共通科目

- 学科専門
- 領域専門

卒業研究・制作

カリキュラム一覧は p096 へ

全学科目

SUAC生としての基礎づくり

1

導入教育

■文化芸術体験演習

少人数編成で行う演習科目。プロフェッショナルの講師を招き、日本の伝統文化や芸術表現の実技体験を通して、知性と感性を養います。

演習内容(令和4年度)／落語、狂言、写真、歌唱

■学芸の基礎

学びの基礎となる必要なリテラシー(読み・書き・情報活用能力)を身につけ、論文作成やプレゼンテーション等、社会で役立つ実践的スキルを磨きます。

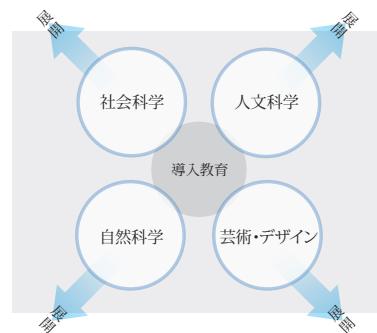


2

教養

専門分野との関連性を踏まえた俯瞰的な教育で幅広くものごとを捉える視野の広さを身につけます。

先人たちの世界観や方法論に加え、最先端の研究事例を学び、実社会とのつながりを踏まえた授業を展開。伝統的な学問分野である「人文科学」「社会科学」「自然科学」に、本学の特性である「芸術・デザイン」を加え、特色ある教養教育を行っています。



3

国際的に活躍するために

必修外国語

国際社会で力を発揮するための実践的な語学能力と幅広い文化的知識を身につけます。

必修外国語として「英語」または「中国語」が選択可能。外部検定や語学研修・留学が必修単位認定の対象となります。英語と中国語の専任講師が常駐する「多文化・多言語教育研究センター」と連携して外国語教育を強化しています。



4

社会の中で役立つ力を

実践演習

卒業後の進路開拓にもつながる実践的なカリキュラム。

実社会の課題を見つけ解決する方法を学ぶ「企画立案演習」、現場に飛び込み体験を通して地域課題への理解を深める「地域連携演習」、リサーチを踏まえた自らのテーマを持って現場で主体的に実践・提案する「自主課題演習」の科目があります。学生たちは学部・学科の枠を越えて、実践的な学びに取り組みます。



5

産学官の連携で学びを深める

総合

■特別共同授業 A・B

「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が設置する 静岡県西部地域7大学が共同で実施する授業。各大学の教員によりオムニバス形式で行われ、本学の履修単位として認定することができます。

■特別共同授業 C「メディアとしての新聞／社」

中日新聞社、静岡新聞社とSUACは、新聞社が社会に果たしてきた役割について授業を通じて学生に講義する、連携協定を締結しています。全15回の授業のうち両社が6回ずつを担当し、報道の最前線で活躍する記者や社員が講師を務めます。



6

健康意識を高めスポーツの意義を理解する

スポーツ活動

スポーツ活動を通して、心身の健康およびスポーツを楽しむこと、他者とのコミュニケーションの理解、生涯を通したスポーツ活動への取り組み方に関する考え方を身につけます。

理念への共鳴、学びへの強い意欲。社会を動かす人材を育てます。

本学は、豊かな人間性と的確な時代認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成するために、教養教育と専門教育が調和したカリキュラムを通して、知性と感性を磨き、新しい価値や文化を創造する力の育成に努めています。このような理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする皆さん入学を期待します。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

文化政策学部 アドミッション・ポリシー

文化政策学部は、芸術および文化全般を歴史の深みと世界的な広がりにおいて認識するとともに、豊かな感受性、人間や文化の多様性に対する寛容さ、文化を創造し発展させるための的確な知識をもとに、文化の新たな地平を切り拓く意欲に富み、国際的に活躍できる人材を育成します。この教育方針のもと、国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科の3学科を設置し、以下のような関心と意欲を持つ人を、積極的に受け入れます。

国際文化学科	日本と世界の多様な文化に关心があり、それらを深く学びたい人 外国語を使い、世界の人々と交流し相互理解を深めたい人 ビジネスや国際協力、地域貢献を通して、グローバル社会で活躍したい人
文化政策学科	社会と文化について総合的に学び、その問題を発見・解決したい人 社会調査の方法、政策立案の手法を身につけたい人 行政や企業、NPOなどで活躍し、地域社会と産業に貢献したい人
芸術文化学科	文化・芸術とそれをとりまく社会について研究したい人 芸術やアートマネジメントに関する実践的知識を身につけたい人 文化・芸術を通じて地域を活性化し、創造性をもって社会に貢献したい人

デザイン学部 アドミッション・ポリシー

デザイン学部は、時代とともに変化する人や価値観、文化の多様性を視野に入れ、さまざまな人の立場に立ったユニークな視点で考えるデザインを基本に、快適に暮らせる生活空間や環境を提案し、国際社会の発展や文化の向上に貢献できる人材を育成します。この教育方針のもと、デザイン学科を設置し、以下のような関心と意欲を持つ人を、積極的に受け入れます。

デザイン学科	デザイン分野に強い関心を持ち、幅広くデザインを学びたい人 論理的な思考に基づき、新しい価値の創出を目指す人 直観力や審美眼をみがき、自らの発想を的確に表現したい人 地球環境および社会や地域に关心を持ち、現状を分析して対応策を考えようとする人
--------	---

学びのフィールド

文化政策学部

▶▶ p023

国際文化学科

定員100名

▶▶ p025

異文化を理解し、国際的にコミュニケーションできる人材を養成します。

文化政策学科

定員55名

▶▶ p031

政策・経営・情報の視点から新たな人間と社会のあり方を探求できる人材を養成します。

芸術文化学科

定員55名

▶▶ p037

芸術とそれをとりまく社会について理解し、芸術の持つ力を現代社会で活かすことのできる人材を養成します。

デザイン学部

▶▶ p047

デザイン学科

定員110名

▶▶ p049

よりよい生活から社会システムまでを提案できるデザインの専門人材を養成します。

- | デザインフィロソフィー領域 ▶▶ p051
- | プロダクト領域 ▶▶ p053
- | ビジュアル・サウンド領域 ▶▶ p055
- | 建築・環境領域 ▶▶ p057
- | インタラクション領域 ▶▶ p059
- | 匠領域 ▶▶ p061

大学院

▶▶ p072

文化政策研究科

定員10名

▶▶ p073

芸術文化の振興や文化政策の推進を担う高度な専門家を養成します。

デザイン研究科

定員10名

▶▶ p075

企画から計画推進、造形展開に至るデザイン諸分野での高度な専門能力を養成します。

既成の枠を超えて、文化の新たな地平を切り拓く人材を。

現在につながる歴史の深みと、世界的な社会の広がりを踏まえた視点から、多角的に文化および芸術を認識し、豊かな感受性と、文化の創造・発展に必要な知識を身につけ、国際的な視野を持って新たな時代を切り拓く人材を育成しています。文化政策学部は、人々が「豊か」だと感じる社会の実現を目指し、いきいきとした社会生活を送るための理念や政策を見つけ出していく力を持つ人材を輩出することで、社会に貢献していきます。

文化政策学部

国際文化学科 文化政策学科 芸術文化学科

基礎をつくる5つの科目群

「文化政策とは何か」を理解するために、文化政策学部では学部共通科目として、<文化・芸術>、<政策・マネジメント>、<情報・リテラシー>、<観光>、<選択外国語>の5つの分野の科目群を設置しています。学生は、これらの中からバランスよく科目を選び学んでいきます。これらは、3つの特色ある学科での学習に共通する土台となります。

文化・芸術

各学科の専門分野を学ぶ上で必要な、文化や芸術表現の多様性や歴史などを概観するとともに、異なる文化への理解や多様な社会システム、芸術表現等に関わる幅広い知識を養います。

観光

欧州から西アジア、東アジアに至る、そして日本国内における観光交流の歴史的潮流を俯瞰し、また産業革命以降、近現代の観光産業の発展にも目を向け、地域の伝統文化や地場産業を活かした観光の基礎知識を学修します。

政策・マネジメント

企業に加え、政府、自治体、NPO／NGOといった非営利組織も含めた、幅広い経営体における政策の企画立案や評価、経営体のマネジメントの基本を学びます。これらを通じて、人と人、人と社会のより良いあり方に資するための実践的な能力を発揮できるようになります。

選択外国語

必修科目である英語・中国語以外の多様な外国語を学ぶことにより、国内外の社会や市民の多様性、各地の歴史や地理に根ざした社会・経済・文化・芸術などの理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の拡充を目指します。

情報・リテラシー

社会の課題に対する構想力、企画力、問題解決能力を養うとともに、専門的な研究やその成果を、広く社会に向けて発表・表現することや、多様な市民社会の中での合意形成を促進するための実践的なスキルを身につけます。加えて、多様化する情報社会の中で、慎重にこれらに対処するための法的・制度的知識や自身の情報・リテラシーの素養を身につけます。

文化政策学部で学べること。3学科での関連ワード

文化政策学部では、「国際文化学科」、「文化政策学科」、「芸術文化学科」の3つの学科を設け、社会と文化の関わりを専門的に学びます。複雑、多様な社会について、専門領域だけでなく周辺領域の知識にも触れながら、広く、深く学んでいきます。



文化政策学部の3学科での取得可能な資格

- ◆ 教育職員免許状 [中学校教諭一種・高等学校教諭一種]
国際文化学科／国語（中学・高校）・英語（中学・高校）
- ◆ 文化政策学科／社会（中学）・公民（高校）
- ◆ 図書館司書
- ◆ 学校図書館司書教諭
- ◆ 博物館学芸員
- ◆ 日本語教員養成課程
- ◆ 社会調査士



文化政策学部

国際文化学科

定員100名

異文化を理解し、国際的にコミュニケーションできる
知性と感性にあふれた人材を養成します。

今、世界は、大きく変わろうとしています。

国を越える経済や人の交流は信じられないほどの速さで進んでいます。

そして宗教、伝統文化も大きく変わろうとしています。

国際文化学科は、こうしたグローバルな社会を冷静に見極め、積極的な価値を発見する力、
なによりも人間共存のための創造力、行動力を生み出す学びを進めています。

外国語コミュニケーション能力アップにとどまらず、

学生が多様な文化の構造や発展を学ぶ豊富な科目群、そして学びを具体的な行動に
置きかえていくための場を多様に設定しています。

経験豊かな教員がチームワークで学生と向き合い、つねに多様なニーズに対応しています。

そして、毎年多数の積極的な学生が留学や海外でのインターンシップを実現しています。

取得可能な資格 ▶▶▶ 詳しくは80ページをご覧ください。

教育職員免許状:中学校教諭一種
[国語・英語]

学校図書館司書教諭

教育職員免許状:高等学校教諭一種
[国語・英語]

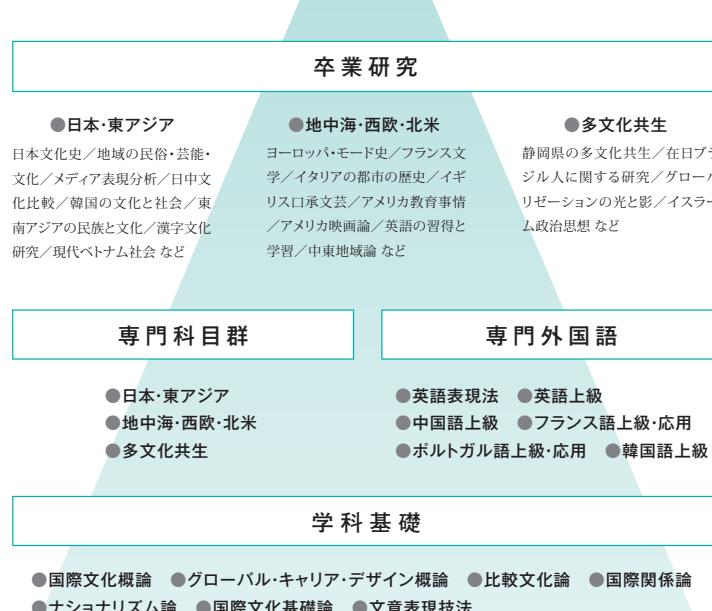
日本語教員養成課程

図書館司書

社会調査士

●●● 複眼的な視点から世界の文化を捉え、多角的に取り組むことで、国際文化をダイナミックに学びます。

世界の様々な事件や状況について考えるには、表面に現れた物事だけでなく、背景まで掘り下げる根源から理解することが欠かせません。自ら問題意識を持ってテーマを見つけ考察する力を養うことが、「学び」の基本です。問題意識を持ち、発見した問題について考察を深め、そして、新たな一歩を踏み出してみましょう。



国際文化学科の学びの体系

「国際文化概論」「国際文化基礎論」といった学科基礎、そして専門外国語を学ぶことで多様な文化のあり方や価値を学びます。それに加えて、3つの専門的な科目群である「日本・東アジア」(22科目)・「地中海・西欧・北米」(21科目)・「多文化共生」(19科目)から各自の関心に沿って科目を選択し、文化を創造的、能動的に学んで、卒業研究の準備をしていきます。また、「グローバル・キャリア・デザイン概論」によって将来のキャリアを早期に構築するサポートをします。

国際文化学科の3つのポイント



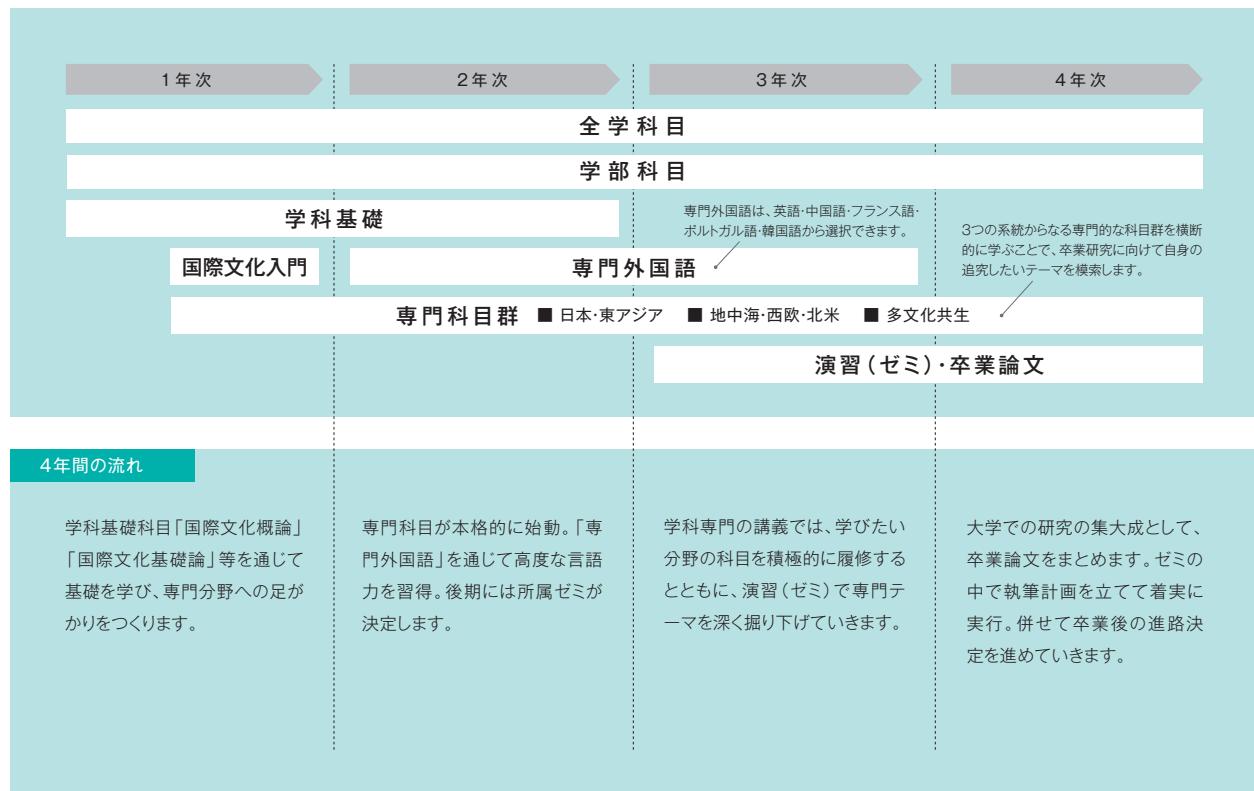
SUACの位置する静岡県浜松市は、2012年に引き続き、2018年に「第2次浜松市多文化共生都市ビジョン」を策定しました。「多文化共生社会」の実現に向け、全国でも先駆的な取り組みが展開されている浜松市で「多文化共生」について学ぶことには大きな意義があります。本学科では、日本語を母語としない人に日本語を教える日本語教員養成課程の修了証明書をとることができます。

国際文化学科の学科科目には、英語、中国語、フランス語、ポルトガル語、韓国語をより専門的に深められる科目群(専門外国语)があります。専門外国语科目「英語上級(通訳・観光英語・翻訳・会議英語)」は、英語力を伸ばすだけでなく、英語を道具として使う専門技能を身につけることを目的とした科目です。将来、関連職を目指す人には最適です。

「グローバル人材」とは、グローバル社会で積極的に挑戦し、世界で活躍できる人材のことです。学科基礎科目「グローバル・キャリア・デザイン概論」では、国際的な場で活躍できる人材に必要な資質とは何か、それを実現するためにはいつまでにどのような準備をすれば良いのか等について、実際に現場で活躍するプロの経験談も交え、将来のキャリアを学生時代から構築するためのサポートをします。



国際文化学科で学ぶ4年間



開講科目例

▶▶ カリキュラム一覧は96ページ以降をご覧ください。

Global Culture : Thinking Independently Together 「Culture & Society B」 [2~4年次／専門科目]



この講義は、グローバルな世界で生きることに関する概念や問題を理解することを目的にしています。学生は、簡単な解決策がない現代社会で私たちが直面しているトピックについて批判的に考え、講義やグループディスカッションを通じて様々な視点を得ながら、独自の意見を形成する能力を養います。

異文化理解の基本を確認する 「比較文化論」 [1~4年次／学科基礎]



異文化とは何か、異文化とどう向き合うべきかについて、日本と欧米の文化比較を例に考えてていきます。異文化を知ることは楽しいだけでなく、誤解が生じたり、時に対立抗争にもつながったりします。先人たちの著書を参考にしながら、文化の違いを冷静に論理的に説明する手がかりを探しましょう。

現場の視点から考える国際協力

「フェアトレード論」 [2~4年次／専門科目]



「ビジネスを通じた国際協力」をフェアトレードから学ぶ授業です。フェアトレードは、地域の課題解決のための手段であるわけですから、単にフェアトレードの制度や歴史などの知識を学ぶだけでなく、実践活動を意識した企画・立案・評価手法についても学びます。

経済の視点からアジアを読み解く

「アジアビジネス論」 [2~4年次／専門科目]



21世紀のアジア経済は、量的にも、質的にも飛躍的な成長を見せています。本授業はアジア各国の経済発展の経路と実態を理解した上で、格差と貧困、環境保全など共通の課題についても学び、経済学的視点からアジア理解を深めていきます。

ゼミ(卒業研究演習一覧)

ゼミ(演習)とは

3年次前期から始まるゼミ(演習)は4~15名程度の共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業の他、学外研修や、フィールドワークが企画される場合があります。担当教員が個別のアドバイスを行い、4年次には卒業研究論文の執筆に展開していきます。

自分だけの韓国を知る

担当教員：林 在圭 教授
専門領域：韓国文化・韓国語

Applied Linguistics and Global Culture

担当教員：Edward Pearse SARICH 教授
専門領域：英語教育

東南アジアの歴史・文化・社会

担当教員：岡田建志 教授
専門領域：東南アジア史

我が国とアメリカの教育学

担当教員：倉本哲男 教授
専門領域：教職実践学・アメリカ教育学

日本語・日本語教育の研究

担当教員：佐野由紀子 教授
専門領域：日本語学・日本語教育

未知の関心を深く掘り起こそう

担当教員：下澤 嶽 教授
専門領域：国際協力、NPO-NGO

English Education and Global Issues

担当教員：Jack RYAN 教授
専門領域：英語教育

イタリアを知り、世界の文化を読み解く

担当教員：武田 好 教授
専門領域：イタリア語・イタリア文化

ヨーロッパの歴史と文化の研究

担当教員：永井敦子 教授
専門領域：西洋史

古文書から地域の歴史を掘り起こす

担当教員：西田かほる 教授
専門領域：日本史・文化史

文学×民俗学=伝承文学

担当教員：二本松康宏 教授
専門領域：日本文学・伝承文学

史料との対話から「今」を問い合わせる

担当教員：水谷 智 教授
専門領域：日本近現代史

イギリス伝承文化と児童文学

担当教員：美濃部京子 教授
専門領域：イギリスロマン文学

経済を通して中国とアジアを知る

担当教員：俞 嶽 教授
専門領域：中国経済・開発経済学

言語習得メカニズムの探究

担当教員：横田秀樹 教授
専門領域：第二言語習得・心理言語学・英語教育

グローバル化の活動で国・企業・人を繋げる

担当教員：崔 学松 准教授
専門領域：中国文化社会・東アジア国際関係・言語社会学

持続可能な未来型共生社会モデルの構築

担当教員：佐伯康考 准教授
専門領域：国際的な人の移動研究

現場の視点から「地域の発展」を考えよう

担当教員：武田 淳 准教授
専門領域：開発人類学・環境と開発

中東などの近現代史を扱う

担当教員：徳増克己 准教授
専門領域：中東北部と旧ソ連の境界地域史

「グローバル社会」の仕組みについて学ぶ

担当教員：西脇靖洋 准教授
専門領域：国際関係論

日本語教育が社会に貢献できることを考える

担当教員：福永達士 准教授
専門領域：日本語教育

フランスを学び、フランスから考える

担当教員：中田健太郎 講師
専門領域：フランス文学・視覚文化論

ゼミ紹介(一例)

現場から考える国際協力

ゼミ担当教員の声

ゼミのテーマは国際協力です。特に開発途上国の貧困や環境問題を対象にしています。ゼミで重視しているのはフィールドワークです。国際協力は「現地の人のため」に行うものである以上、現場で何が起きているのかを自らの目で確かめることができます。成長が著しい途上国は、今この瞬間にしか見られない景色であふれています。そして人々が生きる姿は、皆さん自身の人生を考えるきっかけを与えてくれるはずです。外に出よう。

武田 淳 准教授 | 開発人類学／環境と開発

佐藤龍明 | 国際文化学科 3年
岐阜県立加納高校出身

ゼミ生が興味・関心のあるテーマを詳しく調べ、発表し、相互の意見を出し合う形で学びを深めています。メンバーそれぞれが研究に対する熱意が強いので、発表を聞くのが面白く、自身の知見も広がっています。私は、コロナ禍でエコツーリズムを主体としている観光地がどう変化したかを研究中。フィールドワークを通して明らかにしていこうと思っています。

ゼミ生の声

ゼミ生の研究テーマは自由
活発な意見交換で聞く力も養える



●●● 在学生の声

ネイティブの先生のもと
少人数のゼミで鍛えられる英語力。
日本語を教える力も磨きたい



高校生の頃、海外の人と関わることが楽しそうだと感じ始め、日本語教員という存在を知り、教員養成課程のあるSUACに進学しました。外国人の方に日本語を「外国语」として教えるための手法や理論、考え方などを学んでいます。SUACがある浜松市は在日外国人が多く、多文化共生社会を身近に感じられる環境の中で、国際労働や国際援助など様々な分野を学ぶことで知見も広がっていると感じています。ゼミ生6人という少人数の環境で、Jack RYAN先生の指導のもと、生きた英語に触れながら、対話ができるという密度の濃い学びを実感。ネイティブな英語が身につくだけでなく、映画や食べ物の話などを通して、現地の日常生活を身近に感じながらコミュニケーション力が鍛えられています。自分でも驚いているのがTOEICのスコアの向上。普段の授業やゼミの中で、自然に英語力がレベルアップできたことは嬉しい収穫です。将来は、海外でも日本語を教えてみたいと考えているので、大学院への進学も視野に入れ、さらなる学びの意欲が高まっています。

金子直生 KANEKO Naoki

国際文化学科 3年 愛知県立安城東高校出身

高3のとき 海外に興味を持ち始め、将来、外国で暮らしてみたいと思うようになる

1年次 日本語教員養成課程と教職課程、両方を履修し勉強に奔走する。

2年次 必修科目をしっかりと学び、着実に単位をとる。目の前のことを見張る日々

3年次 時間に少し余裕が生まれ、映像を見ながら英語を学び、TOEICに挑戦

座学だけでなく
現場で実践する機会も豊富。
小規模な大学のメリットは多彩



幼い頃から海外を身近に感じ、高校は国際科で学んでいたことから、より国際的な視野を広げ、日本と海外をつなぎアウトプットする力をつけて本学科へ進学。言語だけでなく、文化人類学や多文化共生など幅広く学ぶ中で、資本主義世界の大きな文化とは対極にある、小さな文化や個性的な文化の存在を知り、多様な地域や価値観を大切にしながら、新しい価値を共に創り上げていく「共創」に興味を持って学んでいます。SUACは授業で学んだことを実際に学外で活かす経験も多く、バングラデシュでのフィールドワークへの同行や、ブラジルで日本文化を発信するインターンも体験。座学だけでなく、現場で動くからこそ知識が血肉に変わっていくことを実感しました。「働くってどんな感じなんだろう」と就活前に1年間休学して社会人を経験し、自分なりの答えを出せたのは、教授や職員の方々が寄り添ってくれたからこそ。卒業後は、自身の経験を活かし、就活生がより良い選択ができるよう、人材業界で尽力したいと思っています。

大角絵未 OSUMI Emi

国際文化学科 4年 静岡県立浜松北高校出身

高3のとき 国際科に在籍し、第二言語はスペイン語を専攻

1年次 言語を中心に興味のある講義をたくさん受講。デザイン系の科目にも刺激を受ける

2年次 バングラデシュのフィールドワークに同行。現地に赴く重要性を知る

3年次 ブラジルでインターンと文化交流を体験。就活前に1年間の休学を決意。社会人を経験し、働くことの意義を見つめる

4年次 卒業研究は「イタリア映画産業」について取り組む

進路 パーソルキャリア株式会社

●●● 国際文化学科の知と実践の力

Discuss important global issues in English with people from all over the world!

英語模擬国連 (Japan University English Model United Nations)

The goal of JUEMUN (Japan University English Model United Nations) is to positively affect the lives of university students and motivate them to become better global citizens. JUEMUN encourages an understanding of contemporary international issues and the United Nations. Every year at JUEMUN university students from around the world cooperate in discussing complex global issues, such as climate change in English from the perspective of their assigned country.



●●● 卒業生の主な進路 (令和元年～3年度卒業生)

公務

法務省	豊川市役所
静岡県庁(小中学校事務)	静岡県教育委員会(教員)
静岡市役所	愛知県教育委員会(教員)
浜松市役所	名古屋市教育委員会(教員)
藤枝市役所	

製造・建設業

永和住宅(株)	(株)SUBARU
エンシュウ(株)	セキスハイム東海(株)
三立電機工業(株)	浜松ホトニクス(株)
(株)シャンソン化粧品	(株)日立ソリューションズ
スズキ(株)	ヤマハ発動機(株)

運輸・旅行業

ANAエアポートサービス(株)	(株)JTB商事
Agoda Travel Operations Japan(株)	(株)自遊人
金谷ホテル観光(株)	鈴与(株)
(株)上組	東伸運輸(株)
鴻池運輸(株)	東日本旅客鉄道(株)
静岡鉄道(株)	日本航空(株)
(株)JTB	

卸売・小売業

イオンリテール(株)	(株)クシタニ
ウエルシア薬局(株)	(有)春華堂
(株)遠鉄ストア	(株)ドラッグストアモリ
(株)杏林堂薬局	(株)ニトリ

金融・保険業

岡崎信用金庫	浜松磐田信用金庫
(株)静岡銀行	日本生命保険(相)
しづおか焼津信用金庫	第一生命保険(株)
(株)清水銀行	とびあ浜松農業協同組合
西尾信用金庫	花咲ふくい農業協同組合
長野県信用組合	

サービス業など

愛知医科大学	生活協同組合コープながの
GTS協同組合	生活協同組合ひろしま
静岡県民共済生活協同組合	聖隸クリリストー中・高等学校
(株)静岡新聞社・静岡放送(株)	(株)TOKAIホールディングス
(福)春風会	東邦ガステクノ(株)
生活協同組合コープさっぽろ	(株)パンダイナムコスタジオ

大学院進学

埼玉大学	静岡文化芸術大学
------	----------

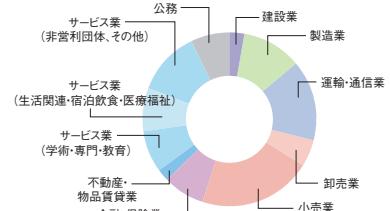
地域の“心と記憶の遺産”を伝える

浜松市中山間地域で民話の採録調査そして書籍の刊行

国際文化学科の二本松康宏ゼミ(伝承文学)では、2014年から浜松市北部の中山間地域で民話の採録調査を取り組んでいます。ゼミの学生たちは年間に20日以上も現地へ通い、地域や家庭に語り伝えられてきた伝説や昔話、言い伝えなどを記録。それらを「方言のまま」「語りのまま」に翻字し、学生による解説を添えて、毎年、書籍として刊行しています。



就職データ



建設業	…3%
製造業	…11%
運輸・通信業	…15%
卸売業	…5%
小売業	…21%
金融・保険業	…8%
不動産・物品販貸業	…2%
サービス業(学術・専門・教育)	…8%
サービス業(生活関連・宿泊飲食・医療福祉)	…8%
サービス業(非営利団体・その他)	…12%
公務	…7%



生活の質や生きがいの向上を目標に、
地域社会と産業の持続可能な姿を探究し
学際的・実践的なカリキュラムを通じて、
それを実現するための構想力と実行力を培う。

「文化政策」とは、より良い社会のあり方を探究し、これを実現するための方策を意味します。そして、その方策について、文化政策学科では、主として社会科学の視点から学びます。特に「政策」「経営」「情報」という3つの分野を、総合的かつ集中的に学ぶ特色あるカリキュラムを用意しています。

地域社会や企業の様々な課題を総合的に捉え、持続可能で包摂的な社会の実現に向けた、行政施策・企業戦略・市民活動などを構想し、それを有効に実現することができる人材を養成します。

取得可能な資格 詳しくは80ページをご覧ください。

教育職員免許状:中学校教諭一種
[社会]

学校図書館司書教諭

教育職員免許状:高等学校教諭一種
[公民]

日本語教員養成課程

図書館司書

社会調査士

●●● 文化政策学科の多角的な学び

文化政策学科には、政策や行政、経済や経営、文化や情報、社会や心理、法律など多岐にわたる専門分野の教員がいます。

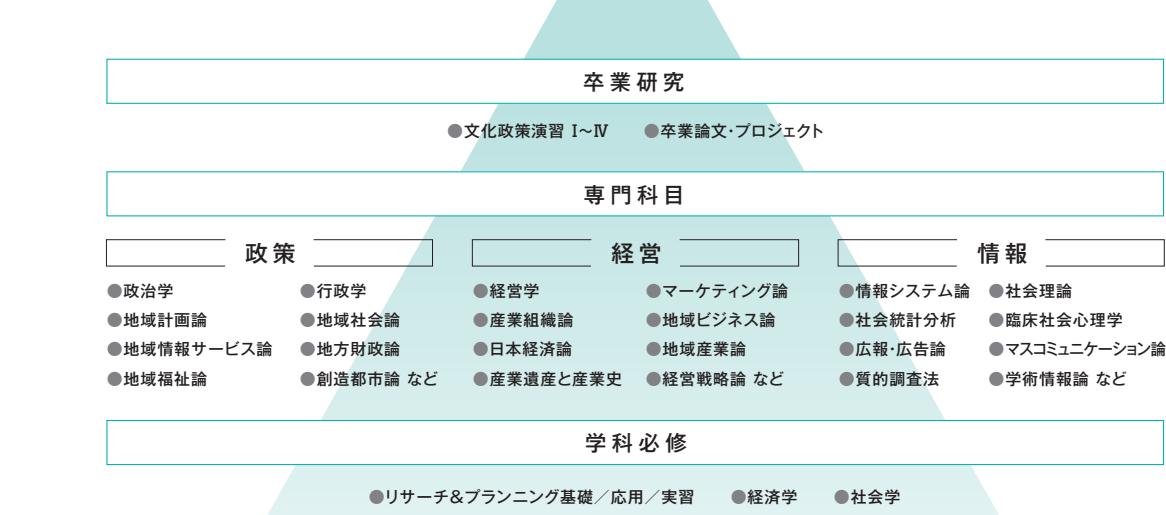
まず入学から2年間は、多様な学科科目を履修しながらじっくりと学びたい分野やテーマを設定します。

3年次からのゼミや4年次の卒業論文・プロジェクトでは、自らが関心を持ったテーマについて、

専門知識を持つ教員の指導のもとで学びを深めていきます。専門的な指導にあたっては、

55名の入学定員に対し、14名の専任教員を擁し、きめ細かな少人数クラスでの教育を行います。

文化政策学科の学びの体系



1

調査研究や企画立案の
手法を身につける

学科必修では、文化政策の基礎となる知識と共に、基本的なアカデミックスキルや実践的な調査研究・企画立案手法を学びます。また、政策、経営、情報の3つの視点から現代社会の様々な課題を理解し、実社会での問題の解決に貢献できる知識と実践力を養っていきます。

2

地域社会の豊かさ
を構想する

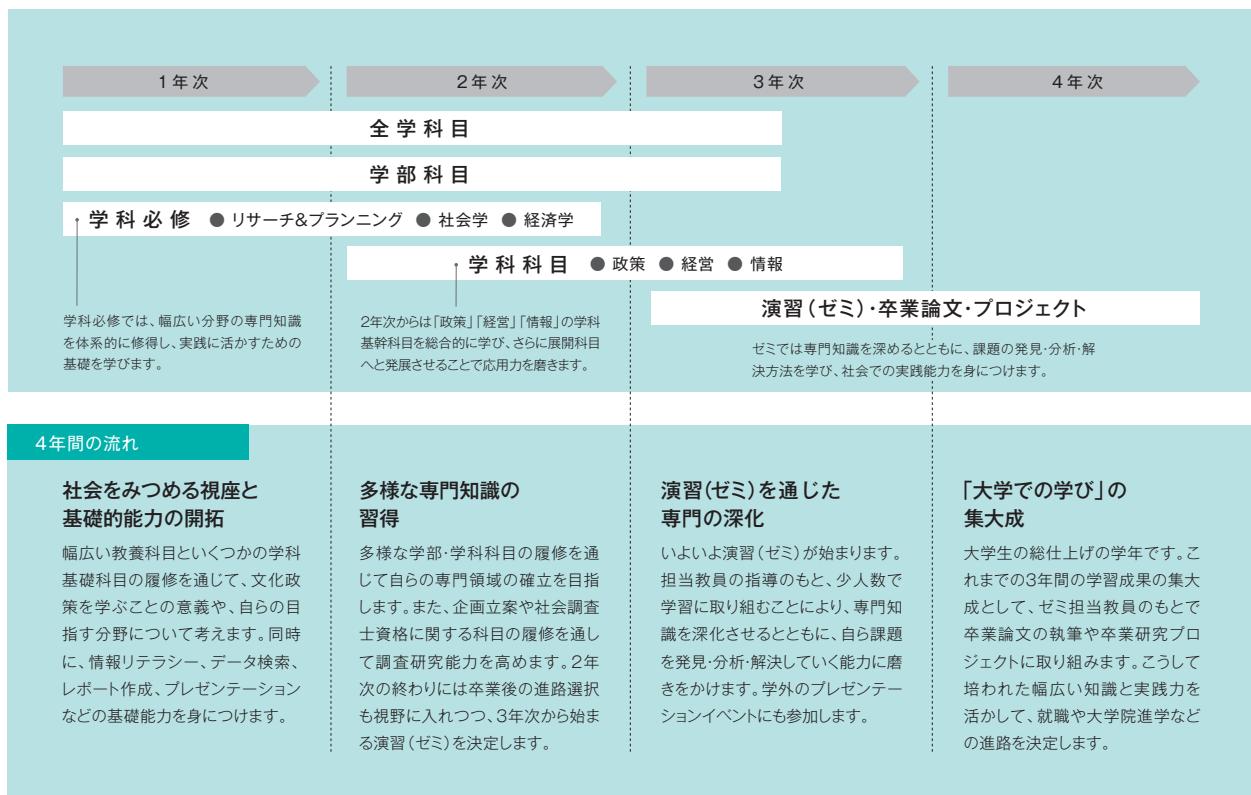
都市や農山漁村、コミュニティや集落、組織や集団を主な調査研究対象として、そこに住み、働く人々の生活や考え方を、観察やインタビューを通じて調べます。そして、多様な学科科目から学んだ知識を、調査で得られた情報の分析に応用しながら理解を深め、問題点を明らかにし、解決策を提言します。こうして、現実的で実現可能性の高い政策や事業計画を立案する力を習得します。

3

産業社会の
あるべき形を考える

地域における製造業、サービス業、農林水産業の実態、様々な種類や規模の企業や公共団体の経営・運営について、統計的なデータはもちろんのこと、現場の経営者や労働者、そして消費者の体験や視点を踏まえながら学びます。さらに、企業や公共団体の経営戦略や運営形態を調査して、評価方法などを習得します。企業の社会的責任など企業と地域社会の関係についても学びます。

文化政策学科で学ぶ4年間



開講科目例

▶▶▶ カリキュラム一覧は96ページ以降をご覧ください。

地域の課題解決策を立案するプロセス

「リサーチ&プランニング 基礎／応用／実習」 [1~4年次／学科科目]

調査研究や企画立案の手法を体系的に学び、データ分析と課題解決の能力を身に付けるための科目群です。「基礎」「応用」「実習」の3科目(必修)で構成されています。「基礎」と「応用」では、データ分析の基礎と社会調査手法を学びます。「実習」では、公共政策や企業経営などに関する課題を設定し、各自が調査研究に基づき課題解決策を立案し、その結果のプレゼンテーションを行います。



多様な視点から良い経営を考える

「経営学」 [1~4年次／学科科目]

経営とは、人々を通じて企業目標の達成を目指す営みです。良い経営を行おうとすれば、企業の向かう方向をどう定めるか、人々をどう束ね動機付けるか、どのような製品を開発するべきか、日々の仕事の管理をどう行うかなど、多様な視点が必要になります。この授業では、経営分野の学びの導入科目として、幅広い視点から企業経営を考えるための基本的な理論やフレームワークについて学びます。



都市・地域を取り巻く課題を理解する

「地域計画論」 [2~4年次／学科科目]

都市・地域にかかる計画は今日、行政や専門家の主導する計画から市民協働に舵を切り、かつ、社会構造変化に伴う喫緊の課題への対処を迫られています。都市計画の制度や技法に依拠しつつ、都市・地域を取り巻く今日の課題を概観し、課題解決方策を考察します。都市・地域分野は幅広い事柄に関連することが特徴的で、なぜ、どのようにいった好奇心と主体性の引き出しを重視しています。

現代社会における広報・広告のあり方とは

「広報・広告論」 [2~4年次／学科科目]

この講義では、現代社会における広報・広告のそれぞれの役割や機能、また両者の関係性について考えます。グローバル化やデジタル化の進展、広告表現をめぐる問題など、企業や行政における広報・広告をめぐる環境は、現在大きく変化しています。そのため講義では従来の広報・広告論の視座に加え、映像文化論やコミュニケーション論の知見を取り入れ、広報・広告のあり方を学びます。

ゼミ(卒業研究演習一覧)

ゼミナール(演習)とは

3年次前期から始まるゼミナール(演習)は4~15名程度の共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業のほか、現場研修や、フィールドワークが企画される場合があります。担当教員が個別のアドバイスを行い、4年次には卒業論文の執筆に展開していきます。

メディア・消費文化から社会を見る

担当教員：加藤裕治 教授

メディアや消費の文化と日常文化が分かちがたく結びついている現代社会の状況を理解し、その課題を明らかにしていきます。ゼミでは社会学を中心とした方法や研究をもとに、各自の研究テーマに取り組むことになります。

社会の中の人間の心に関する研究

担当教員：小杉大輔 教授

まず、心理学の研究法について、グループで実験的に学びます。そして、社会心理学を中心とした最新の研究動向を参考に、各自で研究テーマを決定し、調査を実践していきます。

行動や政策についての経済学的研究

担当教員：鈴木浩幸 教授

消費者や企業にとっての合理的行動をベースに、社会にとって望ましい状態を実現するためのルールや産業政策について、経済学の見地から客観的に考えていきます。

経営戦略論、組織論を切り口に企業を研究

担当教員：曾根秀一 教授

経営学、とりわけ経営戦略論、組織論、経済史の視点から現代社会において重要な位置を占める大小様々な「企業(会社)」について、理論およびフィールドワークも交えながら、研究を進めています。

公共政策の分析と評価

担当教員：田中 啓 教授

公共政策の対象となる社会や地域の現状を深く理解することを重視します。その上で、社会的課題の解決方法や政策の有効性を分析・評価する技法について学び、自身の関心のあるテーマに応用します。

情報技術を活用した社会の研究

担当教員：野村卓志 教授

生活の質を向上させるための社会システムを考えるのが文化政策です。そこで、情報技術を活かした社会をつくるにはどうするかをテーマとして、各学生は研究を進めています。

公共図書館を通して地域を見る

担当教員：林 和子 教授

公共図書館を研究するにはその地域についても知る必要があります。図書館を通して地域にアプローチし、地域のために図書館は何ができるかを考えることを目標としています。

都市・地域計画、まちづくりの研究

担当教員：藤井康幸 教授

都市・地域の計画、まちづくりは間口が広く、幅広いトピックの学習、分析から入り、卒業論文に向けて関心分野を絞り込んでいきます。事例研究とフィールドワークを重視します。

中山間地域についての社会学的研究

担当教員：船戸修一 教授

ゼミでは、まずフィールドワークを通して中山間地域(農山村)の現状や課題を社会学的に把握することを学びます。そして各自で研究テーマを設定し、入念な現地調査をした上で、中山間地域を社会学的に分析します。

社会問題、社会変動に関する研究

担当教員：森 俊太 教授

社会問題や社会変化の原因、プロセス、影響などを、制度や文化を比較しながら研究します。綿密な調査と論理的な発表の繰り返しにより、学生の実力を向上させます。

マーケティング視点で社会と向き合う

担当教員：森山一郎 教授

経営やマーケティング分野の研究を行います。つねに生活者の立場で発想し、それを具体的な行動につなげていく。このような姿勢を養うために、講義等で身につけた知識を現実社会の様々な課題に対して活用していきます。

経済史・産業史から現代を見る

担当教員：四方田雅史 教授

経済学・経営学の基本的な考え方を学ぶとともに、これまで経済・産業・企業がどのような変遷をたどったか、その背景にある経済・経営的要因について分析し、討論します。

家族と地域福祉に関するライフコース研究

担当教員：小林淑恵 准教授

個人や家族のライフコースと地域福祉の関係を扱います。行政機関との連携活動を通じて地域福祉に関する理解を深め、各自の設定した課題について実証的な研究としてまとめるこを目標します。

都市・文化をめぐる行政規制や資金をめぐる法を学ぶ

担当教員：塙見佳也 准教授

文化政策を行政規制や資金調達の側面から考察し、公民連携をめぐる基本的な法の仕組みやPFIの実施事例を研究します。その際、都市や文化財保護をめぐる法技術を修得し、理論的背景も考慮しながら複眼的に考察していきます。

ゼミ紹介(一例)

農山村の集落は消滅してしまうのか? 社会の仕組みを人間関係から考える

私は社会学、特に「地域(農村)社会学」を専門にしています。社会学は社会の仕組みを人間関係から考える学問です。昨今、人口減少や高齢化によって農山村の集落が消滅するような主張がみられます。しかし集落から転出した子どもや孫がそこに通い、その家の手伝いをし、集落の行事にも参加している限り、そう簡単に集落は消滅しません。このように「世帯」ではなく、集落を超えた「人間関係(家族)」から考えることが必要です。ゼミでは、農山村についての文献の輪読や討論を通じて、人口減少や高齢化の中でも農山村の集落が存続する方策を考えています。

船戸修一 教授 | 社会学／地域社会学



ゼミ担当教員の声

金田鈴音 | 文化政策学科 3年
静岡県立浜松湖北高校 佐久間分校出身

将来は地元・佐久間に貢献したいと思い中山間地域をフィールドにする船戸ゼミで、想像を超える体験や濃い学びを重ね、知見を広げています。現地での聞き取り調査や地域住民との交流を通して「相手の話を聞く力」が、また論文輪読や研究発表などの話し合いを通して、物事の背景まで「深く考える力」がついたと思います。

ゼミ生の声



将来は中山間地域である地元に戻り
新しい視点で盛り上げていきたい

●●● 在学生の声

何事にも全力で取り組める環境。
座学と実践を繰り返し続けることで、
新しい景色が見えてくる



この4年間で学んだ
幅広い学びを糧に
社会で挑戦していきたい



地域に関わる学びをしたいと考え、実践的に学べる環境が整った本学科を志望しました。農村社会学、その中でも中山間地域で発生している諸問題について研究中で、今は耕作放棄地の発生過程や他出子論^{たじゆつし}に興味を持って取り組んでいます。SUACには様々な分野の先生方がいるので、異なる角度や視点から考えるようになるのが長所。例えば、地域における米作りを考察する時、地域については農村・地域社会学、販売に関しては経営学やマーケティングと、専門の先生方に気軽に質問でき、その距離感の近さは積極的に学びたい人には最高の環境です。私は1年次から中山間地に通い続け、地域や人々との関係を築きながら、共に考える姿勢を身につけ、暮らしに政策が直結することを肌で実感できました。SUACは座学と実践活動を往復する学びができ、一過性の「体験」ではなく、学生が主体となってやり遂げる「経験」ができる大学です。学業と活動の両立は大変な時もありますが、まずは「やってみる」ことが大切。「続けてみる」ことで新しい景色が見えてきますよ。

鈴木義人 SUZUKI Yoshihito

文化政策学科 3年 愛知県立新川高校出身

高3のとき オープンキャンパスで船戸ゼミのブースを訪問、大学案内で引佐耕作隊の活動を知る

2年次 コロナのため前期はリモート講義となり、棚田での米作りの活動も休止

1年次 船戸ゼミに1年次から参加。引佐耕作隊の活動において自ら狩猟免許も取得

3年次 米作りの活動再開。引佐耕作隊の代表として後輩の育成に努める

入学前、まだ学びたい分野を絞れなかった私にとって、政策・経営・情報など幅広く学べるカリキュラムは魅力的でした。実践的な学びの場を多く得られるのがSUACの特長で、私の場合は防災関連の活動や、地元企業との商品開発、コロナ禍での大学生活についてのアンケート調査など、様々な実践の場を経験しました。周りには、特産品を使って地域活性化の方法を考えたり、フェアトレード商品を開発したり、それぞれ興味がある分野に取り組んでいる学生が多く、その環境もまた面白いです。1年次の「地域連携演習」の授業で「防災」というテーマに出会い、実践的な活動を継続しながら、この学びを活かす進路として公務員を目指すようになりました。同じ目標に向かって頑張る仲間たちの存在も大きく、共に成長することができました。SUACは社会を豊かにするための要素、行政や事業などの物質的な豊かさから、文化や芸術などの精神的な豊かさまで、幅広く学べる大学です。皆さんも叶えたい夢をぜひ見つけてください。

濱戸菜央 HAMADO Nao

文化政策学科 4年 愛知県立江南高校出身

高3のとき オープンキャンパスで学生による模擬授業を受け、大学での学びの面白さを知る

2年次 学生チームで学生知的財産活用ビジネスアイデアプレゼン大会に出場し優秀賞を受賞

1年次 「地域連携演習」で防災関連のテーマを選択し、防災の分野に興味を持つ

3年次 ゼミ生で協力してコロナ禍に関するアンケート調査を実施。公務員試験のための勉強を始める

進路 大田区役所(東京都)

●●● 文化政策学科の知と実践の力

経営学の視点から地域経済や社会問題を考える

日本学生経済ゼミナール大会 (通称: インター大会)

曾根ゼミでは、「日本学生経済ゼミナール大会」に出場し、日頃のゼミでの研究成果の報告、他大学の学生とのディスカッションを通じて交流を深めています。同大会は、全国の経済・経営の学生を中心に65年以上続く国内最大規模(1500人参加)の学術大会として知られます。各学生の興味・関心に沿って、「経営」、「地域経済」等の分野にエントリーし、2016年に経営分野で優勝および全国4位、2017年には経営および地域経済分野で優勝、2018年には3チームすべてが各分野で準優勝(優秀賞)を果たすなどSUAC生が躍動しています。発表に至るまでの理論研究、フィールド調査、資料作成、プレゼンテーションとこれまでの努力と貴重な経験を今後に活かしてほしいと思います。



●●● 卒業生の主な進路 (抜粋)

公務

静岡県地方検察庁 掛川市役所
静岡労働局 菊川市役所
東北運輸局 沼津市役所
愛知県庁 袋井市役所
岐阜県庁 富士市役所
群馬県庁 三島市役所
静岡県庁 烧津市役所
山梨県庁 蒲郡市役所
静岡県警察本部 新城市役所
静岡市役所 豊橋市役所
浜松市役所 福井市役所
伊東市役所 江名川区役所
磐田市役所 静岡県教育委員会(教員)
御前崎市役所 浜松市教育委員会(教員)

金融・保険業

遠州信用金庫 住友生命保険(相)
岡崎信用金庫 静清信用金庫
蒲郡信用金庫 損保ジャパン日本興亜(株)
(株)静岡銀行 第一生命保険(株)
静岡県経済農業協同組合連合会 東京海上日動火灾保険(株)
静岡県労働金庫 とびあ浜松農業協同組合
静岡東海証券(株) 豊橋信用金庫
しづおか焼津信用金庫 日本銀行静岡支店
静銀ティーエム証券(株) 日本生命保険(相)
静銀ビジネスクリエイト(株) 沼津信用金庫
島田掛川信用金庫 浜松磐田信用金庫
(株)清水銀行 三ヶ日町農業協同組合

製造業

(株)河合楽器製作所 スズキ(株)

はごろもフーズ(株)
浜松ホトニクス(株)
(株)ヤタロー

サービス業(教育・広告・ホテルなど)・医療福祉

(株)SBSプロモーション
サーラエナジー(株)
(株)しづおかオンライン
静岡農業団体健康保険組合
(株)静岡新聞社・静岡放送(株)
(株)静岡博報堂
(株)ジェイアール東海高島屋
生活協同組合ユコープ

卸売・小売業

(株)遠鉄百貨店
鈴与商事(株)

運輸・旅行業

遠州鉄道(株)
(株)ジェイアール東海ツアーズ
静岡鉄道(株)

建設業

大和ハウス工業(株)
ミサワホーム(株)

大学院進学

東京学芸大学 筑波大学
静岡文化芸術大学 名古屋大学

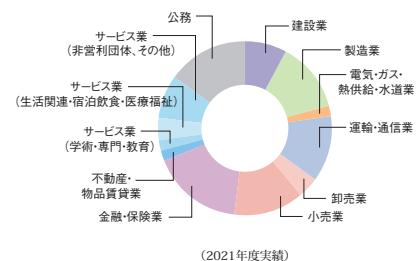
様々な違いを超えて皆が楽しめる絵本を作る

UD絵本ワークショップ

UD(ユニバーサルデザイン)絵本とは、身体的・知的特性、年齢そして文化や言語の違いを超えて皆が楽しむことのできる絵本。形や構成、素材などにとらわれず、触ったり、動かしたり、音を出して楽しむことができます。SUACでは、2012年から「UD絵本ワークショップ」を開催しています。2021年は、文化政策学科3、4年生11名が浜松市立積志中学校で、ワークショップの講師を務めました。ユニバーサルデザインとは、UD絵本とは、をどのように中学生に伝えるか、作品制作をどのように指導していくかを自分たちで考え、スライドや見本を準備して臨みました。その思いは伝わり、当日、グループに分かれた中学生は、学生に手伝ってもらいながら、楽しみながら作品を作っていました。



就職データ



業界	割合
建設業	…8%
製造業	…13%
電気・ガス・熱供給・水道業	…2%
運輸・通信業	…12%
卸売業	…4%
小売業	…13%
金融・保険業	…17%
不動産・物品販賣業	…2%
サービス業(学術・専門・教育)	…2%
サービス業(生活関連・宿泊飲食・医療福祉)	…4%
サービス業(非営利団体・その他)	…8%
公務	…15%

今日の社会における 芸術の可能性を求めて。

複数形のArtsで表記される今日の芸術。

音楽、演劇、絵画、映像など単体で表現することもあれば、複数のジャンルが
コラボレートして、新しい芸術ジャンルを生み出すこともあります。

芸術が社会でその力を発揮するためには、芸術が市民に受け入れられなくてはなりません。

芸術を生み出す芸術家のほかにも、芸術を学問的に研究する人、美術館や劇場など
芸術組織の運営に携わる人や、より広い視点から政治や経済の仕組みを
考える人などが必要となります。

芸術文化学科では、多角的な視野に立って芸術と芸術を支える社会システムの
両面を理解し、多様な分野で芸術の持つ力を社会に
活かすことのできる人材を養成します。

取得可能な資格 詳しくは80ページをご覧ください。

図書館司書

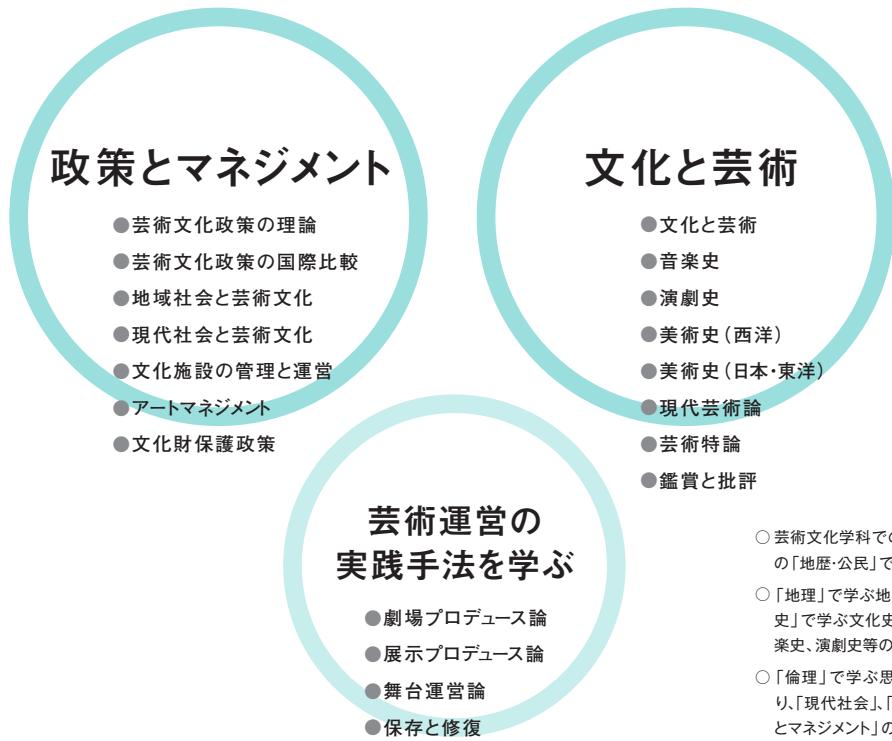
博物館学芸員

日本語教員養成課程

社会調査士

● 人文科学と社会科学を多角的に学ぶ充実したカリキュラム

芸術文化学科は芸術や文化について多角的に学ぶことができる学科です。芸術を主専攻としながらも政治・経済・経営・法律等についても十分な理解を持つとする学生、芸術について深い知識を持つつつ社会科学の専門知識を駆使できるアートマネージャーや官民の政策プランナー等を志望する学生などを求めています。芸術文化学科のプログラムは2010年には芸術経営教育者協会(Association of Arts Administration Educators、AAAE)に正会員として加盟し、グローバルな視点からも通用するよう教育のさらなる充実を図っています。



- 芸術文化学科での学びの基礎は、高等学校の「地歴・公民」です。
- 「地理」で学ぶ地域文化と「日本史」、「世界史」で学ぶ文化史を深めるのが、美術史、音楽史、演劇史等の科目です。
- 「倫理」で学ぶ思想や哲学が美学につながり、「現代社会」、「政治経済」の学びが「政策とマネジメント」の科目群の基礎となります。

1 芸術・文化を理解する

多様な芸術、文化のありようについて学び、その諸相を探究します。歴史的認識の醸成と、最新の知識の修得によって、豊かな芸術、文化の内容を理解し、それらが現代に生きる私たちの感覚、意識をどのように形づくっているかを考えます。



2 芸術を社会科学の視点から学ぶ

人間の芸術活動を理解するためには、芸術作品や芸術家について理解するだけでは不十分です。芸術文化学科では、文化経済学等を基礎として、様々な制度・政策や国・自治体・企業等による支援、そして芸術組織等の経営について学びます。

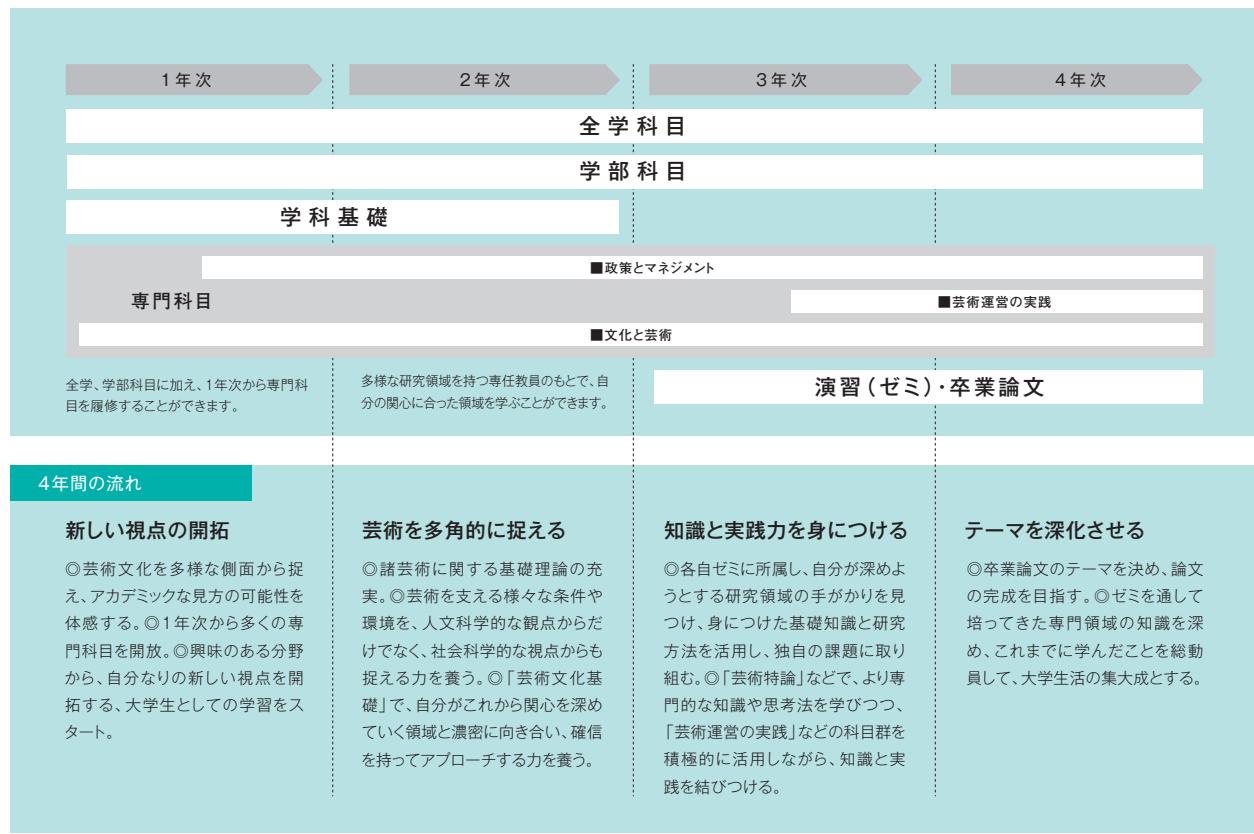


3 2つの側面から多角的に学ぶ

芸術文化学科では「文化と芸術」「政策とマネジメント」というカリキュラムにおける2つの柱を設け、芸術や文化について人文科学と社会科学の両面から学びます。加えて、実践にも対応できる科目も開講し、理論と実践とのバランスのとれたカリキュラムを用意しています。入学定員55名に対し14名の専任教員を擁し、きめ細かい少人数教育を行います。



芸術文化学科で学ぶ4年間



開講科目例

近代日本の音楽文化を振り返り、未来を創造する 「音楽史Ⅱ」 [1~4年次／専門科目]



私たちは、当たり前のようにピアノやギターの音楽を楽しんでいますが、それはどのような道筋をたどってきたのでしょうか。音楽史Ⅱは、これから音楽文化を構想・創造するために、幕末・明治維新以降150年間を丁寧に振り返り、再考することを目的としています。

アートを運営する組織を取り巻く環境を学ぶ 「アートマネジメントA・B」 [2~4年次／専門科目]



公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論を学びます。非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につけます。

研究対象としての美術作品の見方を実地に学ぶ 「鑑賞と批評Ⅰ・Ⅱ」 [3・4年次／専門科目]



実際に様々なジャンルの展覧会等に行き作品を観察することで、作品についての基本的知識を学ぶとともに、どのように作品を見るか実体験を通して修得します。その作品観察をもとに思考し記述する力を身につけるため、見学後は毎回テーマを設定しレポートを作成します。

自らの考えを論理的な文章にまとめる 「卒業論文」 [4年次／演習(ゼミ)・卒業論文]



芸術文化演習によって獲得した知識、情報の活用方法を駆使し、自らの考えを論理的にまとめます。文献資料収集、読解、分析をし、これに基づいて理論を立てる作業を担当教員の指導とともに繰り返して卒業論文を作成します。

ゼミ(卒業研究演習一覧)

ゼミナール(演習)とは

3年次前期から始まるゼミナール(演習)は4~15名程度の共通の関心を持つ学生が集まり、毎週行われる授業のほか、現場研修や、フィールドワークが企画される場合があります。担当教員が個別のアドバイスを行い、4年次には卒業論文の執筆に展開していきます。

現地調査を通じて音楽と社会に向き合う

担当教員：梅田英春 教授

世界中の音楽は社会と深く関わっています。ゼミ生は民族音楽学の基礎を学んだ後、国内外で音楽に関するフィールドワークを一人で行い、その成果をもとに音楽と社会のつながりについて考えます。

劇空間の「見えにくい」構造の研究

担当教員：梅若猶彦 教授

能はそもそも「見えにくい」構造で成り立っており、学科基礎「芸術表現」の授業で講じたものの発展形や能の型などの研究をします。そのほか、ゼミ生は新作狂言を書き下ろしたりします。

過去の音楽文化から「現代社会」を考える

担当教員：奥中康人 教授

地方創生の掛け声のもとで一「B級グルメ」や「ゆるキャラ」のように一 音楽を利用するのもうウンザリ。身近な音楽に目を配り、文化や芸術の枠組み自体を再考してゆくことを目的としています。

残された美術作品に向き合う

担当教員：片桐弥生 教授

日本美術史の基本的な研究方法を、実際に作品をじっくり見、研究論文などを読むことで身につけます。残された美術作品が制作当時、何を意図して作られ享受されていたのか明らかにすることを目指します。

芸術文化で人々を幸せにする政策の研究

担当教員：片山泰輔 教授

芸術文化は単なる趣味や娯楽ではなく、公益であり、人権です。芸術団体や文化施設の課題や、教育や福祉等、社会の様々な課題を芸術文化によって解決するための政策のあり方を研究しています。

文化・芸術活動を担う人々や団体を見る

担当教員：高島知佐子 教授

文化・芸術活動を経営の視点から見ます。フィールドワーク(現地調査)を通して、活動内容や活動の背景をひもときます。また、社会に関する文献を多く読み、理論と現場から思考力・分析力を養います。

文化成立とは?芸術と社会の関係を探る

担当教員：立入正之 教授

「質実剛健」「文武両道」をモットーに、「西洋美術史」「比較美術史」「表象文化論」「芸術政策・産業」「文化財科学・博物館学」をキーワードに、広い視野を持ち学間に励みます。

現代芸術・視覚文化への理論的アプローチ

担当教員：谷川真美 教授

多様な形態をみせる現代の芸術や、日常生活をとりまく様々な視覚文化について、芸術の歴史と思想を手がかりとしながらその本質について考え、私たちの生きる現代とはどういうものか考えます。

演劇・劇場の学問は現場から生まれる

担当教員：永井聰子 教授

演出理念、空間、運営のメカニズムを分析する力を養います。帝国劇場、築地小劇場、東京宝塚劇場が海外の演劇史と作品を革命的に変えたように、観客が仕上げる演劇の本質を理論と実践から探究します。

演劇の本質と可能性を探る

担当教員：井上由里子 准教授

古代ギリシャ悲劇から現代演劇まで幅広い戯曲・演出の分析手法を学び、作品世界の理解を深めます。同時に、型破りな演劇(前衛演劇や応用演劇)の研究を通して演劇とは何か、演劇に何ができるのかを考えています。

西洋の音楽文化・音楽と社会の関係を探る

担当教員：上山典子 准教授

西洋を中心とする音楽文化や、音楽と社会、音楽と政治、音楽と戦争などをテーマに、基本文献から最新の論文までを読み、議論を重ねることで、知識と視野を広げていきます。

博物館・美術館の機能と役割を考える

担当教員：田中裕二 准教授

社会のニーズが多様化し、博物館に求められることも変わり、運営には学芸員だけではなく多彩な人材が必要とされています。博物館が直面する現状と課題を認識し、博物館の最適な運営手法や社会的な役割を考えています。

芸術文化を通して皆が憩える広場を創る

担当教員：南田明美 講師

芸術文化を通して社会的弱者が声をあげやすい場を創るには、どのような要素が必要なのか。そもそも芸術文化の力とは何なのか。質的調査を通して、それらの問いを追究していきます。

ゼミ紹介(一例)

社会におけるミュージアムの機能や役割について 座学と現場を往復し、学びを深める

ミュージアムは誰のもので、どうして必要なのか。根源的な問いから、今直面する課題まで、社会の中でどのような機能や役割があるのかを考えていくゼミです。学生の興味・関心に沿って、展示作品の鑑賞方法、大衆文化を展示する意義、企業ミュージアムの公共性など、ミュージアムが抱える様々な課題について、議論しながら進めています。座学と現場を往復して、問題意識を持つだけではなく、最終的に新たな提案ができるようになることを目指しています。

田中裕二 准教授 | 博物館学／日本近代史

宮内ゆふり

芸術文化学科3年
富山県立魚津高校出身

美術館や博物館に興味があり、学芸員でもある田中先生のもとで学べる本ゼミを志望。「博物館について」という共通点はあるものの、ゼミ生によって興味や関心は様々なので、お互いの意見や情報交換はとてもためになります。少人数のゼミなので意見や感想を言いやすく、これまで人前で発言するのが苦手でしたが、発表の経験等を通して少しづつ克服できていると思います。



ゼミ担当教員の声



今は企業博物館について研究中
自分の考えを伝える力がついた

●●● 在学生の声

芸術文化学科×デザイン学科
お互いの交流を深めることで
新しい可能性を広げてみたい



本学科では、芸術や文化について様々な角度からのアプローチが可能です。演劇、美術、音楽などの作品の観賞はもちろん、アートマネジメントや文化政策など、社会との結びつきを重視した学びができるのも本学科ならでは。ゼミでは、梅若先生の専門である能に加え、哲学、文化、映像など知的好奇心を刺激する多様な学びに触れながら、少人数のゼミ生で意見を交わす濃い授業に、学びの面白さと奥深さを感じています。今、力を入れているのはデザイン学部の学生との展示会企画。学芸員資格取得のために学んでいることが、展示の仕方や作品の扱い方のアドバイスに役立っていると感じています。2つの学部が交流できるのがSUACの強みでもあるので、芸術文化学科の視点だからこそできる関わり方で、学びの連携も強めていきたいと感じています。高校での受け身の授業とは違い、大学は講義を聴いて、わからないことは調べたり、先生に質問したり、自ら学びを深めていく場です。夢中になれることを見つけて、たくさん経験してください。

中野豪大 NAKANO Goki

芸術文化学科 3年 鳥取県立鳥取西高校出身

高3のとき 演劇部に所属。地域劇団のワークショップに参加し、芸術を支える側に興味を持つ

1年次 演劇、美術、音楽など幅広く学び、芸術文化に触れる

2年次 デザイン学部の友人と、作品制作・展示サークル「En」を立ち上げる

3年次 少人数のゼミ生で意見を交わす濃い授業が学びの刺激に

好きなことの学びを深め、
やりたいことを突き詰めた4年間
幼い頃からの想いがつながった



小学3年生の時、平賀源内記念館を訪れ、「過去」という世界を知ったことが新鮮な衝撃で、以来、歴史や文化を社会に伝える仕事がしたいと思うようになりました。大学のある浜松が、関東と関西の真ん中にありアクセスが良いことから、多種多様な展覧会へ足を運ぶことができ、深い学びにつながったと思います。もともと歌川広重の「名所江戸百景」を研究したかったので、自分なりの視点を加えるために、ゼミはあえて西洋美術史を専攻。東西文化交流をテーマとして、ジャポニズム史、浮世絵風景画史、写真史を横断しながら卒業論文を進めています。幼い頃は、歴史や文化の“研究者”になりたかった私ですが、在学中、数多くのミュージアムを訪れる中で知見が広がり、空間を使って歴史と文化を“発信”していきたいと考えようになりました。内定先の会社は、歴史や文化を発信する「文化空間」や生まれたての技術や文化を発信する「商業空間」の展示・装飾を手がける会社なので、長年温めてきた私の想いを最大限に活かすことができる、と今から楽しみです。

高橋悠花 TAKAHASHI Haruka

芸術文化学科 4年 愛媛県立松山東高校出身

高3のとき 地元の観光戦略を考える機会があり、歴史や文化を社会に活かしたいと思うように

1年次 デザイン学部の講義も積極的に履修。サークルでデザイン学部の学生と共に活動する

2年次 関東と関西の真ん中にある浜松の立地を活かし、多種多様な展覧会に足を運ぶ

3年次 コロナの自粛期間中にAdobe Illustratorを独学で学び、活動が広がる

進路 株式会社丹青ディスプレイ

●●● 芸術文化学科の知と実践の力

<学科基礎>

芸術表現

■ 担当教員…梅田英春 教授

バリ島の伝統音楽ガムランの実習の中では伝統舞踊も学びます。音楽と舞踊は密接に関係していることを身をもって知るためです。それだけではなく、音楽や舞踊の多様性、文化相対主義を学ぶことにもつながります。



<芸術運営の実践>

劇場プロデュース論

■ 担当教員…永井聰子 教授

アートマネジメントの根幹をなす劇場（ホール）プロデュースを、劇場見学や企画・制作の実践を通して学び、劇場における諸問題を考察していきます。



卒業論文発表会

卒業研究の成果を発表するため、毎年論文の発表会を開催しています。2021年度は10本の発表が行われました。卒業生も、新年度入学予定者も集まって、「ゲイブン」での学びの集大成に接する機会です。



●●● 卒業生の主な進路 (抜粋)

文化財団・文化施設など

(株)エスピーエスたくみ	(独)日本芸術文化振興会
(株)共立ファシリティマネージメント	(公財)静岡県文化財団
(株)ケイミックスパブリックビジネス	(公財)三重県文化事業財団
サントリーパブリティサービス(株)	(公財)静岡市文化振興財団
(株)シグマコミュニケーションズ	(公財)浜松市文化振興財団
(株)宝塚舞台	(公財)しまね文化振興財団
(株)博多座	(公財)豊橋市文化振興財団
(株)若尾綜合舞台	(公財)横浜市芸術文化振興財団
磐田市香りの博物館	人形劇団むすび座
小県八雲記念館	(有)劇団かかし座

マスコミ・広告

(株)エイエイピー	静岡放送(株)
(株)キヨーデー東京	(株)テレビ山梨
(株)SBSプロモーション	浜松ケーブルテレビ(株)
(株)SBSメディアビジョン	(株)ビーエーシー
(株)静岡新聞社	

公務

静岡県庁(行政・警察行政)	江南市役所
掛川市役所	豊橋市役所
静岡市役所	福知山市役所
浜松市役所	松本市役所
岐阜市役所	三島市役所

製造業

(株)アプライズ	(株)デンソー
スズキ(株)	浜名湖電装(株)
(株)石舟庵	矢崎総業(株)
チャコット(株)	(株)ヤタロー

金融・保険業

あいち中央農業協同組合	第一生命保険(株)
遠州中央農業協同組合	(株)徳島大正銀行
静銀ティーエム証券(株)	日本生命保険(相)
静岡県信用保証協会	浜松磐田信用金庫
(株)清水銀行	山梨信用金庫
(株)常陽銀行	

ガス・運輸・旅行業

遠州鉄道(株)	鈴与(株)
近畿日本鉄道(株)	(株)TOKAIホールディングス
中部国際空港旅客サービス(株)	中部ガス(株)

卸売・小売業

天方産業(株)	(株)東急ハンズ
(株)安心堂	ネッツトヨタ静浜(株)
資生堂販売(株)	(株)ヤマハミュージック東海

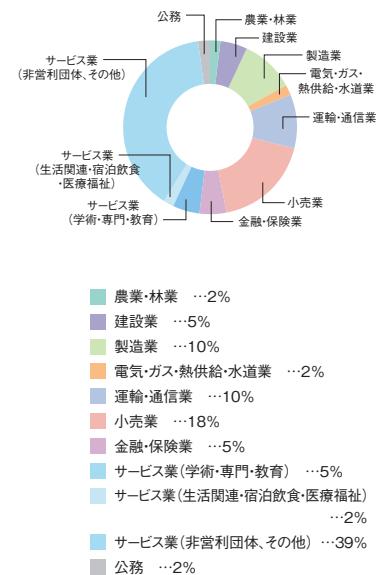
サービス業・その他

エヌ・ティ・ティ・システム開発(株)	デジタルハリウッド(株)
国立大学法人静岡大学(職員)	テレビ静岡システムクリエイツ(株)
(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター	(株)ドリームプラザ
(株)秀英予備校	日本郵政(株)
(株)全国商店街支援センター	LEGOLAND Japan(同)
(株)スペース	(福)天竜厚生会
(株)丹青ディスプレイ	(株)墨仁堂

大学院進学

静岡大学	成城大学
静岡文化芸術大学	立命館大学

就職データ



世界と日本をつなぎ、観光立国を目指す時代へ。 新しい学問領域から、次世代の人材を育成します。

世界中の人々が、魅力的な出会いを求めて旅をする観光のグローバル化が進む中、観光は日本や地域の経済を活性化させる重要な成長分野になっています。そのような社会に求められているのは、文明という広い視野から観光というものの持つ創造力を捉えようとする新しい学問領域です。本コースは、その知見に基づいて、新たな観光資源の発掘や文化・芸術を活用した観光事業の開発に携わる人材の育成を目指します。

文明観光学コース

Civilizations and Tourism Studies Course

文化政策学部 3学科共通：国際文化学科／文化政策学科／芸術文化学科

目指す人物像

新しい観光資源の発掘

◎名所・旧跡や食・温泉などの観光資源に加え、文化遺産や産業遺産、芸術文化活動など、新しい観光資源の発掘を担える人材を育成します。

観光分野における地域活性化

◎静岡県内を中心に行うフィールドワークの体験を活かし、地場産業や伝統文化を踏まえて、観光分野における地域活性化を推進できる人材を育成します。

グローバルな視野による貢献

◎実践的な外国語能力と文化・芸術分野の実務能力を備え、グローバルな視野から地域の観光産業に貢献できる人材を育成します。

コースの仕組みと履修の流れ

本コースは、文化政策学部の3学科すべての学生が履修することができます。

◎1年次のガイダンスで、カリキュラム（必修・選択科目、ゼミ選択など）についての説明を受け、該当する科目を1～2年次の間に履修します。

◎2年次に、ゼミ説明会や面談などを経た上で、文明観光学ゼミを選択します（一定の定員があります）。

◎3年次から、文明観光学コース専任教員によるゼミに所属し、卒業研究の指導を受けます。

◎文明観光学コースを履修した学生は、文化政策学部各学科の卒業証書に加え、文明観光学コースの修了証を取得します。



写真：静岡県観光協会

専任教員・ゼミ(卒業研究演習)

青木 健 教授 宗教学／西アジア文明

明の根源を探って光を見る

人類最古の文明を築いた西アジアに焦点を当てつつ、ユーラシア規模での文明の交流を概観し、21世紀の人類が如何にしてそこに光を見出すかを考察します。

宮崎千穂 准教授 旅と病の歴史／日本とシルクロード

しなやかな人文知で文明観光を模索する

「文明」という観点から旅と観光について研究を行います。文化や芸術を大切にする心、人文学に立脚する深くしなやかな知の力を身につけ、地域を輝かせ人びとを惹きつける観光のあり方を模索します。

開講科目例

文明と観光

■担当教員…横山俊夫 学長 ほか ■開講年次…1年次前期
文明観光学コースの基礎となる必修科目です。まず「文明」と「観光」の概念が多様であることを示し、その上で、現代の世界や日本の諸地域に望ましい「文明」を考えつつ、「観光」について考えます。

観光地理学

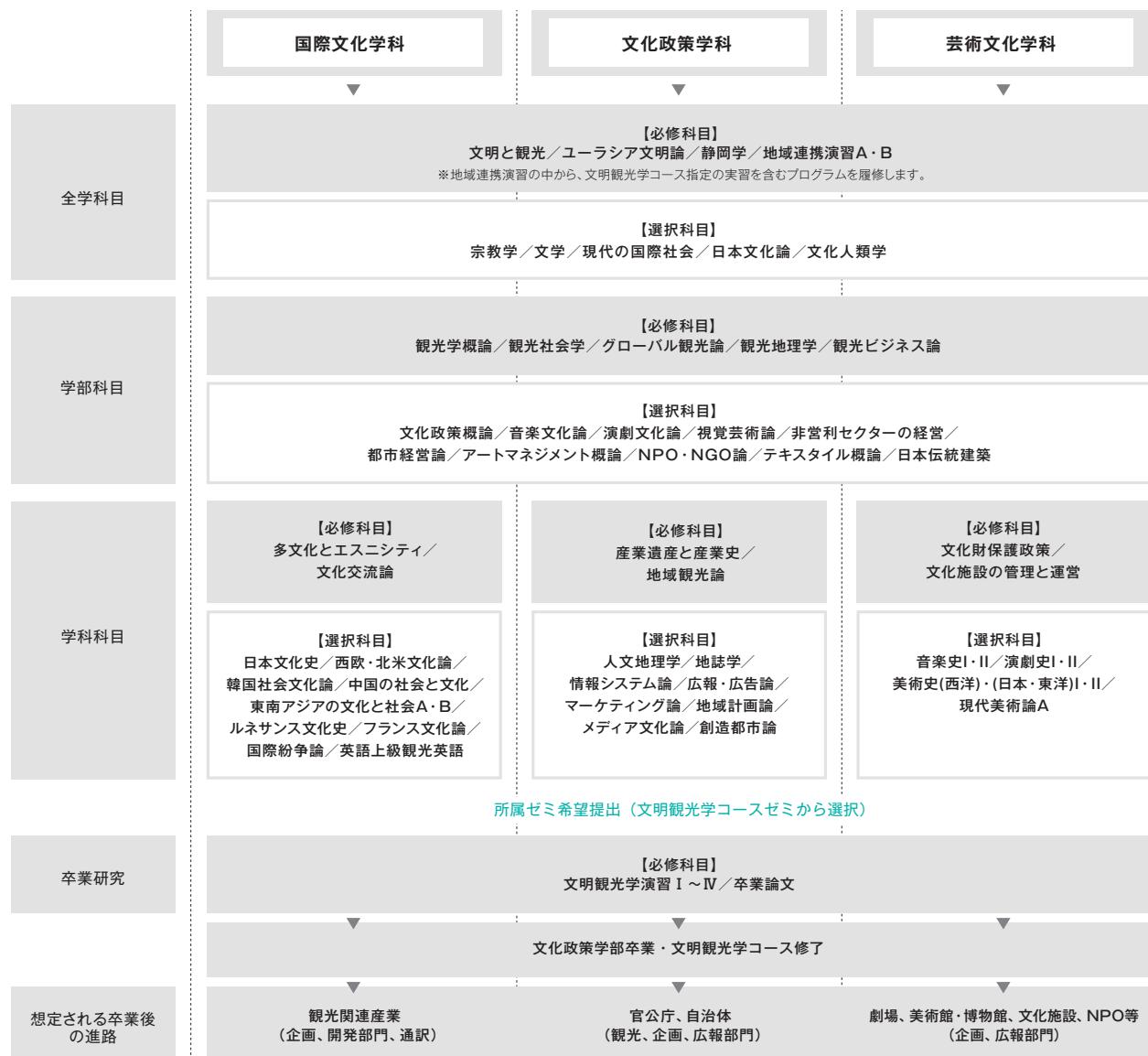
■担当教員…青木 健 教授 ■開講年次…2年次後期
自然環境と社会の関係を解く地理学の視点から、観光について考えます。特に、異なる文化圏の人々が交流し交易した、日本の東海道、ユーラシアのシルクロードなどの街道を取り上げ、観光資源としての魅力を探ります。

観光学概論

■担当教員…宮崎千穂 准教授 ■開講年次…1年次前期
世界と日本における観光の発祥から、団体旅行などのマスツーリズムへの発展と課題、その後のオルタナティブ・ツーリズムやサステイナブル・ツーリズムへの展開など、観光の歴史的潮流を広い視野から学びます。

コース選択・履修の流れ

下記で示す科目以外に、学部卒業要件に必要な科目や、関心や卒業研究のテーマに応じた科目を履修することができます。
カリキュラムの詳細は96ページをご覧ください。



●●● 教員紹介

国際文化学科

<p>横田 秀樹 YOKOTA Hideki</p>  <p>教授／学科長 第二言語習得／心理言語学／英語教育 第二言語(外国语)習得のメカニズムを、理論言語学に基づいて調べています。また、外国语の学習方法についても研究しています。</p>	<p>林 在圭 LIM Jaegyu</p>  <p>教授 韓国文化／韓国語 専門は韓国文化・韓国語で、特に日本や韓国の村落社会を対象とした伝統的・基層的な生活文化を研究しています。</p>	<p>Edward Pearse SARICH</p>  <p>教授 英語教育 学生が使える英語を修得できるような支援体制を整えていきます。学生自らの「やりたい」という気持ちを大切にしています。</p>	<p>岡田 建志 OKADA Takeshi</p>  <p>教授 東南アジア史 専門はベトナム史です。20世紀初めのベトナムの民族運動を中心に研究しています。授業では、広く東南アジアの歴史や社会を考察します。</p>
<p>倉本 哲男 KURAMOTO Tetsuo</p>  <p>教授 教職実践学／アメリカ教育学 アメリカ等の教育学の知見を我が国に「輸入する」研究・教育活動と我が国教職実践を「輸出する」活動を行っています。</p>	<p>佐野 由紀子 SANO Yukiko</p>  <p>教授 日本語学／日本語教育 現代日本語の研究をしています。学生の皆さんと一緒に地域の日本語教育にも関わっていきたいと思います。</p>	<p>下澤 獄 SHIMOSAWA Takashi</p>  <p>教授／多文化・多言語教育研究センター長 国際協力／NGO-NPO 国際協力、NGOやNPOの未来社会における役割、可能性について一緒に考えてみたいと思います。</p>	<p>Jack RYAN</p>  <p>教授 英語教育 英語への好奇心を引き出し、国際社会で活躍できるよう育成するとともにコミュニケーション能力、読み書き能力の向上も支援します。</p>
<p>高木 邦子 TAKAGI Kuniko</p>  <p>教授 教育心理学／発達心理学 青年期の有能感の特徴と形成要因についての研究と、青年期の対人関係や職業選択要因についての研究をしています。</p>	<p>武田 好 TAKEDA Yoshimi</p>  <p>教授 イタリア語／イタリア文化 研究対象はイタリア語・イタリア文化です。ルネサンス期から近現代に至る文化を個人と国家との関わりから考えています。</p>	<p>永井 敦子 NAGAI Atsuko</p>  <p>教授 西洋史 近世フランスの都市文化を研究し、講義では西洋近代文明にも触れます。ゼミでは外国语文献を使って西洋の歴史と文化を考察します。</p>	<p>西田 かほる NISHIDA Kaoru</p>  <p>教授 日本史／文化史 日本近世史、特に宗教史・文化史が専門です。ゼミでは近世以降の史料読解を中心に、身近な歴史・文化・地域を考察しています。</p>
<p>二本松 康宏 NIHONMATSU Yasuhiro</p>  <p>教授 日本文学／伝承文学 物語や伝説・信仰などが生まれる環境や風土の研究をしています。こだわりたいのはフィールドワークによる感動と実証です。</p>	<p>水谷 悟 MIZUTANI Satoru</p>  <p>教授 日本近現代史 専門は日本近現代史です。明治・大正・昭和期の雑誌による思想運動を、政治・メディア・地域等に注目して研究しています。</p>	<p>美濃部 京子 MINOBE Kyoko</p>  <p>教授 イギリス口承文芸 英語で伝承された昔話や伝説などを研究しています。世界の類話の比較もしています。</p>	<p>俞 嵘 YU Rong</p>  <p>教授 中国経済／開発経済学 中国の格差問題、財政制度について研究しています。特に、経済成長と格差の関係に関心があります。</p>
<p>崔 学松 CUI Xuesong</p>  <p>准教授 中国文化社会／東アジア国際関係／言語社会学 東アジア国際関係が円滑でない今日、多民族社会の中国など周辺地域と共に運しく生きる知恵について一緒に考えたいです。</p>	<p>佐伯 康考 SAEKI Yasutaka</p>  <p>准教授 国際的な人の移動研究 異質な存在を排除するのではなく、異なるものが混ざり合う中で生じる摩擦を原動力に、新しい価値を共創する方策を考えましょう。</p>	<p>武田 淳 TAKEDA Jun</p>  <p>准教授 開発人類学／環境と開発 フェアトレードや観光を切り口に、開発途上国の貧困や環境問題を研究しています。現場の視点から「地域の発展」を考えましょう。</p>	<p>徳増 克己 TOKUMASU Katsumi</p>  <p>准教授 中東北部と旧ソ連の境界地域史 主に「アゼルバイジャン人」等の民族形成の過程を研究しています。ゼミでは内外の文献を通して近代以降の中東について考えます。</p>
<p>西脇 靖洋 NISHIWAKI Yasuhiro</p>  <p>准教授 国際関係論 主としてEU(欧州連合)を事例とした地域統合や、ボルトガルを中心とした南欧諸国の政治外交について研究しています。</p>	<p>福永 達士 FUKUNAGA Tatsushi</p>  <p>准教授 日本語教育 専門は日本語教育です。多文化社会の町である浜松、そして国際社会に貢献できる日本語教育者の育成に取り組んでいます。</p>	<p>中田 健太郎 NAKATA Kentaro</p>  <p>講師 フランス文学／視覚文化論 フランスで始まったシュルレアリスム運動について、またシュルレアリスム以降の視覚文化について研究をしています。</p>	

文化政策学科

四方田 雅史 YOMODA Masafumi

教授／学科長
社会経済史／
産業史

日本やアジアに存在する産業やその産地が現在の状況に至った過程や原因について、戦前まで歴史を遡って研究しています。

加藤 裕治 KATO Yuji

教授／大学院
文化政策研究科長文化社会学／メディア論
メディアを通して形成される文化が社会に与える影響について、マスメディアの歴史的研究の立場から考察しています。

小杉 大輔 KOSUGI Daisuke

教授／教務部長
心理学

人間が社会の中で、何どのように感じ、考え、行動し、発達するのかについて、心理学的に研究しています。

鈴木 浩孝 SUZUKI Hirotaka

教授
応用ミクロ経済学／
産業組織論

複占・寡占市場での企業間の競争や取引について、その仕組みを数理的に解明する研究をしています。

曾根 秀一 SONE Hidekazu

教授
経営学／経営戦略論／
経営組織論

経営戦略・組織論、経年的視点から、特に老舗企業や地場産業の存続と衰退について、国際比較も含め研究しています。

田中 啓 TANAKA Hiraku

教授
行政学／
政策評価・行政評価

行政機関が有効に機能するための仕組みのあり方や、政策の評価について研究しています。

野村 卓志 NOMURA Takashi

教授
情報アーキテクチャ

情報技術の面から文化政策を考え、より良い生活を達成する社会システムについて研究しています。

林 左和子 HAYASHI Sawako

教授／入学試験・高校
大学連携センター長図書館情報学
公共図書館はなぜ無料なのか、を考えるために、外図の図書館史や児童サービス、特にユニバーサルデザイン絵本を研究テーマとしています。

藤井 康幸 FUJII Yasuyuki

教授
都市・地域計画／
まちづくり／創造都市

都市・地域の計画や経営、まちづくりについて、個性的で魅力ある都市、持続可能な都市を意識しつつ、研究しています。

船戸 修一 FUNATO Shuichi

教授
社会学／地域社会学

農山村は人口減少や高齢化が進んでいます。このような地域の存続可能性を「社会学」の立場から研究しています。

森 俊太 MORI Shunta

教授／副学長
社会理論／
社会包摂

社会的排除や包摂のテーマについて、理論を踏まえ、歴史と比較社会の視点を重視した研究をしています。

森山 一郎 MORIYAMA Ichiro

教授
経営学／
マーケティング論

製造業や小売業のマーケティング戦略について研究しています。これから市場創造のあり方を共に学んでいきましょう。

小林 淑恵 KOBAYASHI Yoshie

准教授
女性のライフコース／
政策／地域福祉

家族形成や就業といったライフコースと政策や福祉制度との関係について研究しています。

塩見 佳也 SHIOMI Yoshinari

准教授
国法学(行政法・憲法)
／ドイツ法

法規制の、市民の行動を繋げるだけでなく、国家と市場との関係を整備し、価値や情報を生み出す社会の機能や可能性について、考えています。

芸術文化学科

奥中 康人 OKUNAKA Yasuto

教授／学科長
音楽学

専門は近現代日本の音楽史。特に日本に外国音楽が流入することによって生じる文化変容や土着化現象について研究しています。

梅田 英春 UMEDA Hideharu

教授／学部長
音楽学

アジア各地の音楽を研究しています。授業では、普段聞き慣れない音楽を通して、音楽と社会の関係について考えます。

梅若 猶彦 UMEWAKA Naohiko

教授
古典芸能史／
身体性の研究(身体哲学)

専門は身体文化、能楽。ゼミでは現代劇の脚本・演出・演技の指導をしています。

片桐 弥生 KATAGIRI Yayoi

教授
日本美術史

私たちの祖先が創り出してきた美術作品には何が求められていたのか、その歴史的位置づけを明かにしつつ、探っていきます。

片山 泰輔 KATAYAMA Taisuke

教授
芸術文化政策／
財政・公共経済

人々が芸術を楽しみ、創造的で活力ある社会をつくるために、行政の役割や、社会の仕組みを研究しています。

高島 知佐子 TAKASHIMA Chisako

教授
アートマネジメント

文化芸術団体はどうやって活動を継続・発展させているのか。活動を担う人々、それを支える組織や産業に着目し研究しています。

立入 正之 TACHIRI Masayuki

教授
西洋美術史／
芸術産業

ミレー、バルビゾン派などのフランス近代絵画と、歴史や社会そして文化の脈絡における美術の役割を研究しています。

谷川 真美 TANIGAWA Mami

教授／学生部長
現代美術／
芸術学

現代の芸術現象を手がかりに、私たちが生きているこの時代に関わる思想や世界のありようを研究しています。

永井 聰子 NAGAI Satoko

教授
演劇・ミュージカル研究／
劇場プロデュース論

感動とは何か。西洋と日本の演劇・劇場史と舞台芸術の現場から理論を研究。舞台と観客の可能性を探ります。

井上 由里子 INOUE Yuriko

准教授
演劇学／
西洋演劇史

専門はフランスの現代演劇です。演劇の本質を掘り下げる同時に、演劇の持つ豊かな可能性を切り拓くことを目指しています。

上山 典子 KAMIYAMA Noriko

准教授
西洋音楽史

専門は西洋の音楽史や文化研究で、音楽が社会の中でどのように生み出され、受容されしていくのかに興味があります。

田中 裕二 TANAKA Yuji

准教授
博物館学／
日本近代史

博物館の運営や近現代の企業による芸術支援について研究しています。学科では博物館学芸員の資格課程も担当しています。

南田 明美 MINAMIDA Akemi

講師
芸術社会学／アートマネジメント／文化政策論

社会的弱者に寄り添つた芸術文化活動について、日本シンガポールを比較しながら研究しています。「理論と現場の往復」を大切にしています。

ユニバーサルデザインを基本に、使う人の立場に立った提案を

時代と共に変化する人間や文化の多様性を視野に入れながら、ユニバーサルデザインの理念のもと、デザインによって誰もが快適に生活できる環境を提案し、社会の発展と文化の向上に貢献するために、国際的に活躍できる能力を養い、生活文化と技術、環境との調和のとれた関係を、美的感覚を持ってつくりあげていくことのできる人材を育てます。また、デザインを通して、人と人、人と技術、人と環境、人と情報とのより良い関係を考え、これからの人間社会に必要な生活文化を創造していくためのデザイン活動に必要な素養を磨いていきます。

デザイン学部

デザイン学科

デザイン学科での学び

社会でのデザインの役割を考える

デザイナーとしての基礎となる色彩やデッサン、デザインを取り巻く文化や歴史、社会でデザインが果たす役割を学び、「デザインする」ことを多角的に理解した上で、より良いデザインの提案やそのためのスキルを修得していきます。

造形基礎力 → 応用的造形技法の修得というステップを重視

デザイン共通科目として、専門の学びの前に様々な素材、加工法など、技術の基本を広く学びます。これらの実践的な知識があってこそ、新しく機能的な提案を生み出すことができます。「表現技法I・II」、「立体造形I・II」では、デザイナーの創造を支える、モノを見る力、成り立ちを理解する力を養います。

充実した工房群で自由な創作活動

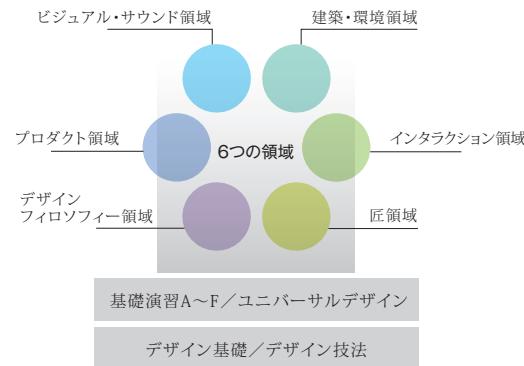
自動車のデザインを体系的に学べるクレイモデル室、塗装乾燥室、撮影スタジオや木材・金属・プラスティック・ガラス等各種素材を学べる一般工房。またはCG制作、デジタル合成などを行うグラフィックWS室やマルチメディア室、CAD・CAMを使ったデザインのための3Dプリンターを備えたCAMモデル室など、情報系工房を取り揃えた多彩な工房群と共に過ごす4年間は、創造の力を伸ばすのに絶好の環境です。



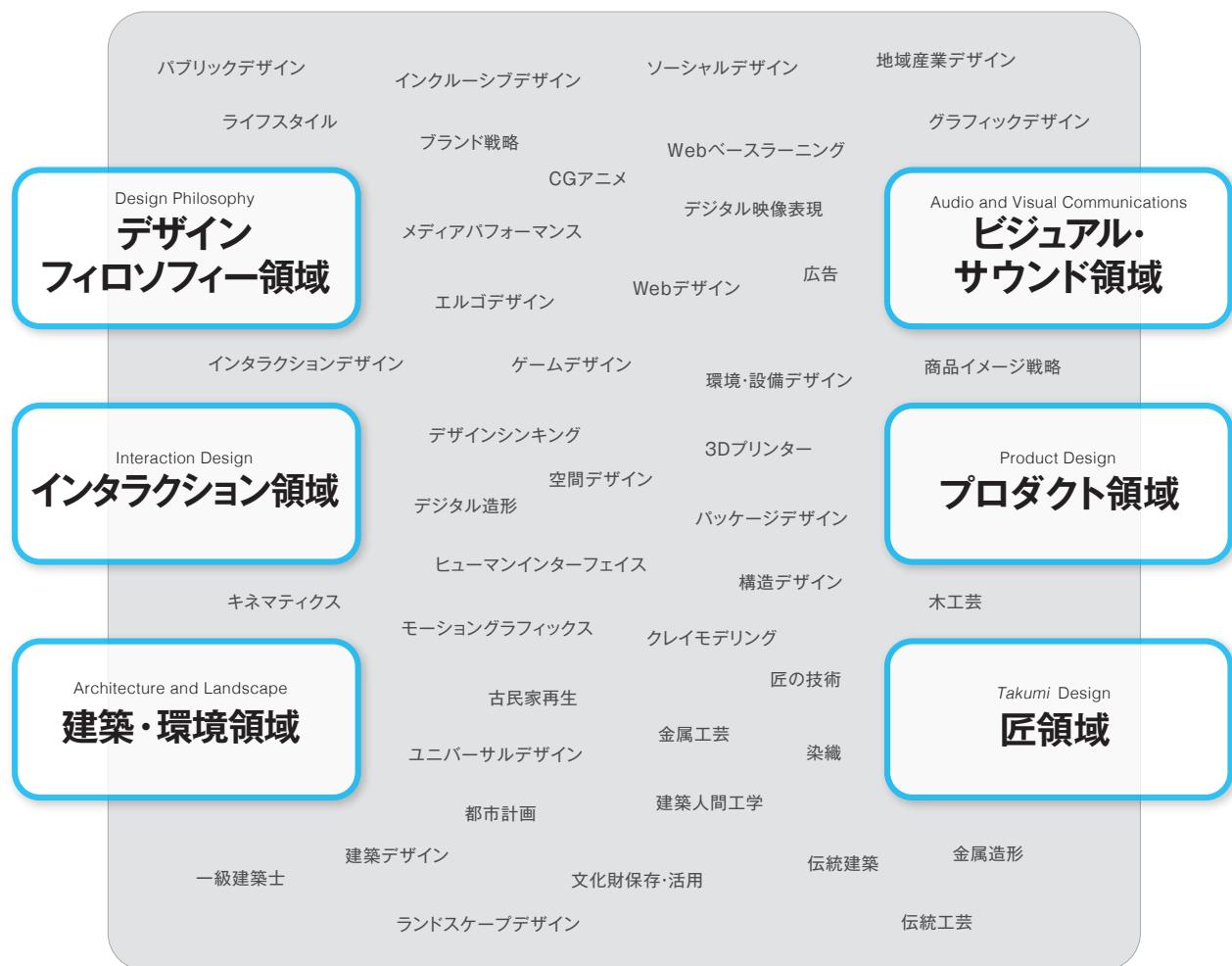
デザイン学部で学べること。 デザイン6領域での関連ワード

デザイン学科では、1年次から2年次前期までに幅広くデザインの現況、歴史、技法、素材の特性など、すべてのデザイナーにとって必要な要素を学びます。その後、6つの領域から専門とする分野を選択して深く学んでいきます。

6つの領域は、広いデザイン世界の中の主な柱となる分野を選び出し、設置しています。領域選択後でも、他領域と融合した作品制作や研究なども可能で、思索の範囲は狭まりません。現代社会で活きるデザイン力を身につけることのできる教育体制となっています。



デザイン学科 6領域での関連ワード



デザイン学科の6領域での 取得可能な資格

- ◆一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格
- ◆インテリアプランナー資格
- ◆商業施設士補資格
- ◆日本語教員養成課程
- ◆社会調査士



基礎教育から進路までのイメージ

1年次前期

1年次後期

2年次前期

●●● 基礎的な学び

デザイン基礎

社会が求める統合的かつ多様なデザイン力を涵養するため、幅広いデザイン領域に共通する概念や理論の修得および現代のデザインへつながる歴史やデザインをとりまく社会等に関する知識の修得、国際的なデザイン活動を支える基礎力の修得を目指す科目群から学びます。

デザイン技法

豊かな感性と想像力を備えたデザイナーとして社会で活躍するために、考えたアイデアを平面や立体に的確に表現することで、デザイナーに必要とされる顧客や社会とのコミュニケーションを図る手法を学ぶとともに、新たなアイデアの創造につながるデザインの基礎から応用にわたる造形技法を修得するための科目群から学びます。

ユニバーサルデザイン

SUACのデザイン教育・デザイン研究の基調となる、文化・能力・年齢・性別等の違いにかかわらずすべての人にやさしいユニバーサルデザイン、あらゆる立場の人を含むインクルーシブデザインの考え方を理解し、社会の中で幅広く実践できる能力を養う科目群から学びます。

学科専門

1年次後期から2年次前期において、複数領域の基礎演習を体験することを通じて専門的な知識や造形技法を修得し、デザインを総合的に捉え、実践できる力を養う科目群から学びます。

■ 学科専門

- ・基礎演習A=デザインフィロソフィー領域
- ・基礎演習B=プロダクト領域
- ・基礎演習C=ビジュアル・サウンド領域
- ・基礎演習D=建築・環境領域
- ・基礎演習E=インタラクション領域
- ・基礎演習F=匠領域

左記の基礎演習A～Fの内3つを選択

希望を提出し、領域を選択

●●● 4つの特長

幅広いデザイン知識と技術の修得

1年次から2年次の前期までの期間、デザイン共通科目の3つのカテゴリー ①デザイン基礎 ②デザイン技法 ③ユニバーサルデザインから幅広くデザインについて学びます。さらに、複数領域の基礎演習の体験を通して、社会の変化に対応できる柔軟なデザイン思考力を養います。

希望と適性に基づく領域の選択

デザインの基礎を身につけてデザイン分野の幅広い進路を理解した後、一人ひとりの学生の興味と希望を尊重しつつ、学業成績に基づいた適性判断や卒業後の進路などについて教員と相談しながら、2年次後期に所属するデザイン専門領域を選択していきます。

**デザイン学科の
Webサイトのご案内**

教員や在学生・卒業生の作品をポート
フォリオ形式で見ることができます。



SUAC DESIGN
SUAC DESIGN

ユニバーサルデザインを基準に
使う人の立場に立った表現を。



2年次後期 3年次前期 3年次後期 4年次前期 4年次後期

●● 専門的な学び

デザインフィロソフィー領域

プロダクト領域

ビジュアル・サウンド領域

建築・環境領域

インタラクション領域

匠領域

卒業研究・制作とゼミ
について

3年次後期からそれぞれの領域内でさらに担当教員(ゼミ)
を選択し、卒業研究・制作につながる専門分野の知識や技
能を深化させます。

進路(例)

- プロダクトデザイナー
- Webデザイナー
- エディトリアルデザイナー
- グラフィックデザイナー
- ゲームデザイナー
- インターフェイスデザイナー
- クラフトデザイナー
- テキスタイルデザイナー
- 商品企画
- デザインディレクター
- パッケージデザイナー
- CGデザイナー
- 家具デザイナー
- インテリアプランナー
- 一級・二級建築士
- 木造建築士
- 商業施設士
- 公務員
- 伝統工芸作家
- 大学院進学

領域にまたがる専門的な学び

各領域の専門的な学びにつながる多様な科目が学科専門科目として配置されて
います。学科専門科目は領域ごとの区分が設けられていませんので、選択した領
域や領域担当教員の科目だけでなく、多くの専門科目から興味や希望に合った科
目を選択して履修することができます。

多様な活躍の場

現代の社会状況にあって、デザインを総合的に捉える力を専門分野での実践で活
かす場は大きく広がっています。各分野のデザイナーをはじめ、企業や官公庁
など、4年間の学びで培われた力を活かすことのできる、多様な活躍の場が待
っています。

... デザインフィロソフィー領域

Design Philosophy

歴史・文化・技術等の学術的な知見をもとに、社会の幅広い分野において
デザインの役割を拡張できる人材を養成していきます。

デザインとは何かを考える

デザインの基本は考えることです。デザインフィロソフィー領域では、
学部を超えた様々な専門領域と連携し、芸術的感性だけでなく、歴史・文化・科学の知識を活かしながら、
身近な暮らしや社会の中に問題を発見し、どのようなモノやコトがあれば解決できるのかを論理的、
実証的にトータルに考えます。そして、様々な知恵やアイデアを結い合わせ、解決策の実現を目指します。
このプロセスを通して、デザイン論や手法を具体的に理解しながら、
主に次のような分野についての研究や制作を進めていきます。

デザイン論 デザイン史

デザインの職能と専門性、運動としての
デザインと社会への作用、近・現代のデ
ザインの歴史、技術・芸術・産業・文化と
デザインなど

社会デザイン 地域デザイン

社会の中の仕組みとコミュニケーション
のデザイン、地域の特性に応じた産業を
活性化するデザイン、まちづくり・リノベ
ーションとコミュニティのデザインなど

人間中心デザイン デザイン方法論

人間工学に基づくデザイン、多様なユー
ザを理解するユニバーサルデザインに
おけるUI/UXデザインの手法の探求や
アプリケーションデザインなど

デザインマネジメント プロモーション

デザインで全体を調和させるプロセスと
仕組み、デザインマーケティング、セー
ルスプロモーション、企業や商品のブ
ランドデザイン戦略など

開講科目例

基礎演習A

■担当教員…各教員 ■開講年次…1年次後期

ボスター・やコンビニなど身近なモノやサービス・空間を対象に、着目した課題を様々な手法を使って分析し、気づいたことや新しいデザインの方向性などを個々に発表します。様々な視点からのフィードバックを通して、デザインプロセスをより論理的に学びます。



デザイン史

■担当教員…天内大樹 准教授
■開講年次…1年次前期

なぜ、「デザイン」という言葉がある時期に求められ、世界中に広まり、専門人以外にも使われるようになったか——答えは物そのものよりも人間の考え方にあるはずです。具体的な物を通して、その考え方をたどります。



ユニバーサルデザインII

■担当教員…小浜朋子 教授
■開講年次…2年次前期集中

自分と異なる特性を持つ人と共に行動し、観察、分析、ディスカッションを通して日常生活における課題を明確にし、考案した解決策を発表します。3日間集中して、UDを具現化するために必要な一連のノウハウを、机上の授業だけでは得られない体感を通して総合的に学びます。



フィッティングデザイン

■担当教員…迫 秀樹 教授 ■開講年次…2年次後期

すべての人に合ったものをデザインすることは難しいことです。それは、使う人の身体的特性や心理的特性が多様だからです。この授業では、使用者の特性に応じた製品や空間をデザインするための考え方や適合度を検討するための手法について学びます。



専門教員・研究分野

小浜朋子 教授 ユニバーサルデザイン(UD)／デザインリサーチ

迫 秀樹 教授 人間工学

天内大樹 准教授 美学芸術学／建築思想史

卒業制作作品紹介



●モノとつながるSNS「Monoxi」
(アプリケーション)
モノとの出会いによって毎日を少し特別に。
Monoxiは日常に偶然的なモノとの出会いを演出するアプリ。

飯田春佳
2018年度卒
静岡県立焼津中央高校出身

●魅力が分かるよ！47都道府県！
(タイポグラフィ)
「都道府県に興味をもつきっかけ」となることを目的としたタイポグラフィ。47都道府県、それぞれの魅力を一つ組み込むことで、一目で伝わるデザインを目指した。

伊藤寛人
2021年度卒
三重県立四日市西高校出身



●LOOKIT（コミュニケーションデザイン）
昔、気に入っていたものの色や、人それぞれの色の見え方などの記憶をビジュアル化しつつ、楽しみながら色に関する知識を深めるキット。色を介したコミュニケーションツールにもなる。

佐藤芽維
2020年度卒
静岡市立高校出身

●私もお姫様になりたかった
～めんどくさい女の子の説明書～
(本・カルタ)
情緒不安定な女の子たちの悩みや本音を一冊の本とカルタにまとめた。興味や共感が持てる部分を見つけて欲しい。

森下菜実
2021年度卒
静岡県立磐田南高校出身

●23のいばしょ図鑑（冊子）
居るど気持ちがほぐれる、自分を取り戻せる場所を「いばしょ」と表現し、調査から得られた様々な人にとっての「いばしょ」を写真と文章で紹介。

川崎由季子
2019年度卒
岡山県立岡山芳泉高校出身



在学生の声

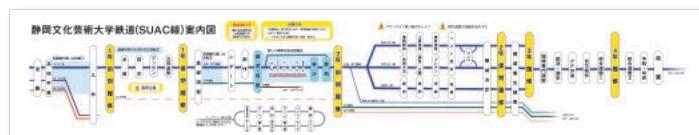
コトを考える学びが面白い。SUACから広がる世界はとても広い



中野あみ NAKANO Ami
デザインフィロソフィー領域 3年 常葉大学附属菊川高校出身

入学当初はプロダクト領域に興味がありました
が、領域にとらわれず学ぶうちに、形ある「モノ」
を考えるよりも、目には見えない「コト」を考え
ことに面白さを感じデザインフィロソフィー領域
を選びました。本領域は分野にこだわらず、自
分の関心のある授業を自由に履修できることも魅
力です。グラフィック系や工芸系など、メンバー
間でも得意なこと、やってきたことが違うのもい
い刺激に。型にはまらず自由に学べる環境が私
にとってベストです。

今取り組んでいるのは自炊を始めた人がステッ
プアップできるよう応援するツール。卒業制作で
は、この制作で得たことを活かし、ちょっとした
モヤモヤや、困りごとを解決するためのサービス
や媒体を考えています。頭の中のアイデアを粘
土のように変形させていくプロセスがとても興
味深く、新しい価値を創り出すことに夢中です。
社会の幅広い分野で「デザイン」の考え方は求
められるようになる…SUACから広がる世界は
とても広いです。



●作品名／静岡文化芸術大学[SUAC線]案内図(ポスター)
新1～2年生に向け、デザイン学科の学生生活4年間を電車路線図に見立ててデザイン。

… プロダクト領域

Product Design

生活者の視点を軸に、実作的な方法により、心豊かな暮らしにつながるプロダクトデザインを探求・提案できる人材を養成していきます。

プロダクト領域の教育ポリシー

プロダクトデザインとは、より良い社会・心豊かな暮らしのために人々の生活と環境を見据えて、新しい、魅力ある価値を持ったモノやコトを創出し、産業を通して具現化することです。
環境問題・少子高齢化・技術の進歩など変化の激しい現代社会において、デザインを学ぶ者には、世界を見渡す視野と時代の要請に対する敏感さが求められます。
一方、人とモノの関係性や、社会と生活の基本となる価値観は普遍的なものであり、心の機微を捉える感性を持って、変わることのないデザ

インの本質を学ぶことが大切です。さらに、これらを包括して新たな発見や提案を具現化する表現力と造形力、わかりやすくプレゼンテーションできるコミュニケーション能力も必要です。
プロダクト領域は、学生の皆さんに、各種工房を活用してものづくりができる環境と、ユニバーサルデザイン・人間工学・ライフスタイル・マーケティング・マネジメントなどの視点から、多様な授業・演習や様々な活動を通してデザインを考える機会を提供し、社会・産業界で活躍する人材を輩出します。



開講科目例

ものづくりのシステム

■担当教員…服部守悦 教授 ■開講年次…2年次後期

社会生活に欠かせない「もの」の意味、価値を「ものづくり」という視点で、プロセスや取り組み方などを多角的に考察し学習します。大企業のみならず、中小も含めた産業の成り立ち、企業のあり方などを、歴史的にその営みの変遷をたどり、客観的にどのような流れになっているのかという仕組みを知ることと同時に、どのような意思を込めてものづくりをするのか？その意図をいかに貫徹させて人々に届けるのかなどを考えます。



プロダクトデザイン演習 I・IIa・IIb

■担当教員…高山靖子 教授、羽田隆志 教授 ■開講年次…2年次前期、後期

プロダクトデザインにおけるデザイン開発の基本プロセスについて市場調査、コンセプト開発、アイデア展開、およびモデル製作からプレゼンテーションに至る一連のプロセスと、そのために必要な知識とスキルを体験学習し、コンセプトをデザインに表現する可視化力と表現力を身につけます。演習で取り上げるアイテムとしては、比較的小型の手で持つて使用する道具から、人間が乗れるようなサイズや設備的なモノまで取り組みます。



専門教員・研究分野

佐井国夫 教授 グラフィックデザイン

永山広樹 教授 プロダクトデザイン/クラフトデザイン

佐藤聖徳 教授 プロダクトデザイン

羽田隆志 教授 プロダクトデザイン/魅力工学

高山靖子 教授 プロダクト・サービスデザイン

服部守悦 教授 トランスポーテーションデザイン/プロダクトデザイン

卒業制作作品紹介



在学生の声

人が求めるものを具現化する。デザインの本質を学べた4年間



岡原颯太 OKAHARA Sohta
プロダクト領域 4年 北海道鹿追高校出身

カーデザインを専門的に学べるを考え、本学科へ。乗用車の実物大モデルを製作できるクレイモデル室などがある充実した環境の中で、自動車メーカーでカーデザインをされていた服部先生のゼミに入り、車に限らず様々な乗り物のデザインに取り組んできました。今は大学での学びの集大成として卒業制作に没頭中。コンセプトを組み立て、スケッチで表現し、立体に起こしてモデル化する。4年間で身につけた一連の知識を活かし、ベストを尽くしたいと思っています。

1年次に自動車メーカーのワークショップに参加したのをきっかけに、自分の目指す方向を明確にしながら、志望する就職先へ進路をつなぐことができました。入学前、デザインとは「外見のカッコよさ」と捉えていた自分が、「人が求めているものを形にすること」と考えるまでに至ったことが、一番成長した部分だと思います。SUACにはやりたいことができる設備があり、サポートしてくれる教授が大勢います。あとは自分が何をやりたいか。自分次第でいくらでも道は開けます。



●作品名／CARRIE-E 2032年、カートレイン復活 (モビリティデザイン)



マイEVカーで行く週末の短い時間での旅行を快適に存分に楽しめるようにする次世代カートレインです。

… ビジュアル・サウンド領域

Audio and Visual Communications

メディアとしての映像・グラフィック・サウンド等を駆使して、時代に訴える新しい価値を生み出すことができる人材を養成していきます。

グラフィックデザイン

映像デザイン

絵本・ イラストレーション

視覚化された情報やメディアは多様であり、私たちの生活に欠かせません。CI・VI・パッケージ・エディトリアルなどグラフィックデザインの技術や表現方法だけでなく、各種のメディアの知識や技術、感性を活かした創造活動やビジュアルコミュニケーションデザインも学びます。

現代のメディアデザインの中核をなす、映像制作のための様々な手法を体系的に学びます。アニメーションの基礎からコンピュータグラフィックスや実写撮影、画像合成など、多彩な映像作成技法の実習を通して、ユニークで質の高い映像コンテンツを生み出す表現力を養います。

「ことばと絵によって物語る生き物」である絵本を通して、イラスト、グラフィック、ストーリーテリング、本の装丁など視覚伝達デザインの基礎を学びます。ゆたかに物語り描く喜びをデザインへと昇華させ、日常や社会のあらゆる局面に活かすことのできる総合力を育みます。



開講科目例

グラフィックデザイン演習C

■担当教員…かわこうせい 教授 ■開講年次…2年次後期

私たちの身のまわりには「本」があふれています。美しい本には、デザインの基本要素が詰まっています。優れたブックデザインから色・かたち・コンテクスト・構造・物語・ユーモアなどを学び、自ら編集およびデザインを行うことで、様々な局面に応用できる構成力を養い、調べる→考える→つくる→伝える、というデザインの流れを身につけます。



基礎演習C

■担当教員…日比谷憲彦 教授 ほか ■開講年次…1年次後期／2年次前期

グラフィックデザイン、映像デザインの入り口として、発想方法や表現方法のトレーニングを行い視覚的な造形の基礎力を養うことを目的とします。具体的にはコンピュータの使用をベースとして、各種のグラフィック・アプリケーションや映像ソフトを扱う技術、デザイン全般に通底する美的感覚などを修得することを目指します。様々な専門性を有する複数の教員によるオムニバス形式の授業です。



専門教員・研究分野

かわ こうせい 教授 絵本／イラストレーション
日比谷憲彦 教授 グラフィックデザイン

Jérôme BOULBÈS 教授 3DCGデザイン／メディアアート／アートアニメーション
小川直茂 准教授 グラフィックデザイン／インフォグラフィック

百束朋浩 准教授 映像学／映像技術

卒業制作作品紹介



● Please help me, my dearest friend. (脱出ゲーム)

光と影を使って謎解きをする脱出ゲーム。失踪してしまつた友達を探しに行くのですが…。

伊藤歌奈子 2021年度卒
名古屋市立桜台高校出身



● 十二彩食堂（ブランディング）

歳時記に見合った“食”をテーマとするブランディングデザイン。パッケージには手触りの良い真っ白な紙に吉祥紋様を施すことで、和の美しさを感じさせている。

安井友梨 2021年度卒
愛知県立岩倉総合高校出身



● 100年後の地球はどうなっているの? (ポスター)

IPCCの第5次評価報告書の予想シナリオをもとに、温暖化の進行によって伴うリスクを可視化し、危険な状況に陥っていることを伝える。

高木若菜 2019年度卒
名古屋市立桜台高校出身



● +(PLUS) (キャラクターデザイン)

「なりたいもの」と「いまのあなた」を回答してもらい、75体のキャラクターデザインをした。

野澤陽彩 2020年度卒
山梨県立甲府南高校出身



● CONNECTION (2Dアニメーション)

海中に沈んだ廃工場を舞台として、不思議な生き物とロボットとの“繋がり”を主題として制作。

南川 創
2021年度卒
三重県立川越高校出身



● スルツエイ (3DCGアニメーション)

実在するバンドの楽曲を題材にMVを制作。

高林芽生 2020年度卒
長野県飯田高校出身

在学生の声

知識や経験のすべてが活かせる、CMFデザイナーの道へ



小里弓子 ORI Yumiko
ビジュアル・サウンド領域 4年 愛知県立安城東高校出身

SUACに入学し、最初に魅力を感じたのは色や構図について考えるグラフィックデザインでした。そこからサイズや素材など手に取った時の印象も重要なパッケージデザインに興味を持ち、見た目で納得感を与えていたり、逆に驚きを与えていたり、人の心を動かし記憶に残る部分に携わりたいと思うようになりました。2次元のデザインに、素材や立体の要素が加わることで表現の幅がグッと広がるところに面白さと楽しさを感じています。



● 作品名／第8回世界お茶まつり (ポスター)

「お茶」と発音すると「お！」と驚きの表情から「チャ」で笑顔になることに着想を得てデザインし、テーマの「O-CHAで元気な笑顔！」が誰にでもわかりやすく伝わるようにしました。人物の服装や色使いで日本のおもてなしの心や、世界各国から人々が集まる活気あるイベントであることを表しています。

1、2年次は授業を優先して様々なデザイン領域の基礎を学び、3年次からコンペに応募したり学内の制作物に携わったりするなど、自主的な活動を始めたことで創作の幅が広がったと思います。卒業後は自動車メーカーで色や素材を専門とするCMFデザイナーに。私が一番興味・関心を持った分野の仕事に就けたことが何より嬉しく、楽しみです。いつか私が携わった車が街を彩り、乗る人に快適さや楽しさを提供できたらと、とてもワクワクしています。

※ CMFとはモノの表面を構成する

C:color カラー、M:material 素材、F:finish 加工方法

… 建築・環境領域

Architecture and Landscape

建築を中心に、インテリア・ランドスケープ・都市計画など幅広い分野に通用する設計力を養うことで、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成します。

領域とデザイン理念

一般的に「建築」とは、一つひとつの「建物」を指すものと思われているかもしれません、本来「建築(する)」とは、人々が安心して生活できる空間をつくり出すプロセスそのもののことを意味しています。またその行為によって生み出された空間や環境も、「建築」という概念に含まれます。本領域では、こうした広い意味での「建築」という概念に基づき、対象としての建築・都市・ランドスケープ空間に、ユニバーサルデザイン・エコデザイン・エンジニアリングデザインなどのデザイン理念を重ね合わせることで、社会のニーズに対応した空間デザインを追求しています。

建築士受験資格などの各種資格の取得が可能

国の建築士受験資格認定学科として、一級・二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な専門科目が用意されています。これらの科目を履修することにより一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の受験資格が得られます。またこのほかに商業施設士、色彩検定、カラーコーディネーターなどの資格も毎年多くの学生がチャレンジしています。

開講科目例

都市デザイン論

■担当教員…亀井暁子 教授
■開講年次…2年次後期

集まつて住まうこととその環境、そしてこれからの住まい方について考えます。現代の都市課題への空間的取り組みを多面的に学ぶとともに、異なる環境における住まい方への理解を通して自らの住まい方を考えるため、古代から現代に至る世界各地の都市空間について学びます。



建築設計演習Ⅰ・Ⅱ

■担当教員…花澤信太郎 教授 ほか
■開講年次…2年次後期～3年次前期

建築設計演習Ⅰでは、地域の環境や景観を念頭に置きながら、単一の用途の建築物から複合施設まで、多様な形態の建築の設計に取り組みます。建築設計演習Ⅱでは完成作品について担当教員全員が講評を行うことにより、各分野とは異なる分野からの視点も学びます。



エコロジカルデザイン

■担当教員…中野民雄 准教授 ■開講年次…1年次前期
建築とは全世界共通で人類の歴史と共に進化を遂げてきたデザインです。現代では海底・空中都市だけでなく宇宙エレベーターの計画もあります。一方、地球環境は深刻化し、危機的状況を迎えている世界遺産も存在します。これらの建築と環境はどうあるべきか、ディスカッションを通じて学んでいきます。



専門教員・研究分野

磯村克郎 教授 パブリックデザイン

花澤信太郎 教授 建築設計／都市デザイン

松田 達 准教授 建築意匠／3DCAD／都市計画

岩崎敏之 教授 構造デザイン

中野民雄 准教授 スマートデザイン／建築環境・設備

亀井暁子 教授 建築設計／サステナブルデザイン

丹羽哲矢 准教授 建築／地域／景観デザイン

卒業制作作品紹介



●大谷石をとおして見るまち（空間設計）
まちに点在する大谷石建造物、停留所、そして採掘場や跡地を目の当たりにする一連の体験を提案する。

加古梨沙 2020年度卒
愛知県立瑞陵高校出身



●Flexible Atami（建築設計）
熱海銀座商店街の一角にドライブスルーを導入した、クルマと人が共存する商業施設の提案。

黒沢優香 2020年度卒
静岡県立三島北高校出身



●気づきから始まる
牧之原の未来
(公共施設設計)

地方消滅と騒がれる今何ができるのか？それには街にあるものを見つめ直し、自分の街の魅力に気づくことから始まるのではないか？

古川直樹
2018年度卒
静岡県立榛原高校出身



●木材で今昔をつなぐ
～歴史的建造物と地域材を活用した木創造拠点～
(文化財を活用した街づくり)

かつての木材流通の拠点だった浜松市天竜区二俣町に着目し、歴史的建造物と街を一体的に利用できる計画を行った。

竹内 唯 2021年度卒
三重県立津高校出身

●まつもとYOCHI×YOCHI
～2つの通りをつなぎ、回遊性を促す施設群を通した親子のためのまちづくり～
(建築設計・まちづくり)

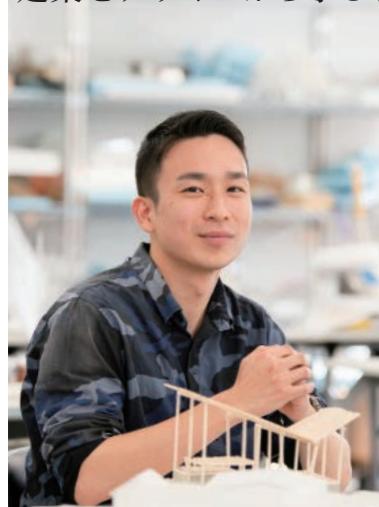
長野県松本市の小さなスケールの街中で、計画した4つの施設が面する通りに作用し、親子の暮らしと街全体を豊かにするための提案。

増田 峻 2020年度卒
長野県松本城ヶ崎高校出身



在学生の声

建築をデザインから学び、人を笑顔にする建築空間をつくりたい



島屋拓海 SHIMAYA Takumi
建築・環境領域 3年 愛光高校出身（愛媛県）

高校の時から建築について学びたいと思うようになり、工学ではなく、デザインの視点から学べる本学科へ。個別学力試験は数学で受験し、デサンや建築の知識や技術はゼロからのスタートでしたが、スケッチや図面、模型の制作など、実習を通して成長していると感じています。

SUACは工房が充実しているのも特長で、木材、金属、樹脂、漆など様々な素材に触れ、基礎を学ぶことができました。そこで得た感覚や視点は、建築分野で活かせると思います。

いんえいらいさん
ゼミでは、谷崎潤一郎の『陰翳礼讃』を読み解き、理念的なテーマから建築にアプローチする課題に挑戦。デザインすべきテーマや問い合わせをあぶり出す、着眼点の大切さを学んでいるところです。SUACには「やってみたい」と思う探求心を刺激する学びの機会が多く、建築の分野についても面白さは深まるばかりです。将来は設計者となり、利用する人が快適に過ごせ、笑顔になる姿を想いながら、新しい空間や施設を設計したいと考えています。



●作品名／Oculus（建築設計）

谷崎潤一郎の著作『陰翳礼讃』には多くの解釈が存在し、引用がなされています。そこで谷崎の時代に感じた陰翳を現代の空間に落としこみ、谷崎の時代にない技術と融合しました。その際に現代で用いられている素材を用いることで、現代版『陰翳礼讃』を自分なりの解釈で表現。その空間がよりわかるような施設を提案しました。

… インタラクション領域

Interaction Design

多様化するデザイン諸分野の知識と技術を融合させることで、

人と環境の新たな関係を創り出せる人材を養成していきます。

広がるデザインの世界

近年、デザイナーに求められるようになってきた重要な仕事が「新たな体験・経験の創出」です。新しい製品やサービスの開発の中で、ますます重要な要素となり、これらを実現できる「インタラクションデザイン」のスキルを持つデザイナーが活躍しています。インタラクションデザインは、「使いやすさ」「間違いの起こりにくさ」の観点だけでなく、「使う楽しさ」「面白さ」を含む、人が製品やサービスに接する際の体験全体について考える新しいデザイン領域としてますます発展しています。

インタラクションデザイン の対象分野

インタラクション領域では、以下に例を示す多様なデザイン分野を学ぶことで、課題発見・解決能力を育成します。

- ゲーム・玩具／遊びや娛樂の設計と制作
- 楽器／誰もが音楽を楽しめる楽器の形とインタラクション
- インテリア／家庭、執務空間、商業空間等におけるコミュニケーション
- 公共空間／人が集まり、活動する場の創造
- 広告／現代における多様なメディア表現の活用

これらの分野の学びを通して、誰もが安心・安全に、そして楽しく快適に生活するためのデザインについて考えていきます。

開講科目例

基礎演習E

■担当教員…各教員 ■開講年次…1年次後期、2年次前期
「発想を学ぶ」「技法を学ぶ」「作品を創る」の3つのステップを通して、インタラクションデザインの基礎を学ぶことを目的としています。領域教員全員のサポートを受けながら、人とモノ、コト、空間等とのつながりをテーマとしたデザイン提案に取り組みます。

エンターテイメントデザイン

■担当教員…和田和美 教授 ■開講年次…3年次前期
五感を刺激するエンターテイメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察します。メディア・アート、映像、ゲーム、Web、広告、マンガ等のデザインの現場で展開する最新の事例を学び、自ら創り出すための方法について学びます。

インタラクティブプロダクト演習

■担当教員…的場ひろし 教授 ほか ■開講年次…2年次後期
歴史の中で磨かれ、発展してきた「楽器」は高いインタラクティブ性を持つプロダクトです。また「音具」(音の出る玩具)は音と遊びを結びつけた親しみやすいプロダクトです。これらについて実体験を交えて詳しく学び、さらに電子工作と木工の技術を修得し、独創的な楽器の設計・製作を行います。



専門教員・研究分野

植田道則 教授 健康とインテリアの空間デザイン
宮田圭介 教授 ヒューマンインターフェイス

長嶋洋一 教授 メディアアート
和田和美 教授 メディアアート／Webデザイン

的場ひろし 教授 メディアアート／インタラクションデザイン
中川 晃 准教授 空間デザイン／インタラクションアート

卒業制作作品紹介



● 花と楽しむアフタヌーンティーセット (テーブルウェア)

好きなお花と共に楽しむことできるアフタヌーンティーセット。

狩野 里穂

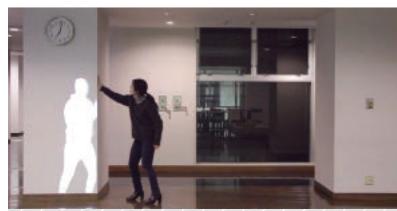
2018年度卒
島根県立松江南高校出身



● やさしいデザイン思考(教材:冊子、カード／論文)

デザイン思考の新しい教材の提案。誰でも簡単に理解でき、実践でまねしやすい教材を目指した。

尾方 航 2019年度卒
兵庫県立神戸高校出身



● 建築空間を活かした新しい寸劇の形 (インスタレーション、パフォーマンス)

SUAC構内に人物の影の映像を投影するインスタレーション。建築空間に映像とパントマイムによるコントを組み合わせた。



前田 ありさ 2018年度卒
熊本県立第二高校出身

● UNLOCK (ノベルゲーム)

最近、妙なものが見えるようになった主人公。ある日、呪いを祓う謎の人物と出逢い協力することになる。

櫻井 菜摘 2020年度卒
常葉大学附属菊川高校出身



● Breath Chair (椅子)

風のパーテーションを挟んで会話することができる、コロナ収束後のニューノーマルを見据えたベンチ。

安部 淳 2021年度卒
静岡県立浜松南高校出身

在学生の声

自分の好きなことを仕事にする。その思いがつながった4年間



2年次の講義でゲームを制作し、それがきっかけでゲームや映像などのデジタルコンテンツに面白さを感じインラクション領域へ。SUACは1年次から幅広いデザインの知識を学べるので、自分が興味のある領域を早い段階で知ることができ、その分野を深く学ぶことができます。高校まではデザインの知識があまりなくても、入学後すぐにデッサンやデザインの基礎知識から学び始めるので、みんなスタートラインは同じ。その先は自分の努力次第です。

ある授業で作品制作課題に取り組んだ時、考える工程に時間をかけすぎ、制作時間が足りず完成度が低いと思っていた作品に、「よく考えられている」と教授から評価をいただき、考えることの大切さを知ると同時に、自分の長所でもあると気づくターニングポイントになりました。卒業後はキャラクターグッズを制作する会社でポップカルチャーに携わります。大学で学んだグラフィック、プロダクト、ゲームなどすべてが活きてくると思うので今からとても楽しみです。



● 作品名／clarify(ショートアニメーション)

自身の4年間の大学生活の感情の変化をアニメーション作品にしました。この作品は、ロトスコーブアニメーションと呼ばれる実際に撮影した映像をトレースして、イラストに描き起こした作品です。作品に登場する場所はすべて大学構内で撮影した動画をもとに制作しています。人や物のリアルな描写とイラストが生み出す不思議な世界観を意識して制作しました。

久保 巨樹

KUBO Naoki

インタラクション領域 4年 和歌山県立新宮高校出身

••• 匠領域

Takumi Design

伝統的な建築・工芸についての知識と基本技能を修得し、現代社会と呼応しうる
新たなデザインを生み出す人材を養成していきます。

伝統建築

日本の伝統建築は、歴史、文化を背景に優れた技術・意匠・美術・工芸等からなっています。名建築に直に触れ、日本の木造建築の基本や意匠を理解し、未来に誇れる建築やデザインを提案すると同時に、日本のものづくり文化を継承・発展させます。

※建築士受検資格を得ることができます(所定の単位を取得した場合)。

木・漆

緑豊かな日本では、古くから木という身近な素材の恩恵を受けて生活をしてきました。多様な木工芸技術と共に、日本固有の漆芸技術を学ぶことで、新たなデザインと伝統価値を創造します。

金属工芸

古来より人の営みと金属は切り離せない関係にあります。金属を扱うために工夫・研究されてきた多様な技術・技法を学び、その知識と経験をもとに新たな金属造形の方向性を提案します。

染・織

日本の“染”と“織”的技法の豊かさは、美術工芸や伝統産業において、また各時代の美意識によって、洗練され培われてきました。こうした“染”と“織”的魅力を追究するとともに、今日のファッショングやインテリアなど幅広いデザイン分野に鋭いをもたらす魅力的なテキスタイルデザインを提案します。



開講科目例

日本伝統建築

■担当教員…新妻淳子 准教授
■開講年次…1年次前期

日本の伝統建築は、歴史や文化を背景に様式を確立し、継承されてきました。建築様式と技術の歴史、建築を構成する材料や道具についても学びます。文化財政策史や保存・活用について理解を深め、静岡県の文化資産である伝統建築のあり方を考えます。



テキスタイル概論

■担当教員…藤井尚子 教授
■開講年次…1年次後期

人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある織維をまとい、やがて自ら織り、染めることで生活を快適に、美しいものにしてきました。本講義では、そのような人と織維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めます。



素材加工演習a・b、 匠造形演習

■担当教員…各教員
■開講年次…2年次前・後期

素材加工演習では、日本の伝統工芸・建築に使用される多様な素材を知り、その特性に合わせた作品の制作を通して造形技法を学びます。匠造形演習では、さらに専門的な技法や道具の扱い方を学び、造形能力を高めます。



木のデザイン

■担当教員…小田伊織 講師
■開講年次…2年次後期

今、私たちの生活は、食器や家具、住空間に至るまで、多くの木材製品に支えられています。本講義では、身近な素材である「木」について、素材や技法的な観点、木製品のデザインの関係性など、木とモノとの関わり合いについて学びます。



専門教員・研究分野

藤井尚子 教授 テキスタイルデザイン／染色 | 荒川朋子 准教授 テキスタイル／織維造形 | 新妻淳子 准教授 日本伝統建築 | 平野英史 准教授 金属工芸／工芸教育史
小田伊織 講師 木工芸／漆芸

演習制作作品紹介



●Suehiro(陶芸)

近年の日本酒ブームに向け日本酒用酒器の提案。香りと旨味を引き出す日本酒のための酒器。器の口に向かって広がる形から、“香りが広がる” “旨味が広がる”。末広がりの意味も込めて。

有安勇翔 匠領域 3年
鹿児島県立武岡台高校出身



●Scorpion(染)

小説『銀河鉄道の夜』に登場する少年二人の関係性を染めで表現した作品群の一つ。ロウケツ染めという技法を行い、花の部分を防染後に何種類もの線を塗り重ね、滲ませることで葉を表現。

鈴木佑季 匠領域 3年
東邦高校出身(愛知県)



●水面の予兆(金工)
藤田結花 匠領域 3年
藤枝順心高校出身



●組み合わせのリズム(木工)
藤城彩華 匠領域 3年
愛知県立豊橋東高校出身



●潮流(織)

時代の流れをテーマに、日々刻々と変化する環境や心情を織織という技法で表現した。初めて織り機を使い、真っ白な糸を狙った色に染めることができ難しく、技術、心身共に成長させてくれた作品。

小林遙伽 匠領域 3年
浜松学芸高校出身

在学生の声

素材と向き合う面白さ。人の手から生まれるものづくりの魅力



藤城彩華 FUJISHIRO Ayaka
匠領域 3年 愛知県立豊橋東高校出身

数学受験で入学し、当初は建築デザインを専攻しようと考えていましたが、1年次に複数の領域の基礎演習を学んだ中で、私が惹かれたのは匠領域の授業でした。興味を持った領域を体験した上で、自分のやりたいことが見極められ、専攻外の学びも活かしていくのがSUACの良さ。木材や陶芸、染織など様々な工房が揃う充実した環境で、プロ仕様の機械類の扱い方は専門の実習指導員の方がサポートしてくれるので、作りたいものに自由に挑戦できています。

伝統工芸の技術や知識を学ぶのが匠領域ですが、その中でも木漆工芸を選び、木という素材に向き合っています。硬さや木目など種類によって異なる木の特性を理解しながら、彫物、挽物、指物づくりの基本的な技法を身につけています。授業で木材を使ったツールや棚を作成した際に木工家具を作る楽しさを覚え、将来の仕事として考えるように。人が使う場面をイメージしながらデザインを考え、自分の手で形にする、その力を磨いていきたいです。



●作品名／秋の入れ物

木漆芸：挽物・漆(一閑塗り、透き漆)

蓋付きの小さい小物入れで、アクセサリーなどの小さなを入れるための器です。秋の木の実のドングリをイメージしており、かわいらしい雰囲気に仕上げました。本体の部分は挽物という木工芸の技法を使い、蓋は鋸などを使い成形しました。すべての表面に漆を塗っていますが方法が違うので、その違いを一度楽しめるのもポイントです。

●●● 工房・特殊機器の紹介

クレイモデル室

フルスケールモデル用レイアウトマシンが導入されており、乗用車などの実物大モデルをクレイ(粘土)で制作することができます。◆目的／クレイモデル制作 ◆主な機器等／フルスケールモデル用レイアウトマシン



CAMモデル室

デジタルデザインのためのモデリングやコンピュータによる造形を行います。CADやCGで作成したデザインデータをもとに、モデルを立体造形する装置やクレイモデルを計測し、3次元CADデータを作成する装置、大型のステレオスコープ(立体鏡)など、制作や実験のための本格的な装置も設置されています。◆目的／CAMモデル制作 ◆主な機器等／3D CAD、3Dプリンター



グラフィックWS室

CGの制作と映像のデジタル合成、ノンリニア編集作業などを行います。グラフィック用ワークステーションと3DCGや実写ベースの映像制作のためのソフトウェアが備えられていて、主に演習で使用します。◆目的／3次元モデルデザイン演習 ◆主な機器等／CAD、CGシステム



プラスティック加工室

プラスティック加工の実習や、プラスティック・アクリルを用いたモデル制作を行います。大型のNCトリミング加工機も設置しており、専門的な制作作業が行えます。◆目的／プラスティック加工 ◆主な機器等／3次元加工機、バフ研磨盤



金属工房

身近にたくさんある金属。ちょっと視点を変えて道具や工具を上手く利用すると、意外といろいろなものを作り出すことができます。この工房では、デザインをする上で必要な金属の基本的な性質や加工方法を学び制作するための道具や工具が豊富に揃っています。◆目的／金属工芸(鋳造・溶接) ◆主な機器等／ガス溶解炉、高周波自動遠心鋳造機



マルチメディア室

レコーディング機材を持つ防音カプセルを備えたマルチメディア制作室です。デジタルサウンドの生成や編集、音楽素材の制作、FLASH・ゲーム・Webコンテンツの制作などを行います。センサを活用したインタラクティブ(対話的)なメディアアート作品もここから多数、生まれています。◆目的／マルチメディアコンテンツの作成・編集 ◆主な機器等／サウンドスタジオ、コンテンツ作成システム、MacPC



デッサン室

デッサンの上達を目指すための部屋です。ゆったりとしたスペースで基礎から上級レベルまで対応できるよう、様々なモチーフが用意されています。



その他の工房・特殊設備

- ◆製図室
- ◆電子制御機器製作室
- ◆暗室
- ◆生物機能実験室
- ◆平面工房
- ◆環境コントロール室
- ◆木彫工房
- ◆UDラボ
- ◆ドライモデル室
- ◆空間演出実験室
- ◆DFラボ(自由創造工房内)
- ◆構造実験室
- ◆総合組立アトリエ
- ◆染色工房
- ◆塗装乾燥室
- ◆CG工房
- ◆OA室
- ◆立体工房

撮影スタジオ

奥行きが約12メートル、天井にはファティフという照明器具が取り付けられていて電動で作動します。ほかにもフラッシュライトが光源のバルカーというライトも8台揃っています。背景は白のホリゾントですが、色バック紙や布を使うことによっていろいろと変えることができます。



金属加工室

金属を加工するための旋盤、フライス盤、マシニングセンターなど最新の機械設備が設置されていて、自分でデザインモデルを制作することができます。◆目的／金属加工 ◆主な機器等／NC旋盤、高速切断機、クレーン



人体機能実験室

使いやすい道具や心地よい環境づくりに必要な人間にに関する種々のデータを得る実験室です。人間の動作、姿勢、筋肉の負担などを測定する機器、高さや角度を自由に変えられる階段可変装置、室温・湿度・照度を自由に設定できる小ブースなどがあり、様々な条件設定における道具の使いやすさ等を検討します。



陶芸工房

酸化・還元焼成が可能な大小2基の最新式マイコン制御の電気炉や電動ろくろ、真空土練機、たたら機などの設備が充実しています。



木材加工室

木材を切断したり、切削したりして、本格的な木工造形物を制作するための多種多様な木材加工機械を設置しており、専門の指導員が常駐して指導にあたっています。◆目的／木材加工 ◆主な機器等／木工旋盤、パネルソー



ガラス工房

ホウケイ酸ガラスを素材として、バーナーを使いガラスの加工方法を学ぶ実習工房です。食器や家具の素材空間を仕切り、生活を快適に守り演出する材料としてのガラスの基本的な性質、美しさ、可能性の一端を、エキスパートが指導します。◆目的／ガラス加工、作品の制作 ◆主な機器等／ガラス旋盤、除冷炉



テキスタイル工房

移動機器やインテリアなど、様々なデザイン分野で使われる織物や布地の作り方、成り立ち、性質などを学びます。



••• TOPICS

産学連携事業によるPR動画の制作

産学連携委託事業の一環で、株式会社クレステックの広報用PR動画を制作しました。SUACでは、2019年に商品の取扱説明書(マニュアル)などを主に制作する株式会社クレステック(浜松市)から、同社の広報用PR動画の制作業務を受託し、デザイン学部の和田和美教授監修のもと、学生有志6名が、企画、シナリオ、コンテ、撮影、CG制作などを行いました。動画は、「マニュアルを作る会社のマニュアル」をコンセプトに制作を行い、委託元Webサイトで公開されています。



ふじのくに芸術祭2021 「学生アートフェスティバル」

グランシップ(静岡市)にて開催された「ふじのくに芸術祭2021学生アートフェスティバル」に参加し、SUAC生の作品を展示しました。学生によるギャラリートークでは、SUACからも3名が参加し、作品紹介や日頃の活動をグループワーク形式で発表しました。美術、デザイン分野で学ぶ学生たちが互いの交流を深め、大いに刺激を受け合う絶好の機会となっています。



静岡科学館る・くる 「オープンラボ」

静岡科学館る・くるのイベント「オープンラボ」に、的場研究室で学生が制作した電子系ゲーム作品3種類をインタラクティブに体験できる形式で展示し、親子連れを中心に楽しんでいただきました。子どもたちに地元の大学の活動に興味を持ち、科学や技術への理解を深めてもらうことを目的とするイベントで、SUACのユニークな制作活動について実感していただくことができました。



デザイン学部卒業展・ デザイン研究科修了展 (通称:卒展)

4年間の学びの集大成である卒業制作を展示する「卒展」は、4年生自らが企画・運営を行います。毎年2月に学内全体を会場として開催され、一般にも公開されます。課題に向き合いながら培った知識や技術を総動員し取り組む卒業制作。思いがこもった多種多彩な作品が並びます。



●●● 取得可能な資格

詳しくは81ページをご覧ください。▶▶▶

建築士 受験資格	商業施設士補資格	インテリアプランナー資格
日本語教員養成課程	社会調査士	

●●● 卒業生の主な進路

製造業

アイシン・エィ・ダブリュ(株)	中部印刷(株)
アイリスオーヤマ(株)	デコラテックジャパン(株)
いすゞ自動車(株)	東芝テック(株)
(株)イトーキ	TOTOバスクリエイト(株)
エンケイ(株)	トクラス(株)
大阪シーリング印刷(株)	トヨタ自動車(株)
(株)オリバー	(株)豊田自動織機
柏木工(株)	トヨタ自動車東日本(株)
(株)河合楽器製作所	トヨタ車体(株)
河津(株)	(株)日産オートモーティブテクノロジー
キヤノン(株)	(株)日本カラーエンジニアーズ
共和レザー(株)	日本たばこ産業(株)
起立木工(株)	パナソニック(株)
(株)クボタ	林テレンフ(株)
クリナップ(株)	(株)日立製作所
(株)ケイ・ウノ	日立クリーライフリノーションズ(株)
(株)小糸製作所	(株)バンダイ
コクヨ(株)	富士ゼロックス(株)
(株)コムデジタルエンタテインメント	フラー工業(株)
(株)コルグ	フランスペイド(株)
コンビ(株)	プラス(株)
サンスター文具(株)	ブリヂストンサイクル(株)
サンワサプライ(株)	(株)本田技術研究所
(株)システム	本多プラス(株)
(株)シバックス・デスマ	(株)マキタ
(株)シマノ	マツダ(株)
シャープ(株)	三菱自動車工業(株)
(株)シャンソン化粧品	(株)ムーンスター
スズキ(株)	矢崎化工(株)
(株)鈴木楽器製作所	(株)ヤタロー
スタンレー電気(株)	(株)ヤマニパッケージ
(株)SUBARU	ヤマハ(株)
セーラー万年筆(株)	ヤマハ発動機(株)
セイコーエプソン(株)	(株)リヒトラブ
ダイハツ工業(株)	レック(株)
タカラスタンダード(株)	ローランド ディー.ジー.(株)

ハウジング・建設業

アサヒハウス工業(株)	(株)スペース
(株)一条工務店	住友林業(株)
(株)イリア	須山建設(株)
(株)金沢伝統建築設計	セキスイハイム東海(株)
(有)空間工房 匠屋	積水ハウス(株)
(株)クラスト	(株)大成住宅
KONOIKE Co.(株)	(株)大東建託
サーラ住宅(株)	大和ハウス工業(株)

商業施設士補資格

社会調査士

卸売・小売業

榎本(株)	(株)サマンサタバサジャパンリミテッド
(株)エフ・ディ・シ・プロダクツ	シーラック(株)
(株)大塚家具	シャディ(株)
オルビス(株)	(株)東京インテリア家具
(株)カインズ	日豊資材(株)
(株)カワシマ・ゴールド	(株)ユナイテッドアローズ

金融・保険業

JAとぴあ浜松	しづおか焼津信用金庫
日本生命保険(相)	

放送・広告業

(株)アマナ	(株)静岡新聞社
(株)朝日メディアブレーン	太陽企画(株)
良い広告(株)	(株)テレビ朝日クリエイト
(株)エイエイピー	(株)名古屋テレビ事業
(株)キュー	(株)博報堂プロダクツ
静岡エフエム放送(株)	(株)メディア東京

情報・専門サービス業

(株)青島設計	(株)GKダイナミックス
(株)アクアプラス	(株)ziba tokyo
(株)アドヴィル	(株)JR西日本コミュニケーションズ
(株)アドブレイン	(株)タカハ都市科学研究所
(株)池田建築設計事務所	スズキ教育ソフト(株)
(株)池下設計	(株)STUDIO4°C
(株)インテリジェントシステムズ	(株)セガ
UO	(株)総合設計事務所
MGS照明設計事務所	(株)大和工芸
(株)オープンスマイル	(株)TBSトライメディア
(株)オムニバス・ジャパン	(株)テクノサイト
(株)カブコン	(株)DMM.com ラボ
(株)京都アニメーション	(合)デザイン・アーブ
(株)ゲームスタジオ	東映アニメーション(株)
(株)コーエーテクモホールディングス	(株)東急設計コンサルタント
(株)KOGA建築設計室	トランスクスモス(株)
(株)GKインダストリアルデザイン	(株)ナウハウス

インテリアプランナー資格

(株)ナビタイムジャパン	(株)プロフィット
(株)長谷守保建築計画	ボリゴンマジック(株)
パナソニックシステムデザイン(株)	堀部安嗣建築設計事務所
(株)阪急デザインシステムズ	(株)ミクシィ
(株)ビーエーワークス	ヤマハモーターエンジニアリング(株)
(株)フジヤマ	(株)ユーカス
(株)ブレックス	(株)ランドマック
(株)プレミアムエージェンシー	(株)類設計室

その他サービス業

磐田商工会議所	(公財)静岡市文化振興財団
(株)オリエンタルランド	(株)丹青社
(株)ジー・コミュニケーションズ	(株)Teable
(株)四季	テクノリサーチ(株)
静岡文化芸術大学(技術員)	ボラス(株)

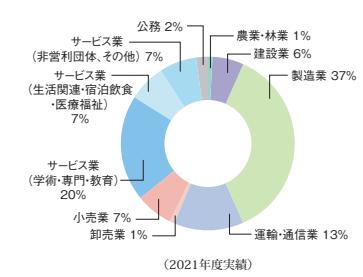
公務

航空自衛隊	浜松市役所
静岡県警察本部	静岡市役所
愛知県警察本部	尼崎市役所
三重県庁	神戸市役所
伊東市役所	豊橋市役所
掛川市役所	

大学院進学

慶應義塾大学	東京都立大学
京都造形芸術大学	筑波大学
京都工芸織維大学	東京芸術大学
静岡大学	東京造形大学
静岡文化芸術大学	名古屋市立大学

就職データ



●●● 教員紹介

デザイン学科

中野 民雄

NAKANO Tamio



准教授／デザイン
学科長
スマートデザイン／
建築環境・設備

都市・建築から地球環
境・エネルギー問題を改
善し、エコロジー・エコノ
ミーを両立させたスマートデ
ザインを追究しています。

磯村 克郎

ISOMURA Katsuro



教授／文化・芸術
研究センター長
パブリックデザイン

ストリートファニチャーか
ら街路まで、家具から建
築空間まで、公共の場
のデザインについてデザ
インプロセス・造形・ライ
フサイクルを研究します。

岩崎 敏之

IWASAKI Toshiyuki



教授
構造デザイン

アイデアを形にするた
めに構造は不可欠で
す。建築のみならず、
すべてのデザインに通
じる構造の考え方を
伝授します。

植田 道則

UEDA Michinori



教授
建築とインテリアの
空間デザイン

日本の美德が育んでき
た内外空間デザインを、インテラクティブな発
想を伴いながら、探求し
ています。

迫 秀樹

SAKO Hideki



教授
人間工学

体格や筋力、嗜好など
一人ひとり違う人間の
特性を捉える手法や、
それを活用したものづ
くりを研究しています。

佐藤 聖徳

SATO Kiyonori



教授
プロダクトデザイン

人の五感をテーマに
自然科学を中心とした
作品制作を行い、プロ
ダクトデザインに活か
していく研究を進めて
います。

Jérôme BOULBÈS



教授
3DCGデザイン／メデイ
アート／アーティメーション

3DCGデザイン、最先
端テクノロジー、バーチ
ャル・リアリティ(VR)
拡張現実(AR)等を用
いた作品制作および
研究をしています。

高山 靖子

TAKAYAMA Yasuko



教授
プロダクト・サービス
デザイン

グローバルな視野で人
と社会をデザインで結
ぶプロダクトとサービス
の研究をしています。

花澤 信太郎

HANAZAWA Shintaro



教授
建築設計／
都市デザイン

建築設計と都市デザ
インが専門分野です。
これからの建築や都
市空間について一緒に
考えてみませんか。

日比谷 憲彦

HIBIYA Norihiro



教授
グラフィックデザイン

文字やシンボル、色彩
などのエレメントを平
面・立体・空間に展開
し、ブランドや施設のイ
メージ形成を図る手法
を研究しています。

藤井 尚子

FUJII Naoko



教授
テキスタイルデザイン／
染色

布を用いてQOL(生活
の質)を向上させるデ
ザインを研究していま
す。一枚の布に広がる
デザインの可能性を、
一緒に探求しましょう。

的場 ひろし

MATOBA Hiroshi



教授／大学院
デザイン研究科長
メディアアート／
インテラクションデザイン

新しいテクノロジーを活
かしたアートの制作と、
システムの使いやすさ
や使う樂しさの向上の
研究を進めています。

小川 直茂

OGAWA Naoshige



准教授
グラフィックデザイン／
インフォグラフィック

高度情報時代におけ
る情報表現と情報伝
達のあり方について、
視覚的な観点での研
究・制作活動を取り組
んでいます。

中川 晃

NAKAGAWA Akira



准教授
空間デザイン／
インテラクションアート

TV局とテーマパークに
20年勤め、映像から空
間、舞台まで幅広く携
わってきました。皆さん
の創造のお手伝いが
できればと思います。

新妻 淳子

NIITSUMA Junko



准教授
日本伝統建築

日本の伝統建築と近
世建築講評活動に関
する研究をしていま
す。伝統建築から直
に日本の意匠や技術を
学び新たな創造を目
指します。

丹羽 哲矢

NIWA Tetsuya



准教授
建築／地域・景観デザイン

人々が暮らす空間を包
括的にデザインしてい
ます。多くの人が共
有できる建築理念を具
体的な空間にする発
見的なデザインプロセ
スが研究テーマです。

城戸 万里子

KIDO Mariko



特任助手
鋳金

金属を溶かして、型に
流し込む鋳金を専門と
しています。技法の奥
深さを感じながら、暮ら
しの中の鋳物を研究・
制作しています。

丹羽 あや

NIWA Aya



特任助手
グラフィックデザイン／
保存修復

グラフィックデザインの
制作・研究を行ってい
ます。そのほかに主に
繊維の保存修復の研
究も行っています。

藤石 清香

FUJIISHI Sayaka



特任助手
デジタルファブリケーション／
インテラクションデザイン

デジタルとリアルの間
をつなぐコンテンツの
研究を行っています。モ
ニターの中だけで完結
しない新しい体験を一
緒に作りましょう。

山口 貴一

YAMAGUCHI Takakazu



特任助手
現代芸術／現代彫刻／
環境彫刻

木材を素材の中心とし
て様々な作品を制作・
研究することにより、
社会と芸術の関係性
を探求しています。

小浜 朋子 OBAMA Tomoko



教授
ユニバーサルデザイン
(UD) / デザインリサーチ

UDの概念をもとに、多様なユーザー・生活環境をあらゆる角度からリサーチし、現実と未来をつなぐデザインアイデアを探求していきます。

長嶋 洋一 NAGASHIMA Yoichi



教授
メディアアート

コンピュータミュージック、音楽情報科学、ヒューマンインターフェイス、新センサなどを研究しています。

宮田 圭介 MIYATA Keisuke



教授／学部長
ヒューマンインターフェイス

スマートフォンのアプリや電子書籍、電子広告など、各種情報機器の近未来のデザインと共に考えましょう。

百束 朋浩 HYAKUSOKU Tomohiro



准教授
映像学／
映像技術

映像の分野で表現と技術の両面から制作・研究を行っています。総合芸術である映像は科学と芸術の両方を学ぶ必要があると考えています。

亀井 眩子 KAMEI Akiko



教授
建築設計／
サスティナブルデザイン

建築空間を地域・都市、さらには広域的な視点から捉えるアプローチで、周辺環境と持続的に発展するあり方を探求しています。

かわ こうせい KAWA Cosei



教授／図書館・
情報センター長
絵本／
イラストレーション

ことばや絵で伝えられる物語を通して、どのように人のこころが動かされるのか探究しています。

佐井 国夫 SAI Kunio



教授
グラフィックデザイン

グラフィックデザインの役割はビジュアルコミュニケーションであり、新たな視覚表現のための技術と意識をいかに育てるかを課題として研究しています。

長嶋 洋一 NAGASHIMA Yoichi



教授／キャリア
センター長
トランポーテーションデザイン／
プロダクトデザイン

クルマを中心で移動機器のデザインを研究しています。次世代モビリティの普遍性と革新性について一緒に考えましょう。

永山 広樹 NAGAYAMA Hiroki



教授
プロダクトデザイン／
クラフトデザイン

暮らしの中からデザインを導くことがテーマです。誰もが、豊かで快適に暮らすためのモノづくり・コトづくりデザインを目指しています。

羽田 隆志 HADA Takashi



教授
プロダクトデザイン／
魅工学

特許V.S.システムを採用した2輪車などを設計開発しています。また強い魅力を実現するための企画立案法を研究開発しています。

服部 守悦 HATTORI Moriyoshi



教授／キャリア
センター長
トランポーテーションデザイン／
プロダクトデザイン

クルマを中心で移動機器のデザインを研究しています。次世代モビリティの普遍性と革新性について一緒に考えましょう。

和田 和美 WADA Kazumi



教授
メディアアート／
Webデザイン

映像を中心に扱ったインストレーションやWebサイト等、インタラクティブな空間を作・研究しています。

天内 大樹 AMANAI Daiki



准教授
美学芸術学／
建築思想史

近現代日本の建築を中心、芸術、デザイン、環境の理論や歴史を整理しています。知識に基づく観察と読解を創造につなげましょう。

荒川 朋子 ARAKAWA Tomoko



准教授
テキスタイル／
織維造形

「織維」から導き出される、造形の表現性と可能性、その広がりと奥深さに強く惹かれ研究活動をしています。

平野 英史 HIRANO Eiji



准教授
金属工芸／
工芸教育史

鉄の板材を中心に扱ったアート作品の制作や工芸を通した教育のカリキュラム実践の歴史を研究しています。

松田 達 MATSUDA Tatsu



准教授
建築意匠／
3DCAD／都市計画

建築と都市を連続的に捉え、デザイン・研究活動を行っています。空間の新しい可能性について、共に探求していきましょう。

小田 伊織 ODA Iori



講師
木工芸／漆芸

日本の伝統技法を用いて、木と漆を素材としたアート作品や日常的な器などを幅広く制作し、造形表現を探求しています。

… もっと! SUAC 16の質問



1

Q | 浜松市はどんな街ですか?

A

県庁所在地の静岡市とならぶ政令指定都市で、古くから織維業や自動車などの製造業で栄え、「音楽の街」としても有名です。晴れの日が多く温暖な気候のため、うなぎやみかんなど豊かな食材に恵まれています。伝統文化や祭りも盛んで、地域文化を学ぶのには良い環境です。

写真: 浜松まつりの様子



2

Q | 地域貢献に興味があります。大学では地域との活動はどのようなものがありますか?

A

全学科目「地域連携演習」では、地域との関わりを持ったプロジェクトに参画できます。また、個別に教員が企業や行政と関わるプロジェクトに加わることや、学生自らが地域と関係した活動を行うことなど、様々な事例があります。



3

Q | いろいろな言語を学んで、世界の人と交流したい!

A

SUAC では必修外国語として、英語だけでなく中国語が設定されているのが特徴。そのほかにもフランス語、ポルトガル語、韓国語、インドネシア語、イタリア語、ドイツ語が履修できます。国際文化学科科目では、通訳や翻訳、観光や会議などに応用するための科目も用意されています。



4

Q | SUAC で芸術文化やアートマネジメントを学ぶ意義は?

A

大都市圏で得られる貴重な経験もありますが、公的な課題解決のために文化政策やアートマネジメントを学ぶ上では、地方圏が抱える課題を実感することが不可欠。国内外の最先端の現場を経験してきた教員が多く在籍する芸術文化学科は、芸術文化や文化政策・アートマネジメントを学ぶのにうってつけです。

p037「芸術文化学科」参照



5

Q | 小規模の大学で学ぶメリットはなんですか?

A

SUAC の総学生数は約 1,450 名。教員一人あたりの学生数は約 16 名と、丁寧な指導や支援を受けられる環境が整っています。また教員と学生、お互いの顔が見えやすく、他学部との交流もさかんなも魅力。



6

Q | 工房を使っていろいろなものを作りたい!

A

金属や木工、プラスチック、染織など、多種多様な工房設備が充実しています。実習授業で使用するほか、申請すれば学生も自由に使用が可能。特任助手の皆さんは、使用方法をレクチャーしてくれたり、制作のアドバイスをもらったりと頼りになる存在です。

p063「工房・特殊機器の紹介」参照



7

Q | フェアトレード大学ってなんですか?

A

「フェアトレード大学」とは、大学全体でフェアトレードの推進活動に取り組んでいる大学を認証するものです。2018年2月、SUACは国内初となる「フェアトレード大学」に認定されました。学内では、フェアトレード普及学生団体が推進活動に取り組み、購買ではコーヒーやチョコレートといったフェアトレード商品を販売。関連する講義も開講しています。



8

Q | デザイン学科で所属する専門領は、入学時に決めておくべきですか?

A

デザイン学科では、2年次の前期末に所属領域を決定します。それまでに様々な授業を受けていく中で、各自が興味・関心を絞り込んでいくので、必ずしも決めておく必要はありません。1、2年次に幅広い基礎知識を得られることが、結果的にデザインの幅を広げることにつながります。

(建築・環境領域は1年次から関連科目があります)

p049「デザイン学科」参照





9

Q | 文化政策学科ではどのようなことを学びますか？

A

文化政策とは、「人々の暮らしや社会の仕組みのより良いあり方を考え、実現するための方法を考えること」といえます。文化政策学科では、「政策」「経営」「情報」の3つの分野を総合的に学ぶことで、課題を捉え、解決するための方法を構想・立案し、実行していく力を身につけます。

p031「文化政策学科」参照



11

Q | 留学をするのが目標です。どのような方法があるでしょうか？

A

SUACでは長期留学（1学期以上の海外協定校への留学）と、短期留学（主に春期・夏期休暇中に実施される語学研修等）があります。豊富な選択肢により、各自の目的・レベルに合わせてチャレンジでき、留学をサポートする授業料の免除や奨学金の給付制度も充実しています。p082「国際交流」参照



13

Q | SUACならではの授業ってありますか。

A

すべての学生が入学後に最初の科目として履修する「文化芸術体験演習」は、芸術文化の体験や演習を行う名物講義。「落語」「歌唱」「写真」「狂言」などの4ジャンルを実際に体験し、知性と感性を磨きます。教養科目の「芸術・デザイン」カテゴリーは、文化政策とデザインの両方からアプローチする科目をそろえています。p096「カリキュラム一覧」参照



15

Q | 他学部他学科の授業にも興味があります。

A

教員の許可を得て、他学部他学科の授業も履修することができます。文化政策とデザインの両学部があることがSUACの特徴。専門以外の授業を履修することで知見が広がり、新たな発見があるでしょう。余裕があればぜひチャレンジしてください。

文化政策
学部

10

Q | これまでデッサンや絵の勉強をしていません。デザイン学科の入試で実技は必須でしょうか。

A

デザイン学科の一般入試では実技が数学どちらかを選べます。得意科目で入試に臨んでください。入学後にデッサンを学び始める学生も多くいます。



12

Q | デザイン学科の一般入試では、数学はどこまでの範囲でしょうか。

A

数学の範囲は数学I・A、II・Bです。数IIIを履修しない方でも受験できます。（現高校2年以上の受験生に適用されます）



14

Q | 今から就職活動が不安です。

A

キャリア支援室では、進路についての相談を随時受け付けています。1年次から学年を問わず、インターンシップや公務員等についての相談も行っています。3年次になると就職ガイダンスや個人面談を行い、本格的な就職活動の準備を行います。小規模模校の特性を生かし、学生一人ひとりに合ったサポートを行います。小さな悩みから面接練習まで、親身になって相談に乗ってくれるキャリア支援室に気軽に立ち寄ってください。p077「キャリアサポート」



16

Q | SUACのことをもっと知りたい！

A

公式Webサイトでは、学部・学科紹介や入試関連のお知らせのほか、特色ある講義や学生の活躍などのトピックスをレポートで紹介。在学生や卒業生のインタビューも掲載しています。公式Twitterアカウントでは在学生の投稿もありますので、ぜひフォローしてくださいね。入試情報をいち早くキャッチしたい方は、入試室LINEがおすすめです。

p132「Webへのご案内」参照



文化・芸術研究センター

文化・芸術研究センターは、本学の2つの研究分野である文化政策学とデザイン学に共通して流れる「哲学的思考の探究」を基底とした大学を目指すため、本学の学術研究の中核として設置されたのが原点です。そして、本学の研究活動を推進するとともに、学術・文化芸術に関わる多様な事業を通して、地域との連携や活性化の拠点として活動してきました。

これからは、本学の研究環境の指針である「遠州学林構想」のもと、(仮称)グローカルデザイン研究所への発展的移行を目指し、学際的な研究体制の充実化、研究と地域プロジェクトの共有、研究・交流環境の確立、地域や世界との情報交流を進めて参ります。

センターの主な取り組み

文化・芸術研究センターでは、主な3つの取り組みにより、浜松の地における、文化芸術研究・情報発信・地域連携を推進します。

教員特別研究の支援

特別研究費制度のもとに、教員の積極的で学際的な研究活動を支援し、両学部および文明観光コースの連携を推進します。研究の成果は、研究成果発表会や静岡文化芸術大学学術リポジトリで公表し、地域、行政機関や研究機関の方々へ広く情報発信しています。



イベント・シンポジウムの開催

イベント・シンポジウム等開催費制度のもとに、大学における教育・研究の成果を産官学各界、および広く地域のみなさんにご理解頂くことを目的として、コンサート、展示、ワークショップ、セミナーなど各種イベントや様々な研究分野に関わるシンポジウム等を支援・開催しています。



地域・产学官連携の推進

本学の持つポテンシャルを社会に還元するため、民間企業や自治体などの学外機関と本学が共通の課題について研究を行う共同研究や、学外機関からの委託を受けて行う受託研究・受託事業等を推進しています。社会や地域の課題に対して、最適な研究者との連携を支援しています。



教員紹介



磯村 克郎
ISOMURA Katsuro

センター長／
デザイン学部教授

デザイン学部教員として、建築・環境領域でのまちづくりなどの研究とインテラクション領域を兼任して空間デザインの研究を行っています。地域のプロジェクトも多く担当し、地域社会の方々、学生、文化政策学部との連携を実践してきました。



西田 かほる
NISHIDA Kaoru

文化政策学部教授

日本近世史のうち、宗教者・芸能者について研究をしています。三遠南信地域に残された諸資料から、地域の豊かな歴史文化を考えると共に、多様な視点から共同研究を進めています。



青木 健
AOKI Takeshi

教授
宗教学／
西アジア文明

古代オリエントからイスラーム期にかけての西アジアの宗教を研究しています。特に、古代ペルシアのゾロアスター教が専門です。他に、マニ教やイスラームといった西アジアの宗教についても研究しています。ペルシア語文献から窺い知る古代世界が興味の中心です。



宮崎 千穂
MIYAZAKI Chiho

准教授
旅と病の歴史／
日本ヒルクロード

旅・移動と異文化接触により生じる医学衛生やジェンダー等の社会的問題、文化・芸術の交流について、歴史学的に研究しています。

さらなる2年が広げる「文化」「デザイン」の未来像

21世紀は「市民」の時代と言われています。

それは、これからは「政府」「企業」ではなく「市民」が主体となり、自分たちの望む社会を創造していくことを意味しています。

大学院では、市民社会のリーダーに必要な、様々な価値観を尊重しつつとりまとめていく、課題解決の能力を養成します。

大学院

文化政策研究科 デザイン研究科

学問という深遠な知の営みの世界で、 未来という未知の領域を創造していく愉しみ

学部生の時からインドやバングラデシュ等でフィールドワークを行い、多くの現場を経験しました。問題意識が高まる中で、本質的な解決を考えるために政治経済や社会の構造など学問の視点が必要だと考え、SUACの大学院へ進学。今は国際協力や人類学を研究領域として、様々な教養を深めながら研究に励んでいます。民族的マイナリティへの支援を行うNGOの事務局長としての活動や、国際教育事業を行う会社の経営にも携わる日々ですが、20代での経験は今後の人生の糧になると信じています。学びや研究を社会で活かすための土壤が豊かなこの大学で、学問という深遠な知の営みの世界に潜り込み、実践を通して未来という未知の領域を創造していく。とってもワクワクしませんか。

稻川 望

INAGAWA Nozomi
文化政策研究科 1年 出身大学／静岡文化芸術大学



「考えること」の大切さを学んだ2年間。 日本と中国をつなぐアートデザインを追求

中国の大学でデジタルメディアアートを専攻し、その学びを日本で深め、新たなデザインの探求に取り組もうとSUACの大学院へ進学。ゼミでは知識や技術だけでなく「考える」ことの重要さを学ぶことができました。修了研究では、中国と日本が共有する「漢字文化」に着目し、漢字の形や意味の違いをインタラクティブに体験しながら、相互コミュニケーションを向上させる作品を制作。学外での発表の場もいただき、子どもたちが楽しむ様子を見ることができました。プロダクトや造形など他分野の学びでも専門的な指導を受けられ、視野が広がったと感じています。大学院修了後は、メディアアートに関する仕事に就くことが目標。見る人も参加できる自分らしいアートデザインを追求していきたいです。

馬 瑶

MA Yao
デザイン研究科 2年 出身大学／北京服装学院



… [大学院] 文化政策研究科

定員10名

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術の持つ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

Arts and Cultural Management

アーツアンドカルチャーラマネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行います。

Regional Policy and Management

地域政策マネジメント

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方や可能性に関する研究を行います。

Glocal Studies

グローカルスタディーズ

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行います。



現場に足を運ぶ調査や研究、
仲間と議論を重ねる日々で、
人生の視野も広がった

修了生の声

株式会社やる気スイッチグループ
Kids Duo事業本部

鈴木七海さん

文化政策研究科 2018年度修了

入学の動機 SUAC学部在学中に、交流協定校であるアメリカのフィンドレー大学へ留学した際、学校ではなく家庭で学ぶ「ホームスクール」に出会いました。卒業論文のテーマにも選んだ「ホームスクール」は、まだ日本では認知度の低いものでした。修士課程にて、さらにその研究を深めたいと考えた時、新たな文化や価値を創出する基盤があるSUAC大学院の環境に魅力を感じ、進学先として選びました。

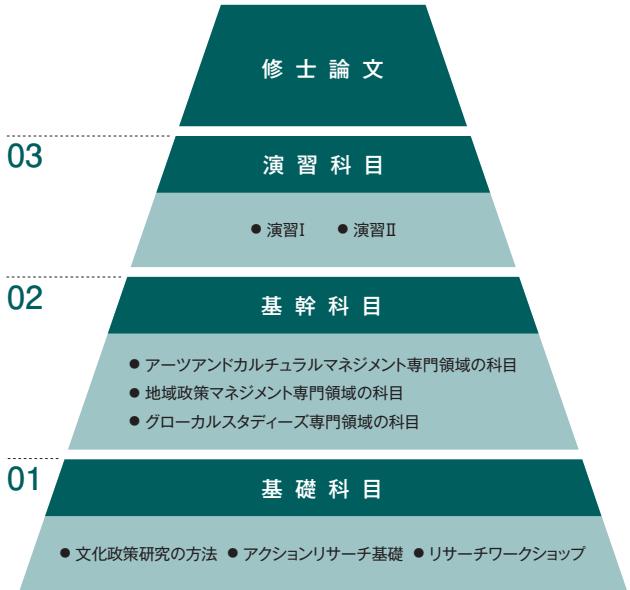
大学院で学んで得たこと 大学院の仲間たちの研究テーマは、公共政策や生きがい、ジェンダーなど多岐にわたりました。主専攻の社会学を学びながら、お互いのテーマを考察し、議論を交わし、またホームスクール実践者のもとに足を運び調査を進める中で、自身の固定観念を壊しながら、多角的な視点を得ることができました。これらの経験は幅広い年代、国籍のスタッフと協働する今の仕事に活かされています。

就職実績 (抜粋)

- 国立研究開発法人情報通信研究機構
- 公益財団法人掛川市生涯学習振興公社
- 公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)
- 公益財団法人豊田市文化振興財団
- 公益財団法人名古屋国際センター
- 公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)
- 公益財団法人浜松市文化振興財団
- 公立大学法人静岡文化芸術大学
- 株式会社大阪市開発公社
- 特定非営利活動法人
国際舞台芸術交流センター(PARC)
- サントリーパブリシティサービス株式会社
- 鈴与株式会社
- 株式会社ファミリーマート
- 株式会社北國新聞社
- 静岡市役所
- 浜松市役所
- 袋井市役所

カリキュラム構成の特徴

- 01 基礎科目** 修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員と共に考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。
- 02 基幹科目** 各分野の概論的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アーツアンドカルチャラルマネジメント」「地域政策マネジメント」「グローカルスタディーズ」に関連した専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。
- 03 演習科目** 演習Ⅰ（1年目）と演習Ⅱ（2年目）から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。

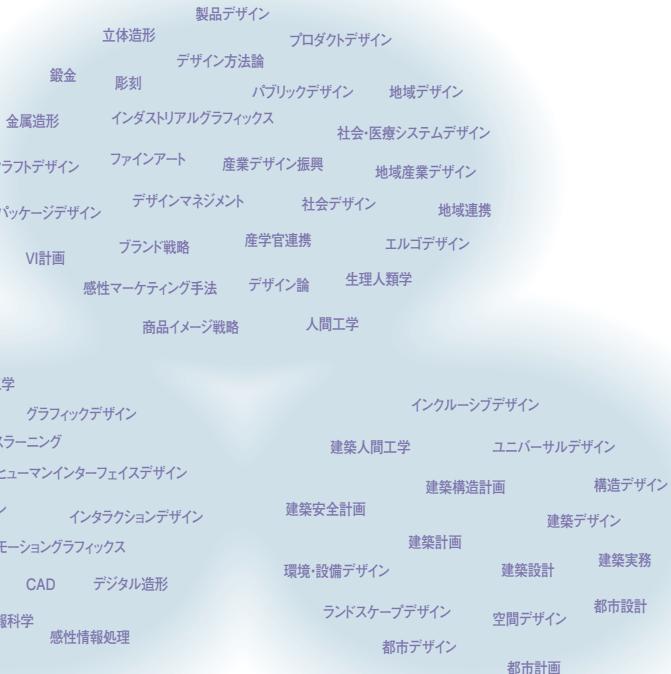


… [大学院] デザイン研究科

定員10名

研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになっています。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんにこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。



「ユーザー体験全体」を改善させるデザイン力を鍛錬し続けた2年間

修了生の声

プラザー工業株式会社
総合デザイン部 インタフェースデザイングループ
佐藤里菜さん
デザイン研究科 2019年度修了

入学の動機 本学デザイン学部での卒業制作で『入れ歯クリーナー』をデザインしたこと、「加齢をポジティブに受け入れて生きるためにデザイン」に興味を持ち、このテーマに対してもっと学びたいと考えました。また、学部で学んだ「最終的な見た目を整える」ことに加えて、「ユーザーの体験全体」までも設計できるデザイナーになりたいと思い、進学を決意いたしました。

大学院での学びを現在の仕事へ 修士制作ではCJM(カスタマー・ジャーニー・マップ)作りやモック(模型)のユーザビリティテストを通じて、ユーザー体験全体を改善させる説得力のあるデザイン力を身につけることができました。また産学連携の商品パッケージプロジェクトなど、実際に世に出る商品の生産プロセスに学生のうちから携わった経験は、就活で大変役立ち、ものづくりのメーカーに入社した今も大きな財産になっています。

就職実績 (抜粋・50音順)

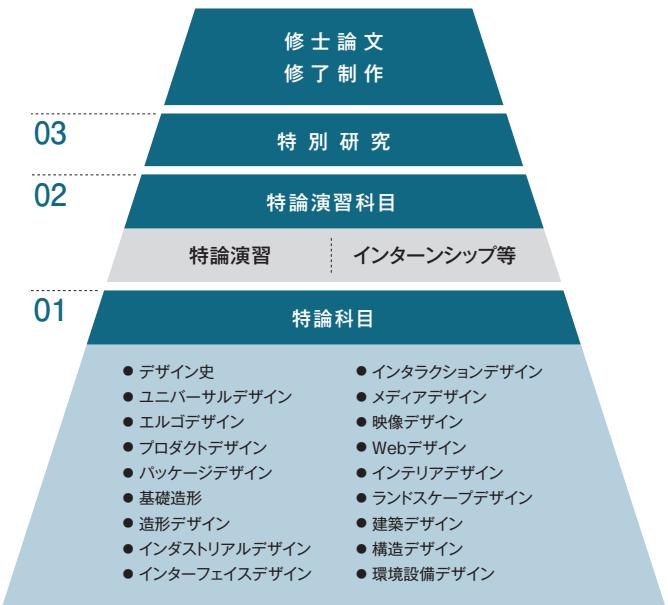
- いすゞ自動車株式会社
- 株式会社一条工務店
- 岡崎女子短期大学(非常勤講師)
- 柏木工株式会社
- 株式会社共同建築設計事務所
- 株式会社岐阜造園
- コイズミ照明株式会社
- 佐川印刷株式会社
- 株式会社GKテック
- ジェイアール東海建設株式会社
- 株式会社シャンソン化粧品
- スズキ株式会社
- 株式会社タカハ都市科学研究所
- 株式会社たき工房
- チームラボ株式会社
- 中央コンサルタンツ株式会社
- 株式会社電通
- 株式会社図書館流通センター
- 豊田合成株式会社
- 浜松市役所
- 企業組合針谷建築事務所
- 株式会社日立建設設計
- 株式会社ヒダマリ
- 富士通株式会社
- プラザー工業株式会社
- 株式会社ボーケス
- 三井デザインテック株式会社
- 三菱地所レジデンス株式会社
- 三菱電機住環境システムズ株式会社
- ヨシコン株式会社
- [進学]筑波大学大学院人間総合科学研究群
デザイン学学位プログラム(博士課程)

カリキュラム構成の特徴

デザイン研究科のカリキュラムは、3つの要素で構成されます。

- 01 特論科目**
各デザイン分野に対応した少人数制の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。また、学際的な研究能力を高めるために分野を横断する科目履修を基本とします。
- 02 特論演習科目**
特論演習やインターンシップ等により構成され、特論科目の学修内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を選択して履修を進めます。
- 03 特別研究**
指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次後期に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一级建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。



修士論文・修了制作テーマ (抜粋・2021年度実績)

- 広告業界におけるディレクター育成に向けた教材開発
- 静岡県立農林環境専門職大学図書館のデザイン
- 貴州省ミャオ族の民族服飾に対する考察と活用提案
— 貴州省榕江県に例として、グラフィックデザインの観点から —
- 高齢者向け浴槽に関する研究
— 入浴時の動作分析及び主観申告からの検討 —
- 福建省晋江五店市改修計画
— 時間を繋ぐインターフェースとしての建築のあり方の考察 —
- 静岡県農林技術研究所茶業研究センター本館の設計
- 陝川郡の活性化に向けてのオリジナル観光コンテンツ開発
- 農林環境専門職大学敷地内の歩道橋とランドスケープのデザイン
- 中国と日本が共有する「漢字文化」に着目した、コミュニケーション向上のためのデザインの研究
- オンラインコミュニケーション活性化のための支援方法の提案
- 複数のデバイスを活用したVR体験型ゲーム・インスタレーションの研究および制作

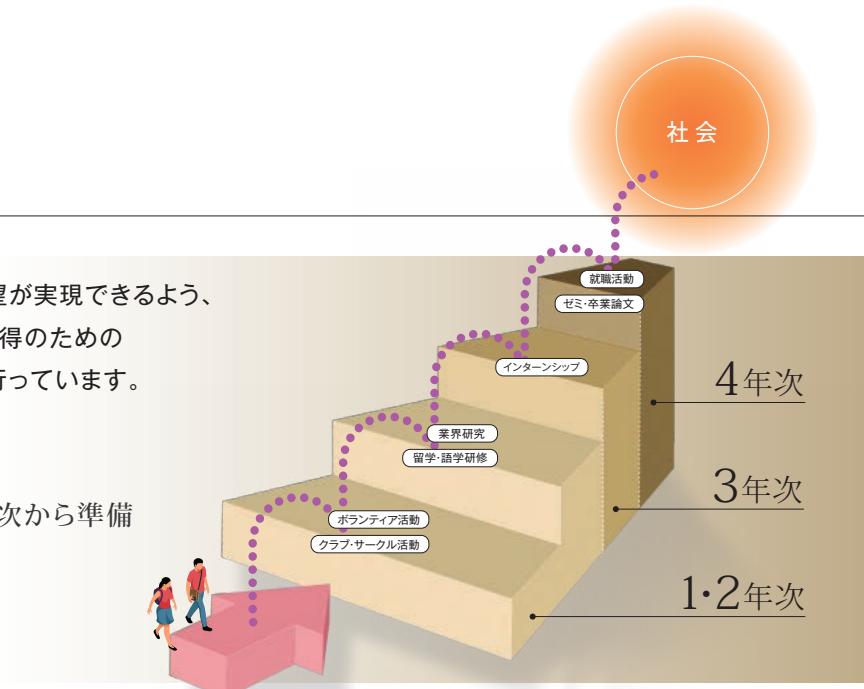
※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリ(<https://suac.repo.nii.ac.jp/>)をご参照ください。

キャリアサポート

●●● 就職支援

学生生活を通して、将来の夢や希望が実現できるよう、就職ガイダンスやセミナー、資格取得のための講座など、様々な就職支援行事を行っています。

将来を見据えた視点で1年次から準備



1年次・2年次

3年次

4年次

授業・研究・制作

サークル

アルバイト

ボランティア

就職活動



-自己分析

-業界研究

-企業研究

-エントリーシート作成準備

-面接練習

インターンシップ

-企業説明会

-志望動機・自己PRまとめ

-採用試験

-エントリーシート提出

-筆記試験

-面接・グループディスカッション

内定

就職支援

- 低学年向けキャリア支援セミナー
- インターンシップガイダンス
- インターンシップマッチング会

- 個人面談
- 就職ガイダンス(全学対象)
- 就職ガイダンス(デザイン学部対象)
- 適性検査
- 業界研究セミナー
- 模擬エントリーシート作成
- 模擬面接・グループディスカッション講座
- インターンシップマッチング会

- 就職相談
- 履歴書・エントリーシートアドバイス
- 面接練習



学内企業説明会

資格取得等対策講座

高い就職実績を支える、手厚いサポート

就職希望者決定率



個人面談



キャリア支援室職員が3年生全員と個人面談を実施し、希望する業種、職種、勤務地などを確認します。ここで得た情報をもとに、学生が希望する進路実現についてきめ細かなサポートをしていきます。

就職ガイダンス



就職活動に必要となる、進路選定や受験対策等テーマごとに座学と実践をバランスよく組み合わせたガイダンスを年間を通して実施し、誰でも無理なく就職活動準備が進むようにしています。

デザイン学部就職ガイダンス



ポートフォリオの作り方、業界・職種別の動向や実技試験など、デザイン職の就職活動特有の傾向と対策について解説し、デザイン学部生の就職活動をフォローリーします。

学内企業説明会



本学学生の関心の高い企業を中心に採用担当者を招き、会社概要から募集職種、採用試験などについて説明をもらいます。本学OB・OGが参加する機会も多く、生の情報を得ながら参加学生は企業研究を進めています。

資格取得等対策講座



公務員など専門的な対策が必要とされる就職試験に向けたものから、分野に限らず仕事をするにあたって有用と思われる資格など幅広い分野にわたって各種の講座を開講しています。

簿記検定試験対策講座

簿記の知識は社会のあらゆる仕事や生活で役に立ちます。この講座では基本的な商業簿記および記帳、決算などに関する実務を学び、毎年11月に実施される日商簿記検定試験の合格を目指します。

MOS試験対策講座

オフィス事務のスタンダードソフトであるExcelやWordなどの利用能力を証明する資格試験です。試験合格に向けて受験勉強をすることにより、各ソフトの機能を体系的に習得できます。

ファイナンシャルプランナー検定試験対策講座

貯蓄計画、投資対策、税金対策など、総合的に資産計画を行う専門家であるファイナンシャルプランナー検定試験の合格を目指す講座で、金融機関や証券、保険会社を志望する学生に人気があります。

秘書検定試験団体受験

ビジネスシーンで必要な一般常識や接遇・マナーといった分野を学ぶ検定です。基本的なマナーを身につけておけば、就職活動の際にも人事担当者や面接官に好印象を与えることができます。

公務員試験対策

公務員試験対策講座

公務員特有の学科試験について、教養と専門の2講座を開講し、1~2年かけて勉強しています。料金は市価の約半額と格安で受講できます。

公務員試験直前演習講座

公務員試験を直前に控えた5月から6月にかけて模擬問題を中心とした答案練習を行います。公務員志望学生はこの講座を受講し試験対策の総仕上げを行います。

合格者の声

苦手な教科の克服や出題傾向が学べ、念願の公務員に

Q 公務員講座を受講していかがでしたか？

学内で受講できる公務員講座は、予備校に通う必要がなく時間のロスもないでの、しっかりと講義に打ち込むことができました。教材には必要な知識や練習問題が網羅されており、効率よく勉強することで苦手な数学も克服できました。

Q 大学で学んだことをどのように活かしたいですか？

大学では中山間地域について研究していたため、将来は藤枝市の中山間地域の活性化に活かしたいと考えています。移住者同士や移住を考えている人の交流の場を企画するなど地域を盛り上げていく仕事に携わりたいです。

藤枝市役所 青田涼太郎 国際文化学科 4年 静岡県立焼津中央高校出身



就職内定者からの声

学内の業界説明会やセミナーはできる限り参加。
自分のためになることを吸収し、向上心を持って夢をつかめた



Q | 就職活動を通して、意識したこと、取り組んだこと

「一緒に働きたい」と思ってもらえるよう、相手の求めるることを考え行動しました。就活はオンラインが中心だったので、挨拶やリアクションを明確にし、質問や発言を積極的にするよう心がけました。また学内の業界説明会にはできる限り参加し、自分のためになることを吸収しました。志望度の高い企業の説明会には、毎回足を運んで顔を覚えていただき、企業の方と近い距離感を築けたことも強みになったと感じています。

Q | 学内の就職支援をどのように活用しましたか？

就職活動時期はキャリア支援室に何度も通いました。企業の情報はもちろん、インターンシップや面接対策など大変お世話になりました。エントリーシートも事前に添削していただき、自信を持って選考に臨むことができました。キャリア支援室は、継続的に手厚くサポートしてくださるので、いただいた助言をもとに一つひとつクリアしていくべき上手くいく…そんな向上心を持って努力することができたと思います。

天野名菜 文化政策学科 4年 愛知県立豊橋東高校出身



ヒトやモノに対する興味が自分のストロングポイント。
積極的に動くことで、自分が志す道に進むことができた



Q | どんな学びや活動が就職につながりましたか？

大学でプロダクトデザイナーの守備範囲の広さを知り、GKダイナミックスの方の講義を受けたことが、幅広いデザインを手がけるデザイナーを志したきっかけです。ヒトやモノに対する興味が自分のストロングポイント。興味がある授業、企画、コンペなど積極的に取り組み、知識や経験値を増やし、多角的な視点でデザインができるようになりました。

Q | キャリア支援室のサポートで役に立ったことは？

キャリア支援室には面接練習や結果報告などで頻繁に通いました。自分を覚えてもらい、企業のデザイナー募集の情報もいただきました。心強かったのは「就活は誰かに頼っていいもの」だと思わせてくれたこと。一人で闘う受験とは違い、就活は周りに頼ることが大切です。頼っていい場所、助けてくれる人がいることは大きな支えになりました。



安部 涼 デザイン学科 インタラクション領域 4年 静岡県立浜松南高校出身



●●● 取得可能な資格等／文化政策学部

	国際文化学科	文化政策学科	芸術文化学科
1 中学校教諭一種	国語/英語	社会	—
1 高等学校教諭一種	国語/英語	公民	—
2 図書館司書	○	○	○
3 学校図書館司書教諭	○	○	—
4 博物館学芸員	—	—	○
5 日本語教員養成課程	○	○	○
6 社会調査士	○	○	○

1 教育職員免許状 [中学校教諭一種・高等学校教諭一種]

中学校教諭一種・高等学校教諭一種の免許状を取得できる教職課程を設けています。教職課程を履修し、必要な科目的単位を修得するとともに教育実習(2~4週間)、中学校一種はさらに特別支援学校・社会福祉施設などで介護等体験実習(7日間以上)を行うことが必要です。教員として就職するには教員採用試験に合格することが条件となります。

2 図書館司書

図書館で専門的職務に従事する職員に求められる資格です。司書課程を履修し、必要な科目的単位を修得することで資格が得られます。また、課程科目を履修する中で、大学での学修や仕事上必要となる、情報・資料・文献の探索方法や組織化などに関する知識や技術を身につけることができます。

3 学校図書館司書教諭

小・中・高等学校の学校図書館で専門的職務(図書の情報提供、読書指導、情報教育推進を担うメディア専門職などの役割)に携わる司書教諭になるための資格です。教職課程を履修し、教員免許状を取得することが前提です。加えて司書教諭課程を履修し、必要な科目的単位を修得することで資格が得られます。

4 博物館学芸員

博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究のほか、これらの関連事業について専門的事項に携わる職員となるための資格です。美術館、資料館、水族館、動物園、植物園などでも専門職として活躍できます。学芸員養成課程を履修し、必要な科目的単位を修得するとともに博物館実習を行うことで資格が得られます。

5 日本語教員養成課程

日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語教員養成課程修了証」を発行します。

6 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

合格者の声

夢に向かって成長していく生徒たち そのサポートができる先生になりたい

Q | 教職課程を履修する中で
どんな経験が印象に残っていますか？

学生同士が先生役と生徒役になる模擬授業では、授業の準備や教えること自体、難しいと感じながらも楽しく取り組むことができました。緊張もしましたが、人前に立って教える事前の練習になりました。教育実習では、生徒が理解できるように、わかりやすく伝える難しさと大切さを学びました。4クラスを担当したことでクラスの雰囲気の違いもわかり、生徒たちの個性に合わせて教えることの大切さを感じました。

Q | 教員になるために
取り組んでいたことはありますか？

子どもたちと関わる機会が欲しくて、少年自然の家で4年間ボランティアスタッフとして活動しました。他大学の学生や施設の職員の方と共に活動することで、人と協力する力が養えたと思います。家庭教師や塾のアルバイトでも教える経験を積みました。教室での指導とは異なる点は多々ありますが、わかりやすい説明の仕方を身につけることができました。将来は、生徒の成長をさらに伸ばせる教育者になりたいと思います。

静岡県教育委員会(中学校教員)

唐木結菜 国際文化学科 4年 静岡県立藤枝東高校出身



●●● 取得可能な資格等／デザイン学部

デザイン学科	
① 建築士受験資格	<input type="radio"/> 建築士受験資格は、所定の単位を取得した場合に得られます。
② インテリアプランナー資格	<input type="radio"/> インテリアプランナー登録資格は、所定の単位を取得した場合に得られます。
③ 商業施設士補資格	<input type="radio"/>
④ 日本語教員養成課程	<input type="radio"/> 他学部他学科科目(国際文化学科専門科目)の履修が必要なため、計画的な履修が必要です。
⑤ 社会調査士	<input type="radio"/>

1 一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格

建築士は建築物の設計および工事監理を主業務とし、建設会社や建築設計事務所、官公庁などで活躍できます。定められた科目の単位を取得し卒業することで、建築士資格を得るための試験を受験する資格を取得できます。さらに本学卒業後、本学大学院デザイン研究科に進学し、所定の科目の単位を取得すれば、免許登録要件としての実務経験年数(2年)として認定されます。

2 インテリアプランナー資格

インテリアプランナーは、インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことです。設計製図試験に合格・登録し、所定の実務経験を経ることにより、インテリアプランナー資格を得られます。本学の所定の単位を取得することで、合格後の実務経験が免除されます。また、20歳以上の人には受験資格があり、在学中でも学科試験に合格・登録すると、アソシエイトインテリアプランナーの称号が付与されます。

3 商業施設士補資格

商業施設士補資格とは、商業施設の企画・設計・デザイン・監理等に関する知識を有していることを証した資格制度です。本学の所定の単位を取得し、商業施設士補資格講習会を受講修了することにより資格が取得できます。最短で2年生の段階で商業施設士補を取得することができ、商業施設士補資格取得後は在学中でも商業施設士にチャレンジすることもできます。

4 日本語教員養成課程

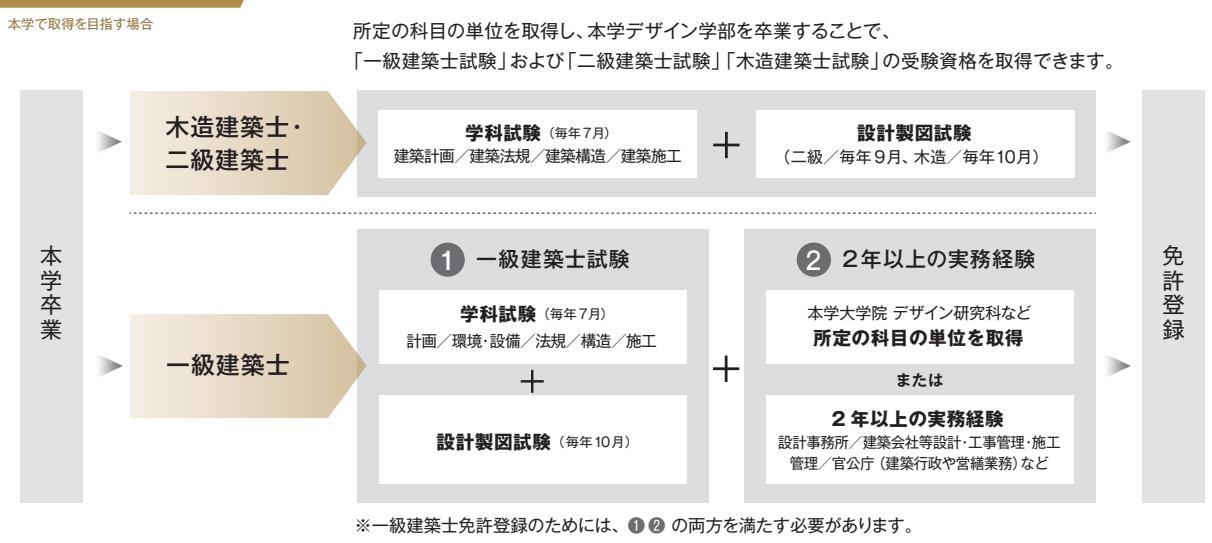
日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語教員養成課程修了証」を発行します。

5 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

建築士資格取得の流れ

※受験資格や免許登録要件は2022年3月時点のものです。「建築士法」の改正等により変更されることがあります。



国際交流

● 留学経験者の声



現地小学生と外国籍大学生の交流プログラムに参加。ビデオ通話で交流を行いました。実際に小学校に行き、子どもたちから歓迎を受けた時は感動しました。

街で言葉が通じる喜びが、中国語力アップの励みに

Q | 留学しようと思ったきっかけや目的を教えてください

1年次の夏、国立台湾師範大学での語学研修で、現地で学ぶ楽しさを実感。この大学は、留学生(外国人)対象の学科があるので、高度な中国語コミュニケーション能力を養いつつ、クラスメイトとの交流で国際的な視野も広がると思い、2年次に留学しました。授業で学んだ内容を街で実践し、言葉が通じた時の喜びは、中国語を学ぶ原動力になりました。

Q | 留学中に得たもの、成長したと感じることはありますか？

現地の小学生と外国籍大学生との交流事業では、チームに日本人は1人だったので不安もありましたが、挑戦心を持って自分から行動するように心がけたことで、成し遂げる力を培えたと思います。自分の意見を言うことの大切さを肌で感じ、人前ではつきり発言できるようになりました。留学は価値観や考え方が変わる良いきっかけとなります。ぜひ挑戦してみてください。

2年次に1年間 留学 小澤佳穂 国際文化学科 4年 愛知県立国府高校出身

1年次	2年次	3年次
<p>4月 留学を検討開始</p> <p>8~9月 台湾へ語学研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中国語履修開始 ●全日本中国語スピーチコンテスト 静岡県大会朗誦部門優勝 ●HSK4級、口試初級合格 	<p>4~8月 情報収集、オリエンテーション、留学準備等</p> <p>9~7月 台湾へ長期留学</p> <ul style="list-style-type: none"> ※5~7月はオンライン授業 ●TOCFL(華語文能力測検)高階級合格 	



オンライン留学で語学研修、マンツーマンで実力アップ

Q | オンライン留学とは？どんな学びができますか？

英語の短期語学研修としてオンライン留学を選びました。デラ・サール・アラネタ大学の魅力はマンツーマンで学べること。1コマ50分の授業を1日2~3コマ受講でき、グラマーやスピーキングなど科目ごとに異なる先生から指導が受けられます。日本同様、フィリピンも英語は第二外国語のため、先生方がテンポを合わせてくださり、スムーズに会話ができるようになりました。

Q | 留学の前と後で変わったこと、良かったと思うこと

研修最後のテストを受けた際、自分でも「解けた」という手応えがあり、実際に成績を上げることができました。大学の授業でも留学前より理解度が高まり、英語力のアップを感じています。オンライン留学は費用面もリーズナブルなので挑戦してみたい人におすすめです。次は仏語が学べるカナダへ、長期留学に行ってみたいと思っています。

2年次に10日間 オンライン留学 奥山 海 国際文化学科 2年 愛知県立名古屋西高校出身

留学への支援

本学学生の留学支援のために

- SUACによる奨学金・奨励金制度
- 日本学生支援機構による奨学金制度
- 海外協定校で取得した単位の本学卒業認定単位への換算(4年間での卒業も可能)等

海外からの留学生支援のために

- 単位互換、留学生宿舎の提供 等【交換留学生】
- 授業料減免制度、奨学金制度 (SUAC、日本学生支援機構) 等【私費留学生】
- 留学生交流会・研修旅行の実施

留学生トータルサポートプログラム

本学主催の留学・語学研修生には、指定の海外旅行保険を用意しています。これにより、海外での万一の事件・事故への対応力を高め、迅速なサポートを可能にします。備えを万全にして、充実した留学生活にできるよう環境を整えています。

●●● 世界に広がる留学先

本学の基本理念である「国際社会に貢献する開かれた大学」の実現に向けて、海外の多様な大学と交流協定を結び、様々な交流事業を展開してグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。



海外協定校 (19校) (2022年3月現在)

フィンドレー大学 / アメリカ合衆国



1882年に開学し、現在は経営学部、教育学部、医療学部、教養学部、薬学部、理学部の6学部からなる総合大学です。オハイオ州に位置し、学生数約4,000人、地域との結びつきが強く、留学生に対するサポート体制も充実しています(留学生は日本、タイ、マレーシア、インド、サウジアラビア、韓国、中国等30カ国から来ています)。

イズミル経済大学 / トルコ



2014年より産学共同国際ワークショップで交流を深めてきたトルコ・イズミル経済大学と交流協定を締結しました。イズミル経済大学(2001年創立)は、2大学院、7学部、2専門学校からなる総合大学で、英語で授業、外国籍の教員が多数在籍する国際色豊かな大学です。デザイン学部を有しており、デザインワークショップ開催、留学生受け入れなど交流を行っていきます。

ブルゴーニュ大学 国際フランス語センター / フランス



ブルゴーニュ大学は、1722年創立、フランスのブルゴーニュ地方に5つのキャンパスを持つ国立総合大学で、学生数27,000人、教員数4,000人を数えます。国際フランス語センターは、ディジョン市のメインキャンパス内にあり、大学の学部に相当する一機関として毎年1,500人以上の留学生を受け入れています。

アイルランガ経済大学 人文学部 / インドネシア



1954年にインドネシア第2の都市スラバヤに設立された国立総合大学。人文学部には2006年に日本研究学科が開設され、4学年あわせて200人を超える学生が日本文化を学んでいます。本学からの留学生には人文学部の授業のほかに留学生別科BIPAでの語学科目も単位認定されます。

その他の提携校

ボローニャ大学 / イタリア

ウェ尔斯大学リミニティ・セント・ディビッド / イギリス

コートダジュール大学サステナブルデザインスクール / フランス

国立高等装飾美術学校 / フランス

ルール大学ボッフム / ドイツ

ワルシャワ美術アカデミー(予定) / ポーランド

サザンクロス大学 / オーストラリア

サンパウロ大学 / ブラジル

ウヤナ大学 / インドネシア

国立台湾師範大学 / 台湾

ダッカ大学 / バングラデシュ

湖西大学 / 大韓民国

華東師範大学 / 中華人民共和国

上海工程技术大学 / 中華人民共和国

浙大城市学院 / 中華人民共和国

語学研修

実体験を通じて異文化への理解を深めることは、真の国際人としての感性を養う上で、欠くことのできない条件です。本学では世界に通じる人材育成を目指して、世界各国への研修を実施するなど、語学研修の充実に努めています。(毎年プログラム内容を見直しています)

2021年度 語学研修先

- エメラルド カルチュラル インスティテュート / アイルランド : 英語
サザンクロス大学 / オーストラリア : 英語
ワーロンゴン大学 / オーストラリア : 英語
ヴィクトリア大学 / カナダ : 英語
デ・ラ・サール・アラネタ大学付属語学センター / フィリピン : 英語

- キュリオスワールド / フィリピン : 英語
セブ ベリス インスティテュート / フィリピン : 英語
国立台湾師範大学 / 台湾 : 中国語
湖西大学 / 大韓民国 : 韓国語

●●● 学内での取り組み

現地での国際交流が困難な状況の中、SUACでは新しいスタイルの国際交流を提案し、実施しています。

産学共同国際デザインワークショップ Bentenjima Tele-Workshop

開催期間／2021年9月6日～9月10日

場 所／浜松市舞阪協働センター、静岡文化芸術大学（海外の学生とはオンラインで通信）
協力・後援／浜松市、We will accounting associates株式会社、スズキ株式会社、
株式会社東海理化、浜松テレワークパーク実現委員会

SUACの学生がイズミル経済大学（トルコ）とワルシャワ美術アカデミー（ポーランド）の学生とチームを組み、デザイン提案を行うワークショップを行いました。テーマは、弁天島海浜公園や浜松城にて実証実験が進められてきた「駐車場をコワーキングスペースとして活用し新たな働き方を提案するテレワークパーク」に対するPSS*デザイン。弁天島（浜松市）の風景をバックにトルコとポーランドの学生と共に3カ国の学生たちがチームを組み、遠隔ツールを使いながら英語でディスカッションを行い、協働してPSSデザインを提案しました。※PSS=Product, Service and System



ジャパン・ハウス サンパウロ オンラインインターンシップ

開催期間／2021年9月8日～2022年1月18日

ジャパン・ハウス サンパウロ（JHSP）と静岡県、静岡県人会が協力して実施する「ブラジル青年派遣事業」。SUACの学生が参加して、2021年度で4年目です。「ブラジル青年派遣事業」は毎年テーマを定め、日本の魅力を伝えるために学生が調査、提案、発表を行うもので、2021年度のテーマは「ガストロノミー（食文化）」。参加者は約5ヶ月間議論し、調査や取材を重ねました。コロナ禍以前は現地（JHSP）でインターンシップと発表会を行いましたが、コロナ禍以降はSUACと現地をつなぐオンラインでの発表を行っています。



語学パートナー

留学生と日本人学生が互いの母語を教え合う「語学パートナー」。自然な言い回しやネイティブな発音を教え合える環境で、言語の交流だけでなく、お互いの文化についても会話するなど、身近な国際交流の取り組みとなっています。



多文化・多言語教育研究センター

多文化・多言語教育研究センターは、これまでの英語・中国語教育センターの基盤の上に、2022年4月に新たに設立されました。これまでの取り組みに加え、多様な言語の学習だけでなく、多文化社会を理解し、積極的にかかわれるグローバル人材育成のための教育・研究を行っています。

これからも学生が主体的に、楽しく関わる場をつくりていきます。お気軽にお立ち寄りください。



センターの主な取り組み

- 英語、中国語のネイティブスピーカーによる授業間以外の学習支援
- 多言語教育の強化
- 多文化包摂的な大学の環境づくり
- 日本語教育の強化
- 地域連携の促進



教員紹介



下澤 獨 SHIMOSAWA Takeshi

センター長／国際文化学科教授
国際協力／NGO・NPO

多文化的な大学や社会のあり方や課題などを、身近に感じ、深く学べる場として、学生の皆さんをサポートしていきたいと思います。



上村 明英 UEMURA Akie

特任講師
英語教育／グローバル教育

英語学習を通して学習者が知識や視野を広げたり、異文化に興味を持ち、理解しようとする過程を支援したいと思っています。



羅 沢宇 LUO Zeyu

特任講師
言語学／言語接触／言語習得

第二言語が母語に与える影響を研究しています。中国語の学習を通して母語である日本語にも理解と愛情を深めていきましょう。



Edward Pearse SARICH

センター長補佐／国際文化学科教授
英語教育

I hope the Center will provide students with a comfortable space where they can explore using language in meaningful ways.



Nicholas James COOPER

特任講師
英語教授法／動機付け研究

I aim to help students find motivation for learning English by connecting their language studies to the world around them.

佐野 由紀子 国際文化学科教授 日本語学／日本語教育

佐伯 康考 国際文化学科准教授 国際的な人の移動研究

高山 靖子 デザイン学科教授 プロダクト・サービスデザイン

CAMPUS-LIFE

Faculty of Cultural Policy and Management Faculty of Design

キャンパスライフ in SUAC

新たにはじまる大学生活。

学業やクラブ活動、課外活動を通じた
様々な出会いと経験が待っています。

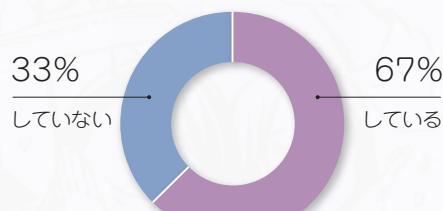
STUDENTS' DATA

一人暮らし or 実家暮らし



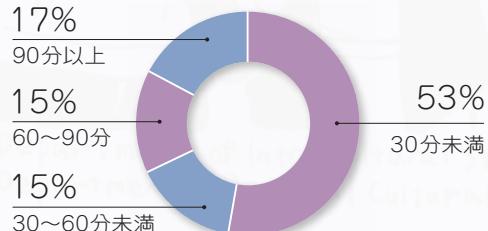
「一人暮らし」と「実家暮らし」の比率は、全体でおよそ半々。
愛知県東部出身学生は実家から通う人もいます。
一人暮らしの家賃は、4万円～5万円が最も多いようです。

アルバイトしてる?



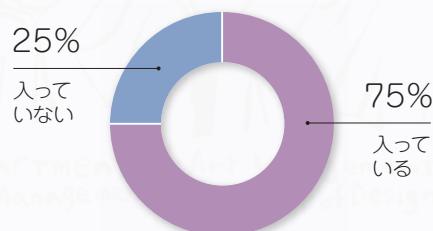
アルバイト期間は長短ありますが、約9割の学生に
アルバイト経験があります。学年が上がるごとに従事する
学生が増える傾向に。

通学時間はどのくらい?



通学手段の約半数が「徒歩」「自転車」ということもあり、
30分以内が最多。最寄り駅のJR浜松駅からは
徒歩約15分のアクセスです。

クラブ・同好会に入ってる?



全体で約7割の学生がサークルに所属。特に学部1、2年次は活発に
活動しています。複数のクラブ・同好会や学内外活動に参加する学生も。
「面白そう」と思ったら、まずは参加してみる積極性が大事ですね。

クラブ・同好会

大学公認の学生団体



〔スぺルサークル「ごす」〕



合氣道部



吹奏楽部「SUAC Wind Ensemble」

P@tch-code
(音響照明技術研究会)

舞台の音響照明の知識や技術を学ぶ、芸術文化学科を擁する SUAC ならではのクラブ。音響照明スタッフとして大学行事や大学祭、音楽・ダンス系イベントなど、学内の催しでは大活躍!



りとるあーす
(フェアトレード推進)

学内外でフェアトレードの啓発活動を行うなど、フェアトレードの推進を目的に活動している大学の公認クラブ。2018年2月に国内初となる「フェアトレード大学」となった SUAC の中心的な存在として活躍しています。



書法俱楽部「彩筆會」



映画制作チーム「bf」



ダンス部「URR」

クラブ・同好会 (登録団体 ※2022年3月時点)

Sports 体育系

- スポーツ
- バドミントン部
- アルティメットサークル
- バレーボール部
- 硬式テニス部
- 女子フットサル部
- ヨガサークル「YO☆GIRLS」
- バスケットボール部
- サッカー同好会「S-LAB」
- 軟式野球部「スパイアラズ」
- 陸上サークル「SuActive」
- 武道
- 合気道部
- 弓道部
- ダンス・舞踊
- ダンス部「URR」
- ストリートダンスサークル「闇鍋」
- よさこいサークル
「浜松学生連 鰐陀羅」

Culture 文化系

- 伝統文化
- 書法俱楽部「彩筆會」
- 着物俱楽部
- 茶道部
- 華道サークル「花籠」
- 文芸かるたサークル
- 舞台芸術
- 音響照明技術研究会「P@tch-code」
- 現代劇創作サークル「ecru」
- 演劇鑑賞等活動サークル「劇院中心」
- デザイン・ものづくり
- モビリティ研究会「COCOON」
- 建築研究会「Ken-Ken」
- 陶芸部
- BALLOON ARTS
- MAKE A NEW ONE / 映像作品制作
- 映画制作チーム「bf」
- モノづくり同好会「MONO」
- アクセサリー同好会「ロザンヌ」
- けものみち / 2D グラフィックス作品制作
- 作品制作・展示サークル「En」
- その他の文化芸術
- 放送部「SUAC Broadcast Club」
- 写真同好会「TaP!」

- Enjoy Arts Project
/ イベント・ワークショップの企画運営
- 漫画研究サークル「Black or White」
- SUAC Kitchen
- 音楽
- 吹奏楽部「SUAC Wind Ensemble」
- 軽音楽部
- ゴスペルサークル「ごす」
- 弦楽合奏同好会
- ジャズ研究会「BREATH」
- エレクトーンサークル「Tutti」
- りとみっくサークル「♪」
- ボランティア(国際・地域)
- CSN 浜松 / 子どもの学習支援、イベント運営
- LA-VoC (ラボック) / 中山間地域の活動
- Habitat for humanity Alicia
/ 国内外の住居問題ボランティア
- りとるあーす / フェアトレード推進
- その他
- 教職スクランブル
- 天文サークル「Sirius」
- 謎解き研究会【DetEQtive】



学生の自治組織

- 学友会本部
- 碧風祭運営委員会
- 生協学生委員会「GI」

イベントカレンダー



学内行事&講義

主なキャリア支援行事

入試

4月 April	前期授業	● 入学式 ● ガイダンス	●【全学対象】第1回就職ガイダンス ●【デザイン学部対象】第1回就職ガイダンス	● 大学院募集要項配布(5月上旬)
			●【全学対象】第2回、第3回就職ガイダンス ●【デザイン学部対象】第2回、第3回就職ガイダンス ● 適性検査	● 入学者選抜要項配布(7月下旬)
			●【全学対象】第4回、第5回就職ガイダンス ● 業界研究セミナー ● インターンシップマッチング会 ● 1年生向けガイダンス	● 8/6~7 オープンキャンパス
			● 2年生向けガイダンス ● 大学院進学説明会	● 学生募集要項(学校推薦型選抜、特別選抜)配布(9月下旬) ● 9/14 大学院入試(A日程)
			●【全学対象】第6回、第7回就職ガイダンス ●【デザイン学部対象】第4回就職ガイダンス	● 学生募集要項(一般選抜)配布(10月下旬)
			●【全学対象】第8回、第9回就職ガイダンス ●【デザイン学部対象】第5回就職ガイダンス ● 1年生向けガイダンス ● 業界研究セミナー	● 11/19 学校推薦型選抜(公募制/英語重点型公募制) 特別選抜(社会人/文化政策学部帰国生徒・外国人留学生)
			●【全学対象】第10回、第11回就職ガイダンス ● 2年生向けガイダンス	
			●【全学対象】第12回、第13回就職ガイダンス	● 1/14~15 大学院入試(B日程)
			●【全学対象】第14回、第15回就職ガイダンス	● 2/25~26 一般選抜(前期日程)
			● 7 大学院主催合同企業セミナー ● 模擬面接・グループディスカッション講座	● 2/25 特別選抜 (デザイン学部帰国生徒・外国人留学生)
			● 芸術学生向け合同企業説明会	● 3/12 一般選抜(後期日程)
			● 卒業式 ● 語学研修	

※入試関連日程の詳細はWebサイトでご確認ください。

教えて先輩！SUACライフの過ごし方

興味のある活動に参加したり、サークルに打ち込んだり、友達と刺激し合ったり…
先輩たちは、どんな日々を送っているのか、のぞいてみよう！

着物の着付けや華道のお稽古。 大好きな日本文化を中心に たくさんの文化に触れていきたい

司書資格を取りたいと思いSUACへ。文系の学問を幅広く学びつつ、デザインの授業も受けられるのが楽しいです。日本文化が好きなので、着物倶楽部と華道サークル「花籠」に入部。着物倶楽部では着付けだけでなく、作法やマナーも教えていただけて、いいことづくめです。前期の文化芸術体験演習では、落語や狂言など、自分一人では体験できないような日本文化に触ることができました。大学生活はすべてが自由で、自分で決められるのが最大の魅力。もっとたくさんの文化に触れ、経験を積んでいきたいです。

Weekly schedule／1年後期

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		リサーチ&プランニング基礎			社会心理学
2 10:40~12:10		英語コミュニケーションⅡA	情報システム論	空間とデザイン	英語コミュニケーションⅡB
3 13:00~14:30	人権論				
4 14:40~16:10			現代社会と教育		文化人類学
5 16:20~17:50	地方行政論			異文化と教育	経済学

着物倶楽部

華道サークル「花籠」(隔週)

惣菜店でアルバイトをしています。バイト代が貯まつたら、日本や海外の図書館や美術館巡りをしたいです。



週に一度は粋な“ニホン”を 楽しく学ぶ

着物倶楽部では週に一度、先生方に来ていただいてお稽古をしています。浴衣や着物の着付けはもちろん、歩く場面や食事の場面などの作法も教えていただけます。部室にはたくさん着物や小物が揃っているので、自分のものを持っていなくても好きにコーディネートが組めて楽しいです！

中村晴乃

NAKAMURA Haruno

文化政策学部 文化政策学科 1年
三重県立津西高校出身

できるコトをやってみよう！ 新しい出会いや発見で 大学での時間を有意義に

高1の時に新聞でSUACに匠領域が開設されるという記事を読み、進学を決意。日本伝統建築に興味を持って学んでいます。大学に入ってから一番の変化は「何事にも挑戦しよう」という気持ちが芽生えたこと。入学直後に先生と連絡をとり研究室を訪ねたり、ジャパン・ハウス サンバウロとのオンラインインターンシップに参加したり。建築サークルや碧風祭運営委員会にも所属し、忙しく充実した毎日です。「機会があったらやってみる」ことで世界は広がるし、いい刺激がもらえると思います。

Weekly schedule／1年後期

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		英語コミュニケーションⅡA	デザインCAD	英語コミュニケーションⅡB	情報社会論
2 10:40~12:10	スポーツ科学	基礎演習F	デザインCAD	空間とデザイン ミーティング	
3 13:00~14:30	★ ミーティング	基礎演習F	造形芸術論	建築デザイン論	
4 14:40~16:10	基礎演習D1		現代社会と教育		文化人類学
5 16:20~17:50	基礎演習D1				★ アルバイト

アルバイト

月・木のお昼は、ジャパン・ハウス サンバウロ オンラインインターンシップのミーティング。碧風祭運営委員会の制作局に所属しているので、文化祭が近づくとより忙しい日々です。週2日、塾でアルバイトをしています。



ジャパン・ハウス サンバウロ
「ブラジル青年派遣事業」

ブラジルと日本、 文化でつなぐ面白さ

日本の対外発信拠点として設立されたジャパン・ハウス サンバウロとのオンラインインターンシップに参加しています。この事業では日本文化をブラジルの方に伝える活動をします。週に2回ミーティングを行い、オンラインで行う最終成果発表会の日までに完成度の高いプレゼンを創り上げます。ブラジルの方や他学部、他学年の人とも交流できることは自分の視野が広がり、とてもいい刺激になっています。

藤田さと

FUJITA Sato

デザイン学部 デザイン学科 1年
静岡県立磐田南高校出身



先生との距離感の近さもプラスになって 1年次からいろいろ挑戦。 やることは、やってみよう!

崔先生の中国語を受講したことがきっかけで、様々な活動に参加しています。1年次の夏には台湾へ語学研修に、2年次には訪中団の一員として北京を訪問。今はゼミ活動の一環で「学生知的財産活用ビジネスアイデアプレゼン大会」の発表に向けて準備中です。高校までは超消極的だった私が、先生から「やってみよう!」と背中を押していただいたことで、「興味があればやってみよう」と思うようになりました。自分がやりたいこと、好きなことができていて、毎日が刺激的です。

Weekly schedule／3年後期

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30			古文書の調査 と読解		
2 10:40~12:10			★【星】日経新聞講読会(ゼミ)		
3 13:00~14:30		日本文学 作品研究	ゼミ		日本語研究
4 14:40~16:10		日本文学史			中国古典学
5 16:20~17:50					

公務員試験対策講座

MONO(同好会) 公務員試験対策講座

自宅から新幹線で通学しています。子どもと触れ合うのが好きなので、月曜日と土曜日は塾でアルバイト、日曜日は児童の活動をサポートするアルバイトをしています。



学生知的財産活用ビジネス アイデアプレゼン大会

超消極的だった私。
チャレンジで世界が広がっていく

「学生知的財産活用ビジネスアイデアプレゼン大会」は、大学生が提供された特許を活用し、新しい商品を考案・プレゼンするものです。チーム内だけでなく、現役社会人とのやりとりが必要なため、将来に役立つことを多く学べます。チームの仲も深まり、学生生活の充実にもつながりました。

板倉花奈

ITAKURA Hanna
文化政策学科 国際文化学科 3年
静岡雙葉高校出身



学内だけでなく外の世界を知る。 型にとらわれない挑戦こそ 自分の学びと成長に

ゼミでパッケージやロゴのデザインを学び始めてから、その面白さにどんどん魅了されています。今手がけているのは、静岡市井川地区の農家のプランディング。このほか、产学連携による自動車用品メーカーとの商品開発や、浜松市の小学生向け市民講座で使用するすごろくゲームを作成中。SUACは、学内だけでなく学外のプロジェクトに参加する機会や学びの場を提供してくれるので、新しい発見が多く、視野の広がりを感じています。型にとらわれず、様々な分野でデザインを学んでいきたいです。

Weekly schedule／3年後期

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		産学連携 打ち合わせ			
2 10:40~12:10		↓	総合演習I プロダクト デザインプロセス		
3 13:00~14:30	世界建築史	インダストリアル グラフィックス		木のデザイン	
4 14:40~16:10					
5 16:20~17:50		コミュニケーション プロダクツ			

小学生向け市民講座会議

飲食店や塾の講師など、週2~3日、アルバイトをしています。
学外のプロジェクトに携わる機会も多く、新しい出会いや発見を有意義に感じる毎日です。



静岡市井川地区の 農家のプランディング



現場で声を聞き、感じたものから デザインが生まれる

静岡県静岡市の山間地・井川地区で在来作物を使った商品を販売する農家さんを訪問し、プランディングのお手伝いをしています。山間地へ移住して農業に取り組む熱意や行動力に感動し、実際に現地を訪ね、生産者の声を聞くことが大事だと実感。デザインでその活動を応援するため、奮闘しています。

福本 拓

FUKUMOTO Taku
デザイン学部 デザイン学科
プロダクト領域 3年
京都府立南陽高校出身

SUACに集まる学生たち



出身国

4 力国

出身県

47 都道府県

在籍者数

1,461 人

在籍者数 (2022年4月1日現在)

学部	学 科	1年生	2年生	3年生	4年生	学科計
文化政策学部	国際文化	109	109	106	123	447
	文化政策	63	57	59	65	244
	芸術文化	60	57	60	70	247
	学 部 計	232	223	225	258	938
デザイン学部	デザイン	119	116	119	131	485
	学 部 計	119	116	119	131	485
2学部計		351	339	344	389	1,423

大 学 院	研 究 科	1年生	2年生	研究科計
大 学 院	文化政策	4	9	13
	デザイン	12	13	25
	院 計	16	22	38

静岡県内はもとより、北は北海道、南は九州・沖縄まで、全国各地から学生が集まっています。

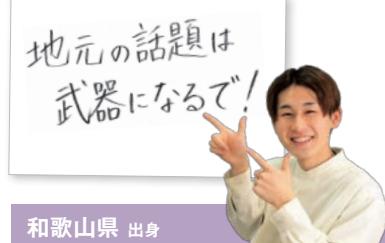
大学で“見つけたこと”は 何ですか？

全国から個性豊かな学生が集まるSUAC。
先輩たちのメッセージが届きました。



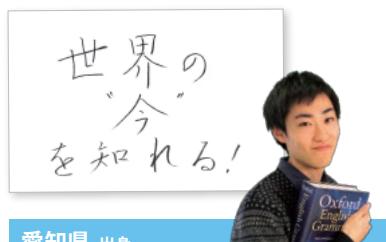
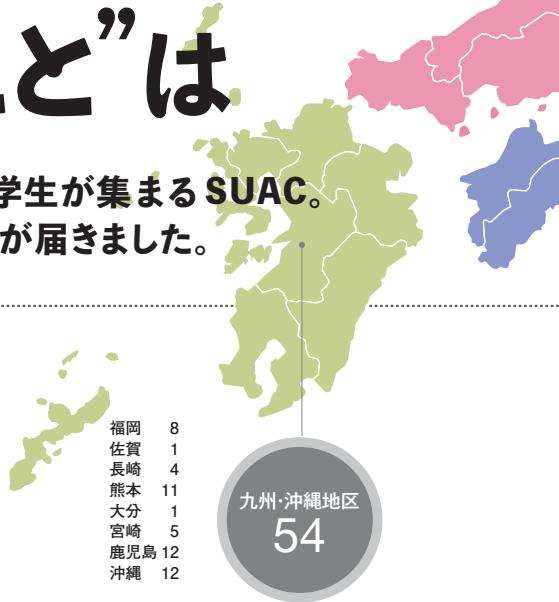
長野県 出身

小林飛陽 デザイン学部 デザイン学科 2年
長野県長野高校出身



和歌山県 出身

須佐寛太 文化政策学部 文化政策学科 2年
和歌山県立桐蔭高校出身



愛知県 出身

稲井祥悟 文化政策学部 国際文化学科 3年
愛知県立日進西高校出身



長崎県 出身

田中真斗 デザイン学部 デザイン学科 3年
長崎日本大学高校出身



千葉県 出身

小林花音 文化政策学部 芸術文化学科 2年
千葉県立葉園台高校出身



CAMPUS-LIFE

国際文化学科

文化政策学科

芸術文化学科

デザイン学科

ものと SUAC

文化芸術研究センター

キャリアサポート

国際父流／多文化多言語教育研究センター

キャンパスライフ

カリキュラム
インフォメーション

北海道から沖縄、 さらに海外から様々な学生が 集まっています。

鳥取 4
島根 8
岡山 19
広島 8
山口 2

中国地区
41

新潟 20
富山 9
石川 10
福井 13
長野 34

滋賀 9
京都 12
大阪 13
兵庫 15
奈良 2
和歌山 7

関西地区
58

SUAC

東海地区
994

四国地区
40

徳島 4
香川 8
愛媛 18
高知 10

静岡 551
愛知 329
岐阜 61
三重 53

齋藤綺音
北海道出身
文化政策学部 芸術文化学科 3年
北海道旭川東高校出身

中村優里
青森県出身
デザイン学部 デザイン学科 3年
青森県立八戸東高校出身

久保颯太朗
高知県出身
デザイン学部 デザイン学科 2年
土佐高校出身

橋本成美
静岡県出身
文化政策学部 文化政策学科 3年
静岡県立浜松商業高校出身

北海道地区
13

青森 6
岩手 10
宮城 7
秋田 1
山形 3
福島 8

東北地区
35

外国・その他
(高卒認定等)
7



韓国出身
崔準城 デザイン学部 デザイン学科 2年
居昌中央高校出身



青森県出身
中村優里 デザイン学部 デザイン学科 3年
青森県立八戸東高校出身



岡山県出身
梅本奈穂 デザイン学部 デザイン学科 3年
岡山学芸館高校出身



キャンパスガイド



1 出会いの広場



2階にありながら人工地盤により緑化された、学生と市民の憩いの広場。学生食堂、学生ラウンジ、講義室、図書館・情報センターなどどつながる、大学の中心的スペースです。

2 創造の丘



浜松市内が一望できる屋上庭園は、まさに都会のオアシス。山の尾根、波のうねりを思わせる緩やかな起伏が印象的です。

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、能力の如何にかかわらず、すべての人が利用できるようにモノや空間をデザインするという考え方です。あらかじめ多様な人々の利用を想定し、アクセスを可能にしておく配慮が必要とされています。本学では、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを目指しています。

すべての人にやさしい、アクセシブルな自由空間



多機能型トイレとサイン

トイレの種類は、男性、女性、多目的の3種類。各々の違いを識別できるよう、入口には手が届く高さに点字を設置しています。

音声でも誘導する案内サイン

案内サインは、大学カラーのブルーを基調に、日本語と英語で表示しています。点字案内板も学内11カ所に設置され、音による誘導も行っています。

水飲み場・自動販売機

水飲み場は、車椅子の方でも使いやすい形状で、高さ調整がされています。自動販売機にも、コイン投入口の形状など様々な工夫があります。



キャンパスには、学びに向き合う感性と実力が高まる魅力あふれる環境が整っています。

3 図書館・情報センター



図書館・情報センターは、大学の北西に位置し、約24万冊の図書、約1,600種類の新聞・雑誌、約7,500点の視聴覚資料（CDやDVD等）を所蔵しています。館内には、大型の個人用机（キャレル）をはじめとする約230の閲覧席、グループワークやプレゼンテーションに利用できるメディアステーション等のスペースのほか、学生用貸出パソコンを設置。学内無線LAN（SUAC Wi-Fi）も利用可能です。センターWebサイトでは、所蔵資料をはじめ学術論文などをダイレクトに検索できる機能を備え、様々な学術情報の情報源にアクセスできます。また、学外から資料を取り寄せるサービスやレファレンスサービスなどで、学修や調査研究に必要な資料の入手を支援しています。

「図書館・情報センター」の名のとおり、学生の主体的な学びを支える「知の拠点」として、図書館の所蔵する資料と、ネットワーク上の情報をもとに、多種多様な学修・調査研究に活用できる環境が整備されています。



メディアステーション

2021年秋にリニューアル。タブレットやPCを利用したグループワークやプレゼンテーションなど、多様な学びに対応できるエリアに生まれ変わりました。ガラス面には、デザイナーのイラストを年表風にデザイン。12台のノートパソコンや周辺機器を備え、ル・コレクションやルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエなど著名なデザイナーの名作家具を集め、実際に見たり触ったり、利用しながら文化やデザインを学ぶ空間です。



図書館・情報センター
Webサイト

<https://www.suac.ac.jp/library/>

4 大講義室



いわゆる階段教室の講義室で、219名を収容可能。最新のAV機器を完備し、プレゼンテーションの場としても適しています。

5 講堂



603名を収容できる講堂は、ブラウン系色で統一され、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。大学の行事、イベントやセミナー、学生の発表の場として利用されています。

6 研究棟



教員研究室が集合する12階建ての建物。研究室訪問にはアポイントメントが必要です。

7 学生ラウンジ



8 購買



9 学生食堂



※ 学生食堂と購買は静岡文化芸術大学生協が運営しています。

学費・学生支援制度

各種制度により学生の向上心を受けとめ、様々な相談に応じることができる体制が整っています。

入学生に適用する学納金 (2022年度)

区分	県内の入学者	県外の入学者	摘要
入学金	141,000円	366,600円	入学時
授業料(年額)	535,800円		

※2023年度の学納金については
変更になる場合があります。

学費等の支援制度

修学支援新制度

本学は修学支援新制度の対象機関であり、国が定める要件を満たす学生は、授業料の減免と奨学金の給付をセットで受けることができます。

日本学生支援機構貸与型奨学金

無利子の第一種、有利子の第二種奨学金、さらに入学時特別増額貸与奨学金を取り扱っており、機構が定める要件を満たす学生は、本学の窓口を通じて利用することができます。

長期履修制度

障害等により、履修できる科目数が制限され、4年間での卒業が困難であると認められた学生について、最長で6年間まで4年間分の授業料にて在学できる制度があります。

授業料の分割納入制度

授業料を一括して納入することが困難な場合には、申請により分割して納入する制度があります。

民間団体・自治体の奨学金制度

在学中に応募できる奨学金制度を随時ご案内しています。奨学金制度の中には本学の学生が優先的に採用を受けることができる制度が複数用意されています。

留学支援制度

海外に留学する学生に対する独自の支援制度を用意し、留学の形態に応じた支援を行っています。

学生相談

夢や希望にあふれて大学に入学する一方、新たな生活に不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。

本学では、学科・研究科ごとに学生委員(専任教員)を置いているほか、保健室や学生相談室、修学サポート室を設け、様々な相談に応じる体制を整えています。

オフィスアワー

(教員研究室での個別相談)

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るために、本学ではオフィスアワーを設けています。教室では十分に尋ねられなかつた事項や専門分野の説明などを聞くことができます。

保健室

病気やけが等の応急処置や心身の健康に関する相談に応じます。保健室で対応できない場合は、学校医または専門の医療機関を紹介しますので、お気軽にご相談ください。

学生相談室

心の不安、つまずき等様々な相談に、専門のカウンセラーが応じます。直接相談しにくい内容でも、メールにより相談を受けられるので安心です。

修学サポート室

コミュニケーションが苦手、グループワークがうまくできない、身体に障がいがあるなど大学で勉強する上で困っている学生を個別にサポートします。

CURRICULUM

カリキュラム一覧

文化政策学部

デザイン学部

Faculty of Cultural Policy and Management

Faculty of Design

C O N T E N T S

097 文化政策学部カリキュラム一覧

099 デザイン学部カリキュラム一覧

101 卒業要件単位数／全学科一覧

103 全学科概要

107 文化政策学部科目概要

111 国際文化学科科目概要

117 文化政策学科科目概要

120 芸術文化学科科目概要

123 デザイン共通科目概要

125 デザイン専門科目概要

SUAC

公立大学法人 静岡文化芸術大学

文化政策学部

2023年度 カリキュラム一覧

人間的素養・基礎力の養成

全学科目

導入教育

- 文化芸術体験演習
- 学芸の基礎

教養

人文科学

- 文学
- 哲学
- 心理学
- 宗教学
- 歴史学
- 文化人類学
- 日本文化論
- 静岡学
- 文明と観光
- ユーラシア文明論

社会科学

- 法と社会
- 経済学基礎
- 現代の国際社会
- 現代社会と教育
- 社会学概論
- 社会調査論
- 情報社会論
- 人権論

自然科学

- 数学概論
- 統計学基礎
- 食と健康
- 科学技術論
- エコロジカルデザイン
- スポーツ科学

芸術・デザイン

- 音楽と社会
- 芸術と社会
- 色彩・形態論
- ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
- 映像メディア論
- 空間とデザイン
- デザイン史

必修外国語

英語

- 英語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 英語コミュニケーションⅡA・ⅡB
- 英語コミュニケーションⅢA・ⅢB
- 英語コミュニケーションⅣA・ⅣB
- マルチメディア英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ

中国語

- 中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 中国語コミュニケーションⅡA・ⅡB
- 中国語コミュニケーションⅢA・ⅢB
- 中国語コミュニケーションⅣA・ⅣB
- マルチメディア中国語
- ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ

日本語(留学生のみ)

- 日本語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 日本語コミュニケーションⅡA・ⅡB

実践演習

- 地域連携演習A・B
- 自主課題演習A・B
- 企画立案演習A・B

スポーツ活動

- スポーツ活動A・B

総合

- 特別共同授業A・B・C

専門領域へのアプローチ

学部科目

文化・芸術

- 音楽文化論
- 演劇文化論
- 視覚芸術論
- 社会思想史
- 市民社会論
- 社会心理学
- 多文化共生論
- 異文化と教育

政策・マネジメント

- 文化政策概論
- 非営利セクターの経営
- 地方行政論
- 会計学
- 都市経営論
- アートマネジメント概論
- NPO・NGO論
- 憲法
- 文化政策と法
- 生涯学習と文化

情報・リテラシー

- 統計学
- 社会科学の方法
- フィールドワークの手法
- プレゼンテーション技法
- ディベート技法
- ファシリテーション技法
- 情報リテラシー基礎
- 情報リテラシー応用A・B
- 図書館概論

観光

- 観光学概論
- 観光社会学
- グローバル観光論
- 観光地理学
- 観光ビジネス論
- 日本伝統建築
- テキスタイル概論

選択外国語

- フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- フランス語コミュニケーションⅡA・ⅡB

ポルトガル語

- ポルトガル語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- ポルトガル語コミュニケーションⅡA・ⅡB

韓国語

- 韓国語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 韓国語コミュニケーションⅡA・ⅡB

インドネシア語

- インドネシア語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- インドネシア語コミュニケーションⅡA・ⅡB

イタリア語

- イタリア語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- イタリア語コミュニケーションⅡA・ⅡB

ドイツ語

- ドイツ語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- ドイツ語コミュニケーションⅡA・ⅡB

学科基礎

- 国際文化概論 ●文章表現技法
●国際文化基礎論 ●ナショナリズム論
●国際関係論 ●比較文化論
●グローバル・キャリア・デザイン概論

- 国際文化入門A・B・C・D

- 英語表現法 ●英語上級 通訳
●英語上級 觀光英語 ●英語上級 翻訳
●英語上級 会議英語 ●中国語上級Ⅰ・Ⅱ
●フランス語上級ⅠA・ⅠB
●フランス語上級ⅡA・ⅡB
●フランス語応用
●ポルトガル語上級ⅠA・ⅠB
●ポルトガル語上級ⅡA・ⅡB
●ポルトガル語応用
●韓国語上級ⅠA・ⅠB
●韓国語上級ⅡA・ⅡB

文化政策学科

- リサーチ&プランニング基礎
●リサーチ&プランニング応用
●リサーチ&プランニング実習
●社会学
●経済学

芸術文化学科

- 芸術文化入門
●芸術表現A・B
●芸術文化基礎A・B・C・D
●芸術文化特講

卒業研究

演習(ゼミ)・卒業論文

文明観光学コース 演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文

専門能力の確立

専門科目

日本・東アジア	●日本文化史 ●日本文学史 ●現代日本語表現 ●日本文学A・B ●漢文学 I・II	●日本史学A・B ●日本語彙研究 ●日本語研究 ●日本文学作品研究 ●古文書の調査と読解	●美術史(日本・東洋)I ●東南アジアの文化と社会A・B ●中国の文化と社会 ●中国経済論 ●韓国社会文化論	●中国古典学 ●アジアビジネス論 ●東南アジアの歴史
地中海・西欧・北米	●近現代の中東A・B ●イタリア文化史 ●フランス文化論 ●ルネサンス文化史 ●古代ギリシア・ローマ文化と社会	●中東現代史 ●英米文学史 ●西欧・北米文化論 ●英語文学概論A・B ●イギリス文化論	●西欧近現代史 ●英語学概論I・II ●西欧・北米の歴史 ●音楽史I ●EU論	●ドイツの思想と社会 ●美術史(西洋)I・II
多文化共生	●多文化とエスニシティ ●イスラーム概論 ●日英語比較研究 ●文化交流論 ●国際労働力移動論	●日本語音声学 ●日本語文法I・II ●日本語教授法I・II ●国際協力論 ●国際紛争論	●持続可能な社会 ●フェアトレード論 ●企業と言語教育 ●日本語教育の実践と応用 ●Global Studies : Culture and Society A・B	●Global Studies : Global Issues

政策	●政治学 ●法律学 ●行政学 ●行政法	●地域計画論 ●地域情報サービス論 ●地域社会論 ●地方財政論	●創造都市論 ●経済政策論 ●環境政策論 ●地域福祉論	●地域観光論
経営	●経営学 ●経営戦略論 ●マーケティング論 ●地域ビジネス論	●経営科学 ●社会起業論 ●経営財務論 ●産業組織論	●日本経済論 ●グローバルビジネス論 ●金融経済論 ●地域産業論	●産業遺産と産業史
情報	●広報・広告論 ●マスコミュニケーション論 ●臨床社会心理学 ●メディア文化論	●組織心理学 ●情報システム論 ●社会統計分析 ●質的調査法	●学術情報論 ●人文地理学 ●地誌学 ●社会理論	●情報法学 ●公共デザイン戦略 ●自然地理学 ●外国語文献研究A・B

政策とマネジメント	●芸術文化政策の理論 ●アートマネジメント A・B ●芸術文化政策の国際比較	●文化施設の管理と運営 ●文化財保護政策 ●地域社会と芸術文化	●現代社会と芸術文化
文化と芸術	●文化と芸術 A・B・C・D ●現代芸術論 A・B・C・D ●芸術特論 A・B・C・D	●音楽史 I・II ●演劇史 I・II ●美術史(西洋) I・II	●美術史(日本・東洋) I・II ●鑑賞と批評 I・II
芸術運営の実践	●展示プロデュース論 ●保存と修復	●舞台運営論 ●劇場プロデュース論	

デザイン学部

2023年度 カリキュラム一覧

人間的素養・基礎力の養成

全学科目

導入教育

- 文化芸術体験演習
- 学芸の基礎

教養

人文科学

- 文学
- 哲学
- 心理学
- 宗教学
- 歴史学
- 文化人類学
- 日本文化論
- 静岡学
- 文明と観光
- ユーラシア文明論

社会科学

- 法と社会
- 経済学基礎
- 現代の国際社会
- 現代社会と教育
- 社会学概論
- 社会調査論
- 情報社会論
- 人権論

自然科学

- 数学概論
- 統計学基礎
- 食と健康
- 科学技術論
- エコロジカルデザイン
- スポーツ科学

芸術・デザイン

- 音楽と社会
- 芸術と社会
- 色彩・形態論
- 映像メディア論
- 空間とデザイン
- デザイン史

必修外国語

英語

- 英語コミュニケーションⅠA
- 英語コミュニケーションⅠB
- 英語コミュニケーションⅡA
- 英語コミュニケーションⅡB
- 英語コミュニケーションⅢA
- 英語コミュニケーションⅢB
- 英語コミュニケーションⅣA
- 英語コミュニケーションⅣB
- マルチメディア英語Ⅰ
- マルチメディア英語Ⅱ
- マルチメディア英語Ⅲ
- ビジネス英語Ⅰ
- ビジネス英語Ⅱ

中国語

- 中国語コミュニケーションⅠA
- 中国語コミュニケーションⅠB
- 中国語コミュニケーションⅡA
- 中国語コミュニケーションⅡB
- 中国語コミュニケーションⅢA
- 中国語コミュニケーションⅢB
- 中国語コミュニケーションⅣA
- 中国語コミュニケーションⅣB
- マルチメディア中国語
- ビジネス中国語Ⅰ
- ビジネス中国語Ⅱ

日本語(留学生のみ)

- 日本語コミュニケーションⅠA
- 日本語コミュニケーションⅡA
- 日本語コミュニケーションⅠB
- 日本語コミュニケーションⅡB

実践演習

- 地域連携演習A・B
- 自主課題演習A・B
- 企画立案演習A・B

スポーツ活動

- スポーツ活動A・B

総合

- 特別共同授業A・B・C

専門領域へのアプローチ

共通科目

- デザイン概論
- デザインマネジメント
- デザイン美学
- デザイン思考
- 暮らしのデザイン
- 技術史
- 現代デザイン論
- 情報処理基礎
- 情報処理A
- 情報処理B
- 情報環境論
- 造形芸術論
- 色彩計画論
- デジタルプレゼンテーション
- Design English

デザイン学科

デザイン基礎

- 建築図学・製図
- 図学・製図
- デザインCAD
- 建築CAD
- デザインドローイング技法
- フォトグラフィックス
- 表現技法I
- 表現技法II
- 表現技法III
- 描画表現
- 立体造形I
- 立体造形II
- 空間演出計画I
- 空間演出演習I

デザイン技法

- ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
- 生体機能論
- ユニバーサルデザインI
- ユニバーサルデザインII
- 生活環境論
- 健康・福祉のデザイン
- 人間工学

ユニバーサルデザイン

専門能力の確立

専門科目

学科専門

- 基礎演習A
- 基礎演習B
- 基礎演習C
- 基礎演習DⅠ
- 基礎演習DⅡ
- 基礎演習E
- 基礎演習F
- アニメーション基礎
- インターフェイスデザインⅠ
- インターフェイスデザインⅡ
- インダストリアルグラフィックス
- デジタルコンテンツ演習
- インターラクションデザイン
- インターラクティブプロダクト演習
- インテリアデザイン論
- エンターテイメントデザイン
- キネマテクス
- グラフィックデザイン演習A
- グラフィックデザイン演習B
- グラフィックデザイン演習C
- グラフィックデザイン概論
- ゲーム・遊びのデザイン
- コミュニケーションプロダクト
- サウンドデザイン
- スペースインテラクション演習
- デザインコンセプト論
- 世界建築史
- 都市デザイン論
- 空間・住居論
- ビジュアル表現基礎
- フィッティングデザイン
- プロダクトデザインプロセス
- プロダクトデザイン演習Ⅰ
- プロダクトデザイン演習Ⅱa
- プロダクトデザイン演習Ⅱb
- メディア産業論
- メディア数理造形演習
- モノ・コト論
- ものづくりのシステム
- ランドスケープ計画
- 木のデザイン
- 移動のデザイン
- 映像デザイン演習Ⅰ
- 映像デザイン演習Ⅱ
- 映像技法演習
- 映像撮影技法
- 音楽情報科学
- 環境計画
- 空間演出計画Ⅱ
- 空間演出演習Ⅱ
- 建築デザイン論
- 空間計画
- 建築材料
- 建築設計演習Ⅰ
- 建築法規
- 構造計画Ⅰ
- 構造計画Ⅱ
- 構造力学Ⅰ
- 構造力学Ⅱ
- 施工計画
- 商品戦略論
- 設備設計
- 地域計画論
- 日本伝統建築
- テキスタイル概論
- 素材加工演習a
- 素材加工演習b
- 匠造形演習
- 伝統建築技術演習
- 木造建築演習

領域専門

- 領域専門演習
- 総合演習Ⅰ
- 総合演習Ⅱ
- 建築設計演習Ⅱ
- 建築設計総合演習Ⅰ
- 建築設計総合演習Ⅱ

卒業研究

- 卒業研究・制作

卒業要件単位数一覧表

2023年度 カリキュラム

文化政策学部 Faculty of Cultural Policy and Management	学科名	区分	卒業に必要な単位数	合計
	国際文化学科	全学科目	34単位以上 なお、次の(1)～(4)の28単位を含む (1)【導入教育】区分から3単位 (2)【必修外国語】区分から英語または中国語で8単位 (3)【実践演習】区分から1単位 (4)【教養】区分から<人文科学><社会科学><自然科学><芸術・デザイン>の各分野で4単位 合計16単位	
	文化政策学科			
	芸術文化学科	学部科目	32単位以上 なお(1)～(3)の18単位を含む (1)【文化・芸術領域】区分から6単位 (2)【政策・マネジメント領域】区分から6単位 (3)【情報・リテラシー領域】区分から6単位	
	国際文化学科		62単位以上 なお、次の(1)～(2)の8単位を含む (1)必修科目4単位 (2)【卒業研究】区分から4単位	128単位 以上
	文化政策学科	学科科目	62単位以上 なお、次の(1)～(4)の56単位を含む (1)【学科必修】区分から10単位 (3)【情報】区分から14単位 (2)【政策】及び【経営】区分から合わせて28単位 (4)【卒業研究】区分から4単位	
	芸術文化学科		62単位以上 次の(1)～(5)の34単位を含む (3)【文化と芸術】区分から12単位 (1)【学科基礎】区分から10単位 (4)【芸術運営の実践】区分から2単位 (2)【政策とマネジメント】区分から8単位 (5)【卒業研究】区分から2単位	

デザイン学部 Faculty of Design	学科名	区分	卒業に必要な単位数	合計
	デザイン学科	全学科目	34単位以上 なお、次の(1)～(4)の28単位を含む (1)【導入教育】区分から3単位 (2)【必修外国語】区分から英語または中国語で8単位 (3)【実践演習】区分から1単位 (4)【教養】区分から<人文科学><社会科学><自然科学><芸術・デザイン>の各分野で4単位 合計16単位	
	共通科目		36単位以上 なお、次の(1)～(3)の16単位を含む (1)【デザイン基礎】区分から6単位 (2)【デザイン技法】区分から6単位 (3)【ユニバーサルデザイン】区分から4単位	128単位 以上
	デザイン学科		58単位以上 次の(1)～(3)の18単位を含む (1)【学科専門】区分から6単位 (2)【領域専門】区分から8単位 (3)【卒業研究】区分から4単位	

全学科目一覧表

2023年度 カリキュラム

学習領域	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	卒業要件
教養	導入教育	●文化芸術体験演習 ●学芸の基礎							3単位
	人文科学	●文学 ●哲学 ●心理学 ●宗教学 ●歴史学 ●文化人類学 ●日本文化論 ●静岡学 ●文明と観光 ●ユーラシア文明論							4単位
	社会科学	●法と社会 ●経済学基礎 ●現代の国際社会 ●現代社会と教育 ●社会学概論 ●社会調査論 ●情報社会論 ●人権論							4単位
	自然科学	●数学概論 ●統計学基礎 ●食と健康 ●科学技術論 ●エコロジカルデザイン ●スポーツ科学							4単位
	芸術・デザイン	●音楽と社会 ●芸術と社会 ●色彩・形態論 ●映像メディア論 ●空間とデザイン ●デザイン史 ●ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論							4単位
	英語	●英語コミュニケーションIA ●英語コミュニケーションIB ●英語コミュニケーションIIA ●英語コミュニケーションIIB ●英語コミュニケーションIII A ●英語コミュニケーションIII B ●英語コミュニケーションIVA ●英語コミュニケーションIVB ●マルチメディア英語I ●マルチメディア英語II ●マルチメディア英語III ●ビジネス英語I ●ビジネス英語II							1言語
	中国語	●中国語コミュニケーションIA ●中国語コミュニケーションIB ●中国語コミュニケーションIIA ●中国語コミュニケーションIIB ●中国語コミュニケーションIII A ●中国語コミュニケーションIII B ●中国語コミュニケーションIVA ●中国語コミュニケーションIVB ●マルチメディア中国語 ●ビジネス中国語I ●ビジネス中国語II							8単位
	日本語(留学生)	●日本語コミュニケーションIA ●日本語コミュニケーションIB ●日本語コミュニケーションIIA ●日本語コミュニケーションIIB							4単位
	実践演習	●地域連携演習A ●地域連携演習B ●自主課題演習A ●自主課題演習B ●企画立案演習A ●企画立案演習B							1単位
	スポーツ活動	●スポーツ活動A ●スポーツ活動B							
	総合	●特別共同授業A・B・C							

必修3単位を含め計34単位以上

全科目概要

2023年度 カリキュラム

導入教育

●文化芸術体験演習

全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。受講は基本的にクラスに分かれて行い、各種の本格的な芸術・文化の体験とセミナー形式による講座の受講によって、知性とともに感性を磨き、本学での学び全体の基盤となる素養を身につける。講座では、学内外の各種の専門領域にわたる幅広い知見を学ぶとともに、これらを通じて、入学後の早い段階から自身のキャリア形成や社会的自立につながる意識を涵養することを目指す。

●学芸の基礎

全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。受講はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を本学の理念を通じて理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法など、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。

教養

人文科学

●文学

日本の古典文学を主たる契機として、記紀神話、王朝物語、軍記文学、縁起などを学ぶ。特に全科目としての位置付けを考慮して、文学の「広がり」と「奥行き」を重視した講義内容を目指す。芸文作品をそのまま読んで鑑賞するのではなく、民俗、祭祀、信仰、伝承といった事例との多視的な比較や、海外の文芸との比較を手がかりとして、文学の展開とその奥行きの深さを考える機会とする。

●哲学

人間が自然環境や社会をどのように認識し、受容あるいは対照などの思考や行動の原理としてきたかについて、帰納や演繹といった論理的な思考、分析的あるいは包括的・構造的な認識の方法、倫理や道徳の課題など、我々が人間である限り避けて通れない論理、認識、知識等にかかる問題を取り上げ、こうした問題を先人たちどのように考えたかを解説し、我々自身が今日に生きて出会う様々な問題をどのように考えたらよいかを学ぶ。

●心理学

この講義では、「心のはたらきに関する科学」としての心理学が、人の心についてどのように考え、何を問題にし、それについてどのような手法で研究しているのかについて講義する。人の心に関する多面的、客観的な視点を養うことがこの講義の目標となる。主に、人の情報処理（認知）、発達、性格、心理臨床などの基礎的なトピックにおける最新の知見について、社会的な事象と関連づけながら概観する。また、簡単な心理実験や質問紙調査の演習をあわせて実施する。

●宗教学

人類のあらゆる文化や歴史の広がりの中で、基本的な宗教の概念および定義やその意味、宗教形態に関する概要を概観し、それらを踏まえて宗教が持つ本来の役割とは何かを考察する。あわせて、日本人のもの見方や行動様式につ

いて、それがいつ、どのように成立し、また変容していくのかについて、具体的な事例を挙げながら考察する。特に日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、地域社会と人々の関わりを考える。また、現代社会における宗教紛争やカルト、生命倫理問題などにも言及する。

●歴史学

歴史学について、その全般を学ぶ。歴史学の科学的手法を前提に、「史料」から歴史像がいかに導き出されるかを、具体例をもとに講義していく。歴史学の分野について、政治外交史・社会経済史・文化芸術史などがあることを紹介し、時代区分として、古代・中世・近代などがあり、空間的には、地域史・一国史・人類史など、様々な歴史叙述の形態が存在することを論じる。文化の多様性と人類の文化芸術活動の背景となった社会の歴史的なあり方に重点をおいて講義する。

●文化人類学

諸社会の社会構造、価値観、社会的行為など、文化の諸局面にみられる多様性を示すとともに、文化の差異の根底に横たわる普遍性についても論じる。世界にはいかに多様な「当たり前」があるかを認識し、自己文化を絶対視せずに異文化を理解するための基本的な視角が身につくように解説する。文化人類学の学説史上の主な展開についても概説し、同時代を生きる地球上の人々と意思疎通する時に求められる文化的背景の捉え方について考察する。

●日本文化論

人々の日々の生活から生み出された事象すべてを文化と捉え、日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、あるいは衣食住の特徴、動植物との関わりなどを文化の事例として取り上げる。かつ、文化は時間的にも空間的にも社会的にも一様ではないという観点に立ち、日本人のものの見方や行動様式が、いつ、どのように成立し、また変容していくのかについて考察する。その際、東アジアをはじめとする諸外国との比較や文化移入のあり方をみると、より日本文化の特徴を明らかにしていく。

●静岡学

本学が立地する静岡県、ならびにその近隣地域について、歴史、地理、文化、社会、政治、経済などの多面的なアプローチで学ぶ。特に、静岡県とその周辺地域の置かれた地理的条件、歴史的発展の経緯や、地域産業の特性、自治体のビジョンなどについて、各々の専門の講師による講義も交えながら、本学と地域との連携による学習や実践にもつながるような知見を身につける。

●文明と観光

訪日外国人観光客の関心は、その人の生活域やいわゆる文明圏によって異なる。例えば、東アジアから訪れる人の多くは、アジアの中でいち早く近代化した日本像を求めると言われる。他方、ヨーロッパからの人なら、情報化時代にもかかわらず、エキゾチックな世界を期待して訪れるのも少なくない。この講義では、まず「文明」と「観光」の概念が多様であることを概観し、その上で現代の日本や地域に望ましい「文明」を考えつつ、「観光」を論じる。

●ユーラシア文明論

ユーラシア大陸で興亡した西アジア文明、南アジア文明、ヨーロッパ文明、東アジア文明といった諸

文明を、地域的・時間的に広く展望しながら、日本語で「文明」と言い表されている現象を理念的に捉え直す。特に、時間的に先行し、地域的にも中心的位置を占める西アジア文明に焦点を当て、古代オリエント文明を取り上げ、それがイスラーム文明やヨーロッパ文明に継承されていく過程を論じる。

教養

社会科学

●法と社会

この授業では、「法」について学ぶにあたって必要となる基礎的な知識や、法的思考力・法的判断力を習得することを目的とする。法とは何か、法の適用・解釈・法の分類についての概説を経て、犯罪と法・家族と法・財産と法・労働と法など、法が規律する社会のさまざまな場面ごとに、関連する法制度をより具体的に検討することで、社会において法の果たしている機能を明らかにしていく。

●経済学基礎

現代社会で生きていくためには経済現象に関する深い理解が不可欠であり、その経済現象を正確に理解・分析するためには経済理論の知識がどうしても必要である。この授業では、全体として経済理論の前提となる経済に関する知識の習得に主眼を置く。具体的には、文化政策の理解に不可欠な市場メカニズムや市場の失敗を扱うマクロ経済学・景気・失業・物価・金融・為替レートなどを扱うマクロ経済学の基礎を講義し、経済理論や経済政策の学習への橋渡しを行う。

●現代の国際社会

「現代の国際社会」の特質を把握するために、国際社会の歩みについて深く理解することが重要である。この授業では、21世紀の国際社会が直面する諸問題の歴史的理説を深めることを目的に、第二次世界大戦後の国際政治の歩みを概観する。この分野は、関連する一次資料の公開や発見とともに通説が見直され、議論の継続する分野である。入門的な知識の習得と同時に、最前線で行われる研究方法の一端に触れることが授業の目標とする。

●現代社会と教育

現代社会と教育の関係について、主に教育社会学の研究視角から、問題の所在を明らかにし、これから社会における教育のあり方を考える。具体的には、「いじめ問題」「不登校問題」「ひきこもり問題」等の教育問題について、「子どもの社会化」という観点を中心にして、家庭教育・学校教育・社会教育等の教育環境の課題と可能性を明らかにする。各種映像資料の提示や受講生による報告・討議等を多く取り入れ、教育に関する受講生自身の考えを拡張させ深化させたいと考えている。

●社会学概論

社会を「人間がつくりだす人と人とのつながり（関係）」とするならば、この関係性を維持するためには「規範」がなくてはならない。社会学は、こうした規範が所与のものとしてあるのではなく、社会によってつくり出されたものであり、この規範が当たり前や常識として個人に刷り込まれていくと考える。つまり、社会学では、個人は社会によって決定されるという前提に立つのである。そこで、この授業では、こうした規範を問い直すことによって社会の成り立ちや仕組みを考え、社会学の基本的・基礎的な考え方を習得する。

豊かな様相を見せており、芸術諸分野における最新の情報を交えつつ概観する。

●色彩・形態論

デザイン分野に応用される色彩と形態の基礎について、自然、絵画、人工物など多様なデザイン事例を取り上げ、様々なデザイン分野における色彩と形態の適用事例に接することで、その機能や役割を理解する。基本的な属性や視覚特性、意味作用に加え、色彩見本を使用し、色相、明度、彩度による色の伝達方法、配色手法、および色彩心理学などを学習する。さらに、近年対応が重視されるカラーユニバーサルデザインについても学ぶことで、実務における実践的な活用方法や構成手法などについて学ぶ。

●映像メディア論

TV、PC、タブレット、スマートフォン等を通して日々膨大な量の映像を消費する現代社会。多彩で刺激的な表現を競うように変貌を続ける映像メディアの可能性と問題点を、包括的に検証する。映像メディアの変遷とそれに同期して人間自身の内部で進行している変化に着目し、「メディアは身体性の拡張である」という視点から、近未来へ向けた人とメディアの関係性について考察する。視聴覚資料を効果的に使用し、学生自身が感じ、考えながら問題意識を深めてゆくための授業構成を目指す。

●空間とデザイン

「空間」とか「デザイン」という言葉を用いる時、その言葉はどのようなことを意味しているのか、具体的な事例を提示しながら考えていく。そして、「空間をデザインする」ということは自然や人間社会に対してどのような役割を担っているのか、その楽しさや重要性を学ぶ。空間デザインを理解することによって、空間は生活の中の様々な時間を創造してくれることに気づき、その要因の歴史的背景や現代における表現手法を読み取る感覚を育てる。

●ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論
全ての人が住みやすい社会をつくるには、一般には多数派とされている健康な成人だけでなく、子どもや高齢者、そして障害者を含めた多様な人の存在を意識しなければならない。どんなに異質であっても社会的な活動から排除されないようにすること、これは世界的な合意であり、また教育から就労、そしてレジャーなどの活動に至るまで、あらゆる場面で保障されなければならない人間としての権利である。それをできるだけ特殊解でなく一般解として実現すべく、製品から構築、そしてサービスなどのソフトな仕組みに至るまで、あらゆるものの方を考える。

●デザイン史

デザインの歴史を俯瞰することで、近代デザインの成立から現在に至るまでの主要な出来事や知識、社会における役割を学ぶ講義である。受講者は、科学技術、産業、政治経済、芸術など先端的または広範な人間の営みと文化が、様々な時代でどのようにデザインと結びつき、どのようなものが作られたか、それらにどのような意味があるのかを探究し、デザインの世界に私たちの生活から切り離せない幅広さと社会的意義があることを考察する。

●社会調査論

社会について科学的に情報を得る(知る)方法の基礎を学ぶ。まず社会調査の意義と主要な方法について学び、次に方法論について理解し、その後、質問紙法、面接法、観察法、内容分析などの具体的方法とその特徴を学ぶ。方法の技能を学ぶだけでなく、調査目的と対象により最も適切な方法が選べるよう、調査の特性と限界についても解説する。最終的には、実際に使われている様々な社会調査の信頼性と長所・短所を評価し、かつ基本的な調査を自ら実施できるようにする。

●情報社会論

現代社会はIT化の進展に伴いそのメディア環境を大きく変容させ、それにより生じた高度情報化社会は私たちの日常生活や文化にも大きな影響を与えている。この授業では、こうした高度情報化がもたらした社会の諸現象に着目し、その特質や問題点を理解することを試みる。さらにその理解に基づき、情報化が進展していく社会における人々の行為やコミュニケーションのあるべき方向性を考察し、その社会において生していくことの可能性や倫理を検討する。

●人権論

この授業では、現代社会において生じている、あるいは未解決のままに残されているさまざまな問題を、私たちの「人権」にかかわる問題として認識し、それについて理解を深めることを目的とする。そもそも人権とは何かについての総論的な概説を経て、個々の問題・事例について、国内外の状況に目を向けながらより具体的に検討することで、現代社会において目指すべき人権保障のあり方を考察する。

教養 自然科学

●数学概論

本講義では、大学の授業で必要となる数学の基礎を学ぶことを目的とする。高等学校で学んだ内容を発展させて、数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的・論理学的な見方や考え方の良さを再認識し、事象を数学的に考察し処理する能力を高めることを目標とする。同時に、様々な社会問題やデザインにおける課題を解決する際に要求される論理的思考力を身につけていく。

●統計学基礎

統計は自然科学でももちろんのこと、社会科学でも基本となる知識である。さらに、社会制度が複雑化し、情報量が急速に増加している現代社会を生きる市民にとって、統計の知識は、企業の広告や宣伝、自治体や国の政策、そして調査研究などの正しさや信頼性を判断するために必須の教養ともいえる。そのために、統計の初心者を対象に、平均やばらつきの意味などから始めて、データの読み方や統計手法についての基礎的な知識を、テレビの視聴率や選挙の出口調査などの具体的な事例を用いながら、わかりやすく説明する。

●食と健康

我が国は世界トップレベルの長寿国である。この要因として医学の進歩や衛生状態の改善が挙げられるが、日々の食事内容も健康と寿命に密接に関係している。栄養バランスに優れた日本食は米を主食とし、魚介類と野菜を副食とし、大豆や

穀類で作った醸造品を調味料とする和食が原点である。しかしながら、洋風化が進んだ現代の食生活の中では、肥満、高血圧、糖尿病、脳・心疾患、アレルギー、がんといった生活習慣病で苦しむ人が増えて、医療費の増加が国家財政を脅かす状況になりつつある。ここでは、食生活と生活習慣病の関係および予防策を学び、健康長寿を達成するための基本を身につけることを目的とする。

●科学技術論

現代社会のさまざまなシステムやモノには科学技術が不可欠であることを前提に、科学技術が広範かつ深遠な影響を人間社会に与えていることの認識を深めて、現実の科学技術を正しく理解する力を養うことを目的とする。今日に至る科学技術の発達経緯を概観する中で、現代の科学技術の特質・潮流を考察するとともに、科学技術と社会との関係の中で生ずる摩擦や諸問題など、科学技術を取り巻くさまざまな環境変化について検討する。

●エコロジカルデザイン

今の地球の現状を知り実際のエコとライフスタイルを見つめ直し、地球の未来のために各自が今できることを考え、エコロジカルな考え方やものの見方を自分の生活・設計に活かしていく手法を習得する。映画『不都合な真実』や『水の世紀』などの現在、まさに起こりうる地球環境問題、エコハウスやエコキャンパスなどのエコロジカルなデザイン手法、ビフォーアフターやスマートライフなどの現世代に内包された課題の解決、海底都市や空中都市などの近未来的デザインを通したノスタルジーなどについて、幅広く学ぶ。

●スポーツ科学

スポーツ科学の基礎的な知識である、医学や健康科学、解剖生理学といった幅広いインテリジェンスを習得し、運動をすることの人体のメカニズムと、運動をすることによる人体への影響について考察する。具体的には現代の高齢社会に求められているスポーツのあり方や、それぞれの年齢や体力、健康増進や生活習慣病予防などの目的に応じてトレーニングの方法を運動生理学、トレーニング科学の視点から解説する。

教養 芸術・デザイン

●音楽と社会

音楽は社会と密接に関わり、新たに生成され、変化していく。こうした音楽と社会のダイナミックな関わりを考察するため、19世紀後半から20世紀にみられた大衆社会の形成、市場経済の成長、マスメディアの発達という視点から、アメリカを中心に発展していくポピュラー音楽と日本のポピュラー音楽について概観することが、本講義の狙いである。なおこの講義では、ラグタイム、ジャズ、ブルース、リズム＆ブルース、ロック、フォークなどの多様なジャンルを取り上げる。

●芸術と社会

人間にとって芸術とは特別な意味を持つものである。この科目では、人間の行う表現行為がどのように芸術というものに形づくられていくのか、芸術が人間にとってどのような意味を持ち、またどのように展開するのかについて、芸術の多様なジャンルの中から具体的な事例を示しながら考察する。さらに、人間の表現が時代や場所の異なるところで様々な展開を遂げ、現在のように

全学科目概要

2023年度 カリキュラム

必修外国語 英語

●英語コミュニケーションIA

高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「聞く・話す」ための運用能力を高めることを主な目的とする。聞く面では、自然な速さの平易な英語を大量に聞き、その概要および特定の具体的な情報を聞き取れるようになることを目指す。また、話す面では、これまで学習してきた英語の基礎的な言語知識を使って、特に自分の経験や関心のある具体的なトピックについて積極的に話し、会話を続けることができるようになることを目指す。そのため、少人数での授業を行う。

●英語コミュニケーションIB

高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「読み・書く」ためのさらなる知識と運用能力を高めることを目的とする。読解能力を高めるために、必要に応じて辞書を利用しながら比較的幅広い分野の英文を大量に読み、その概要と具体的な情報を読み取れるようになることを目指す。また、書く面では、既習の基礎的な英語を広く使ってまとまりのある文章が書けるようになることを目指す。そのため、少人数での授業を行う。

●英語コミュニケーションIIA

英語IAで身につけた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。自然な速さの英語で話される内容を聞き取り、同時に、その情報を自分自身の考えと照らし合わせながら内容を理解できるようになることを目指す。また、授業で扱うトピックに関して、英語で自分の考えをまとめ、その内容を話せるように繰り返し練習することで、英語による情報のやり取りが滞りなくできるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIIB

英語IBで身につけた「読み・書く」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読み、複数の視点の相違点や共通点を考慮に入れながら、自分自身の解釈ができるようになることを目指す。また、新しく出会う英語の語彙や表現などに気をつけながら、今までに身につけた英語の知識をベースに辞書を適切に使いこなし、自分の考えをできる限り詳しく英語で書くことができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIIIA

英語を「聞く・話す」面の発展的な力を養うことを目的に、授業はすべて英語で行う。一般的な分野からニュースなど幅広いトピックについて言語的な調整がなされないことも、話者の意図が理解できるようになることを目指す。また、現代の問題など一般的に関心の高いトピックであれば、自分自身が調べた情報の詳細を提供し、関連する自分の考えをできる限り正確かつ流暢に表現し、議論できるレベルを目指す。

●英語コミュニケーションIIIB

英語を「読み・書く」面の発展的な力を養うことを目的とする。一般的な内容から、新聞記事やレポートなどの専門的記事までの英文の概要を素早く読み取り、状況に応じて深く読む必要がある場合は読む速さや読み方を変えながら正確に読めるようになることを目指す。また、自分の専門分野であれば、情報の正確さ、感情の度合いなど、ある程度複雑な英語表現を身につける

と同時に、それらを用いて適切な英文を書くことができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIVA

英語III Aで学んだ英語を「聞く・話す」面の流暢さと正確さをさらに高めることを目的に、主として英語によるディスカッションやディベートを通して学ぶ。一般的に関心の高い分野から複雑なトピックまでを扱い、英語を通して自ら情報を収集し、それらを一定の観点で展開し、明瞭な論理的な構成を持って英語で発表するとともに、話し相手の英語を正確に理解しながら、かなり詳しく議論し適切な結論に達することができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIVB

英語III Bで学んだ英語の「読み・書く」力を専門的な分野を扱えるレベルまで高めることを目的とする。専門的記事から文学作品や論文まで長く複雑な内容を、文体の違いを認識しながら深く理解し読めるようになることを目指す。そして、複雑な手紙、説明文、レポート、報告記事、批評、論文などを、論理的に明確な構造で、読み手に議論のポイントや重要な点がわかるように、明瞭かつ適切な文体で書けるようになることを目指す。

●マルチメディア英語I

LL教室で、擬似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかる。正しい発音とイントネーション、流暢さ、会話によく使われる表現、言い回し等を身につける。内容的には、「海外渡航に使う英会話」を学ぶが、会話表現と同時に英米の文化や生活習慣も学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスクリプトをつくり、英会話を楽しむことでコミュニケーション能力を伸ばす。

●マルチメディア英語II

LL教室で、擬似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかる。正しい発音とイントネーション、流ちょうさ、会話によく使われる表現、イディオムを身につける。内容的には、「日常生活に使う英会話（基礎編）」を学ぶが、会話表現と同時に英米の文化や生活習慣も学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスクリプトを作り、英会話を楽しむことでコミュニケーション能力を伸ばす。

●マルチメディア英語III

LL教室で、擬似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかって、グローバル人材にふさわしい英会話能力を身につける。正しい発音とイントネーション、流暢さを身につけ、自発的な自由会話力を伸ばす。内容的には、「日常生活に使う英会話（応用編）」を学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスクリプトをつくり、大学生として内容のある英会話を楽しむ。

●ビジネス英語I

グローバルなビジネス社会で活用されているビジネス英語と文章作成方法の基礎を身につけ、国際的なビジネスの現場で通用する英語能力を身につける。具体的には、英文レターの形式、ワンレターワンサブジェクトの原則、句読点の慣用、レターの折りたたみ方など商用英文レターの基礎

知識を中心に学習する。次に、ビジネス社会でよく使われている英語ビジネス文章の例文の学習と分析、それらを活用して学生が自分で書いた文章の分析、間違った表現の訂正作業などを通じて実践的な英文レターの書き方を習得する。

●ビジネス英語II

ビジネス英語で実務レベルでさらに実践的な文章作成法を学ぶとともに、海外・国内外で外国人と交流する際に必要なマナーを身につける。具体的には、いくつかの実務状況を設定して学生に英文レターを作成させ、それらを分析しながら効果的なレターの書き方、論旨の進め方を習得する。さらに、外国人と交流する際の常識的なマナー、文化や習慣の違いからくる注意点、儀礼（プロトコール）、およびそれらの場合の英語表現を、実践的な場で使えるような学習を目指す。

必修外国語 中国語

●中国語コミュニケーションIA

中国語の難点とされる発音を十分に練習し、単語の発音をベースに、ローマ字表記（ピンイン）を見て正確に発音できるようにする。漢詩や中国語の歌を適宜取り入れ、中国語の発音とリズムに慣れていく。また、日本語の常用漢字と異なる中国語の簡体字に習熟する。文法については、中国語の基本的構文パターンの習得を中心に、文法の仕組みを学び、簡単な文章を読み、基礎的な文を組み立てる能力を伸ばしていく。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるようにする。

●中国語コミュニケーションIB

平易なテキストをもとに、基本文法、よく使う文型、日常生活で使用される頻度の高い中国語の言い回し（センテンス）を中心に学習する。さらに、CD・テープなどの聴取訓練、また教員と学生、学生相互の対話練習を繰り返すことで、基本文法の習得とともに、「聞く・話す」能力をバランスよく身につけ、暗唱テストを適宜取り入れることで運用能力を高める。基礎的な聞く・話す能力を活かし、挨拶から始まって、簡単な自己紹介と日常会話ができる目標とする。

●中国語コミュニケーションIIA

中国語コミュニケーションIに引き続いて、文法に重点を置き、テキストに基づき、複合的な中国語文の構造について学んでいく。テキストに出ている中国語文を日本語に翻訳し、そして日本語から再び中国語に翻訳することを重ねて、文法の運用能力を高める。中国語の仕組みの全体を徐々に把握するとともに、平易な雑誌・新聞記事等の読解を試みる。基礎的な文法と雑誌、新聞記事の情報に基づいた簡単な作文ができるよう練習を重ねていく。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。

●中国語コミュニケーションIIB

中国語コミュニケーションIに引き続いて、語彙力を高めつつ、より複雑な中国語の言い回し（センテンス）を習得する。テレビ・ビデオなどの視聴覚教材を適宜取り入れ、運用能力を高める。テキストの音読練習を十分行ったうえ、テキストと視聴覚教材の内容を踏まえてテーマを設定し、教員と学生、学生相互の対話練習を重ね、より実用的な会話能力・ヒアリング能力の育成を図る。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。

●中国語コミュニケーションⅢA

中国語コミュニケーションⅠ、Ⅱで身についた文法の運用能力を高め、より高度な語彙と複雑な表現で構成される中国語の文章を解読する。文法の解説はテキストに基づいて行うが、文法の理解を深め、運用能力を高めるために、毎回の授業でテキスト以外の文法書から関連する文法の宿題を出す。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事を適宜授業に取り入れ、辞書を引きながら新聞・雑誌を概ね理解できるレベルを目指す。

●中国語コミュニケーションⅢB

中国語コミュニケーションⅠ、Ⅱで中国語の正しい発音とリズムを習得した学生に対し、授業では、テープ・CDなどの視聴覚教材を積極的に利用し、ヒアリング能力のさらなる向上を図る。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事の内容からテーマを決め、教員と学生、学生相互の対話練習を重ね、スピーキング能力の向上を図る。与えられたテーマで学生が自分から積極的に発話できるよう練習し、コミュニケーション能力の向上を目指す。

●中国語コミュニケーションⅣA

中国語コミュニケーションⅢAに引き続いて、高度かつ豊富な語彙と複雑な表現を身につけながら、さらに高度な中国語の文章を読解していく。語彙や表現を深め、高度な文法を確実にするため、中国語コミュニケーションⅢAと同様に、毎回の授業でテキスト以外の文法書から関連する文法の宿題を出す。中国語ニュースの内容を適宜授業に取り入れ、それを解読するとともに簡単なコメントや感想文を正確に書けるようにを目指す。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。

●中国語コミュニケーションⅣB

中国語コミュニケーションⅢBに引き続いて、授業では視聴覚教材を積極的に利用し、中国語のニュースを適宜取り入れることでより高いレベルのヒアリング能力を育成する。また、中国の政治・経済に関するニュースの内容からテーマを設定し、教員と学生、学生相互の対話練習を重ねていき、特定のテーマをめぐって比較的論理的に会話できるようにする。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。

●マルチメディア中国語

LL教室を活用し、各種視聴覚教材を取り入れながら、まず中国語の正しい発音を徹底する。それから語彙力、ヒアリング能力の向上を図ながら、日常生活の様々な場面に応じた会話表現を学び、自然な生活中国語を習得する。中国語での学生相互の対話練習を極力進める形で、感覚的に中国語を捉えられるようにすることを目標とする。また、関連する視聴覚教材から宿題を出し、学生が授業以外でも発音の練習、語彙力の強化、ヒアリングの訓練をするよう促す。

●ビジネス中国語

日中ビジネス習慣の違いを理解しつつ、ビジネス場面で使用する中国語の語彙と言い回しを習得し、一般的なビジネス会話の基礎をしっかりと身につける。ビジネスシーンのある視聴覚教材を適宜取り入れることで、ヒアリング能力の向上を図りつつ、特定のビジネスシーンをテーマにし、

教員と学生、学生相互の対話練習を重ねていく。さらに、ビジネス文章を作成する基礎知識を学び、商用メールやレターの書き方を練習し、実用的なビジネス中国語を身につけるようを目指す。

●ビジネス中国語Ⅱ

日中ビジネス習慣の違いへの理解を深めつつ、ビジネス場面で使用する中国語の語彙力をさらに高め、ビジネス関連の言い回しを正確に言えるようになる。商談の実例をテキストとして使用し、アボイントの取得から、コミッショニングの相談、事業提案などさまざまなテーマに応じてビジネス中国語を習得する。リアルの商談に基づく授業を通じて、中国ビジネスの現場を体験し、ビジネスで求められる高度なコミュニケーション能力の育成を目指す。

必修外国語 日本語(留学生のみ)

●日本語コミュニケーションIA

社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につけることをを目指す。人との距離や相手の立場に配慮した、円滑なコミュニケーションができるようになる。具体的には、リスニング、作文、ロールプレイなどを通して、社会に出て必要とされる、迅速でかつ正確な会話、そして、論理的なコミュニケーションスキルを身につけていく。また、日本人の常識、マナー、距離の取り方も勉強していくことで、異文化理解も行っていく。

●日本語コミュニケーションIB

日本語による高度な読解力を身につけることをを目指す。学術的な書物や論文を読解するために必要な、語彙力の向上、要点把握、正確で詳細な内容把握のストラテジーやスキルの向上を目指していく。さらには、批判的かつ論理的な表現で発言するために必要なコミュニケーションスキルも身につける。また、日本文化を中心とした日本事情についても学んでいく。様々な日本事情を取り上げることで、日本人と日本社会を理解する契機とする。

●日本語コミュニケーションIIA

ビジネス場面に即した日本語コミュニケーション能力を身につけることをを目指す。実践的なビジネス会話、ビジネス文書作成、ビジネス知識、ビジネスマナーなどビジネスライフにおけるコミュニケーションスキルとビジネスライフの基礎を総合的に学ぶ。特に、ビジネス場面に応じた敬語使用や語の選択について重点的に学習し、ビジネスに対応できる日本語表現力を身につけていく。ロールプレイを取り入れ実践的に学んでいく講義である。

●日本語コミュニケーションIIB

優れたレポート作成能力を身につけることをを目指す。具体的には、論理的表現、客観的表現、根拠、引用方法、また、レポート構成などといった、より高度なライティングスキルを身につけていく。講義では、必要な文章表現技法を解説し、その後に、受講生がその演習と反復練習を行い、ライティングスキルを高めていく。実際に多くのレポートを取りあげ、それらを読み、参考にすることでスキルアップを図っていく。

実践演習

●地域連携演習A・B

地域での実践的な活動を通して地域の特質や地域課題について理解するとともに、地域のネットワークの中に身を置いて現実社会と関わり

ながら学ぶ意義を理解する。外国人児童・生徒の学習支援、国際理解や芸術活動体験のワークショップ、地元自治体や商工団体との連携イベント等、地域連携型の特色あるメニューを複数用意するが、年間を通じての現場での活動や集中型のイベントなど、週1コマの授業形態にこだわらず柔軟に展開する形態を取る。

●自主課題演習A・B

多文化共生やユーバーサルデザイン、文化芸術等の広範な領域において、特定のテーマを定めて大学内外の組織や団体等と連携して行う実践的な活動を通して学ぶ。教員の特別研究費やイベント・シンポジウム開催費でのプロジェクトに組み込まれた学生の活動のみならず、学外でのデザインイベントや文化芸術イベント、海外でのNPO・NGO活動等のように、学生自身による自主的な企画・イベント等についても、一定の条件を満たすものについては単位認定の対象とする。

●企画立案演習A・B

政策策定やプロジェクトの企画、立案のプロセス、合意形成や情報発信の手法を学び、卒業後に社会で活躍するためのキャリア形成に資することも含めた実践的な知識とスキルを身につけるための演習である。受講生数人からなる小グループによる作業を基本とし、多文化共生、ユーバーサルデザイン、アートマネジメント、地域の課題解決などの領域を中心に、課題の抽出や設定から、実施の方法、成果の評価、プレゼンテーションなどについて、実社会でのワークショップやタスクフォースといったオン・ザ・ジョブ・トレーニング方式を応用した総合的な演習とする。

スポーツ活動

●スポーツ活動A

生涯にわたりスポーツを生活の中へ取り入れていくことができるよう、健康・体力問題に関する専門的な知識を習得し健康マネジメントを確立できることを目的とし身体活動の意義について実践を通して理解する。主にラケットを使用した種目、卓球、硬式テニス、バウンドテニスを通してコミュニケーションスキルを学び、自発的に人と関わろうとする機会を提供する。

●スポーツ活動B

スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心をより深く掘り下げる目的とし対人交流ならびに円滑なチーム運営方法の学習に基づき集団スポーツの特性を理解する。主にバドミントン、バーベボール、ネットスポーツ、バスケットボール、フットサルを実施することでチームの成員が協力して行動するための、戦略、組織運営を習得する。

総合

●特別共同授業A・B・C

ふじのくに地域・大学コンソーシアムの「西部地区共同授業」、「短期集中単位互換授業」等の単位認定科目とする。「西部地区共同授業」は、静岡県西部地域の7大学協力のもと、各大学の教員によりオムニバス形式の共同授業を行う。「短期集中単位互換授業」は、静岡県内の地域資源等に関するテーマで短期集中授業(フィールドワークを含む)を行う。実施単位認定校から授与された単位を本授業の単位として認定する。

文化政策学部科目概要

2023年度 カリキュラム

文化・芸術領域

●音楽文化論

音楽を持たない文化は世界中に存在しない。しかしその文化ごとに、異なる宗教的、政治的、社会的背景のもとに音楽は誕生し、世代間継承され、また新たな文脈の中で新しい音楽が生まれている。本講義では音楽を文化現象として捉え、様々な時代、様々な国々の音楽を鑑賞しながら、その多様性や多彩さの意味を考える。そうした中で音楽が人間生活とどのような関わりをもっているかを、文化史的社会史的背景とともに考え、さらには現代における多様化した音楽(的)現象も考察する。

●演劇文化論

人間の営為の現れとしての文化や芸術の中でも、演劇をはじめとする舞台芸術は特に古い起源と長い歴史を持っていると言える。舞台芸術の尽きない魅力とその本質を解き明かすために、日本および世界各国において現在もなお上演され、人々に親しまれているさまざまな舞台芸術作品を取り上げ、演劇が置かれている社会的環境や演劇が社会において果たしている役割、さらにはそれらの現状と今後の展望を考察する。授業ではできるだけ多くの映像資料を使用し、作品に対する理解を深めようとする。

●視覚芸術論

視覚芸術の意味と可能性を探るために、主として西洋における視覚芸術の発展を振り返り、「見ること」と「表象すること」の関わりを具体的な作品を例に挙げながら分析的に考察する。また、視覚表現を成立させている要素に焦点を当て、イメージの持つ機能や力についても考察する。視覚の持つ影響力の大きさが人間の思考と密接に関連しながら社会の中でどのような変化をもたらすのか、またそれぞれの時代にどのような影響を与えたのか、具体的事例に照らしつつ示す。

●社会思想史

様々な時代や地域における思想を、時代や地理的背景を踏まえ比較対照しながら論じる。多様な宗教や古代から中世に至る思想・哲学と社会・政治・文化・芸術との関係性を考察する。さらに、宗教革命、ルネサンス、市民革命、植民地主義、社会・資本主義などはもとより、近現代の多様な思想や日本を発祥とする思想についても論じる。単なる過去の思想史学ではなく、未来志向の視点や発想を得ることも目標とする。

●市民社会論

市民社会に関する多様な概念や史的展開を概観する。近年の世界各地における「市民革命」の実態や世界的な非政府組織の発展を踏まえて、グローバルな視点から市民社会と市民の権利について考える。さらに、発展する多様なボランティアや公共サービスの一翼を担う非営利組織(=NPO)の活動についても考察し、文化振興や新たな市民文化の担い手としての市民ネットワークのあり方を展望する。

●社会心理学

社会心理学は、社会の様々な場面で生じる人間関係や人間と社会の関わりにおける心理および行動に焦点を当て、その仕組みについて研究する領域である。この講義では、①他者認

識、自己認識、対人関係、説得、援助、集団・集合行動、心と文化といった社会心理学の基礎的トピックについて理解すること、②社会心理学の研究方法について理解すること、そしてこれらを通じて、③現実的な社会的行動について、心理学的な観点から分析する力を養うこと、を目標にする。

●多文化共生論

民族的・言語的多様性を擁する社会のあり方を考察する。日本とは異なる伝統的な移民国家や近年移民の増加が認められる国家の事例を概観したち、日本社会における多文化共生のあり方を論じる。日本における外国人市民の増加の歴史的背景を確認した上で、1990年代から進展しつつある多文化共生の諸施策について、基礎自治体の取り組み事例等を紹介しながらその現状と課題を検討する。

●異文化と教育

比較教育学の理論や方法について理解を深めるとともに、諸外国の教育制度や教育内容などについて学ぶ。また、世界の学校の現状を知り、教育に関する世界の人々の思いや願い、知恵などについて学習する。その上で明治以降の我が国の教育を見つめ、各国との相違点や類似点を踏まえ、我が国の教育が進むべき方向について考察する。さらに文化的背景や言語などの異なる子どもの増加に伴う国内の教育事情や課題(外国出身児童・生徒の教育、民族教育など)について学ぶ。

政策・マネジメント領域

●文化政策概論

芸術文化振興や文化財保護、デザインやコンテンツ産業などの文化産業振興政策、国際文化交流、観光政策などをはじめ、広く市民生活に関わる広義の文化政策について、所管する各省庁や関連組織等の政策を中心に概観する。さらに、学校教育や社会教育の両者を含む教育制度と文化政策関係、医療・福祉と文化政策の関係、国と地方の関係等における制度的な問題も視野に入れながら、地方自治体における文化政策について、まちづくりの問題ともからめて学ぶ。

●非営利セクターの経営

これから市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論的知識を身につける。「使命」の重要性やボランティア、ファンディングの問題等、営利企業の経営との違いについてドッカーケをはじめとした近年の非営利経営の理論を踏まえつつ体系的に学ぶ。その上で、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携のあり方についても検討する。

●地方行政論

本科目では、地域レベルの行政活動や施策を理解する上で必要となる基礎的な制度・理論や地方行政の現状について、包括的かつ体系的に解説を行う。本科目で取り上げる内容としては、地方自治の理念・制度、地方行政の仕組み、国・地方の関係、地方自治体の機能・構造、自治体経営や行政改革等である。また地域が

抱える課題への対応や地域政策の実態についても、事例を取り上げて検討を行う。なお、「地方行政」という科目名であるが、民間主体(地域住民、NPO、市民団体、企業等)が地域の課題の解決に関わる実態も視野に入れる。

●会計学

資金調達、設備投資、商品の仕入れ・販売など、企業が行う様々な経営活動を、定量的な給付と貨幣の対流関係の写像として描き出すこと(測定)と、それを利害関係者に開示する(伝達)ことの2つの会計行為として捉え、これらを科学的認識の対象とする会計学の基本的な概念を学ぶ。あわせて、企業の経営成績や財政状態に関する情報提供システムとしての会計の基本的原則や技法を中心に、幅広い会計の領域について体系的に学ぶ。

●都市経営論

都市の経営とは何かということについて、人口減少下に入った今日における経営資源の有効活用の視点、個々の都市政策の実現のプロセスを概観する。同時に、都市の経営を、広く、行政、市民、企業等の協働する都市のマネジメントと捉え、成熟都市社会における展開方向について考察する。都市経営の範囲は、社会経済、社会資本、コミュニティ、観光、文化など多岐にわたり、これらに関する典型的な事例を取り上げて学習する。

●アートマネジメント概論

文化施設や実演芸術団体等、公益的な目的を達成するための非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの基礎を修得することを目的とする。非営利組織における「使命」の重要性を理解した上で、マーケティング、ファンディング、財務・会計、人的資源管理論、組織論などアートマネジメントの諸領域における基礎的な理論について、国内外の美術館、劇場・音楽堂、オーケストラや劇団等における実例を交えながら概観する。

●NPO・NGO論

どのように、市民社会が政府および営利セクターに並んで、社会の動きを変える力を持つに至ったか、その歴史と変遷をヨーロッパ社会から学ぶとともに、その根底にある構造として個人主義とボランタリズムの影響を読み解いていく。こうした市民社会の成長に伴い、活動が組織化され大きな影響を生み出すに従い、それらを規制、管理、支援する様々な社会的制度がどのようにつくれられてきたのか、特に日本のNPO法の変遷を見ながら、考えていくとともに、NPO・NGOが未来社会にどのような役割を持つようになるかを考察していく。

●憲法

この授業では、憲法についての基礎知識を習得することを目的とする。憲法の概念や、日本国憲法を支える基本原理、日本国憲法成立の歴史的経緯といった憲法の総論的な概説を経て、憲法によって保障された権利を対象とする基本的人権の分野と、憲法の基本原理を実現するための国家機関の仕組みを対象とする統治機構の分野について、裁判例の検討を交えながら学んでいく。

●文化政策と法

文化政策を取り巻く現行諸法の基本的理解を目的とする。文化政策の範囲を広義に捉えた上で、国および地方公共団体が行っている現実の文化政策に注目し、関連する法や条例、国際条約について検討する。文化芸術振興基本法や、これを受けた地方公共団体の文化振興基本条例における文化政策の基本的な体系の理解とともに、博物館法や劇場法をはじめとする文化政策に関する諸法や条例、知的財産権や都市計画、まちづくり等に関する法、文化関連の国際条約等について、諸外国の事例も交えて考察する。

●生涯学習と文化

生涯学習とは何かを明確にしながら、今日の急激に変化する社会の中での生涯学習の基本的課題を概説する。特に、生涯学習社会における子ども観・若者文化のあり方に関する検討を通じて、知の循環型社会としての生涯学習社会の構築に向けての課題を探求する。生涯学習社会における学校・家庭・地域の連携のあり方、メディア・リテラシーの問題、キャリア形成の課題、社会教育指導者の役割、学習支援と学習成果の評価と活用等の現代的課題を、映像資料等を活用し、具体的な事例を通じて学習する。

情報・リテラシー領域

●統計学

平均、分散、標準偏差、正規分布、母集団、標本誤差やカイ二乗検定等、統計を利用したり、社会調査を行ったりする際に必要となる統計学の基礎的な知識をもとに、表計算ソフト等を使って簡単な分析ができる能力を身につける。さらに、国勢調査・社会生活基本調査・経済センサス等、文化、社会、経済やそれに関わる政策の研究に必要な統計の特徴についての理解を深める。

●社会科学の方法

社会科学には経済学・社会学・政治学など様々な学問が含まれるが、それらには共通して、社会現象を科学的に見ようとする知的営為がある。ここでは、社会現象を科学的に分析する手続きを紹介し、概念や論理の構成、統計データ(数字)の使い方、専門書の読み方、テーマ選定や引用手続などの論作文法、図書館の利用方法などについて説明・指導する。また社会科学が歩んできた歴史や主な社会科学者の社会科学に対する考え方を紹介しつつ、現在の社会科学が置かれた現状について理解を深める。

●フィールドワークの手法

実地調査を通じて質的(定性的)データを収集するフィールドワークの手法が、社会科学や人文科学など広範な分野の学問において、盛んに導入されるようになった。フィールドワークの実施対象は多岐にわたっており、特定の対象を研究する場合も、テーマや目的など調査者の関心は多様である。こうしたフィールドワークの背景となる考え方や、参与観察・インタビューなど具体的な手法について理解を図る。調査手法を身につけるだけでなく、フィールドワークを行うはどういうことを考える。

●プレゼンテーション技法

伝えるべき情報を上手に表現し、相手が納得するような円滑なコミュニケーションを達成するためのプレゼンテーションの技法を学ぶ。具体的には、プレゼンテーションにかかるビジュアル表現を支える様々な技法と、それらを用いた口頭発表の方法などを実践的に展開する。

●ディベート技法

多様化し複雑化した現代社会で我々が生きていくためには、多面的な見方が必要とされる。他人とのコミュニケーションを通して、様々な角度から考える態度を常に身につけておく必要がある。問題意識を持ち、その問題に関連する情報を蒐集し、蒐集した情報を分析し、論理的に思考する力を養う必要がある。また、自分の考えを人に発信するために、説得力を持ち、論理的な発言ができないなければならない。他方、相手の意見を傾聴する態度を備え、正しく理解した上で、論理的な批判力が持てなければならない。こうした一連の能力を実践的に養っていくのがディベート技法である。

●ファシリテーション技法

企業や学校、地域コミュニティなど、多様な人々が集まる場や機会において、集団による問題解決、アイデア創造など、グループとしての活動が円滑に行われるよう、中立的な立場から支援を行なうファシリテーションの手法や技術について学ぶ。場のデザインのスキル、対人関係のスキル、構造化のスキル、合意形成のスキルを身につけ、最終的にはワークショップ等の機会に自らがファシリテーターとしての役割を担うことができるようになることを目的とする。

●情報リテラシー基礎

現代の情報社会において必須であるとともに、大学で学ぶ上で必要となる情報の基礎能力を養う。講義項目は、コンピュータの基本原理および操作方法、電子メールの初期設定と利用・セキュリティ、インターネットの原理、WWW(ワールドワイドウェブ)・クラウドコンピューティングの仕組みと利用、ワードプロセッサを用いた文書作成と書式の設定管理、ファイルの操作と管理、メディアリテラシーの基礎、ソーシャルネットワークの活用と情報収集、情報発信などである。

●情報リテラシー応用A

コンピュータを実践的に活用できるようになることを目的として、表計算ソフトウェアおよびビジネス文書作成の能力を養う。講義項目は、コンピュータにおける数と文字の扱い、表計算ソフトウェアの基本的な操作方法、相対参照と絶対参照、シート上の書式設定、レポートを仕上げる手法、印刷書式設定、フォーム設定、計算処理、グラフ作成と軽線、データベース的処理、論理演算と検索、アンケート集計などである。これらにより、データを処理・可視化してレポートとして仕上げる能力を学習する。

●情報リテラシー応用B

画像を含む文書作成能力を養うことを目的として、コンピュータを用いた画像および図形処理について学ぶ。講義項目は、コンピュータにおける画像・図形であるラスター図形およびベクターリンク図形の扱い、画像を扱う基礎となる画素数・解像度・色の表現などの知識、データの圧縮と情報量、ファイルの形式とその選択、さらにプレゼ

ンテーション・ソフトウェアにおける図形の扱いなどである。講義で基礎的な知識を学ぶだけでなく、PhotoshopおよびIllustratorを用いた実践的な処理についても学習する。

●図書館概論

社会的な記憶装置としての図書館は、情報通信技術の進歩に伴い、情報基盤の一つとして、一層の多様化が進展している。こうした背景のもとに、図書館の今日の意義や役割、図書館の歴史的発展経緯や種類、図書館に関する法的基盤と行政施策としての政策、各種図書館の制度と機能、図書館員の役割、著作権や知的自由、現代社会における図書館の新たな機能や課題について、解説する。同時に図書館を使いこなして情報収集できる基本的な技術を身につけさせることも目的とする。

観光領域

●観光学概論

日本において「観光」は注目を集める成長産業である。特に2013年以降、インバウンド観光客の増加は驚異的とも言える。本講義では、観光学の基礎を築くため、世界と日本における観光業の起りから、マツツリズムへの発展と直面した課題、そしてそこから発生したオルタナティブ・ツーリズムやサステナブル・ツーリズムとの発展など、観光の歴史的潮流をマクロな視野から学ぶ。

●観光社会学

観光は21世紀以降の世界において、急激に二ヶ所が高まってきた産業であると同時に看過できない社会現象である。また、世界経済を牽引する原動力の一つとして学問的にも今後さらに注目されるであろう。この講義では、観光が社会に及ぼす効果と影響を多角的に検討し、社会の持続可能性に貢献する観光のあり方を探る。

●グローバル観光論

世界の国際観光客数は、戦後間もない1950年時点と比較すると、今やその50倍近くに達するほど拡大し、世界的に大きな経済効果をもたらしている。本講義では、「国際観光」の概念を把握し、特に、今後日本経済の牽引役への成長期待も大きいインバウンド観光による地域創造について学習する。また、海外における知名度の高い観光地や観光資源について、その特徴も概観する。

●観光地理学

自然環境と経済・社会・文化等との関係を対象とする地理学の見地から、観光について論じる。特に、文化の懸け橋としての街道に注目し、観光資源としての魅力を探る。具体的な事例として、古代から多くの人々が行き交った東海道、東西文明を結んだシルクロード、ドイツのロマンティック街道等を取り上げる。

●観光ビジネス論

観光をめぐる理論と観光の現場を結ぶ知識として、この講義では観光業における実務的な内容について学ぶ。まず、背景として国や地方自治体の観光政策の概要を把握した上で、旅行代理店・運輸業・宿泊業・広告業等の企業における観光経営を取り上げる。観光業界の実態や観光業務の実務面についても知識を深める。

文化政策学部科目概要

2023年度 カリキュラム

●テキスタイル概論

人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めてきた。衣服としてだけでなく居住環境にも応用することで、生活を豊かに、快適に、美しいものにしてきた。そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めるとともに、新たなテキスタイルの可能性について学ぶ。

●日本伝統建築

日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鍛、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県の文化資産ともいえる伝統建築のあり方も考える。

選択外国語 フランス語

●フランス語コミュニケーションIA

文法に重点を置いてフランス語の基礎を学ぶ。アルファベから始まって動詞の活用や名詞と形容詞の性数の区別など、フランス語の基本構造を理解する。問題演習を中心に文法をマスターしながら、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにする。繰りを正確に音読して発音にも注意し、動詞活用や名詞等の性数の違いを中心に辞書の使い方も学ぶ。同時に、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に触れ、フランス語を学ぶことと現在の世界とのつながりを意識するようにする。

●フランス語コミュニケーションIB

平易なテキストをもとに、日常生活で使用される頻度の高いフランス語の言い回しを中心に学習し、CD、DVDを用いた聞き取りと発話練習を繰り返して基本的な「聞く・話す」能力を習得する。挨拶から始まって、自己紹介、好き嫌いを言う、ものや人物について述べるなど簡単な自己表現と意思疎通ができることを目標にする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習を発端に現代世界を見ていく機会をつくる。

●フランス語コミュニケーションIA

IAに引き続いて、文法に重点を置いてフランス語の基礎をより深化させる。問題演習を中心にフランス語の基本構造を身につけ、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにすると同時に、基本的語彙や表現をさらに身につけていく。複合過去形や半過去、人称代名詞、関係代名詞など複雑な文章構造に慣れていく。繰りの正確な読みをさらに徹底して発音に慣れ、自然な速さでの音読ができるようにする。辞書の使い方もマスターする。

●フランス語コミュニケーションIB

IBに引き続いて、日常生活で使用される頻度の高いフランス語の言い回しを中心に学習し、CD、DVDを用いた聞き取りと発話練習を繰り返してより高度な「聞く・話す」能力を習得する。買い物、レストランでの注文、道をたずねる、自分の生活について語るなど実際のコミュニケーションに役立つ表現を身につける。フランス語の

音やリズムに慣れ、自分から積極的に発話できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解もさらに深めていく。

選択外国語 ポルトガル語

●ポルトガル語コミュニケーションIA

本授業では、日常生活を中心にポルトガル語の文法と文章の基礎を学ぶ。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。さらに正しい発音と読解力、作文の方法をマスターするよう地道に指導していく。学外活動では、ブラジル人学校、多文化共生イベントなどでの文化交流を行う。

●ポルトガル語コミュニケーションIB

浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれている。なお、ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及している。その中で、学生がそれらのメディアに触れられるように、本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIAに統いて基礎的な文法の学習し、読む力、そして簡単な文章の作文を試みる。ブラジル社会と文化への関心と理解を深め、学習の動機づけを強めるため、ビデオ鑑賞も授業で行う。

●ポルトガル語コミュニケーションIA

本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIA・IBを継続し、日常生活を中心にポルトガル語の文法や文章の基礎を学ぶ。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。さらに正しい発音と会話力を育成するため、地道に指導していく。クラスをグループ分けして、それぞれのグループで作成したスキットなど発表させる。

●ポルトガル語コミュニケーションIB

浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれている。なお、ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及している。その中で、学生がそれらのメディアに触れられるように、本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIAで学習した文法や文章表現などの基礎をもとに、読解力、作文作成の方法をマスターできるように指導する。ここでは日記の作成や演劇などの自作も試みる。

選択外国語 韓国語

●韓国語コミュニケーションIA

韓国語の「聞く・話す」ということに重点を置き、韓国語の基礎を身につけることを目指す。ハングル文字の仕組みや発音の仕方から入り、韓国語の構造や原理を理解した上で、慣用的な挨拶をはじめ、基本的な語彙や日常生活会話を学習する。また、日本と韓国の面白い習慣の違いや日常生活のちょっとした違いなどを取り組んで、日本人が間違いやすい点に留意しながら、面白く楽しく正確な発音練習と聞く訓練を繰り返して韓国語の聞く・話す能力を習得する。

●韓国語コミュニケーションIB

韓国語の「読む・書く」ということに重点を置き、韓国語の基礎を身につけることを目指す。ハングル文字の仕組みや発音訓練を重ねるとともに、聞き取り・書き取りを中心に、基本的な単語・語彙や文法について学習する。また、日本と韓国の面白い習慣の違いや日常生活のちょっとした違いなどを取り組んで、日本人が間違いやすい点に留意しながら、新聞や雑誌などの記事を用いた読解や書き取り練習を繰り返して、韓国語の読む・書く能力を習得する。

●韓国語コミュニケーションIIA

韓国語コミュニケーションIAに引き続き、韓国語の「聞く・話す」ということに重点を置きながら、韓国語の基礎を身につけることを目指す。韓国語の基本的な構造や原理を理解した上で、特に日本人が間違いやすい点などに留意しながら、慣用的な挨拶をはじめ基本的な文法を学習する。また、その際に視聴覚教材などを援用しながら、韓国語の聞く・話すという能力のスキルアップをはかるとともに、韓国社会と文化の理解にも努める。

●韓国語コミュニケーションIB

韓国語コミュニケーションIBに引き続き、韓国語の「読む・書く」ということに重点を置きながら、韓国語の基礎を身につけることを目指す。聞き取りや書き取りを中心にしながら、ハングル文字の仕組みや発音訓練を重ね、基本的な単語・語彙や文法を学習するとともに、辞書を引きながら新聞や雑誌などの記事を用いた読解や書き取り練習を繰り返して、韓国語の読む・書く能力のスキルアップをはかるとともに、韓国社会と文化の理解にも努める。

選択外国語 インドネシア語

●インドネシア語コミュニケーションIA

インドネシア語基本文法の理解および初步的な文章表現の習得を第一の目標とする。日本語や英語と比較しながら、その全体的特徴を認識した上で語順、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数字、時刻/時間、年月日/曜日、語根動詞/Ber動詞、接辞Me-、形容詞/副詞、前置詞、助動詞、辞書の使い方などを学習する。授業では、指定テキストとともに配付プリントの練習問題に取り組むことにより、語彙を増やし会話をする際の文法的基礎を築く。

●インドネシア語コミュニケーションIB

日常会話に不可欠な語彙や表現を知るとともに、やや複雑な表現技法を用いた会話習得を目指す。発話練習を繰り返しながら、数字、時間、年月日他の文法授業で学んだ事柄を会話で活かせるように練習する。また会話教材に沿い挨拶や自己紹介、他者への指示や依頼の仕方などの表現を使えるようにする。最終的には受講者が指定共通トピックについて小作文を準備、発表、質疑という授業を行う。なおヒアリング力を強化するために、DVD/CD教材を利用する。

●インドネシア語コミュニケーションIIA

インドネシア語IAでの学習を踏まえた上で、さらに高度な文法事項の習得を目指す。具体的にはより複雑な各種接辞(Me-kan/Me-i/Memper-/An/Pe-/Per-an/Pe-an/Ter-/Ke-an/-Nya/Se/Se-nya)に加え、受動態や

選択外国語 ドイツ語

●ドイツ語コミュニケーションIA

文法に重点を置いてドイツ語の基礎を学ぶ。アルファベット表記、単語の発音の仕方から始まって動詞の活用や、名詞と形容詞の性数の区別と格変化、ドイツ語の構文パターンから、ドイツ語文法の基本構造を理解する。動詞活用や名詞等の性数格の違いを中心に辞書の使い方も学ぶ。問題演習を中心に文法をマスターしながら、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにする。発音にも注意し、綴りを正確に音読してドイツ語に慣れる。

●ドイツ語コミュニケーションIB

関係代名詞などテキストに沿って解説する。その後はテキストを離れ、昔話他簡単な読み物の講読を通じ、文法の定着と読解力の強化を図る。読み物の内容を正確に理解するため、並行的に映画、ドラマ、ドキュメンタリーのような関連DVD映像を鑑賞する。

●インドネシア語コミュニケーションIB

基本的にインドネシア語IBの授業内容を拡大発展させる方向で継続する。配付プリントに基づく日常会話の練習に加え、いくつかのトピックについて小作文を準備し発表、受講者間の質疑という形での対話型授業を一層充実させていくことにより、会話能力のさらなる強化を図る。IB授業の時と比較すると、作文量、用いる慣用表現の範囲、質疑の際の質問の種類および回数、発表時間などが増すことになる。

選択外国語 イタリア語

●イタリア語コミュニケーションIA

イタリア語の基本文法を重点的に学ぶ。単語力をつけ、名詞の性数変化・現在形の動詞活用をマスターすることに主眼を置く。生活の各場面に応じた基本フレーズを暗記し、グループワークの中で反復練習することによって文の構造を理解し自分で作文できるようにする。発話を録音し自分の耳で聞いて自発的な学習を習慣づける。イタリアの社会や歴史、生活文化の事象も学びながら、「自分のこと」について表現できることを目標とする。

●イタリア語コミュニケーションIB

IAに引き続き、未習の文法項目を学びイタリア語の基礎力をつける。ネイティブの発音を参考にしてミニ会話を自主録音し、音声課題として提出する。さらに、CD、DVDを用いた実践練習を繰り返して発話する力を定着させ、「好き・嫌い」の言い方、依頼表現、欲求や許可を求める表現をマスターする。近過去までを習得し自分の経験をイタリア語で述べる。辞書を使って文化コラムを訳読みし、文の構造を理解しながら「読み」力をつけていく。

●イタリア語コミュニケーションIA

IA、IBを基礎に中級レベルのイタリア文法を学ぶ。過去時制の概念を整理し、自分で使えるように実用フレーズを暗記して作文力をつけていく。買い物や食事、現地での学生生活のために教養として必須の知識を獲得しつつ、各場面で役立つ表現を身につける。CD、DVDを多用してドラマ・映画を題材に聞き取り練習を繰り返しながら、ミニ会話を自主録音し音声課題を提出する。語彙力の強化と目的語・命令法・比較表現が使えることを目標とする。

●イタリア語コミュニケーションIB

IIAに引き続いて中級レベルの語彙力・読解力の定着を図る。条件法、接続法を用いた新聞記事・雑誌のコラム等の訳読みも行う。映画教材の字幕を分析し、社会事情への理解を深めながら生のイタリア語が理解できるようにDVD教材を使ったグループワークを行う。芸術作品、文化遺産のキャプションを題材にして、遠過去・関係代名詞・専門用語を用いた高度な文体の読解にも取り組む。実用イタリア語検定3級レベルの問題演習を隨時取り入れる。

国際文化学科科目概要

2023年度 カリキュラム

学科基礎

●国際文化概論

国際文化を広く学ぶために、国際文化が一定の安定性を有しながらも、変わりつつある構造物であることを知り、それを関係的、構造的、過程的に捉える視点を育むことを科目の主要な目的とする。また、この科目の学びを通して、その後の学科での学習への関心と意欲を高めていく。そのため、国際文化学科の教員の研究成果や多様な事例を用い、具体的な事象から国際文化の全体像を考察して、国際文化を理解する上で必要になる多様な視点を学ぶ。

●文章表現技法

人文社会科学分野における文章作法の基礎的訓練を行う。例文に取り上げる人文・社会学者の文章を通じて、伝統的な文章構成の重要性と、日常語とは異なった学術的文章作法について理解を深め、実際の文章作成によって各人の表現能力を高めることを狙う。以上の学術的な文章作成のための技法習得を授業目標の中核に置き、そのための階梯としてのレポート作成、語彙力の強化、さらにはエッセイや実用的文章の読み書きの技法を総合的に学習することにより、目的に応じた文章表現能力育成も視野に収めて授業を行う。

●国際文化基礎論

全学科目「学芸の基礎」の後を受け、国際文化理解に必要なリテラシー能力の一層の充実を図る。授業で設定された課題に関する資料や文献を様々な方法で調べ、それらの文献の分析を進めた上で、課題に対して多様な視点で分析、批判したレポートをまとめ、発表する。またレポート作成に関しては、明確な論点を持つだけでなく、参考文献、引用といった基本的な論文技法についても学ぶ。こうした過程を通じて、国際文化学科で学ぶための基礎力となるリテラシー能力を高める。

●ナショナリズム論

近代以降の世界の姿を知る上で、nation(民族/国民)への理解は欠かせない。本科目では手始めに簡単な理論的導入を施した上で、多民族状況と格闘するべく多文化共生的な政策を推し進めながらも結局はいくつもの国民国家に分裂する形で崩壊するに至った複数の多民族国家を事例として取り上げ、行政上の枠組の変遷や言語空間の変容が民族および民族問題の形成に及ぼした影響を論じることを通じて、nationを固定的な所与のものとする見方を再考する。

●国際関係論

「国際関係論」とは、国際社会やそこで生起する様々な現象を対象とする学問である。この授業では、学問の成り立ちや性格を紹介した上で、今日まで積み重ねられてきた理論と学説の系譜を概観し、主要な視座と基礎的な概念を習得する。さらに、以上の学問的なツールが国際問題の分析や歴史の理解にどのように適用されるかについて、いくつかの事例を通じて検証し、国際関係への学問的な理解と考察を深めることを授業の目標とする。

●比較文化論

文化とは何か、文化の違いをどのように捉え、どのように比較するのか、といった文化の見方について検討する。まず文化に優劣はないという文化相対主義的な基本認識に立ち、時代・地

域・集団ごとに異なるものとして文化を捉え、各々の文化の独自性と固有の価値観を考察する。その上で、複数の文化が接触し合い相互に影響する、または異文化を鏡として自らの文化を形成する過程に注目し、文化が相互に変容する可能性をも考察する。

●グローバル・キャリア・デザイン概論

国際的な舞台で展開される仕事にどうようなものがあり、どういった人材を求めているかを学び、学生が自分の可能性とそのために必要な準備を進めるための学びの場とする。特に機械工業、サービス業、非営利団体、流通業などの国際的な業務を展開している業界の情報提供、求められる人材の具体的なケースを研究するとともに、必要に応じて現場で活躍する専門家を講師として招き、具体的な学びを行う。これらを包括的に学ぶことによって、グローバル人材としてのキャリア・デザインを設計するための学びの場とする。

学科基礎 国際文化入門

●国際文化入門A

英語を理解するためには、単語や文法の知識だけでなく、その背景文化についての知識が欠かせない。この授業では、英語の成り立ちや、イギリス、アメリカなど英語が話されている地域、また、キリスト教やギリシャ・ローマ神話、ケルト、ゲルマン神話、伝説など、英語や英語文化を学ぶ上で基礎になる背景知識について講義する。学生自身が英語や英語文化に興味・関心を持ち、2年生以上の学科科目においてそれを深めていくための入り口となるように位置づける。

●国際文化入門B

東アジアにおける日本・中国・韓国の3カ国は古来よりさまざまな側面において、相互に強い影響を与えていた。日本・東アジアの文化と社会について、基礎的な知識を習得し、生活と文化の様々な側面に理解を深める。それに加えて、日本と韓国、日本と中国、中国と韓国といった、東アジアにおける異文化交流のあり方についても考える。以上の基礎的な理解を踏まえ、2年次以降の当該地域の学科科目と、3年次以降の演習(ゼミ)を受講するための予備知識を習得する。

●国際文化入門C

地中海地域の文化について基礎的な知識を提供し、生活と文化の諸相を概観する。具体的には南ヨーロッパと北アフリカの地中海西岸の主要都市の都市空間とその生活文化を題材に、古代から継承された地中海世界の特徴を考え、この地が育んだヒューマンスケールの合理性と共同体の力学とも呼ぶべきものを考察する。異なる文化圏を一つの世界として横断的に捉え、異文化間に共通した統一性を認識したい。さらには歴史、文学、美術、映画などの理解を深め、2年次以降の学科科目、3年次以降の演習受講のための予備知識を習得する。

●国際文化入門D

国際社会において異文化間の接触により生起する諸事象や、多文化状況下にある諸地域の社会の特質について、基礎知識を習得し、その歴史的背景を概観する。国際社会に関する考察における文化をめぐる観点や、社会・文化の多様性とその変動について認識を深めつつ、「日本・東アジア」「地中海・西欧・北米」「多文

化共生」の各区分をはじめとする2年次以降の学科科目、3年次以降の国際文化演習(ゼミ)を受講するための予備知識を習得する。

学科基礎 専門外国語

●英語表現法

英語による効果的な文章作成、論文作成、口頭発表ができるような英語表現技法の基礎力を養うことを目的とする。英語でわかりやすく表現するにはどうすればよいのか、英語らしい表現、論理的な文章構成、パラグラフの効果的な使い方など、英文を書く上での基礎を身につける。また、多くの英文を書く課題を通じて、自分の言いたいことを自然な英語で表現できるよう訓練し、話す・書くといった産出面での正確さと流暢さの両方の能力を伸ばす。

●英語上級 観光英語

国内や海外で活躍できる、旅行者を案内するツアーコンダクターやツアーガイド、その他観光業に必要な英語の基礎から実践的な力までを習得する。日本人が気軽に海外に出かけるようになった昨今、さらに国や県としても観光に力を入れ始めている。そのような時代にあって、旅行中や、観光業において遭遇するであろう様々な場面における対処法や、観光必須用語、および必要な表現を効果的に習得していく。卒業後の進路を見据えた、英語を使う仕事につながるキャリア・パス(career path)科目である。

●英語上級 会議英語

会議や集会、国際会議などで議長、司会者、進行係(Master of Ceremonies)として会議をリードできるような英語の理解力と発信力、リーダーシップ力を養う。はじめの言葉、参加者の紹介、聴衆への語りかけ、議題の説明、会議の進行、発言者の意見の要約に加え、時にはジョークを飛ばしたりして、場を和ませる。このようなMCに必要な英語表現力を身につけるために、授業の中で実践演習を行う。さらには、文書での説明や質疑応答を通して、相手と交渉できる語学力をも養う。

●英語上級 通訳

将来通訳のプロとして、あるいはコミュニティのボランティア通訳として、または国際化社会における多言語企業で働く者として、必要な技能を養成するキャリア・パス(career path)科目である。通訳養成に使われる訓練法、つまり耳から入ってくるセンテンスのリピートと訳、シャドーイング、サイト・トランスレーション、パラグラフごとの要約と訳など、英語から日本語、日本語から英語へとすばやく転換する力を養う。また、日本に暮らす外国人の数が増加していることから、言葉の橋渡しをするコミュニティ通訳者として、司法、医療、学校、行政の通訳業務についても学ぶ。

●英語上級 翻訳

将来の翻訳者を育成するための入門的キャリア・パス(career path)科目である。翻訳は現場での経験がものをいう仕事であるが、大学の授業で翻訳の理論と方法を学び、実務翻訳演習をすることで、翻訳の難しさと重要性を学ぶ。翻訳とは辞書と英文法の知識さえあれば誰にもできるという単純な作業ではないのである。内容としては、翻訳の理論を最初に学び、次に実際に解説文、評論文、論文、小説、絵本、マンガ、字幕、歌詞、マニュアル、カタログ、ビジネスレター、契約書、広告文の翻訳演習を行う。

●中国語上級I

総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、書く、話す能力を中心に、上級レベルの言語表現法を学ぶ。実践的な手紙文、挨拶文、通信文、報告書などの形式と、それに合った表現・語彙を身につけ、ともに作文能力も養っていく。また、翻訳練習を通して、日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解する。さらに、中国語使用の実際に即した専門書・参考書の使い方を身に着け、中国語の応用能力を高める。

●中国語上級II

総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、話す、聞く能力を中心に、上級レベルのコミュニケーション能力を養う。日常的な会話、討論、スピーチなどの場面に応じて、それに合った表現・語彙を身につけ、実践的な語学力の育成を目的とする。また、通訳練習を通して、口語表現を含めた日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解し、異文化間コミュニケーションの実践的知識、さらに語用論的知識を身につける。

●フランス語上級IA

フランス語の基礎を習得した者を対象に、口語コミュニケーションとしてのフランス語に慣れ、その運用能力を確実にすることを目標にする。授業はCDやDVDを使って、正確に聞き取る、自分で言ってみる、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く、話す」に力点を置いた口語コミュニケーション能力を養う。正確に発音して自然なフランス語を発信できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく視点を養う。

●フランス語上級IB

フランス語コミュニケーションで学ぶフランス語の基礎を習得した者を対象に、文法をさらに確実にしつつ、語彙や表現を深めながらより高度なフランス語の「読む、書く」能力を習得していく。新聞・雑誌やインターネットのWebサイトなど、日常生活の周辺にあるさまざまなフランス語に触れて、普段使われるフランス語が理解でき、自ら発信できるようにする。また、今日のフランスとフランス語圏の社会や文化事情の理解にも努める。

●フランス語上級IIA

IAに引き続いて、口語コミュニケーションとしてのフランス語に慣れ、その運用能力を確実にすることを目標にする。授業はCDやDVDを使って、正確に聞き取る、自分で言ってみる、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く、話す」に力点を置いた口語コミュニケーション能力を養う。正確に発音して自然なフランス語を発信できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく視点を養う。

●フランス語上級IIB

IBに引き続いて、文法をさらに確実にしつつ、語彙や表現を深めながらより高度なフランス語の「読む、書く」能力を習得していく。新聞・雑誌やインターネットのWebサイトなど、日常生活の周辺にあるさまざまなフランス語に触れて、普段使われるフランス語が理解でき、自ら発信できるようにする。また、今日のフランスとフランス語圏

の社会や文化事情の理解にも努め、フランス語学習を通して自分を取り巻く現代社会の多様性を認識していく。

●フランス語応用

これまで学んだフランス語の完成を目指し、読む・書く・話す・聞く能力を総合的に養う。授業は演習形式で、テキスト講読と口頭練習を中心に、より高度で正確なコミュニケーション能力をつけることを目標にする。文学作品講読や、フランス語検定、DELF・DALFの世界標準資格試験の問題演習、フランス語でのプレゼンテーションを行う。言語の学習に伴って、その背景となるフランスおよびフランス語圏の文化と社会への理解も深め、英語（中国語）に加え、複数言語を学習することの意義と世界の多様性を認識していく。

●ポルトガル語上級IA

ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、日常会話の練習を中心に、聞き取りの練習も積み重ねる。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。授業の合間には視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史・社会・文化・習慣について紹介する。

●ポルトガル語上級IB

ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに読解と作文を中心に授業を進める。さらに実用的な文章作成の練習を積み重ねる。ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及していることから、学生がそれらのメディアに触れられるように指導する。授業の合間には視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史・社会・文化・習慣について紹介する。また、日記の作成や演劇などの自作も試みる。

●ポルトガル語上級IIA

ポルトガル語上級IA、IBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、引き続き日常会話の練習を中心に授業を進める。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるよう指導する。また、ポルトガル語の文法・語彙をレベルアップさせ、さらに会話能力育成を中心に授業を進める。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深める。

●ポルトガル語上級IIB

ポルトガル語上級IA、IBで学んだ文法・語彙をレベルアップさせ、さらに読解力と実用的な文章の作成を中心に授業を進める。ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及していることから、学生がそれらのメディアに触れられるように指導し続ける。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深め、在浜松市のブラジル人学校やブラジル人コミュニティとの交流を図る。

●ポルトガル語応用

ブラジル・ポルトガル語の基本的知識を活かしながら、新聞や雑誌の記事を読む。また、ポルト

ガル語でTVニュース番組を見て、それぞれの内容についてポルトガル語で討論をする。なお、浜松市にブラジル人コミュニティがある背景には、ブラジルにある日本国外の最大の日系コミュニティの存在がある。これらの歴史的背景を学生に紹介しながら、ポルトガル語の資料を読んで歴史を学ぶよう指導する。

●韓国語上級IA

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く・話す」能力の向上を目指す。慣用的挨拶や基本的な会話表現の練習を通じて、基本的な単語や語彙と文法を学習しながら、また視聴覚教材を援用して聞く訓練を重ねる。日常会話を題材にして学生同士の対話訓練も実施して、徹底したトレーニングを繰り返し、正確な発音を身につけ、韓国語の聞く・話す力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IB

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む・書く」能力の向上を目指す。慣用的表現や対義語・類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の微妙な違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文・作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事や論文などを読む訓練を重ね、韓国語の読む・書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IIA

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く・話す」能力の向上を目指す。韓国語上級IAに引き続き、慣用的表現や対義語・類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文・作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事や論文などを読む訓練を重ね、韓国語の読む・書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IIB

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む・書く」能力の向上を目指す。韓国語上級IBに引き続き、慣用的表現や対義語・類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文・作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事や論文などを読む訓練を重ね、韓国語の読む・書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国社会と文化についても理解を深める。

専門科目

日本・東アジア

●日本文化史

日本列島上の島々の社会や文化の特徴について、東アジアをはじめとする諸国家・諸民族との交流の歴史を軸にしつつ考察する。例えば、北海道、沖縄諸島、対馬、小笠原諸島などを取り上げ、それぞれに固有な歴史・文化が、いかなる地理的・社会的背景によって生まれたのかを明らかにする。そのことにより、日本が決して単一の社会ではないことを深く理解するとともに、日本文化の多様性を考える。対象とする時期は、古代から現代まで幅広く設定する。

国際文化学科科目概要

2023年度 カリキュラム

●日本文学史

日本の神話・伝説・昔話といった口承文芸(伝承文学)を主軸のテーマとして、そこから展開・派生するかたちで上代から近現代までの日本文学の体系的な歴史を学ぶ。通史的・編年的な文学史ではない。日本文学というジャンルと作品に深く関わって、文学作品とその成立と展開を支えてきた社会・歴史・民俗・風土・信仰・国際性などについての理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「広がり」について考える機会としてほしい。

●現代日本語表現

現代日本語表現を、意識的かつ分析的に観察する視点を涵養する。実際のコミュニケーション、フィクション、住生活や食生活といった生活場面、時には、社会変化などから、それらの中で見られる日本語表現を取り上げていく。日本語表現の特質とはどんなものか、その特質がある場面でどのような効果を持ち得るのが等に注目し講義をする。また、取り上げた現代日本語表現が、どのような変化を経て、あるいは、どのような歴史的背景を持ち存在しているのか等の通時的な視点も取り入れていく。

●日本文学A

日本の古典文学作品を対象として、古典文学を理解するために必要な基礎知識を習得する。古典文学は、それが成立した社会・歴史・民俗・風土・信仰・思想などさまざまな視点を踏まえて読み解かれるべきである。作品に込められた作者の、あるいは伝承者たちのメッセージを正確に読み解くことで、古典文学の中に受け継がれた日本文化の深層への理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「深み」について考える機会としてほしい。

●日本文学B

日本の近代文学および現代文学を対象として、それらを理解するために必要な知識の習得を目指す。明治以降の文芸は西洋の思想的影響に晒されて浪漫主義や自然主義といった思潮を展開させた。この講義では、特に自然主義の思潮を近代文芸における基軸の一つとして捉え、その展開と葛藤、相克といった視点から個々の作家・作品を検証してゆく。近代日本における文芸の流行とその社会的な背景を学ぶことで、一つには高い教養を身につけ、あるいは「近代」とは何だったのかまでを思考する機会としてほしい。

●漢文学I

『論語』『孫子』『韓非子』等のように、日本の思想や文化に大きな影響を与えた古代中国の思想書をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞの作者・歴史・社会・文化・思想、そして日本文化への影響(享受)についても学び、高次の知識・教養を養う。高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。

●漢文学II

李白、杜甫、白居易といった日本の文学に大きな影響を与えた漢詩をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞの作者と詩にまつわるエピソード・社会・文化・思想、そして日本文学への影響(享受)に

ついても学び、漢詩の世界観をめぐる高次の知識と教養を養う。「漢文学I」に引き続き、高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。

●日本史学A

日本の中世から近世を対象として、その社会のあり様と人々の存在形態について考察する。特に身分制社会の成立過程と、その中の人々の社会的役割や生活・思想についてしていく。武士・公家・百姓・町人・被差別民というような社会集団からだけではなく、女性や子ども・老人といった年齢や性別、あるいは身分を超えたネットワークのあり様など、多様な視点から分析を試みる。そのことにより、今日の日本社会のあり様についても考える力を養う。

●日本史学B

前近代から近現代に至る日本の歴史について具体的史料に基づいて講義する。この授業では、日本列島を超えた国際的な視野で世界史の中の日本史を捉える。また、こうした世界史の中で、静岡県域あるいは三遠南信(三河、遠江、南信濃)、東海地域というこの地に、どのような影響がみられたのかを、地域に根ざした歴史から理解させていくものである。世界と地域という二つの視点を重視しながら、人物史・政治史のみならず、社会経済や文化の推移についても、論じていく。

●日本語語彙研究

日本語の語彙の性質について、日本語学的な観点から体系的な語彙論のもとに学んでいく。語彙というのは語の集まりである。本講義で学んでいくのは語(個別的な語)ではなく、語の集合である語彙である。具体的には、語彙には、どのような特徴があり、どのような構成をしているのだろうか、また、日本語を学ぼうとする外国人に、日本語を教えるためには、どのくらいの語彙の知識が必要であろうか、などである。これらを学ぶことで、日本語の語彙に対する客観的・分析的な視点を養ってほしい。

●日本語研究

日本語を総体的かつ客観的な視点で分析する方法について学ぶ。用例の収集、データベース作成、そして、作成したデータベースの分析を行う。また、日本語研究や日本語教育で、データベースを通して分析した結果の利用法についても考えていく。高度情報化社会では、コーパスを使った辞書をはじめとし、データ化された資料やデータベース化された資料が多く存在し、今後もますます増え続けていく。本講義で学んだスキルによって、より実証的に、より客観的に情報を操作できるようになり、高度情報化社会で生き抜く力を身につけてほしい。

●日本文学作品研究

特定の文学作品の原典を精読する。作品の本文だけでなく、その成立をめぐる歴史的・社会的背景、文化的・思想的環境、諸本(テキスト)の異同・分類、研究史、最新の研究課題、研究手法などを学ぶ。日本文学の本格的な研究成果に触れることにより、課題・論点の見出し方とそれを解決する方法(資料の読み方、調査の手法など)の習得を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学について高いレベルでの教養を習得する機会としてほしい。

●古文書の調査と読解

日本の歴史や文化を研究するための一番の基礎は、対象となる時代に記された古文書を読むことである。しかもそれは活字史料ではなく、原史料であることが望ましい。そこで古文書の読解力を養うことを目的とし、実践的な授業を行う。その際、まずは現代の公文書をはじめ、記録遺産としての資料の価値を知ること、資料全文の収集・整理・保存・活用の意義と課題を学ぶことから始める。その上で、江戸時代のくずし字を中心に古文書の読解を進める。

●美術史(日本・東洋)I

古代から中世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から日本美術の特色とは何か検討する。また、どのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●東南アジアの文化と社会A

東南アジア島嶼部を舞台に、外文明との関わり、人の移動と文化の変容、植民地支配の影響、一つの国家としてまとまってゆく過程、独立国家の民族政策・文化政策、言語と教育といった大きな枠組みを念頭に置きながら、文化の重層性や動態について理解を深め、今日の東南アジアを正しく認識するための視座を身につける。その上で、インドネシアにおける地域文化を動態的・文化的な事例として取り上げ、具体例に基づいて理解を深める。

●東南アジアの文化と社会B

近代以前の東南アジア史に関して基礎的な知識を習得した後、近現代の東南アジアにおけるネーションやエスニシティをめぐる諸事象について理解を深める。東南アジア各地の事例を見ながら、この地域の人々の自己認識がどのように変化したかをとり、政治や文化における統合や多様性について考察する。また、東南アジア出身者やその子孫が東南アジア以外の地域で定住している事例を取り上げ、そうした人々のアイデンティティについて考察する。

●中国の文化と社会

本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目指す。中国に関する様々な最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的・縦軸と空間的・横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるために多様な現実的な社会問題に目を向けてさせることを可能な限り心がける。

●中国経済論

改革開放政策実施後における中国の経済政策と経済情勢の変化をたどる。計画経済から市場経済への移転に焦点を当て、それに関わるマクロ経済の諸テーマに基づき中国経済の現状を捉え、「経済」というキーワードを通して中国理解を深める。市場経済の基本的な仕組みを理

解すること、「中国脅威論」と「中国崩壊論」といった正反対の論調が並行する中国経済のマクロ的背景を理解すること、そして経済成長の意義について考えることを目的とする。

●韓国社会文化論

古来より日本と韓国(朝鮮半島)の関係は深く、韓国の文化と社会を知ることにより、自文化の新たな面(価値や魅力など)に気づくことができる。そのため、韓国の文化と社会を知ることは、何よりも自分自身(日本)について学ぶことであり、世界を知ることにつながる。韓国の社会的・文化的特質に迫るために、様々な観点から韓国の伝統文化と生活文化を体系的に捉え、韓国社会の基層構造について学び考察する。そして、韓国社会の文化的特質について理解を深める。

●中国古典学

中国古典の教養が東アジアの思想文化の基盤にあり、これに対する教養なくしては東アジア文化の理解はありえない。本講義は、儒学(経学)、歴史、諸子百家(思想)、文学(詩文集)の分類に従い、それぞれに関する人物と書物を紹介しつつ、その特色について考えていく。中国古典を体系的に概説し、その中から教訓を得、教養の幅を広げるとともに、その背景となっている社会の民族文化的基盤をも視野に入れて考察する。中国古典を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広くしていくことを目指す。

●アジアビジネス論

NIES、ASEAN、移行経済国とインド亜大陸という区分に基づき、アジア諸国の経済発展の軌跡を回顧し、今や世界の経済成長のエンジンとまで称されるアジア経済の全体像を把握する。また、日本などの先進国とアジア新興国の多国籍企業のあり方を通して、アジアで形成された生産ネットワークの実態と拡大するアジア市場の趨勢を明確にする。グローバル化が急速に進む中、日本は今後アジア諸国とどのように経済連携を図っていくかについて考えることを目的とする。

●東南アジアの歴史

東南アジアの歴史について考察し、この地域の社会の特質を理解する。主として18世紀末までの時代を対象とし、東南アジア大陸部諸地域の社会の形成およびそれらの諸地域間の関係や、東南アジアと近隣諸地域(東アジア・南アジアなど)との関係、さらにはヨーロッパとの関係の歴史について理解を深める。その理解に基づいた考察を通じて、19世紀以降の東南アジア史および現在の東南アジア各地の社会に関する理解を深めるための基礎を築く。

専門科目

地中海・西欧・北米

●近現代の中東A

世界有数の産油国であるのみならず、中東唯一の大國にしてそれ自体が一つの中華世界をなす国イラン。カージャール朝からパフラヴィー朝を経てイスラーム共和国に至るまでのその歴史を、イスラーム以前にさかのぼる古代ペルシア以来の文化的変容を踏まえつつ、近代化の過程における世俗主義モデルと十二イマーム派イスラームの政治理論の相剋、多民族国家における国民統合の探求、民主主義体制の模索、英露および米ソの対立の狭間での独立維持などの問題を踏まえて概観する。

●近現代の中東B

13世紀末から第一次世界大戦期まで東地中海地域に覇を唱えた巨大な多民族・多宗教国家オスマン帝国の解体過程を、ムスリムの政治指導者がイスラーム法に基づく統治を行なう「イスラームの家」が一群の国民国家に分裂していく過程と捉えて振り返り、今日この地域で多発している紛争の淵源をこうした国家理念の相剋に求める。この科目はいわゆる「トルコ史」を主たる叙述の対象とするが、必要に応じてバルカン半島やアラブ地域の状況にも言及する。

●イタリア文化史

国家統一に至るまでのイタリア文化、次いで国家統一後からファシズム期までの文化、さらに戦後から現代に至る文化の歴史的発展について概説し、それぞれの特徴を考察する。特に、文学、オペラ、美術、映画などの分野に着目し、イタリア文化が持つ「多様性」と「創造性」の根源を時代の推移に即して探ってゆく。併せて、現代における都市と生活のあり方や衣食住に関する文化も視野に入れ、イタリアの文化と社会について幅広い観点から理解する力を身につける。

●フランス文化論

論理性、批評性、社交性、個性尊重という側面に焦点を当て、フランスの文化と社会の成立を歴史的に概観し、その特質について考える。主に扱うテーマとして教会建築(中世)、フランス語の成立、教育制度、19世紀パリ改造、戦後の経済成長と移民政策、女性の社会進出など。同時にリアルタイムで話題になっている時事トピックにも言及しながら、近年フランスが直面する社会の変容とその課題も考察する。美食やモードといった表層的イメージから一步踏み込んで、ヨーロッパ、そして世界の中のフランス文化の独自性を理解する。

●ルネサンス文化史

西欧近代文明の源となったルネサンスの文化を幅広い視点から考察し、その芸術的・文化的遺産に対する知識を深めるとともに、それらの根底にある思想と精神を明らかにする。まず、美術、建築、音楽、文学の領域について、文化的社会的背景とともに特徴を概説し、さらに、祝祭、衣装、食事など生活文化に対する理解も深める。「人文主義」「芸術家」「個人」をキーワードに、ヨーロッパ文化におけるイタリア文化の位置と、現代まで続くその影響について論じていく。

●古代ギリシア・ローマ文化と社会

古代ギリシア・ローマの文化は、数世紀にわたって古代地中海世界の中心的な位置を占め、その後に成立した「ヨーロッパ」の社会や経済、文化にも大きな影響を与えた。本講義では、文献等の資料を用いて古代ギリシア・ローマの社会、文化、そして経済活動を概観する。たとえば、都市ローマに対する食糧供給とそれが社会に与えた影響などについて論じながら、現代における社会や経済、文化に関する諸問題を考える手がかりを探求する。

●中東現代史

主としてオスマン帝国解体後の時代に比重を置いて、世俗主義的ナショナリズムを建国の理念とする共和制の非産油国トルコと真正のイスラーム国家を標榜する君主制の産油国サウジアラビアという対照的な性格の両国およびそれの中間的存在ともいべきエジプトのスンナ

派ムスリムの3つの国歴史を比較検討する。中東地域では、20世紀中葉までに反帝国主義を掲げ「上からの近代化」を図る多分に強権的な民族主義政権が相次いで成立した。これら政権の行き詰まりはオルタナティヴとしてのイスラーム主義の復興をもたらすことになった。

●英米文学史

大学生が身につけるべき教養として、代表的なイギリス文学およびアメリカ文学の作家と作品について取り上げる。作家の伝記的事項、および作品の内容、あらすじ、登場人物、文体、テーマや特徴について学ぶ。講義形式ではあるが、原典の一部を味読する。作品そのものに加えて、作品の背景となる時代性や社会問題、とりわけ「文化」について大きく取り上げる。英米大学の講義ビデオ(英語)や、映像作品などの視聴覚教材も随時用いながら講義していく。

●西欧・北米文化論

「西欧・北米」として括られる地域は、近代市民社会を胚胎し発展させ、近代文明における先進性を自認していただけでなく、他地域からも近代化の目標と見なされていた。だが西欧・北米において近代文明は、それまでの社会や文化を変える市民革命や産業革命などを経ながら発展し、またポストモダン思想のような近代への疑念や否定的な見方にもさらされてきた。そうした過程を視野に入ながら、西欧・北米に固有の文化について考察する。

●英語文学概論A

英文学史において歴史的に評価の高い重要な作品を概観しつつ、それぞれの作品の時代的背景、作品の表現技法、その背後にある思想、その時代の文化、プロット、作品内部に内在するテーマなどの特徴について考察し、論じる。特に作品が生まれたそれぞれの時代や社会の中で「文学」がどう定義され、存在してきたかを具体的な事例とともに考察し、文学作品とその作品が生まれた時代との相互関連を深く理解できるように授業を進めていく。

●英語文学概論B

アメリカの時代背景を重視しつつ、とりわけアメリカ文化・社会地域問題・移民・異文化等の重要な学問的トピックとも関連させながら、第二次世界大戦後の主要なアメリカ文学作品(映像作品を含む)を読み解いていく。原作、映像作品、文献資料を調べて、グループでプレゼンテーションをして、クラス貢献をする学生参加型の授業である。口頭発表をするとともに、クラス全員で質問やコメント、補足や各自の意見を提出して、作品に対する印象や感想を交換する。

●イギリス文化論

イギリスは正式にはグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と呼ばれるよう、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドの各地域がそれぞれ独自の文化を持っている。また、現在は表面的にはキリスト教文化であるが、その深層を見ると、古くからのケルトやゲルマンなど異教の文化の影響を無視することができない。この授業では、そうした各地域や古くからの伝統に目を配りつつ、現代文化に生きる伝承文化について講義する。

国際文化学科科目概要

2023年度 カリキュラム

●西欧近現代史

ルネサンス以降の西ヨーロッパの歴史について、日常生活に直結する物質的な条件や経済状況と、それをとりまく経済思想・世界観から検討し、近代文明を成立させた西ヨーロッパの特殊性について考察する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、それが書かれた時代背景を再構築する方法を試みる。

●英語学概論I

英語の音声、形態、統語、意味、語用、英語の歴史的変遷の側面を扱う英語学について、言語事象例を見ながら理解を深めていく。具体的には、英語の意味解釈・産出はどのように行われるのか、英語はどのように使われるのか、英語のメカニズムを考えながらもしていく。それらを通して、英語という個別言語だけではなく人間言語そのものを理解する。また、同時に、言語の様々な側面が第一言語としておよび第二言語としてどのように習得されるのかも概観する。

●英語学概論II

英語学に関する知識を一層深化させ、ことばの仕組みを考える上での科学的アプローチの方法を学び、英語という言語をさらに深く理解する。具体的には、複数の分野の言語に関する先行研究を通して、できる限りそれぞれに即した考え方、および研究手法を身につけてもらう。それらをもとに、第一言語として英語を習得する場合と、第二言語として英語を習得する場合の類似点と相違点を明確にしながら、英語およびその習得のメカニズムを探る。それらの結果から、英語学に対して何が提案できるのかも考察する。

●西欧・北米の歴史

近代市民社会を胚胎し発展させた西欧・北米の歴史について、法制・政治体制と、それをとりまく文化・思想・価値観に重点を置きながら検討する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、研究する者が自らの視点や問題関心から出発して過去を再構築する方法に学び、歴史についての見方を養う。

●音楽史I

主としてヨーロッパの音楽史を扱う。古代ギリシャやローマの音楽理論から始め、グレゴリオ聖歌から初期ボリフォニーの時代、ルネサンス期を概観したのち、バロックからハイドン、モーツアルトの時代、ベートーヴェンからシェーンベルクの時代までを中心に扱い、それぞれの時代様式(響きや構造の特徴)を把握するだけでなく、作曲家の個人様式を代表するような作品を聴きながら、その特性について学習する。また西洋世界における各時代が音楽に何を求める、それが具体的にどのような場で演奏されたのかについても講義する。

●EU論

1992年のマーストリヒト条約締結を経て成立したヨーロッパ連合(EU)は、共通の外交・安全保障政策や社会政策を進め、さらに通貨統合によって、新たなヨーロッパを建設し、世界情勢を変えようとしている。これは国民国家、国民経済という17世紀以来の西欧秩序に根柢的変更をもたらす一方、EU加盟国の拡大をめぐっても、新たな矛盾、域内紛

争を起こしかねない。本講義は、EUの発展がもたらす様々な経済的、政治的問題を考察する。

●ドイツの思想と社会

ドイツ語が主に用いられ、ドイツ人が支配的である地域としての「ドイツ」においては、国民国家形成という点では独自の歴史を経ながら、西ヨーロッパを代表する哲学・思想、また芸術や文学が現れてきた。本講義では、そうした意味での「ドイツ」および、近代以降のドイツとオーストリアの社会と思想について講義する。特に、なぜワイメル体制がもろくも崩壊して、ナチスを生み出したかを、近代ドイツ思想史の中から考察する。

●美術史(西洋)I

先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパ圏の文化交流を、さまざまな作品を紹介しながらたどり、それらの作品に固有の様式の特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。

●美術史(西洋)II

美術史(西洋)Iで学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起こった社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。

専門科目

多文化共生

●多文化とエスニシティ

浜松市では、学校や地域社会で日本人と共に様々な国籍の外国人が共生している。この多文化の現状を踏まえ、外国人と日本人の「当事者の視点」からの問題提起を受け、互いの理解を図る。また、浜松市在住の外国籍者の中で最もも多いブラジル人(日系ブラジル人)の歴史的背景に焦点を当て、国際移動に伴う社会的適応とエスニシティの形成過程について、諸外国の事例を紹介しながら学ぶ。さらに、外国人第二世代の教育と受け入れ社会への適応の実態とその問題点について考察する。

●イスラーム概論

今や全世界の4分の1近くの人々に信仰されるに至った世界宗教イスラームは、その居住地域をも日増しに拡大している。グローバル化の進展により、もはやムスリム(イスラーム教徒)と没交渉ではいられなくなった。ここでは、日々の暮らしから国際関係に至るまで人間の行為が関わるすべての領域において信徒たちを律する規範となっているシャリーア(イスラーム法)への理解を深めることを中心に、この宗教独自の世界観・思考様式について初步から順に学ぶ。また、宗派の違いをはじめとする、この宗教内部の思想的多様性を概観する。

●日英語比較研究

日本語と英語を比較することを通して、音韻論、意味論、統語論、認知言語学、語用論、談話分

析、英語史などの視点から、その相違点と類似点を考察する。具体的には、これまでの研究を概観しながら、相違点と類似点の具体的事例に基づき、言語の個別性と普遍性への理解を深め、できる限りそれぞれに即した言語事象の発見を目指してもらう。また、同時に、日本語および英語を外国語として習得する際のそれぞれの問題点とその対処法についても考察する。

●文化交流論

日本列島における他地域との文化交流について主に歴史的視点から講義する。近代の国民国家の国境線や枠組みができる以前の列島における文化の練り上げられ方を、形質人類学、文化人類学、考古学、言語学、歴史学、古文書学など諸科学の成果から、論じていく。本授業は国内の文化交流にも目を向ける。のちに「日本人」と呼ばれる列島の人の中、つまり近代国民国家日本の中にも、さまざまな文化が内在し、国内で交流し合っていることについても理解を深める。

●国際労働力移動論

国際労働力移動は、国際化する労働市場と多文化化する社会を理解するために重要な視点となる。本講義では、国際移動に関連する概念、移動の背景、歴史などを踏まえ、日本を含む諸外国の事例や動向を紹介する。国際労働力移動が受け入れ国と送り出し国にどのような影響を与え、相互にどのように関連し合うかを考えるきっかけになることを目標とする。さらに、国際移動から形成される多文化社会の中で生きる人々の生活状況と挑戦を考察する。

●日本語音声学

音声・音韻について基本的な知識を体系的に学んでいく。日本語の音とは、どのような特徴があり、どのようなシステムに基づいているのか。また、日本語の音韻は歴史的にどのように変化してきたのか。日本語の音声・音韻全体を概観する。また、非母国語話者に対して指導することを念頭に置き、日本語の母語話者の発音に近づけるためには、どのような点に気をつけていくのか、また、学習者の発音をどのように修正するのかを考える。この視点を通して、日本語音声を客観的に観察していく。

●日本語文法I

日本語文法を新たな視点から捉え直すことが狙いである。日本語を外国語の一つとして捉え、日本語を内省する力を身につけながら、日本語文法の仕組みと体系を学んでいく。また、日本語の母語話者だけでなく、非母国語話者に対して、日本語の規則を説明する力を養っていく。非母国語話者の立場に立ち、想像力を働かせることで、どんな状況にも対応できるような実践的な文法指導力を獲得することが可能となる。教科書に載っていることをそのまま暗記するのではなく、自ら考えたり、グループディスカッションを行ったりして、体験的に学んでいく。

●日本語文法II

本講義は「日本語文法I」の応用編である。理論的・体系的な文法論を展開することで、現代日本語文法の体系的なありようを掌握する。これによって、現代日本語の文法システムを理論的・体系的に捉える視点を身につけ、現代日本語を文法的に分析できる力へとつなげていく。また、「日本語文法I」同様、実践的な文法指導力の獲得を目指す。特に、定住外国人の多い地区で、多文化共生社会実現に寄与するために

必要な日本語教育を意識し、学習の目的や学習者の年齢など、学習者のニーズに合わせた文法指導力を身につけていく。

●日本語教授法I

日本語教育は、日本語の授業を通じて、日本と日本文化を発信し、多文化共生社会の実現に寄与する。日本人や日本社会に対する理解者を増やすことにもつながる。これらを実現するためには、どうすればよいのか、そして、どのような工夫が必要か等を考えていく。本講義では、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能の習得、教材検討、コースデザイン、カリキュラム、学習リソースなど、実践的な事柄を取り上げながら、日本語教授法について検討していく。

●日本語教授法II

定住外国人の多い地区で、多文化共生社会実現に寄与するために必要な日本語教育について考える。特に、多文化共生社会実現のために必要な教室活動の方法を、具体的に学んでいく。模擬授業を行うことを中心に据え、教材分析、教案作成などの授業準備から授業を行うまでに必要な手順、準備、理論等を学んでいく。学習環境、学習の目的、学習者の年齢、学習形態など「日本語教授法I」で学んだことを、より実践的に学び、日本語を教える技術を身につけていくことが目的である。

●国際協力論

第二次世界大戦から始まった国際協力の前提となった国際社会の状況をよく理解し、国際協力がどのようにスタートし、各国がそれに参加するようになったかを学ぶ。また、多様な国際協力のプレーヤー、様々な概念や方針の変遷、各機関のリーダーシップの特質を学び、その中で国際協力の将来の方向性を考察していく。特に、国際政治の影響を受けやすい国際協力の一部の構造を理解し、これらをいかに修正し、より社会正義の上に成り立つ、グローバル社会における相互扶助システムとしての国際協力の将来のあり方を構築するかを考察していく。

●国際紛争論

戦争はなぜ起るのか、人類の歴史においてこれほど反復的に発生する現象には、何らか的一般的な構造因が内在するのではないか。このような問題意識から、戦争の構造や力学については様々な研究が重ねられてきた。この授業では、戦争原因に関する理論を概観し、あわせて、第二次世界大戦後の国際紛争の歴史をたどり、理論と実証の相互作用を通じて、国際紛争の理論と歴史について理解と考察を深めることを授業の目標とする。

●持続可能な社会

2015年にSDG(Sustainable Development Goals)の17の目標が国連で可決されてから、「社会の持続可能性」には、環境にとどまらず、貧困問題の是正、健全な経済発展、平等で公正な社会、生産者と消費者の関係づくり、まちづくりといった多様な価値観が組み込まれるようになった。こうした価値観が生まれた歴史的経緯と変遷を学ぶとともに、持続可能な社会を地域社会や自らの生活から見直し、持続可能なグローバル社会をつくるためにどのように行動・判断していくべきかを学ぶ。

●フェアトレード論

世界でフェアトレード運動の生まれた歴史的背景とその発展経過を知るとともに、日本のフェアトレード運動の展開と特徴を学ぶ。またフェアトレード制度の確立によって、どのように企業がフェアトレードに参入しようとしているかなど、具体的な事例や実践者の活動を通して実践的な学びを提供する。この授業を通して、グローバル社会を意識した包括的な倫理的消費行動の意義を理解し、それに基づいた判断のしかた、行動方針、および具体的な行動について学ぶ。

日本語教育を「企業との関わり」という観点から捉える。労働時間と家庭で過ごす時間が一日の大半を占める学習者に対して、どのように、そして、どういった方法で効果的な日本語教育を行っていけばよいのかを考える。企業の要望、学習者の要望、学習者の環境、学習者の心理的な負担、子どもの日本語教育の問題点などを知り、それを理解することで、企業および学習者の立場に立った上で、より実践的で効果的な日本語教育方法を考案する視点を養う。

●企業と言語教育

日本語教育を「企業との関わり」という観点から捉える。労働時間と家庭で過ごす時間が一日の大半を占める学習者に対して、どのように、そして、どういった方法で効果的な日本語教育を行っていけばよいのかを考える。企業の要望、学習者の要望、学習者の環境、学習者の心理的な負担、子どもの日本語教育の問題点などを知り、それを理解することで、企業および学習者の立場に立った上で、より実践的で効果的な日本語教育方法を考案する視点を養う。

●日本語教育の実践と応用

日本語教員養成課程に必要な科目を修得した上で受講することとなる同課程の総括的な講義である。日本語教育の実習を通して、日本語を教えるということの意義、教授方法、そして、その効果について再度捉え直す。多文化共生社会の中では、日本語学習者の特徴が多様化しつつある。異なる国出身者たち、異なる言語を母語に持つ人々、さらに、年齢的にも幅広く多様な人々が日本語を学んでいる。このような多種多様な学習者を相手にどのような教室活動や学習活動ができるのかについても考えていく。

●Global Studies:Culture and Society A

地球上に存在する多くの国々の基盤となっている社会と文化がどのように成立し、複数の社会や文化が相互関係の中でどういった影響を与えるながら変遷してきたのかを具体的な事例を通して学ぶ。その途上で発生してきた歴史認識の変化や生活空間変化等をその運動と運動した現象として派生してきたものとして学んでいく。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。

●Global Studies:Culture and Society B

地球上に存在する多様な文化の中で、特に音楽、演劇、美術、空間造形など、芸術分野の活動がどのような変化を続け、各地の文化と社会にどういった影響を与えてきたかを具体的な事例を通して学び、芸術活動が社会と文化に与える内在的な力とその可能性を知る場とする。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。

●Global Studies:Global Issues

今日の地球社会が直面する諸問題、いわゆる地球規模問題群(global issues)について、英語で講義し、討論を行う科目である。それぞれの問題の概要と地球社会の取り組みについて英語文献を読み解き、自らの考えを英語で表現し、討論する能力の涵養を授業の目的とする。取り上げる問題群としては、地球規模の経済格差、紛争、地球環境問題、人の移動、技術革新、地球市民意識の台頭などが事例として挙げられる。学生が英語圏の大学に留学した際、学部の講義を受ける訓練としての機能も担うものとする。

卒業研究

●国際文化演習I

研究内容に関心ある担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、自分の研究の発表、学生の研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観を学ぶ。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを適切に深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。

●国際文化演習II

研究内容に関心ある担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、研究の発表、研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観をさらに深めるとともに、学生が関心のある研究領域を特定し、その研究をさらに深めるための指導を行う。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。

●国際文化演習III

学生が関心のある研究領域を特定し、その領域にまたがる包括的な学び深めることで、卒業論文研究に資する学習指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、多様な見解が存在する場合の分析方法、独自の研究領域の設計、必要な調査方法や分析方法を学び、学生独自の研究が円滑に進むようする。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。

●国際文化演習IV

学生が関心のある研究領域を特定し、その領域にまたがる包括的な学び深めることで、卒業論文研究に資する学習指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、先行研究の分析、多様な見解が存在する場合の分析方法、必要な調査方法や分析方法を学び、独自性の高い研究のあり方など、学生独自の研究が円滑に進むよう指導致する。また、参考文献や引用、図や表の使い方といった論文作成時の注意点などについても引き続き指導を行う。

●卒業論文

これまで科目から学んだ多様な事実と価値観、国際文化基礎論や国際文化演習から学んだリテラシー能力や専門的研究の成果を包括的、統合的に集約させ、卒業論文に反映させる指導を行う。具体的には、先行研究の分析、学生の関心を持つ研究領域の特定、研究に必要な文献・資料の特定と探索、必要な調査・フィールドワークの技術と実行するための計画づくり、論文の理論的な構成方法、参考文献や引用などの表記方法など、論文作成に必要な事項を担当教員が指導する。

文化政策学科科目概要

2023年度 カリキュラム

学科基礎 学科必修

●リサーチ&プランニング基礎

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「基礎編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、基本的な統計資料の利用方法(見方、使い方)やデータ分析の基礎(記述統計の方法、図表の作り方等)を解説するほか、テーマ探索の方法論も紹介する。

●リサーチ&プランニング応用

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「応用編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、実際に自分で資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく社会調査手法の具体的な方法と手順(調査設計、サンプリング、調査票の設計、実査、集計等)を体系的かつ詳細に解説する。

●リサーチ&プランニング実習

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「実習編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、調査の企画から報告書(提案書、行動計画書等)の作成に至るR&Pの全過程を体験的に実践する。また、斬新な発想を得たり共同作業のスキルを向上させたりするためにテーマ発想方法(ブレイン・ストーミング)やグループ・ワークの方法を体験する。

●社会学

社会学の広範囲な領域を、ミクロ・マクロ、構造・プロセス、主観・客観などの異なる視点から解説する。また、社会学が、ジェンダー、世代、地域などの社会構造や、多様化、格差化、グローバル化などの社会変動について、どのように調査し研究するかを、具体的な事例をもとに解説し、他の社会科学と比較対照しながら、学問としての特色や基礎的な概念を学ぶ。さらに、文化政策学科の1年次前期の必修科目として、文化と、政策、経営、情報の各区分領域との関係をどのように捉えるかについても、整理しつつ説明し、学科の教育体系を俯瞰的に理解する。

●経済学

この授業では経済学的なものの見方や考え方を会得するための頭の体操を行う。ミクロの観点では、需要・供給の関係や合理的な行動の理論に基づき、身の回りで起きている現象を主に消費者の立場から考察する。マクロの観点では、GDP統計のデータに基づく所得形成についての考察や、財政・金融政策の仕組みについての考察を行う。物事の仕組みを「考える」ことに重点を置き、経済事象を理解するのに必要なミクロ経済学・マクロ経済学のコンセプトやロジックを解説する。

専門科目 政策

●政治学

政治学は、権力、国家、リーダーシップといった

政治現象の本質にかかわる「基礎理論」、政党、利益集団といった政治活動の主体ならびに選挙、議会など政治の動態を分析する「政治過程論」、そして、あるべき政治の姿を考究する「政治思想」などの分野に分かれる。本講義では、「基礎理論」を中心に、「国際政治」分野も視野に收めつつ、政治学の理論と学説を概観し、政治の本質を理解し、分析するための基礎的な概念の習得を目標とする。

●法律学

この授業では、法律学の主要分野の基礎知識を習得し、さまざまな法的論点について論理的に説得力のある思考・判断を実践することを目的とする。法律学を学ぶにあたって必要となる概念や制度についての概説を経て、公法・民事法・刑事法といった法律学の主要な各分野の基礎的な理論を、社会における具体的な問題に照らすとともに、裁判例の検討を交えながら学んでいく。

●行政学

官僚制や行政機関をめぐる概念や理論の歴史的経緯を踏まえた上で、現代日本の行政における制度・仕組み、役割・機能、特徴・課題の現状と変容を理論面と実証面から体系的に整理する。内容は標準的な行政学のテキストに準ずるが、国と地方の関係や地方行政の実態を詳しく取り上げるほか、通常のテキストではカバーされにくい最新のトピックを積極的に取り上げていく。

●行政法

この授業では、行政法の基本的な仕組みやその背景にある考え方、主要な争点など、行政法についての基礎知識を習得することを目的とする。行政法の基本原理の概説に続いて、行政活動の多様な行為形式や、行政活動に不服を有する私人の権利利益の救済制度について、憲法をはじめとする諸法律との関連性を踏まえつつ、具体的な裁判例を素材としながら学んでいく。

●地域計画論

日本の国土・地域・都市の行政施策としての「計画」の系譜をたどり、環境、自然、歴史・文化などの今日の課題に対応した計画論の方向性についても概説する。計画の圏域とジャンルは多種多様であり、様々な計画の考え方を理解する。特に、都市規模や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた計画を概説し、そこで果たしてきた計画の意味合い、主体のあり方、可能性と解決すべき事項などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。

●地域情報サービス論

図書館サービスの基本(概要や構造、歴史など)を踏まえ現在行われている各種サービス(課題解決型サービス、障害者・高齢者・多文化サービスなど)について事例に則して解説する。さらに、著作権や公共貸与権、コミュニケーションの基本などについても解説する。その上で、公共図書館が地域に果たす役割や今後の可能性について考える。

●地域社会論

今日の地域社会は、人口の減少高齢化、経済のグローバル化、地方分権化、公共部門の財政悪化等の影響を受け、対応や変貌を余儀なくされている。本科目では、こうした社会的趨勢を踏まえた上で、地域社会(都市、農村、中山間地、限界集落、特定のコミュニティ等)に焦点を

当て、地域社会の現状に関して生活・文化面を中心に理解を深めるとともに、地域社会が抱える固有の問題について、その成立背景を含めて考察し、その問題に対する行政・住民の対応の実態や解決のあり方を検討する。

●地方財政論

経済の長期低迷、産業のグローバル化、人口の減少高齢化等が進む中で地域社会が抱える課題は多様化・複雑化している。こうした中で、地方自治体の果たすべき役割はますます重要になっている。自治体がその役割を果たし、地域の福祉と発展を実現するためには、健全な財政を基盤として、必要とされる施策や活動を実施することが必要である。そこで本科目では、自治体の財政面に焦点を当てて、その制度・仕組みと現状を体系的に学習することを主眼とする。

●創造都市論

創造都市論について、代表的な提唱者の著書などを参考にその誕生から今日までの系譜をたどるとともに、それ以前からあった文化・芸術との連携による都市・地域発展の思想や方法論にさかのぼって歴史的視点からも考察する。また、都市の文化的資源の産業面への活用に着目して、都市や地域の経済発展や市民生活の豊かさのあり方について考察する。創造都市の取り組みの背景や内容は国内外諸都市において様々である点について、事例を通じて学習する。

●経済政策論

経済政策論は、ある目的を達成するために、いかなる手段が有効であるかを理論に照らして判断することを目的としている。この授業では、経済学の考え方をもとに、市場メカニズムの有効性、市場の失敗に対する政府の市場介入の必要性について考察する。さらに、経済政策を支える様々な理論を踏まえつつ、個人の効用最大化行動が経済政策の効果に及ぼす影響や、それに伴う政府の失敗などにまで視野を広げ、経済政策の意義および効果を客観的に考える力を養う。

●環境政策論

現在地球規模に広がりつつある環境問題の克服には産業技術、生活様式、国土構造さらには社会経済システムの根本的な転換が必要とされることを踏まえて、環境汚染・廃棄物処理など、直面する問題に対して有効であり、かつ上記の変革も推進しうる環境政策のあり方を考察する。さらに、都市や地域の生活環境の観点(アメニティや安全性など)から、都市環境施策のあり方についても検討する。

●地域福祉論

福祉には児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉等の領域があるが、いずれも地域社会や地域住民との関係性が強く、福祉施策・サービスの実施主体も、自治体や社会福祉協議会等の地域の主体が中心になっている。本科目では、地域社会とその住民が直面する現状を踏まえた上で、地域福祉の理論・制度や行政施策の推進、さらには、地域福祉に関わる機関・団体、人材、ボランティア・NPO等の活動の実態を概観する。その上で、地域福祉が抱える課題や解決のあり方を検討する。

●地域観光論

観光は地域の社会・経済・日常生活等と密接に関連している。今日観光には、地域活性化の手段として、あるいは新しいビジネスチャンスとして大きな期待が寄せられている。一方で、観光が直面する条件にも変化が生じている。本科目では、現代の地域社会において重要度を高めている地域観光の現状について理解を深めることを目指す。具体的には、地域観光が様々な主体(国・自治体、観光関連事業者、住民、観光者等)によって支えられていることを踏まえ、多面的な視点で地域観光を検討する。

専門科目 経営

●経営学

「経営」区分における導入科目としての位置づけから、企業経営に関する基本的な概念を総合的に講義する。企業経営の要諦は、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を活用し、社会にとつて価値ある製品やサービスを提供することにある。その過程で企業は、戦略形成の問題、経営資源の管理問題、市場適応問題、社会貢献の問題など多くの課題に直面するが、それらに関する主要理論の生成・展開について基本的な理解を得ることが目的である。

●経営戦略論

経営戦略論は、経営学の主要領域の一つで、経営活動に中長期的な基本枠組みと方向性を与える、企業の業績や存続を大きく左右するものである。経営戦略は、一般に事業領域の選択や事業ごとの経営資源配分といった全社を対象とする企業戦略と個々の事業レベルでいかに競争優位を構築するかという事業戦略に大別することができる。本講義では、これら経営戦略に関する基本的理論や実践例を学び、戦略面から企業経営を分析する力を養成する。

●マーケティング論

経営環境が大きく変化する中で、企業が市場創造や市場適応を図る上での基本的手段としてマーケティングは重要である。この講義では、マーケティングの目的、基本体系等についての理解を得ることを目的とする。具体的には、マーケティング・コンセプト、市場標的の設定や製品政策、価格政策、プロモーション政策、流通チャネル政策などの統合的管理等がテーマとなる。また、マーケティング領域の広がりという観点から、新たなマーケティング動向についても議論する。

●地域ビジネス論

中小企業は、その経営規模のために、大企業とは異なる独自の経営課題と経営機会を持っている。具体的には、大企業に比べて資金調達が不利となる一方で、機敏性・専門性を発揮して新たな市場機会が獲得できること等が指摘されている。この講義では、このような中小企業独自の経営課題と経営機会について、様々な観点から理解を深めることを目的とする。さらに、新分野進出や新製品開発などの点で存在感を示す中小企業の事例を紹介し、将来の展望などについても論じる。

●経営科学

企業の経営管理に分析・実験・設計などの一連の工学的・科学的手法を用いるのが経営工学である。経営工学の対象は多岐にわたるが、本科目では、効率的な生産システムを実現するためのQC(品質管理)・IE(生産工学)・OR(オペ

レーションズリサーチ)等を中心としながらも、情報システム、ロジスティクス(物流)、人間工学、経営科学など、経営工学と関係する幅広い領域を視野に入れ、経営工学の基礎的な理論と企業経営の現場における応用の実態を概観する。

●社会起業論

近年、社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)やソーシャル・ビジネスが次々に登場し、社会の変革において一定の役割を果たすようになっている。本科目ではこの現象に注目し、社会起業の歴史的経緯や現状等を整理するほか、NPO等の市民活動との関係についても考察する。さらに、国内外の具体的な事例を数多く取り上げ、それぞれの意義や課題を検討した上で、社会起業の実践方法のあり方について受講者と議論を行う。

●経営財務論

企業経営における資金管理や投資に関する意思決定を行うためには、財務管理(企業を主体とした資金活動の管理)の基本的な知識が必要となる。この講義では、過去の財務管理活動の結果である財務諸表の分析やキャッシュフロー管理の基本を理解した上で、長期事業計画の策定という観点から、資金の時間価値、企業価値、資本コスト、リスク等に関する基本的概念や分析手法について学び、財務的な視点から企業を視る力、財務的な意思決定を行う力を養成する。

●産業組織論

この授業では、産業のパフォーマンスを供給サイドから明らかにすることを目的として、具体的な市場構造とそこにおける企業行動についての分析を行う。ナッシュ均衡や後方帰納などのゲーム理論の考え方を用いて均衡状態を導出し、そこでの企業間による競争のメカニズムや相互依存関係、さらには競争回避策としての結託行動の可能性について考察する。それらをもとに市場成果を評価し、市場メカニズムをより有効に機能させるための取引ルールや競争促進政策のあり方を検討する。

●日本経済論

日本経済は戦後、発展を遂げたものの、現在様々な問題を抱えている。この現状を理解する上でも戦後経済史の理解は不可欠である。この講義では、主として第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて概観し、バブル崩壊後の日本経済の課題を、歴史の文脈において位置づけて理解する。特に日本の経済発展パターンについて、先進国や途上国との比較なども念頭に理解を深め、「日本の経営」などの日本特有の経済制度の生成・発展・変容のプロセスから、その意義と限界について講義を行う。

●グローバルビジネス論

科学技術の発展等により経済のグローバル化が急速に進んでいる。もはや経済のグローバル化を無視して企業経営の実践は困難になっている。また経済のグローバル化は国や地域の経済に対しても大きな影響を与えるようになっている。本科目では、主に企業経営の観点から、グローバル・ビジネスの現状と企業戦略のあり方(海外市場への参入、戦略的提携、生産管理、人的資源管理、マーケティング戦略等)について多面的に考察する。さらに、経済のグローバル化が地域経済に与える影響と地場産業や中小企業の対応のあり方についても検討する。

●金融経済論

規制緩和、バブル崩壊、情報技術の発達、新しい金融商品・手法の開発等によって日本の金融経済は大きく変貌している。またグローバル化の進展によって、国内外の金融市场は分かちがたく結びついている。このように激しく変貌・複雑化する金融市场についての正確な知識と理解がますます重要になっている。そこで本科目では、金融の理論的・制度的な基礎を学んだ上で、日本の金融市场の現状とそこで活動する金融機関の種類や役割について理解を深めることを主眼とする。

●地域産業論

地域産業は、雇用の場の提供や域外からの所得獲得など、地域経済に対して大きく貢献している。また歴史・伝統に根づいた地場産業は、地域の生活・文化の重要な構成要素となっている。一方で、グローバル化や人口減少等の社会変化により、困難を抱える地域産業も少なくない。本科目では、地域社会において重要な役割を果たす地域産業に焦点を当て、その成立・発展の経緯、地域の生活・文化との関係、販売・流通・消費等の最新の動向、直面する課題等を多角的に検討し、地域産業と地域の関係について理解を深める。

●産業遺産と産業史

この講義の主な対象は産業遺産・近代化遺産であり、その調査・研究・保存・利活用の実態について講義する。まず、産業遺産の重要性を理解するためには、それらが保存されてきた背景としていかなる産業史の実態があったのか、講義する。また、産業遺産の保存と関連して、日本・世界の文化財政策の流れの中にそれを位置づけ、それらの利活用に関しては、都市計画や再開発、まちづくり、産業観光などの流れから捉えることを講義の目的の一つとする。

専門科目 情報

●広報・広告論

産業のグローバル化や社会の高度情報化の進展により、企業や行政における広報・広告の位置づけは大きく変容しつつある。この授業では、現代社会における広報と広告のそれらの役割と機能、そしてその両者の関係性について考察する。さらにその考察をもとに広報・広告の送り手としての役割を担える能力と方法を身につけるとともに、広報・広告の受け手として消費社会に対応できるリテラシー能力を高める。それにより広報・広告を活用するとともに、より深く理解できる人物を育成する。

●マスコミュニケーション論

マスコミュニケーションは、ローカルな時間と空間に限定されていた人々の情報伝達や相互作用のあり方を量的および質的に拡大することで、近代社会に大きな影響を与えてきた。この授業ではこうしたマスコミュニケーションの成立過程を歴史的、社会的、技術的な条件から考察し、マスコミュニケーションが担う役割や機能の理解を深めることを目的とする。またインターネットの成立が既存のマスコミュニケーションに与える影響や、その相互作用についても検討する。

文化政策学科科目概要

2023年度 カリキュラム

●臨床社会心理学

この講義は、現代社会におけるさまざまな問題に心理学の視点からアプローチし、人間が幸せを感じながら生活するためには何が必要なのかについて考えていく。現代社会が抱えている心理学的な問題には、たとえば、人の成長・発達および心身の健康へのサポート、福祉サービス、家族やコミュニティの問題、犯罪や事故、抗争などがある。これらの諸問題に関する具体的な事象を取り上げ、それらに対する社会心理学の原理や知見の応用を図る。

●メディア文化論

この授業では、メディアが人々や社会に与える影響や、メディアが生み出す文化について考察する。現在、ITや映像を活用した多様なメディア実践が出現し、私たちの日常世界に浸透している。こうした現在の状況を俯瞰しつつ、その環境を理解するために、新聞や書籍等の印刷メディア、あるいは映画やテレビといった既存の映像メディア等、從来からのメディアが担ってきた役割や意味を考察する。その上で、多様化する現代メディア社会における人々の情報選択やコミュニケーションの実践についての理解を深める。

●組織心理学

この講義では、組織の中で働くときの人間の行動の特徴や心理について理解することを目標にしている。たとえば、人間の働く意欲を強化し、組織の効率性や生産性を向上させるためには何をどのようにすればよいか、働く人の心身の健康にはどのような問題が存在するのか、などの心理学的な問題について講義する。代表的な理論や研究事例の紹介に加えて、現在の職場で起こっている問題にも触れながら講義を行なう。また、本講義では、消費者の心理や行動の特性についても扱う。

●情報システム論

インターネットの普及とWeb2.0を経て、クラウドコンピューティングが普及してきたことにより、情報システムのあり方も大きく変化した。現代の情報システムの仕組みと、これらが形成された発展の歴史について学ぶ。また、クラウドコンピューティングを用いることによって、パーソナルコンピューターだけでなく、最も身近な情報機器であるスマートフォンやタブレットを組み合わせて活用することによる、情報の検索・フィルタリング・収集・整理・発信の手法について実践的に学ぶ。

●社会統計分析

現代社会では、社会の実状や人の行動・意識に関する社会調査が数多く行われ、それらのデータや分析結果がさまざまなメディアを通して提示されている。この講義では、このようなデータや分析結果を読みとるために必要となる統計学の基礎的な知識について理解することを目指す。さらに、表計算ソフトを使った実習を通じて、データの基礎集計・2変数間の関連分析、そして重回帰分析を中心とした多変量解析の一部について実践的に学んでいく。

●質的調査法

昨今、社会科学の有効な調査法として「質的調査法」が注目されている。そこで、授業では、この調査法をめぐる状況を解説した上で、インタビュー調査や参与観察など「質的データ」の収集方法に必要な技法を説明する。次に、「グラウンド・セオリー」や「KJ法」ならびに「言説分析」など他の分析手法を解説することを通して、「質

的データ」分析法の多様性を理解する。さらに、ゼミ論文や卒業論文作成のための調査を念頭に置き、被調査者との関係など「倫理的な問題」についての理解も深める。

●学術情報論

図書館情報資源のうち学術情報に限定し、学術コミュニケーション、情報利用者と情報探索、計量情報学の基本、学術情報流通のための取り組みについて解説する。さらに大学図書館と日本の学術情報流通基盤の現状と課題についても解説する。同時に、大学図書館などを活用して、学術情報を効率的に収集するための知識と技術を身につけさせることも目的とする。

●人文地理学

地域にみられる人文現象を地域的視点から明らかにするのが人文地理学である。この科目では、主として地理学説史・人口地理学・都市地理学・集落地理学的な観点から地域を明らかにすることを目的としている。なお、人文地理学的な地域分析法についても扱う。

●地誌学

地誌学とは地理学の2大分野の一つであり、自然地理学、人文地理学などの系統地理学と相対し、地理学を総合的に究明することを目的とする学問である。地誌学においては、地球上の諸地域の自然・社会・文化などの特性を研究・記述することを重視する。本科目では、日本ばかりに海外の特定地域を対象に選び、それぞれの地域的性格や地域的問題を総合的に検討する。

●社会理論

社会科学の基礎的な概念と理論を習得することにより、身近な日常世界から日本社会・国際関係、歴史的変化などの大小様々な事象の背景にある「しくみ」をより総合的に把握する能力を伸ばす。社会学の古典や近現代の理論を中心に、それぞれの類似点・相違点など相互の関係を明らかにしながら解説する。様々な理論を社会における身近な問題や事例を理解する際に、知的な道具として積極的に活用できるようになることを目標とする。

●情報法学

この授業では、まず「情報」の意味について考える。次に、知る権利と情報公開制度、プライバシーの保護、名誉毀損、わいせつ規制など、情報の流通過程における個人の権利について詳しく述べる。さらに、コンピュータとインターネットで結ばれた情報化社会に特有な犯罪、セキュリティの確保、情報倫理なども検討する。

●公共デザイン戦略

公的組織（政府・自治体とその関連組織やNPO等）や民間企業は、社会的課題の解決や組織目的の達成のために、広く公共社会（とその構成要素である団体・個人）を対象として施策や活動を実施している。公的組織や民間企業がこうした施策・活動を企画立案し、実施することを本科目では「公共デザイン」と呼ぶことにする。本科目では、公共デザインのさまざまな態様に応じて、それらを有効に実施するための戦略のあり方を論じることを中心的課題に据え、のために必要な理論や方法論、さらには公共デザイン戦略の具体的な実践方法を解説する。

●自然地理学

自然地理学は、気候・地形・水文・植生・土壤等の観点から、地域の自然環境を総合的に探究する学問である。本科目では、地理学や気候学を中心にして、地形的形成や地域的な環境特性を体系的に整理する。さらに、自然環境と人間社会の関わりにも目を向け、地球規模では地球温暖化や酸性雨、地域規模では自然災害などさまざまな自然環境の人間生活への影響や、逆に人間生活が気候をはじめとする自然環境に与える影響について考察する。

●外国語文献研究

英文をはじめとして外国語の文献を読むことは、大学における学習や研究において不可欠な行為である。しかもグローバル化やインターネットの普及により、外国語のリテラシー（特に読むこと）の重要性はますます高まっている。本科目では、複数の担当教員の中から自分の関心がある専門分野の教員を選び、その教員のもとで外国語文献（書籍、論文、その他の文書）を講読し、外国語文献の読解能力を向上させるとともに、関心領域について知見や理解を深め、自身の学習・研究に役立てるこことを目指す。

卒業研究

●文化政策演習I

2年次までに身につけた教養・知識・技能等を基礎として、指導教員による綿密な指導のもとで、専門性を高めるとともに、調査・研究や企画立案の手法を習得する。また自らの関心領域やテーマを具体的に定めていく。なお文化政策演習Iと文化政策演習IIは、原則として、同一の指導教員のもとで連続的に受講する。

●文化政策演習II

文化政策演習Iの成果を引き継ぎ、原則として同一の指導教員による指導のもとで、専門性や調査・研究・企画立案の技能をさらに高める。また関心領域における調査・研究や企画立案を実施するほか、卒業論文・プロジェクトのテーマ探索等にも取り組む。

●文化政策演習III

文化政策演習I・IIの成果を踏まえ、指導教員による綿密な指導のもとで、自らが取り組むテーマを選定し、そのテーマに関する専門性をさらに高めた上で、学術的な研究や課題解決型の企画立案プロジェクトを進めていく。なお文化政策演習IIIと文化政策演習IVは、原則として、同一の指導教員のもとで連続的に受講する。

●文化政策演習IV

文化政策演習IIIの成果を引き継ぎ、原則として同一の指導教員による指導のもとで、学術的な研究や課題解決型の企画立案プロジェクトをさらに進めていく。

●卒業論文・プロジェクト

大学における学習・研究の総仕上げとして、自らが設定したテーマに関する調査・研究活動を行い、その成果を卒業論文またはプロジェクトとして具体化する。卒業論文とは、学術的な論考をまとめたもので、新たな知識・知見を生産するものである。一方、プロジェクトとは、学術的な調査・研究活動の成果を社会に対して具体的な提案や行動として還元するものであり、知識・知見を社会に応用するものである。卒業論文やプロジェクトが具体的にどのような条件を満たすべきかは別途定める。

芸術文化学科科目概要

2023年度 カリキュラム

学科基礎

●芸術文化入門

芸術文化学科の学生として必要な学びの基本を示すための科目である。文化、芸術を専攻研究する学生として、また将来の事業企画者・支援者・政策立案者として、文化、芸術に能動的にかかわっていく上での基盤となる理解と責任感を醸成することを狙いとする。学科専任教員複数名によるオムニバス形式で講義を行い、文化、芸術に多様なジャンルがあることを確認するだけでなく、それらを大学での学びの中で扱う方法も多様であることを認識する。

●芸術表現A・B

実際に第一線で活躍する芸術家のもので、その訓練や制作の場に立ち会い、芸術従事者の姿勢、構成に触れるとともに芸術の深遠さとそれに携わることの厳しさを体感することが狙い。将来事業企画者、支援者、政策立案者として文化、芸術にかかわる者になることを想定し、そのような者として不可欠な、高度に専門的な芸術表現の現場を体験することによって、芸術の本質について考える。芸術表現Bとあわせ複数の領域を用意し、うち1枠を必修とする。

●芸術文化基礎A～D

ゼミに所属する前の学科学生を対象とし、大学生としての読み・書く能力を前提として、学科専任教員にそれぞれ所属し、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文献を読解し、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読み書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎AB、CDあわせて10クラス程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。

●芸術文化特講

一つのテーマを設定し、多様な専門性を持つ学科専任教員が、各自の専門領域に関連する様々な視点から当該テーマをめぐって行うオムニバス方式の連続講義とする。学科で一定の学習を積み重ねた上で、ゼミ選択を控えた学生を対象とする。受講者は、同一テーマへの多角的なアプローチの可能性を体得すると同時に、それらの異なるアプローチが互いにつながりを持つということを理解することが狙いである。学生は、この授業で示される多様な専門領域から、自分が関心のある領域への理解を深め、次の段階に進む助ける。

専門科目

政策とマネジメント

●芸術文化政策の理論

法学、政治学、経済学、社会学等、社会科学の主要な領域の中から1つあるいは複数の分野を取り上げ、それぞれの学問分野における芸術文化政策についての研究の系譜を概観するとともに、それぞれの理論体系の特徴を学ぶ。さらに、これらの理論を実際に我が国および諸外国において行われている国や地方公共団体の芸術文化政策の事例にあてはめて分析を行う。これらを通じて、現実の芸術文化政策を理論的に分析するための基礎を身につける。

●アートマネジメントA

公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、公演、展覧会、教育プログラムをはじめとしたアウトプットを鑑賞者等に届けるためのマーケティングや、非営利組織が持続的に活動を続けるために不可欠な資源を獲得するためのファンドレイジングなどを中心に学ぶ。

●アートマネジメントB

公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、非営利組織が営利組織とは異なり、賃金等を中心とした金銭的インセンティブが働きにくい組織であるという特徴を踏まえた上で、組織や組織間関係、人的資源管理、戦略計画などを中心に学ぶ。

●芸術文化政策の国際比較

芸術支援に関する政策分野を中心に、日米あるいは日欧等の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策目的の変遷や、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。特に、政策分析に不可欠な、市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養うとともに、各種の補助金制度、租税優遇措置、顕彰制度や官民協働等、具体的な政策手段の特徴や、法や計画策定等の意義や限界等について検討する。

●文化施設の管理と運営

劇場・音楽堂等をはじめとした文化施設が、市民や地域社会に対して果たすべき使命についての認識を深めるとともに、こうした施設の管理と運営のあり方について実践的に学ぶ。特に自治体が設立した公立施設においては、2003年に導入された指定管理者制度の特徴や課題等について、事例研究を取り入れながら検討を行ふとともに、2012年に制定された劇場・音楽堂等の活性化に関する法律の意義や特徴を踏まえつつ、今後の我が国における文化施設運営のあり方についての考察を深める。

●文化財保護政策

我が国の文化財保護の法的・制度的な枠組みについて基礎的な知識を身につけた上で、有形および無形の文化財保護に関する様々な事例研究を通して政策の背景や課題について分析する。特に1950年に制定された文化財保護法の意義や特徴と、その実施体制が我が国の文化財保護政策および文化政策の他領域に与えた影響などについての理解を深める。さらに、近年の注目すべき動きとして、文化財と地域社会・まちづくりとの関連について検討する。

●地域社会と芸術文化

まちづくり、観光振興、産業振興、住民間コミュニケーション促進、地域アイデンティティの形成など、芸術文化は地域社会の発展と密接な関わりを持っている。我が国あるいは諸外国における具体的な事例を参照しつつ、地域社会にお

ける芸術文化の役割について幅広く学ぶ。これらを通じ、地域社会における文化施設や実演芸術団体等のアートマネジメントのあり方や、地方公共団体等における芸術文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。

●現代社会と芸術文化

医療や福祉、更生や教育の手段としての活用や、様々なマイノリティに関する社会包摶の手段として注目されるなど、芸術文化は現代社会における様々な問題と密接に関わるようになってきている。情報化、少子高齢化、国際化をはじめとした現代社会における様々な環境変化と芸術文化の関係について、国内外の様々な事例を通じて多面的な視点から学ぶことにより、現代社会におけるアートマネジメントや文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。

専門科目

文化と芸術

●文化と芸術A～D

この科目群では、文化、芸術の多様な展開について、それぞれの領域において提示される諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理の上で欠かせない学問領域について、歴史的展開や最新の状況を鑑みつつこの科目群で取り扱うこととする。それぞれのジャンルによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

●現代芸術論A～D

文化・芸術を考える上で無視することができない、とりわけ現代に特徴的な事柄、現象を取り上げ、その性質や課題について考察することを狙いとする。また、このような現代的課題に対する対処法とはどのようなものかについて考える。これらの現代文化、現代芸術諸領域の研究方法についても最新の情報を交えながら概観する。それぞれのジャンルによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

●芸術特論A～D

文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などについてテーマ別に取り上げる。それぞれのテーマに即したより深い考察を扱う。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。それぞれのジャンル、テーマによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

芸術文化学科科目概要

2023年度 カリキュラム

●音楽史I

主としてヨーロッパの音楽史を扱う。古代ギリシャやローマの音楽理論からはじめ、グレゴリオ聖歌から初期ポリフォニーの時代、ルネサンス期を概観したのち、バロックからハイドン、モーツアルトの時代、ベートーヴェンからシェーンベルクの時代までを中心に扱い、それぞれの時代様式(響きや構造の特徴)を把握するだけでなく、作曲家の個人様式を代表するような作品を聴きながら、その特性について学習する。また西洋世界における各時代が音楽に何を求める、それが具体的にどのような場で演奏されたのかについても講義する。

●音楽史II

主として日本・東洋の音楽史を扱う。中国大陸との交流によって伝えられた雅楽や聲明に始まり、中世の能楽、平家(平曲)など、近世邦楽の浄瑠璃、長唄、地歌、筝曲を経て(歌舞伎・文楽等の劇音楽にも言及)、明治以降の西洋音楽導入に伴う新日本音楽や現代邦楽の成立に至るまでを概観する。また、それぞれのジャンルの理論や用いられる楽器について、記譜法や伝承の問題、それぞれの音楽・芸能が成立した社会的背景にも触れ、その特徴を深く理解する。また日本と深く関わる東洋(アジア)の音楽史についても概観する。

●演劇史I

主としてヨーロッパ演劇の歴史を学ぶ。まず、西洋の演劇が本格的に開花した古代ギリシャ・ローマ時代から中世・ルネサンス、さらにはシェイクスピア、モリエールらが活躍した黄金時代、そして18世紀啓蒙主義時代に至る演劇の流れを、具体的な作品を見ながら概観する。次いで、欧米を中心にして、19世紀から現代に至る演劇の基本的な潮流をたどる。ロマン主義の演劇、近代のリアリズム演劇、そして20世紀の前衛演劇から最先端の演劇までの展開を、映像資料を用いた作品鑑賞を通して理解する。

●演劇史II

主として日本の芸能と演劇の歴史を学ぶ。芸能という言葉の原義を探りつつ、伎楽、舞楽、田楽、猿楽など日本の初期の芸能の諸相を概観した後、観阿弥・世阿弥が大成した能について基本的な知識を習得する。特に世阿弥の芸術論について演技論的あるいは身体論的な視点から考察し、それが現代の西洋前衛演劇に与えた影響を明らかにする。また、能とともに成立した狂言や江戸時代に大きく発展した歌舞伎・人形浄瑠璃などの伝統芸能、明治維新後に誕生し日本の現代演劇へと通じる新派・新劇についても基礎的な知識を身につける。

●美術史(西洋)I

先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパ圏の文化交流を、さまざまな作品を紹介しながらとり、それらの作品に固有の様式的特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。

●美術史(西洋)II

美術史(西洋)Iで学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起きた社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。

●美術史(日本・東洋)I

古代から中世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●美術史(日本・東洋)II

Iに引き続き、中世から近世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・ヨーロッパの美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●鑑賞と批評I

美術について学ぶには、まず実際の作品を多く見て、それをじっくり観察し、作品について熟考することが不可欠である。本授業では実際に展覧会等で作品を観察することで、さまざまな美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力を、レポートを作成することにより習得する。美術のジャンルを限定するのではなく、多くの作品に触れることで、幅広く作品を見る力を身につけるとともに、美術史の全般的な知識を広げ、展覧会の傾向や特徴を体験し知ることを目指す。

●鑑賞と批評II

鑑賞と批評Iと同様に、実際に展覧会等で作品を観察することで、美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力をレポートを作成することにより習得する。Iで習得した方法論をさらに展開させることを目指す。作品について正確に記述できる力を獲得するだけでなく、文献等で得た情報と作品を照応させたり、他の作品と比較することによって、より立体的に美術作品を捉える能力を得ることを目指す。

専門科目

芸術運営の実践

●展示プロデュース論

美術館、博物館のみならず様々な展覧会における管理・運営上の問題点を踏まえながら、展

示物そのものの視点から鑑賞者にとって望ましい展示とはいがなるものかについて考える。コレクション等の常設展、特別な企画展等の様々な展覧会における展示の特性について、あるいは展示空間の問題について、様々な実例を見ながら考える。さらに、近年重要なになってきている新しいメディアとの関連性やそれらを使用したより効果的な展示についても考える。

●保存と修復

文化財についての基礎知識の学習と、文化財の保存環境や保存方法について多角的に学ぶ。また、対象とする文化財の修復に欠かせない漆工、表装、彩色等の基本的技術について学ぶと同時に日本の伝統技法についての知識も深める。また、歴史的建造物の修復の実態なども紹介する。近年特に重要なになっている保存や修復の根本的問題についても、これらに関する概念と社会との関係について考察することによってより望ましい保存のかたちを考える。

●舞台運営論

舞台上演の企画立案や文化施設の運営に携わるには、劇場や舞台空間について十分に理解しておく必要がある。そのための基礎的な知識を習得するとともに、実際に劇場という機構を体験的に学習し、作品を舞台で上演する上で必要となる美術、衣裳、照明、音響といった基礎的な技術を総合的に学ぶ。さらに、近年増加しつつある野外劇場や円形劇場など、従来の劇場とは異なるさまざまな演劇空間で用いられる特殊な技術についても一定の知識を得ることで、今日行われている多様な形態の舞台上演について理解を深める。

●劇場プロデュース論

音楽や演劇、バレエ、ダンス、オペラ、ミュージカルなど、パフォーミングアーツの領域は多岐にわたるが、そのアートマネジメントの根幹をなすホールプロデュースの役割について考察する。特定の文化施設において、どの時期にどのような公演を行うかを決定する企画立案、その前提となる事前の市場調査、ホール運営の経済的条件と地域の観客・聴衆のニーズとの調整など、舞台公演を実施するにはさまざまな課題を解決しなければならない。これらの諸問題について、できるだけ具体的な事例に即しながら考察を進めてゆく。

卒業研究

●芸術文化演習IA

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研究の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習IB

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所

属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習ⅡA

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習ⅡB

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習Ⅲ

各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Ⅰにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。

●芸術文化演習Ⅳ

各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Ⅰにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。

●卒業論文

各ゼミの担当教員（指導教員）の指導に基づいて、卒業論文を作成する。卒業論文では、これまでに演習によって獲得した様々な知識、情報の活用の方法、それらを自らの思考と照らし合わせながらその思考をさらに新たなものとして構築する方法などを駆使し、自らの考えを論理的な文章へとまとめていく。文献資料を収集し、それらを読解、分析し、これに基づいて理論を立てる作業を担当教員の指導とともに繰り返しつつ、論文の完成を目指す。

デザイン共通科目概要

2023年度 カリキュラム

デザイン基礎

●デザイン概論

デザインを初めて学ぶにあたって、本講義では近・現代のデザイン思想や様々なデザイン領域における試行の歴史的な変遷を通して、デザイン行為の基本となる発想や考え方を体系的に学修する。多様化する生活様式・ものづくり・情報伝達・住環境・社会システムを踏まえ、各領域（デザインフィロソフィー、プロダクト、ビジュアル・サウンド、建築・環境、インタラクション）のデザイナーとしての職能やそのあり方、活動分野、今後の展開を考える。

●デザインマネジメント

現代社会におけるデザインの果たす役割について、消費者の動向や企業の活動実態を事例として取り上げ、デザインマネジメントの視点から製品の企画、開発、設計、デザイン、生産から販売活動に至るまでのトータルなプロセスとデザイン組織の管理、意思決定、および評価の構造を学習する。それにより、拡大するデザイン活動とその対象領域を把握し、ビジネスにおける新たな価値創造を実現するための、戦略的なデザインマネジメントの重要性について理解し、考察する力を身につける。

●デザイン美学

デザインの歴史を、デザインに関わる諸概念から俯瞰することで、事象に対する視点や考え方、造形の仕組みの読み方を学ぶ講義である。受講者は、様々な時代、様々な立場の考え方がどのようにデザインと造形に結びつき、どのようなものが作られたか、それらにどのような意味が込められたのかを探究し、デザインの世界と私たちの人間や社会に対する認識との関係について考察する。

●デザイン思考

デザインの現場をはじめとして、技術開発、企業経営、プランディング、フィールドリサーチなどの現場で有効にはたらくデザイン思考の事例を概観し、ブレインストーミング、ワークショップ、エスノグラフィーなどの方法論を取り上げて体験学習する。さらに、発想や開発に関わる、視覚化・協同・自己表現・身体化、企業経営やプランディングに関わる、領域横断・総合化・構造化・共感、フィールドリサーチに関わる、観察・参与・感情移入・仮設推論などのデザイン思考の手法を論ずる。

●暮らしのデザイン

人々の様々な暮らしの中から創造されるデザインについて、住まう・使うなどの生活行動を中心に、ヒトとモノの関係性、モノとモノの関係性がデザインの大切な要素であることを学ぶ。また、街並みや公共空間、住宅や製品などのデザイン事例から、生活者の不満・不足・願望の抽出を行うことで改善点を求め改良がなされたこと。そして、それらが新たなアイデアやデザインへ導かれたことを学ぶ。さらに、暮らしの中に内在する諸問題点・課題点の発見と抽出を行い、デザインの要素・要件を引き出す生活起点発想のデザインを学ぶ。

●技術史

有史以来、道具や技術の発明に支えられた私たちの生活文化の革新史は、ものづくりの文化

史ともいえる。ものづくりにおいて、人々が何を考えてきたのか、またつられたものや思考から現代の私たちの暮らしにつながるものは何かについて考える。本授業では、技術の進歩によって何がもたらされたのか、単なる技術的な発展にとどまらず、多角的に考えることを通して、現在のものづくりやデザインへの接続点、私たちが取り組むべき問題を見出していく。

●現代デザイン論

業界の先端で活躍する複数の講師によって展開される講義である。毎週系統立てて設定されたテーマに基づき、その専門の講師が担当する。多様化するデザイン業界の状況を知り、個性あふれる講師陣の実体験や持論を理解することで、デザインの世界の幅の広さや深さ、学生本人の将来像を考えるきっかけにするための知識を深める。デザイン学部の各領域の関係性や分野の関連、デザイナーの役割、職業や職種についての知識、プロフェッショナルとしてのポリシー、デザイン実務の内容など学生にとって知られざる現実を知る。

●情報処理基礎

情報社会におけるデザイン業務に必要とされる、情報リテラシー（情報の収集、分析、問題解決、発信するための能力）を習得し、デザインにおける課題解決やプレゼンテーションに応用できる能力の修得を目的とする。コンピュータによる文章作成、データ処理、および图形処理スキルを身につけるとともに、コンピュータのハード・ソフト、ネットワーク等の基礎的な概念もあわせて学習することで、デザインの専門教育や卒業研究・制作など大学で学ぶ上で必要な知識と技術を身につける。

●情報処理A

現代のデザイナーにとって、外観や形状だけでなく、内部構造や機能そのものまでもがデザインの対象となる。多様な機器において、機能を実現するための核となるのは「情報処理」である。本科目では、この「情報処理」を理解し、「情報処理」の知識やセンスを活かし、現代に求められるデザインを実践できる能力を育成するための情報リテラシー教育を行う。情報処理の歴史、情報処理技術が活用される最新の現場の状況、アルゴリズムの基礎等について学習する。

●情報処理B

プラットフォームとしてのコンピュータ／インターネットの理解、「HTMLソースを読める／書ける」基礎的理解、JavaScript等の活用、スタイルシート（CSS）による統一されたデザイン作成、サウンドやマルチメディア・コンテンツの活用手法など、ウェブデザイナーとして高度なコンテンツを実現するための情報処理的な背景を理解していく。あわせてセキュリティ・プライバシー・知的財産権について基礎から最新状況までを理解する。

●情報環境論

情報技術と社会、情報技術と暮らし、および情報技術と産業の関わりについて、電子メディアや情報処理、通信ネットワークなどの変化動向を概括しながら、情報化社会における社会環境や生活環境について、具体的な技術開発、標準化、およびマーケティング事例を含めて学習

する。それらを、情報社会全体として捉え、デザインの役割とあわせて考えていくことで、新しい情報化社会において、生活文化・産業に寄与できる基本的な考え方を身につける。

●造形芸術論

造形芸術のあり方を認識するために造形作品および作家等を具体例として紹介することで、その歴史や活動内容また現代における評価や影響等を考察し、それらの造形表現に伴う技術および技法・様式や素材等にも焦点を当て理解を深める。またそれら造形作品および作家等に関係もしくは影響のある作品や人物、さらに古代から現代に至る美術や文化等も考察することにより造形芸術への理解を深め、現代社会における造形芸術のあり方を学ぶことを目的とする。

●色彩計画論

配色がもたらす効果や実際のデザイン現場での色彩の利用法等、より実践的な理解を促すことを目的とする。色彩知覚の仕組みや色の三属性、マンセル表色系といった基本事項の理解をベースとして、各色相系がもたらす心理的効果や配色のテクニック等、実際の制作に反映できる内容を修得する。加えて、印刷媒体、パッケージ、プロダクト、インテリア、都市環境等、各領域での色の使い方の代表事例を紹介しより身近なツールとしての「色」を意識できるようになる。

●デジタルプレゼンテーション

コンピュータを活用したデスクトップパブリッシングを中心に、ビジュアルデータ（文字および文章、記号と图形、表、イラスト、写真、映像や音等）を解りやすく、正確に、無駄なく伝える手法を学ぶ演習。媒体別の表現方法の違いを意識しながら、同時に口頭でのプレゼンテーション能力も高めることを目的としている。講義、演習、プレゼンテーション実践を相互に組み合わせながら、プレゼンテーションツールを習得、特徴を把握していく中で、最適な手段、戦略を模索していく。最終的には、プレゼンテーションデータと合わせて、ポートフォリオ等を制作する。

●Design English

グローバル市場に対応するデザイン開発に必要な英語コミュニケーション、特に辞書や学習書だけでは習得の難しいデザイン表現のための英語を学ぶ。デザイン検討やプレゼンテーションに使われる英語を中心に、色・形・機能などのカテゴリーごとに学習し、各カテゴリーに関するディスカッション能力を身につけ、デザインの目的や手法についてプレゼンテーションを行う。

デザイン技法

●建築図学・製図

建築設計製図に必要な図学的把握と適切な表現のための製図技術を習得する。図面の表現と意味を理解することにより、正確な図面表現力を身につけデザインを伝達する技術を獲得するとともに、図面を正確に読み理解する、図面の読み解き力も身につける。図学では、图形の正確な描き方、立体の平面的表現方法について論理的に学び、製図では建築製図の諸規則等を学び、具体的な事例の図面の作図等を通じて、建築設計製図表現技法を習得する。

●図学・製図

図学では、基本的な図形要素としての直線と角・多角形・円と円弧・うずまき線・輪転線などの平面図形と立体の展開図とその応用を学び、立体のイメージ表現のための透視投影法（一点透視図法・二点透視図法）を学習し、透視図を作図する。製図では、三面図による立体の表現、製図の記号、寸法の記入および規則について学び、演習絵は製品の三面図を作図する。

●デザインCAD

3次元形状のモデリング手法（フィーチャベースモデリングやブーリアン演算）を理解し、CADによる造形技法（モデリングプロセス）、レンダリング（マテリアル、カメラ、照明）やアニメーションによる表現技法（コンピュータグラフィックス）、および3Dプリンターによる造形技法について学ぶ。演習では、介護福祉機器、プロダクト製品、3次元キャラクター、インテリア、建築模型など幅広いデザイン領域に展開できる基礎的なデジタルスキルを習得する。さらに、3次元CADデータの管理、運用、活用についても学ぶ。

●建築CAD

建築設計デザインの表現手段としての、CAD（コンピュータ製図）について、基本的な知識と技術を習得することを目的とする。建築CADソフトを使用しての実践的な演習を通じて、CADソフトについて、図面作成手法・作図作法を学習し、基本的知識と表現技術、プレゼンテーションワーク技術を身につける。最終的にはCADソフトを使用した作図、プレゼンテーション資料作成によって効果的な設計表現が自由自在に可能となることを目指している。

●デザインドローイング技法

空間デザインの作品表現に関わる基本的な知識と技術を学ぶ。設計課題やデザインコンペの作品制作に関わるプレゼンテーションについて、事例研究と実践的試行を通じて修得する。コンセプト表現や図面ドローイング、スケッチ、模型表現等基礎的な技法を修得するとともにその表現の可能性を理解し、説得力のあるコミュニケーションを実現する、作品表現に適した豊かな表現力を身につけることを目標とする。

●フォトグラフィックス

デザインのためのフォトグラフィック技法の理解を目的とした基礎的演習である。授業作品等具体物の撮影やポートフォリオ、プレゼンテーションパネルに使用する写真等、デザインプロセスのための写真撮影を中心に撮影技法を習得する。デジタルカメラ、フィルムカメラで撮影したデータを、デザインに使用するための写真加工ソフトで加工・調整し、グラフィック編集に適した加工を体験する。これらのテクニックを習得するために作品制作を行う。

●表現技法I

すべてのデザインの基礎となる、造形表現に不可欠な観察力と描写力を身につけるための実習を行う。これにより、日常生活で触れる対象に対しての、ものの見方を変えるための「気づき」を体得する。具体的に目にするモノを、手描きで正確に表現できるようになるために、自然なパースを理解するための観察描写を繰り返して行う。基礎的な図面からの描き起こしスケッチ等も

体験し、頭に思い浮かべた造形を、正確に紙に描けるようになることを学ぶ。

●表現技法II

造形の三要素（形・色・質感）を用いて「かたち」を視覚化する平面構成に取り組み、グラフィックデザインの基礎概念を学ぶとともに、デザインの基本となる色彩、タイポグラフィ、エディトリアルなど様々な課題制作を通じて、2次元の世界で表現法であるモノや空間の見方、捉え方を習得する。それにより、文字や色彩などの要素からなる内容が、様々なメディアに定着され、見られ読まれることによって成立するグラフィックデザイン分野の役割を理解する。

●表現技法III

デザイン検討やプレゼンテーションにおいて必要なデジタルツールを用いた立体の2次元表現を学ぶ。コンピュータ上で行うデジタルスケッチをはじめとし、手描きスケッチ・写真・CGレンダリング等の加工技術を学び、デザイン開発ステージやプレゼンテーションの目的に合わせた様々な表現技法を習得する。

●描画表現

現代のデザインに関わる領域は多岐にわたるが、基本には常に造形表現というものがある。デザイナーが心地よいフォルム、美しい形を作り提案することが大きな責務である。そのもとには美しいと確かな描写と、造形表現力が欠かせない。観察したことのないものを表現することはできないし、その造形を考察することもできない。のために観察から描画へ、描画から表現、表現から造形へと磨きをかけるステップを実践する。

●立体造形I

デザイン・建築などあらゆる分野で必要とされる、基本的な立体造形力を身につけるため、立体構成の基礎を学ぶ授業。立体造形感覚を養うため、表現方法や扱い方が異なるいくつかの素材を用いて、カービングやモデリングなどその素材に合ったアプローチの仕方を模索しながら立体作品を制作する。実際の制作を通して、平面表現とは異なる立体としての形の緊張感とバランス感覚、視点の移動による立体の見え方の変化、素材による特性・表現の多様性や展開力の重要性などを学ぶ。

●立体造形II

木材や金属、プラスティックなどの実材を用い、デザインに必要な素材の持つ特性を理解することを主眼に立体的な課題創作を行う。実際にデザインの世界で形ある実在の製品を制作するにはマテリアル（素材）の選択がとても重要な問題である。自ら実材を使い素材の特性を活かしたデザインを考え、自ら工夫して物を制作する作業を行い、そのプロセスを通して、その特性、加工法、組み立て法などを理解し、今後のデザインワークの知識、経験として基礎力を習得する。

●空間演出計画I

身の回りの基本的な空間把握に大きな影響を及ぼす視覚、聴覚のテクノロジーを理解していく、様々な目的に合わせて、空間を演出しようとする時には、色彩・照明・音響が重要な要素となるが、かたちや姿のない空間の要素を計画していくことは方法論や独特の指標、計画の知識がなければ解けない場面がある。これらについて

の特性を学び、空間演出の基本的な知識を習得する。さらに、具体的な空間演出事例を知り、空間演出の考え方と手法の基礎を学ぶ。

●空間演出演習I

空間演出計画Iで学んだ基本的な知識・考え方・手法に基づいて身近な空間を題材に実践していく。色・光・音をテーマにして、実際に空間演出を目的とした作品を制作し、作品発表を行う。発表では空間演出独特の表現技法を学ぶ。実際に計画を行うことで論理的であった要素の感覚を体験し、今後のさまざまなプロジェクトで空間演出を検討していく意識を身につける。色・光・音の各テーマごとに専門の教員が指導にあたる。

ユニバーサルデザイン

●ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論

すべての人が住みやすい社会をつくるには、一般には多数派とされている健康な成人だけでなく、子どもや高齢者、そして障害者を含めた多様な人の存在を意識しなければならない。どんなに異質であっても社会的な活動から排除されないようにすること、これは世界的な合意であり、また教育から就労、そしてレジャーなどの活動に至るまで、あらゆる場面で保障されなければならない人間としての権利である。それをできるだけ特殊解ではなく一般解として実現すべく、製品から構築環境、そしてサービスなどのソフトな仕組みに至るまで、あらゆるものの方を考える。

●生体機能論

できるだけ多くの人にとってより良いモノや空間をデザインするためには人間の差異や変化について幅広い知識を持ち、人間の持つ種々の特性について理解を深める必要がある。この授業では人間工学や人類学の観点から人間の形態的特徴、感覚・知覚の特性、それらの環境に応じた変化、加齢による変化、各地域における差異等の既存データや知見をもとに、様々なデザイン活動において必要とされる見識を深め、ユニバーサルデザインへつながる考え方を養う。

●ユニバーサルデザイン

能力や年齢・文化・性別などの違いを超えて全ての人に適合させることができ可能な製品・サービス・環境を目指すユニバーサルデザインの理念を実現するために必要な考え方や、どのようなことについて配慮をすればよいのかを学び、具体的に進めるためのプロセス・手法を実践的に習得する。演習においては日常生活における人・もの・空間などの事例を捉えて、様々な特性を持つ人の視点に立って調査・検証を行い、問題を発見し、課題解決に向けた考察、提案を行う。

●ユニバーサルデザインII

異なる特性を持つユーザーを想像や表面的に理解するのではなく、デザインの対象者としてチームメンバーに迎えるユーザー参加型演習を行う。行動を共にして生活の一部を観察する中から、対象者の行動や身体の特性の理解、気持ちの共有、課題や潜在的なニーズの発見から、解決策となるデザインを考え提案を行う。演習を通じて、全てのデザインの基本となるユーザー観察・分析の手法、人間中心デザインのプロセス、ユニバーサルデザインの解決手法について体得する。

デザイン 共通科目概要

2023年度 カリキュラム

●生活環境論

人の知覚・機能は一様ではない。様々な要因によって機能・特性が異なる場合が多々あり、生活に支障が生じた状態が「障がい」と呼ばれる。人の多様な特性や障がいについての解説と、当事者ゲスト講師からのお話などを通して、異なる特性を持つ人の生活環境における様々な状況やバリアの課題を探り、日頃当たり前だと思っていたことが当たり前でないこと、デザインに何ができるか、などについて考察する。講義を通じて「相手の立場に立って理解し配慮する」というデザインの基本スタンスを習得する。

●健康・福祉のデザイン

超高齢社会にあって人は今まで以上に健康・福祉に向かい合って生きていくことになり、健康・福祉を支える機器の重要度が増している。また環境の変化や人々の生活の変化などから新たなニーズが生まれ、技術進化とともに様々な機器が開発されている。講義では健康や福祉に関する代表的な製品や新しく開発された製品を例に取り上げて、社会的背景、開発プロセス、製品の特徴、使用状況の実際を理解する中から、社会と人と製品とのデザインの関係を考察し、プロダクトデザイン開発に必要な要件について学ぶ。

●人間工学

人間にとてよりよいモノや空間をデザインする際に必要となる人間工学の概念や手法について学ぶ。人間工学に関する研究の歴史的背景や現代の企業における応用例などを通し、使用者を中心とした製品や空間について企画・検討する力を養う。また、人間工学分野で活用されている各種の測定手法や設計時に使用される既存データに関して、生物学的側面および心理学的側面から概説した上で、その具体的な取得の手順についても解説する。

デザイン専門科目概要

2023年度 カリキュラム

専門科目 学科専門

●基礎演習A

デザイナーに必要な幅広い知識と総合的な判断力、豊かな人間性と創造性を養うためデザインの基礎を学ぶ演習である。ここでは、「産業としてのデザイン」「生活におけるデザイン」「人間の特性とデザイン」「コンピュータによる造形デザイン」「デザインの歴史的変遷」「情報のデザイン」などデザインを論理的に捉えるため、初めに、我々の生活に内在する諸問題を明らかにして、その解決方法を導き出す考え方を学ぶ。次に、製品・器具・道具などについてその操作などから内在する諸問題を導き解決方法を明らかにする考え方を習得する。

●基礎演習B

プロダクトデザインの目的、デザイン方針の立て方、スケッチ描画やモデル制作の基礎的な手法、およびプレゼンテーションまで、一連のデザイン作業の概要を体験する。主に人間が使う道具を教材として、体に触れる部分はどのような形状が機能的で、美しく、使いやすく、そして心地よいのかを考察し、それらを実現するために必要な考え方や、どのようなことについて配慮すればよいのかを学び、プロダクトデザインの要点を習得する。

●基礎演習C

効果的な視覚表現を実現するために、グラフィックや映像デザインの基礎スキルを身につけるとともに各自の美意識の研鑽を図る。実際には、「グラフィック」と「映像」の2つの専門があり、それぞれ静的または動的なアプローチでビジュアルデザインを学ぶことに重点を置く。具体的に「グラフィック系」では、コンピューターの使用をベースとして、文字やレイアウトなどに関する基礎知識を習得し、「映像系」では、コンピューターやカメラ等をベースとして、撮影及びモーションの基礎知識を習得する。

●基礎演習DI(1年後期のみ)

建築・環境設計実技のスタートとなる最も重要な演習の一つである。都市の中心部にある具体的な公園敷地において、機能が限定されている小規模な公共施設物、複数の機能が含まれている中規模公共施設物、そして多様な機能を有する私的単体施設物という3つの課題に対する設計行為と各自がデザインした作品の発表を経験して、計画理念の重要性とプレゼンテーション(相手にわかる発表行為)としての製図の役割を知り、空間デザインの厳しさと楽しさを学んでいく。

●基礎演習DII(2年前期のみ)

基礎演習DIでの学習を展開し、建築・環境に関する基礎的な空間構成の手法と、それらの表現方法を修得することを目的とする。建築・環境の空間構成に関する基礎的な演習課題についての検討・計画・設計と、それらの作品としてのとりまとめ、プレゼンテーション等を通じて、建築・環境に関する設計の基礎知識・基礎技術を修得するとともに、設計意図を模型、図面等により表現するための基礎技術を習得する。

●基礎演習E

人間の行動を的確に捉え、意味づけすることで、製品やシステムと有機的に結びつけることを目的とするインタラクションデザインについて、

ユーザー(ヒト)に働きかけるデザイン対象(モノ)としての「デジタルエレメント」をテーマに、自らの手で制作する基礎的な電子工作を含む演習を通してその概念を学習する。それにより、ハード(外観デザイン)とソフト(インターフェースデザイン)の関係性に配慮した人間中心設計の基本的な思想を理解する。

●基礎演習F

日本の伝統建築や伝統工芸に関する知識と技術の概要を学習し、匠領域の学びに向けた基礎的な演習を行う。伝統技能の初步的体験を通して、日本の風土に合った素材や技法、デザイン、さらに「ものづくり」と向き合う姿勢について学ぶ。日本の伝統の上に、新しい空間やデザインを創出し、各産業分野と協働して展開するための素養を身につけることを目標とする。

●アニメーション基礎

〈ものに生命を吹き込む魔法〉としてのアニメーションの基礎を学ぶ。手描きアニメーションにおけるキャラクターの動きがどのように設計され映像的シーケンスとしてどのように実現されるかを、作画を通して体験することによりCGやFlashなど様々な映像手法へと応用可能な(動きのデザイン)の基本原理を習得する。描いた原画を中割りして動きをつけてゆく基本的な作画工程の実習に加え、ストップモーションやピクシレーション等手描き以外のアニメーション技法についても体験的に実習する。

●インターフェイスデザインI

日常生活で用いられる家電製品や通信機器、公共機器の情報化や高機能化が急速に進んでおり、それらの操作方法も大きく変化している。ユーザーがわかりやすく、使いやすい製品機器を提供することがデザイナーにとって重要な課題の一つとなっている。本講義では、具体的な事例を取り上げながら、使いやすいユーザーインターフェイスの実現に必要な要素技術の理解と、それらを活用したデザイン手法の基礎を修得してもらう。

●インターフェイスデザインII

本講義では、生活機器と生活環境におけるインターフェイスのデザイン手法の応用力を身につけることを目指す。各種機器や環境でのユーザーインターフェイスをよりわかりやすく使いやすくするために、ユーザーの行動分析からアイデア発想を行い、ペーパープロトタイピングに至るまで一連のデザインプロセスを理解してもらう。そしてその結果に基づいて、魅力的で親しみやしさの感じられるインターフェイスデザインを提案してもらう。

●インダストリアルグラフィックス

都市空間の中のサインや看板などに書かれている文字標識やマークデザインの扱い方、工業製品であるパッケージ、バイク、電車、スポーツ関連機器などの色、文字、模様のグラフィックデザインを紹介・解説した上で、それらの社会的背景や文化、時代などを比較・考察する。それにより、プロダクトデザインや建築から都市空間までの、広い人間の生活環境に及ぶグラフィック領域と諸分野と密接の関わりについて理解し考察する力を身につける。

●デジタルコンテンツ演習

インタラクティブな表現を学び、アニメーションやゲーム、Webサイトデザイン構築のための技術の理解を深める演習である。アニメーション技術、ゲーム制作技術、インタラクティブな表現を実現するスクリプト制御等を習得することで、さらに高度なインタラクションの実現を目指し、インスタレーション制作のためのコンセプトワーク、アイデア具現化のプロセスも並行して理解・考察していく。

●インタラクションデザイン

新しい製品・サービスの開発や、新しいエクスペリエンスを生み出す上で、重要な要素となるインタラクションをデザインする能力の育成を目標とする。インタラクションデザインを構成する諸要素を体験して学習して基礎的な知識を得るとともに、インタラクションデザインを効果的に用いるアート形態の一つである「メディアアート」について学習することで応用力を身につける。インタラクションデザインの要素を含む、新しいプロダクト、新しい空間演出、新しい広告宣伝形態等を手がけることのできる人材を育成する。

●インタラクティブプロダクト演習

本科目は、基礎演習の延長線上に位置する科目として、電気回路、プログラミング、メカトロニクス、デジタルファブリケーション、ユーザインタフェース等に関する基本的な知識を学習する。また、これらの学習した知識を活用して、インタラクティブな要素を持つ具体的な工作やサービス等について、学生が自ら、企画、設計、製作、評価、ドキュメンテーション等の作業を行うことで、インタラクティブなシステムを構築する能力を体得的に身につける。

●インテリアデザイン論

私たちの生活の周囲をかたちづくる空間としての環境や「住まいの道具」を対象として、その意味・役割を知り、素材や製法などのデザインの基本作法を考えていく。インテリア計画に必要な法的知識や人間工学を学び、最新事例からトレンドを研究したり、実例をもとにさまざまなトレンドや設計の勘どころを理解していく。ここでは必然として生じた歴史と流行を系統立てて身につけ、常に時代に影響されてきた空間デザインの姿を知る。

●エンターテイメントデザイン

五感を刺激するエンターテイメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察する講義と演習で構成する。メディアアート、映像産業・ゲーム業界、そして広告の現場で展開する、ゲーム、Web、映像、マンガなどのエンターテイメントシステムの最新事例を題材に、自分で実現するためのフローチャート、シナリオ、コンテ等を制作し、実践していく。実現するためのツールの開拓も含めて、その表現技術の可能性を探り、自由でオリジナルな発想でアイデア・コンセプトを考察する。

●キネマテクス

動きを伴う玩具やゲームマシン、ロボットなど物理的な動きが必要となるプロダクトデザインやインタラクションデザインでの表現手法として、メカニズムの基礎を修得することを目的とする。教材とテキストを併用した体験学習を通じて、リンク機構やカム、歯車などさまざまなメカニカルな

動きの特徴と動力伝達の仕組みを理解することにより、デザイン対象物を自由自在に運動表現できる知識の修得と思考力を養う。

●グラフィックデザイン演習A

授業の前半では、グラフィックデザインの基礎についての理解の深化を目的に、デジタル媒体に向けたコンピュータを活用した表現方法について、形と色を用いたイメージを視覚伝達方法を学ぶ。授業の後半では、ショップで扱うブランドのトータルイメージの表現・演出をテーマとして、人々の印象に残る店づくりを、基本と実用の両面から、市場調査を含め視覚伝達を基盤とするパッケージデザイン、CI・VIデザイン等トータルデザインのプランニングや課題制作による応用的手法を学ぶ。

●グラフィックデザイン演習B

グラフィックデザインについて、漠然と表現するのではなく、「何のために」「誰に」「何を」伝えるかというデザイン本来の目的性を踏まえた学習を第一義とする。「ビジュアル・セルフプロモーション」をテーマに、自分を知らない第三者に自分を伝えるグラフィックツールづくりを課題とする。文字、レイアウト等の基礎的演習後、「自分」を表すシンボルマークとそれを展開したステーショナリー類と自己紹介のためのリーフレットを制作する。手書きでのイメージ展開過程を重視し、客観性を持った表現力を修得する。

●グラフィックデザイン演習C

ブックデザインを通して、調べる→考える→つくる→伝える、というデザインのプロセスを体感するとともに、企画とアイデア出し、編集、イラストレーションづくり、文字組みとレイアウト、印刷、製本など、グラフィックデザインに必要な基礎力を身につける。優れたブックデザインから色・かたち・コンテキスト・構造・物語・ユーモアなどを学び、自ら編集およびデザインを行うことで、さまざまな局面に応用できる構成力を養う。

●グラフィックデザイン概論

グラフィックデザインの歴史的な背景や構成要素である造形や概念を踏まえ、具体的な事例を通してCI・VI・パッケージ・エディトリアルなど各専門領域の果たすべき役割や最近のデザイン動向について概説し、紹介する。学生自身がそれらをヒントにして、グラフィックデザインによって視覚化された数多くの情報を理解できるようになることで、多様なメディアに向けた様々なデザイン活動への取り組みに応用できる力を身につける。

●ゲーム・遊びのデザイン

人類は、長い歴史の中で多くの「ゲーム」、「遊び」を発明し、改良してきた。それらは素朴な子どもの遊びから、高度な技能や知恵を駆使する洗練された娯楽や、国家間で競われるスポーツまで多種多様である。特に現代においては、携帯端末を含むコンピュータやネットワークによって実現される新しいタイプのゲームが定着し、大きなビジネスを形成している。これらの多様なゲームについて、ルール、デザイン、歴史、社会への影響等について学習するとともに、ゲームに関連する数理的な要素にも触ることにより、ゲーム自体をデザインする能力のみならず、ゲーム性や遊びの要素を様々なプロダクトやサービスを魅力的にするために活かすことのできるデザイン能力を身につける。

●コミュニケーションプロダクト

IT化により急速に進んだテクノロジーをどのようにして人間生活の充実に役立てるのか、そのニーズ開発が重要である。すでに技術は消費者のニーズを超えている部分も多く、現在の延長線方向の技術開発では魅力的な製品を生み出すことが難しい。デザイナーには、人間の願望を見直し、隠れている要求を発見する力が求められている。人とモノのコミュニケーション、人と人のモノを通してのコミュニケーションを考えることにより洞察を深める。

●サウンドデザイン

人間の「聴覚」について学び、マルチメディアの重要な要素であるサウンドメディアの理解と活用を目指す。具体的には、(1)音響学と「聴覚」とデジタルオーディオの基礎の理解、(2)サウンド・プログラミング環境を活用したサウンドの編集/操作、(3)サウンド・プログラミング環境を活用したアニメーションの自動生成、(4)音楽編集/制作ソフトの効果的な活用、(5)音楽演奏情報MIDIやインターネットや映像メディアとの結びつき、などを学ぶ。

●スペースインタラクション演習

パブリックデザイン、商業環境デザイン、情報デザイン、パブリックアートなどにおけるインタラクションの事例から、公共と個人、ICTと空間、場所とメディア、都市と芸術などの相互作用を考察し、フィールドワークによって地域の課題を発見した上で、複数のデザイン領域(空間、メディア、プロダクト、エクスペリエンスなど)が融合した解決案をデザイン提案する。中間でのクリティックを含めて提案に対する講評を十分に行い、提案と評価の相互作用も活性化させる。

●デザインコンセプト論

デザイン作業の中でコンセプトの立案は特に重要である。デザインの目的・意味を確認し、独りよがりではなく、人々に貢献するコンセプトをどうやって生み出すのか、その考え方を学ぶ。また、発想・アイデア展開については感覚的に行われる場合が多い。この授業ではアイデア展開について、科学的な側面からの考察に基づいた様々な手法を体験学習する。思いつきを待つのではなく、意図的に要求に応えるコンセプトを生み出す手法を学ぶ。

●フィッティングデザイン

使用者が個々に持つ身体的特性や心理的特性に道具や空間のデザインをより適合させるため、多数の使用者を想定するのではなく個人の使用を想定するというフィッティングデザインの概念や実現するための手法について学ぶ。既存製品を例にフィッティングデザインとユニバーサルデザインの概念の違いおよび共通する部分について理解を深め、さらに個々の特性・状況を捉えるための人体寸法、姿勢・動作、心理反応、生理反応等のデータ取得方法について習得した上で、それらのデータをデザインに活かすための対応手法について学ぶ。

デザイン専門科目概要

2023年度 カリキュラム

●プロダクトデザインプロセス

デザインを製品として具体化していく上で必要となる要素を学習する。「家電」「通信機器」「生活設備」「自動車」等、様々なプロダクトデザイン分野を想定し各々の特徴ある業務プロセスや表現技術、専門知識、必要とされる技能などを中心に製品デザイン現場の実際を学ぶとともに、関連する国内外の市場情報や文化情報、技術情報等の紹介も行う。将来の進路選択も視野に入れて、デザイン業務の現場における実際の作業内容や作業環境への理解を深める。

●プロダクトデザイン演習I

ドライバーなどの家電機器を題材に、製品デザインの入門的な演習を行う。市場調査、機能・構造の理解、コンセプト立案、アイデア展開、モデル製作・検証、プレゼンテーションに至る製品デザイン開発のプロセスを体験し、プロダクトデザイン開発に必要な知識とスキルを習得する。

●プロダクトデザイン演習IIa

製品のデザイン開発を進める上での基本的な情報収集、分析、整理に加え、具体的な検討内容や方法、プロセスについて、課題演習を通じて体験的に学ぶことを目指す。特に、設定したユーザーの心理や行動、ライフスタイル、価値観などへの理解をもとに発想し、ふさわしい仮説を立てて演習する。何が求められているかに応える側面と、気がつかなかったけれど欲しかったと思えるような新しい価値を見出し、提案できるような柔軟な発想とその具現化を目指す。

●プロダクトデザイン演習IIb

製品デザインの基本的な方法を学ぶ。具体的には既存プロダクトの体験、コンセプト立案、アイデア展開、スケッチによる形のバリエーション展開、レンダリングなどのプロセスを通して、新たなデザイン価値の創造と提示を目的とする。グループワークによるコンセプト立案や、CG・CADを利用しながら、課題演習を基本とした体験的な学習を行う。

●ビジュアル表現基礎

表現を通してビジュアル・コミュニケーションについて学び、グラフィックデザインに必要な基礎的素養を身につける。キャラクターデザイン、構図、色彩、コラージュ、モンタージュ等のイラストレーション表現と、タイポグラフィ、紙面構成、ブランディング等のグラフィック表現に関する知識・技法を、短いスパンの課題を通して修得する。本科目で身につけた基礎力を、後期に開講されるグラフィックデザイン演習A・B・Cでの学びへと発展させる。

●メディア産業論

様々な産業において、メディア技術の進展によってどのような変化が起きたのか、ということについて学ぶ。そして、それぞれの産業における具体的なデザイン上の課題を題材にして、メディアを活用したソリューションの提案を行う。学習の題材として取り上げる業界は、楽器等を扱うプロダクト業界、紙媒体やWeb媒体を扱うグラフィックデザイン業界、空間のデザインを扱う展示業界、様々なメディアを駆使して広告、広報、商品企画を行う広告代理店等である。なお、本科目は文化政策学部の研究分野との接点を持つことから、授業の運営において文化政策学部との連携も行う。

●メディア数理造形演習

「サウンドデザイン」で学んだサウンド/音楽のプログラミングを発展させて、聴覚と視覚の両方をアルゴリズムによって生成するデザイン手法(数理造形)を学ぶ。具体的なテーマとして、(1)サウンド・プログラミング環境によるリアルタイム・マルチメディア生成、(2)物理法則/フラクタル/カオスなどを活用した数理的な「美」のデザイン、(3)自然界の物理量や人間の身体動作に対してインタラクティブに反応するシステムのデザイン手法、(4)ビジュアル・プログラミング環境によるグラフィック生成とネットワーク連携、などを学ぶ。

●モノ・コト論

豊かで快適な暮らしのためのデザインとは、いわゆる製品に代表される「モノ」のみならず、それらを通して得られる経験や物語といった「コト」が重要な位置を占めている。そんなモノ・コトについて考え、新しい価値を提案していく上で必要な考え方や技術、手法についての基礎を学ぶ。人とモノとそれを取り巻く生活環境との関係を基本に、人々の生活に潤いを与えるデザイン提案のための基礎的能力の獲得・向上をモノ・コトの両面からはかる。

●ものづくりのシステム

社会生活に欠かせない「もの」の意味、価値を「ものづくり」という視点で、プロセスや取り組み方など多角的に考察し学習する。客観的にどんな流れになっているのか?という仕組みを知ることと同時に、どんな意思を込めてものづくりをするのか?そしてその意図をプロセスの中でどのように一貫性を保つことができるのかを考える。取り上げるテーマは地場産業、伝統工芸、少量生産、大量生産、特注物等。

●ランドスケープ計画

20世紀後半に入り地球規模での環境を考えなくてはならないことがようやく周知されてきた。21世紀は、ユニバーサルで多様性を持つ循環型の世界のあり方が問われている。このような視点に立って、自然と文化両面における指標である景観(ランドスケープ)の価値を正しく理解し、ランドスケープの基本的な考え方とランドスケープデザインの計画に関する方法論を古代から中世、近代、現代に至るまで通時的、地中海地域からヨーロッパ、アフリカ、インド、中国、日本に至るまで共時に学んでいく。

●木のデザイン

日本人は昔から木の家に住み、木を用いた家具や道具などの木工芸品に囲まれて生活してきた。木には様々な種類があり、色、香り、表情、性質などが異なっているが、先人たちは木の特性を活かして木工芸品を作ってきた。木を使い続けてきた生活環境と素材の特徴を理解し、今日まで受け継がれてきた木工芸の技術を学ぶことで、木の持つ魅力を引き出す、新しいデザインについて考える。

●移動のデザイン

今日におけるパーソナルトランスポーテーションの代表となっている自動車を中心に移動機器についてのデザインを学ぶ。具体的な進め方としては、現在の社会で使われている既存プロダクトへの理解を深めながら、それらの背景にある意義や課題を共有し、分析と立案のプロセスを

通して新たな問題解決や価値を個々に提案させるとともに、移動機器特有の機能、構造、レイアウト等に触れながら、造形やデザイン表現の技法に関する学習を行う。

●映像デザイン演習I

3DCGは、キャラクターや背景のデザイン、ライティング、アニメーション、カメラワークなど、さまざまな専門分野を網羅する重要な技術である。また、非常に複雑なソフトウェア知識と手順を必要とする分野でもある。3DCG制作の基礎から、モデリング、アニメーション、レンダリング等の技術を学ぶ。また、ゲーム制作や映像制作に関わるワークフローを履修し、各自が3DCGのプロセスの特定の部分に焦点を当て、具体的なプロジェクトを完成させる技術、意識を身につける。

●映像デザイン演習II

現代社会において映像はシングルチャンネルの上映形態のみにとどまらず、さまざまなデバイスを通して空間的にも展開し、偏在するスクリーンは私たちの生活環境の一部を成している。そのような環境における映像表現に必要なコンピュータ技術、具体的には編集、合成、CG、Web映像などの制作技術を課題制作によって修得し、それらをベースとして実写のショートムービー、プロモーションビデオ(PV)、ミュージッククリップ、インタラクティブムービー、XR映像等の制作を行う。

●映像技法演習

映像制作は、通常シナリオやグラフィックコンセプトから始まり、ポストプロダクションやサウンドデザインに至るまで、複雑な長い工程を経て完成されていく。その間に、カメラマン、アニメーター、作曲家、モーションデザイナー、サウンドデザイナーなど、様々な専門職が存在する。多様なツールやソフトウェアの仕組みの理解を深め、デザイナー、監督として、自身のビジョンをいかにしてスクリーン上に存在させるかを学ぶ。

●映像撮影技法

実写撮影の基本となるビデオカメラと照明機材の扱いを学習する。スタジオ撮影、オープン撮影それぞれにおけるカメラのフレーミング(構図)やレンズ(画角)の選択、移動撮影が生み出す効果、あるいは照明による演出効果の違い等について実習を通して検証する。さらに映像編集のセオリーと多彩な視覚効果を生み出すための合成手法を体系的に学ぶことで、断片としての撮影素材から一つの作品が成立するまでのプロセスについて包括的的理解を深める。

●音楽情報科学

「メディア数理造形演習」で学んだマルチメディア・プログラミングを発展させて、「ビジュアル・サウンド」領域での作品制作につながる、センサ群とヒューマンインターフェイスを活用したインスタレーション/パフォーマンスなどのメディア・アートへの展開を目指す。あわせて、(1)聴覚/視覚の融合とマルチメディア錯覚、(2)メディア心理学実験と認知科学、(3)音楽情報科学の世界先端の研究、(4)作曲/編曲のための音楽理論・コード理論についても紹介する。

●環境計画

地球環境問題、エネルギー資源の枯渇という地球規模の課題から、持続可能な社会形成、快適な室内環境形成という身近な課題まで幅広く

取り扱い、建築環境的側面から建築・デザインの知識・技術を学ぶ。光・色・熱・空気・水・太陽・風・音などの人間生活を取り巻く自然環境と建築環境とを融合させた設計・デザイン手法、バッジブデザイン・再生可能エネルギー・燃料電池などの省エネ・創エネ・蓄エネの観点から環境に配慮した設計・デザイン手法を習得する。

●空間・住居論

住まうこととは…古代より現代に至る空間概念の系譜をたどりながら、住まうことと、空間のありようについて考察してゆく。このような視点に立ち空間について学習・考察することによって、これから切り開くべき新たな空間の可能性を模索する。住居は建築家にとって入門であり、終生の課題とも言われる。住まうことの本質を問い合わせ、現在のありようを問い合わせ、そしてこれからの時代は何を求めているのかを学習してゆく。

●空間計画

建築の計画・設計に必要な基礎的知識について、次の3点を主な内容として学ぶ。まず気候や地形などが、そこに成立する都市や建築におよぼす影響や、計画上注意すべき点を確認する。次に計画と設計のプロセスについて、空間の形態と機能、寸法と規模の関係といった観点を含めて学ぶ。そして、空間形成のエレメントの設計について、人間の知覚と行動の特性も交えて、具体的事例を通して紹介する。

●空間演出計画Ⅱ

空間演出計画Ⅰで学んだ、初源的な空間構成要素である色・光・音の空間演出計画をもとにして、住宅やパブリックスペース、商環境、店舗内空間のディスプレイを考えていく。また作庭・緑について基本的な知識を習得する。日々進化を遂げる空間演出の先端を具体的な事例をもとに解説し、その考え方と手法を学ぶ。インタラクティブな演出や映像、水、匂い、グリーンなど五感で感じる空間のあらゆる演出を学び、演習に活かせる知識を習得していく。

●空間演出演習Ⅱ

空間演出計画Ⅱで学んだ知識・考え方・手法に基づいて、空間演出のデザイン演習をする。高度な演出技術を検討し、美しいメカニズムや演出効果にこだわって新しい空間表現や他分野に通じる先端的空間表現とエクスペリエンスな演出に挑戦していく。コンセプトを表現するための演出を追求し、日進月歩の技法を研究していくこと、提案時には伝えることが困難な演出をいかに表現するかというプレゼンテーションについても議論していく。

●建築デザイン論

建築デザインの実現にかかる様々な要素、技術およびそれらの背景となる思想について学び、建築デザインの理解や設計に活かすことを目的とする。近代から現代を中心とした具体的な建築物の事例を周辺環境とのかかわりや構造形式、機能との関係など、多様な視点からの分析によって学習することを通じて建築デザインへの理解を深めるとともに、建築を設計する際に考えるべき課題とそれらを具体的に空間に反映する方法・手法について学ぶ。

●世界建築史

私たち人類が日常生活を送ってきた都市・集落

には様々な形式を持つ建築が存在してきた。ランドスケープ・都市・集落・広場・公園・街路・建築・インテリアなど大小の規模を持つ空間を対象に、古代から現代に至る世界の多彩な空間造形の歴史を俯瞰する講義である。受講者はある建築形式がいつどのようにして生まれ、使われてきたか、また各時代の背景となる社会的・地域的条件との関係などを探究し、現代社会における意義を考察する。

●建築設計演習I

基礎演習DIIでの体験を展開して、より多様な用途の建築の設計に取り組む。演習は前半と後半から構成されており、前半は個人で進める課題として、設定した複数の用途の中から一つを決定して、単体の建築物を設計し、後半ではそれをまとめてグループで一つの複合用途の建物として再構成してデザインを行う点に特色がある。建築の用途として、不特定多数の人が訪れる施設を設定することによって、それらに必要な諸室の配置についても学ぶ。

●建築法規

建築基準法および関連法規について、必要な基礎的知識を学習するとともに、建築士として備えるべき社会的役割と責任を理解することを目的とする。将来一級建築士取得を目指し、建築設計や監理の建築活動に携わる者にとって必要な知識である建築基準法ならびにその関連法規等を身につけるとともに、我が国の建築行政と建築関連法規の体系とその背景を把握することにより、建築士として備えるべき社会的責任を理解し、実社会で活躍する人材を育成する。

●構造計画I

空間設計の基礎知識として、構造物の構成法や骨組みの特性を理解し、デザインの表現手法としての構造計画を学ぶ。木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造やハイブリッド構造等の構造種別の骨組み構成を視覚的に捉え、デザインと構造計画が密接に関係していることを理解する。また、教材として多くの著名な建築物を構造的視点で見ることによって、デザインと構造の関係性を理解し、時には実際の現場を訪問・観察することでさらに理解を深める。

●構造計画II

先端的な建築物の実例を通して、デザインと構造計画の関係性がいかに重要か理解を深める。ロングスパン構造・超高層・免震構造・制振構造といった先端的な技術の仕組みを理解し、設備計画と合わせたエンジニアリングの重要性を学ぶ。また、近未来の地震・津波による大規模災害に備えるため、地震のメカニズムを知り、先端技術の有効性を学ぶ。さらに、全体とディテールの安全性を考えたデザインをすることが、デザイナーとしての責務であることを学ぶ。

●構造力学I

建築物や工作物・道具などの設計に必要な、デザインのための構造力学の基礎を学ぶ。なかでも建築デザインにとって、力の流れを直観的に感じ取る構造的なセンスは欠かすことができない。集中荷重や等分布荷重等の簡単な荷重に対する片持ち梁・単純梁・トラスなどの基本的な静定構造物の応力を算定し、安定・不安定や形体・サイズ、あるいは力の釣り合いなどの直観力を養う。また、形態と力学的要素の関係を、多く

の実際の構造物を見ることで理解する。

●構造力学II

建築構造物の大部分は、力の釣り合いのみで応力を求めることができない不静定構造物である。構造力学Iで学んだ静定構造物は直観で力の流れを捉えることができるが、複雑な形態を持つ実際の建築物を力学的に直観で捉えることは難しい。まず、外力に対するフレームの力の流れを実感するために、外力によって構造物がどのように変形するか視覚的に理解する。そして、たわみ角法や固定法の原理を学び、手計算によって応力を求めて不静定構造物の力の流れに対する感覚を養う。

●建築材料

建築を構成する、木材・石・煉瓦・コンクリート・鉄・アルミニウム・ガラス等のさまざまな建築材料の基本的な性質を学ぶ。建築空間を適切に構成するためには、各種素材の特徴を知りその性質を活かす必要がある。そのためには、材料の物理的特性を理解しなければならない。「鉄筋コンクリート構造」等、素材の長所の組み合わせによって特徴ある空間が構成されることを知り、さらに素材の視覚的な特徴、肌ざわりなどの特性とその効果的な利用方法について学ぶ。

●施工計画

設計図に表現された建築物が、どのような手順で施工していくか、工程図・準備工事・仮設工事・土工事・基礎工事・躯体工事・仕上げ工事等基礎的な知識を習得する。施工プロセスにおける施工計画の重要性や施工管理の方法、施工技術の概要を学ぶ。代表的な工事種別である「鉄筋コンクリート工事」および「鉄骨工事」の品質管理・工程管理・安全管理等の概要や施工技術、さらに建物保全と長寿命化、環境配慮、引き渡しとアフターケアについても横断的に学修する。

●商品戦略論

消費社会の変遷や現在の諸特性について理解を深めるとともに、生産から流通、小売りに至る商品流通の基本的な仕組みなどを概観する。デザインオリエンティッドな新商品企画、商品リサーチや市場分析の基本的手法や企業のブランド戦略、デザインマーケティング、セールスプロモーションの実際を、大手企業や中小企業、生活用品や業務機器等のケーススタディなどを通じて学んでいく。国内産業を中心に扱うが、欧米市場やアジア諸国への展開も視野に入れていく。

●設備設計

低炭素な社会づくりとサスティナブル建築の実現に向けた省資源・省エネルギー化を図る最先端の技術・システムを理解し、建築・デザインの立場から快適な環境を創造するための建築設備の知識・技術・設計手法を学ぶ。建築における意匠・構造・設備との関わりから建築設備の役割と責任を学び、給排水衛生設備・空調換気設備・電気設備における基礎知識や設計・デザイン手法、ならびに建築設備における実務や建物の運用管理まで幅広い知識と技術を習得する。

デザイン専門科目概要

2023年度 カリキュラム

●素材加工演習a・b

日本の伝統工芸・伝統建築に使用されてきた素材あるいは現代的な素材を知り、それらの特性に合わせて技法を応用し、作品を制作することで、素材に応じた造形を学ぶ。鍛金、鋳金、彫金、陶芸、ガラス、プラスチック、木工芸、染織の8技法の中から選択して体験することで、その素材や技法の魅力を発見することを目標とする。

●地域計画論

行政施策としての「計画」の概念を論じるとともに、様々なジャンル別の地域計画の考え方を理解する。特に、都市や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた地域計画を概説し、そこで果たしてきた「計画」の意味、主体、可能性と限界などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。また、戦後日本の国土・地域・都市の計画の系譜をたどり、その延長線上で、環境、自然、歴史・文化などの今日的課題に対応した地域計画論の方向性についても言及する。

●都市デザイン論

都市・地域とその環境について、具体的な事例を通じて学び、デザイン手法を身につけることにより、良好な都市・地域環境、生活環境の創造に活かすことを目的とする。都市や地域、生活環境をその構成や成立背景等様々な視点から理解し、また、それらの成り立ちの原理や手法を学習する。これらの学習を通じて、都市・地域の景観や生活環境づくりに際し、考えるべき課題を見極め、それらを計画に反映する方法を考察していく。

●日本伝統建築

日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代との時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県の文化資産ともいえる伝統建築のあり方を考える。

●テキスタイル概論

人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めてきた。衣服としてだけでなく居住環境にも応用することで、生活を豊かに、快適に、美しいものにしてきた。そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めるとともに、新たなテキスタイルの可能性について学ぶ。

●匠造形演習

素材加工演習の体験をもとに、鍛金、彫金・装飾金物、陶芸、木工芸（漆）、染織の5技法から自分に合った1技法を選択して、作品の制作に取り組む。専門的な技法や道具の扱い方を学ぶことで造形能力をさらに高め、素材を活かした新たな造形の可能性についても考える。

●伝統建築技術演習

日本伝統建築を学ぶには、近世・近代まで継承されてきた建築の基礎を理解することが基本である。伝統建築の実測調査と図面作成の演習によって、構法や意匠について学ぶ。さらに伝統建

築に関わる匠（技能者）の技の実演と体験から、受け継がれてきた技能・技術に関する理解を深化させ、新しい創作においても、文化財保存においても、匠と協働するための素養を身につける。

●木造建築演習

日本の風土から生まれた木造建築の空間・意匠等の様々な特徴を理解し、木造建築の構法と大工技術について学ぶ。また、文化財建造物・木造住宅の耐震化については大きな課題であり、木造建築の構造や耐震化についても理解を深める。最終的に木造建築の設計課題を通して木造建築の構法と特徴を理解し、森林国日本における建築のあり方について考える。

専門科目 領域専門

●領域専門演習（領域1、2、3、5、6）*

本演習では学生が所属する領域に関係する基礎的なデザイン知識や方法の深化を目的とする。所属領域におけるテーマや課題を選び、各担当教員の指導のもとでテーマに即した調査検討や課題制作等を通じて、既習の知識・方法について展開・応用する手法を学ぶ。これまでに履修した講義や演習の成果を応用する第一歩であるとともに、「総合演習I」につながる自発的な研究および制作のための予行演習の位置づけである。

●総合演習I（領域1、2、3、5、6）*

本演習では、3年前期までに修得したデザインに関する知識・技術・経験に基づき、個人の創意と工夫により、各領域に関係するテーマや課題を企画・立案し、担当指導教員の指導のもとで、演習形式として研究・制作する。これまでに履修した講義や演習の成果の応用篇であるとともに、「総合演習II」および「卒業研究・制作」へつながる前段階の自発的な研究および制作演習である。より高度で専門的な能力を、各学生が個別に修得するプロセスと位置づける。

●総合演習II（領域1、2、3、5、6）*

本演習では、3年後期までに修得した知識・技術・経験に基づき、個人の創意と工夫により、各領域に関係するテーマや課題を企画・立案し、担当指導教員の指導のもとで、「総合演習I」の経験を踏まえてさらに高度な演習形式として研究・制作する。これまでに履修した講義や演習の成果の具体的な応用篇であるとともに、「卒業研究・制作」へつながる前段階として、テーマの企画・立案、日程管理、予備的実験および試作などをを行う自発的な研究および制作演習である。高度で専門的な能力を修得する学習プロセスの最終的な段階と位置づける。

●建築設計演習II（領域4）*

1年・2年・3年を通して学んできた空間である都市、建築、インテリア、地域環境、景観を対象として、担当教員が設定する複数のテーマから課題を選択し、設計を行うことによって、これ以降の総合演習で取り組む各自の専門的な課題の探求の導入的な位置づけを持つ。この演習では、よりテーマに沿った分析と思考が求められる

が、完成作品については担当教員全員が講評を行うことにより、各分野とは異なる分野からの視点も学ぶ。

●建築設計総合演習I（領域4）*

総合演習Iは、領域の全教員がそれぞれ設定した課題からテーマを選択することによって、設計演習IIで取り組んだ専門領域の課題について、より多様で深い内容からの考察を行う内容となっており、この考察を通じて、課題への幅広い対応力を身につける。課題の選択について、設計演習II、総合演習I、総合演習IIでの専門領域の統一は求められないが、思考の過程や作品の中で、各自が社会的問題や人間性への考察を行うことが重要なポイントとなる。

●建築設計総合演習II（領域4）*

建築・環境デザインは社会的な行為であり、デザインそれのみが社会的、経済的な文脈から孤立して成立することはありえない。ここでは、これまで大学の講義や演習で学んできたそれら的一般的な諸相をベースしながら、各自の問題意識や今日的な問題をテーマとして設定し、関連する分野の教員の指導のもと、それらの問題と、建築・環境のあり方の関係をまとめたレポートを作成する。4年間の集大成となる卒業研究・制作の前段階に位置づけられる演習である。

専門科目 卒業研究

●卒業研究・制作

4年間の総合的な学習効果を自分の選んだテーマで作品または論文とする。1)卒業研究・制作テーマ設定、2)既存の関連研究・デザイン情報の収集、3)研究・制作方法の決定と資料の収集、4)研究・制作、5)研究・制作の結果得られた成果に対する考察の手順で研究を遂行する。演習IIで捉えた問題意識や創造的思考をもとにテーマを企画立案し、期間内に遂行することで、学年末に最終作品または卒業論文の形にまとめるとともに発表を行う。

入試情報

●：実施

2023年度入学者選抜 概要

学 部	学 科	一般選抜		学校推薦型選抜		特別選抜
		前期日程	後期日程	公募制	英語重点型 公募制	
文化政策学部	国際文化学科	●	●	●	●	●
	文化政策学科	●	●	●	—	●
	芸術文化学科	●	●	●	—	●
デザイン学部	デザイン学科	●	●	●	—	●

※入試日程、試験科目の詳細は、2023年度入学者選抜要項、学生募集要項等で確認してください。

「一般選抜(前期日程・後期日程)」は、独立行政法人大学入試センターが2023年1月に実施する「大学入学共通テスト」を受験する必要があります。

「外国人留学生入試」は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」を受験する必要があります。

2022年度入学者選抜 実施結果〈一般選抜〉

学 部	学 科	区 分	募集人員	志願者数	受験者数	合 格 者 数
文化政策学部	国際文化学科	前 期	65	261	229	87
		後 期	10	349	93	12
	文化政策学科	前 期	40	146	133	53
		後 期	5	122	44	5
	芸術文化学科	前 期	36	96	87	44
		後 期	5	82	30	8
デザイン学部	デザイン学科	前 期	75 I 数学 40 II 実技 35	342 I 数学 187 II 実技 155	322 I 数学 173 II 実技 149	90 I 数学 46 II 実技 44
		後 期	10	231	131	12

2022年度入学者選抜 実施結果〈学校推薦型選抜〉

学部	学科・区分	募集人員	志願者数	受験者数	合 格 者 数
文化政策学部	国際文化学科 国際文化学科(英語重点型)	18 7	42 16	42 16	18 7
	文化政策学科	10	35	35	11
	芸術文化学科	14	43	43	15
デザイン学部	デザイン学科	25	119	119	26

オープンキャンパス情報・資料請求

オープンキャンパス情報

OPEN CAMPUS 2022

開催日(予定)

8/6.土

8/7.日



※実施方法・内容等の詳細は、
公式Webサイトをご覧ください。

2023年度学生募集要項(願書)について

学生募集要項は、次のように配布予定です。

名 称	公表時期(予定)	配布方法等
学生募集要項(一般選抜)	2022年10月下旬	
学生募集要項(学校推薦型選抜)	2022年9月下旬	
特別選抜(社会人・帰国生徒・留学生入試)	2022年9月下旬	
大学院募集要項	2022年5月上旬	本学WebページからPDFファイルをダウンロード(※)

※このうち、一般選抜及び学校推薦型選抜については、インターネットによる出願になります。

◆お問い合わせは下記まで

静岡文化芸術大学 入試室

〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1

Tel.053-457-6401 Fax.053-457-6123

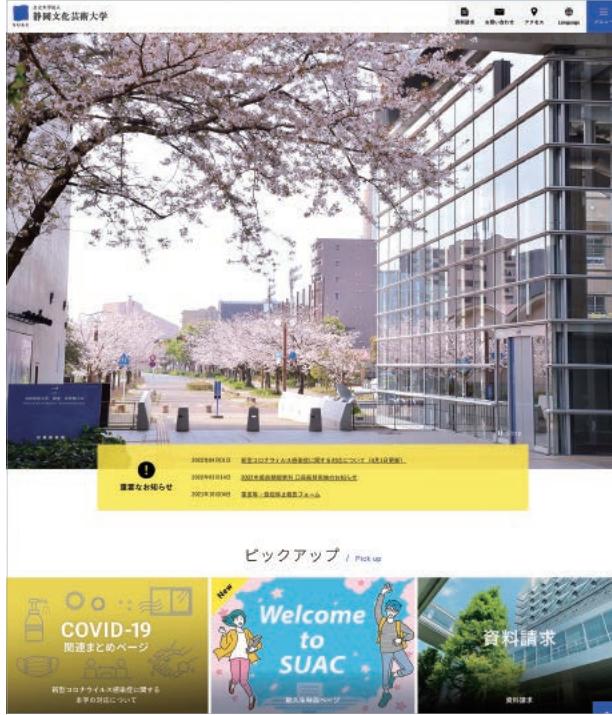
ホームページアドレス <https://www.suac.ac.jp/>



2次元コード読み取り
対応型携帯電話を
お持ちの方はこちら

Webへのご案内

2次元コードをスマホ・携帯電話で読み込むと
Webサイトをご覧いただけます。



公式サイトでSUACの最新情報をチェック。
<https://www.suac.ac.jp/>

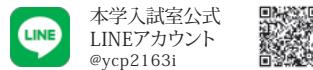
各学部の学びや学生生活をはじめ、入学試験や最新イベント情報、オープンキャンパスなど受験生に役立つ情報を満載しています。本誌とあわせてぜひご覧ください。

公式SNSアカウント

「静岡文化芸術大学公式twitterアカウント」では、
大学からのお知らせやイベント情報を随時お届けしています。

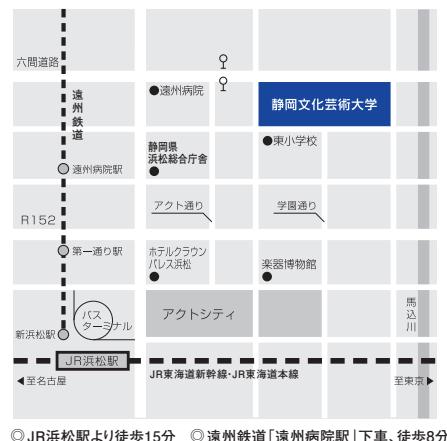
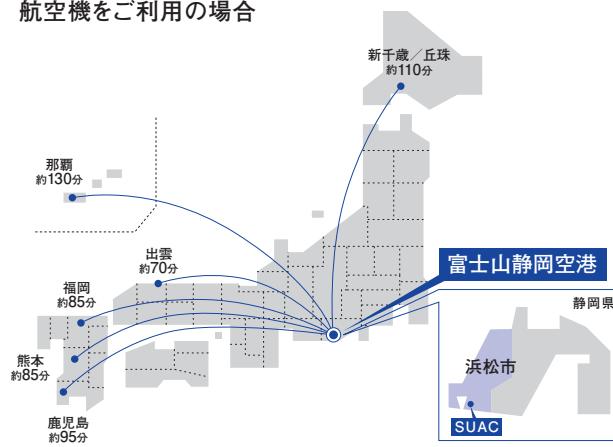


「静岡文化芸術大学入試室LINE公式アカウント」では、
本学の入試情報や進学説明会情報、学生生活の様子などを発信しています。



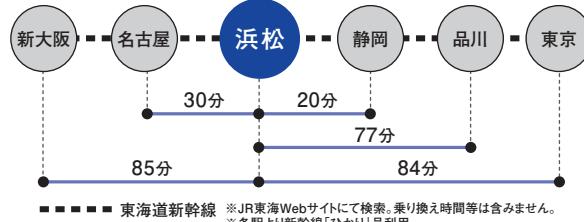
アクセス

航空機をご利用の場合



◎JR浜松駅より徒歩15分 ◎遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分

新幹線をご利用の場合



浜松駅からバスをご利用の場合

遠鉄バス（約10~15分間隔で運行しています）

浜松駅北口バスターミナル10番のりば→バス停「文化芸術大学」下車

※浜松駅北口バスターミナル10番のりばから出ているバスは、「文化芸術大学」
バス停を通ります。ただし、系統番号2番を除きます。

※本学へお越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。

出 会 う
感 じ る
創 造 す る



公立大学法人
静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

Faculty of Cultural Policy and Management / Faculty of Design

<http://www.suac.ac.jp/>